

朝 町 竹 重

－宗像市朝町所在遺跡の発掘調査報告－

宗像市文化財調査報告書 第70集

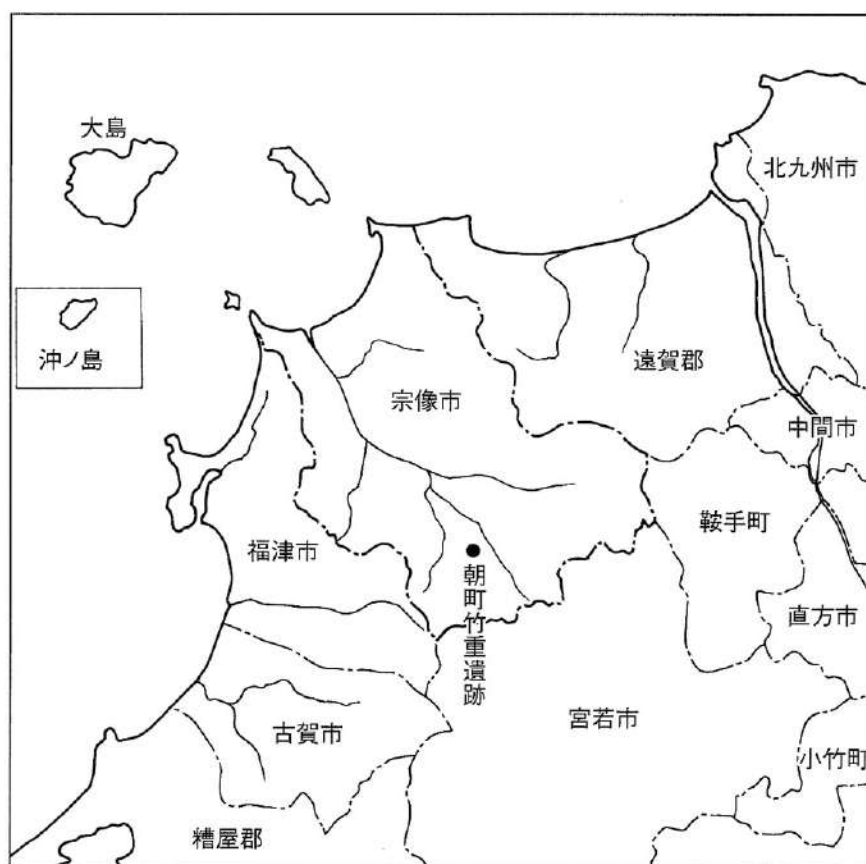
2 0 1 3

宗像市教育委員会

朝 町 竹 重

－宗像市朝町所在遺跡の発掘調査報告－

宗像市文化財調査報告書 第70集



2013

宗像市教育委員会



SK28周辺



SK28出土土器



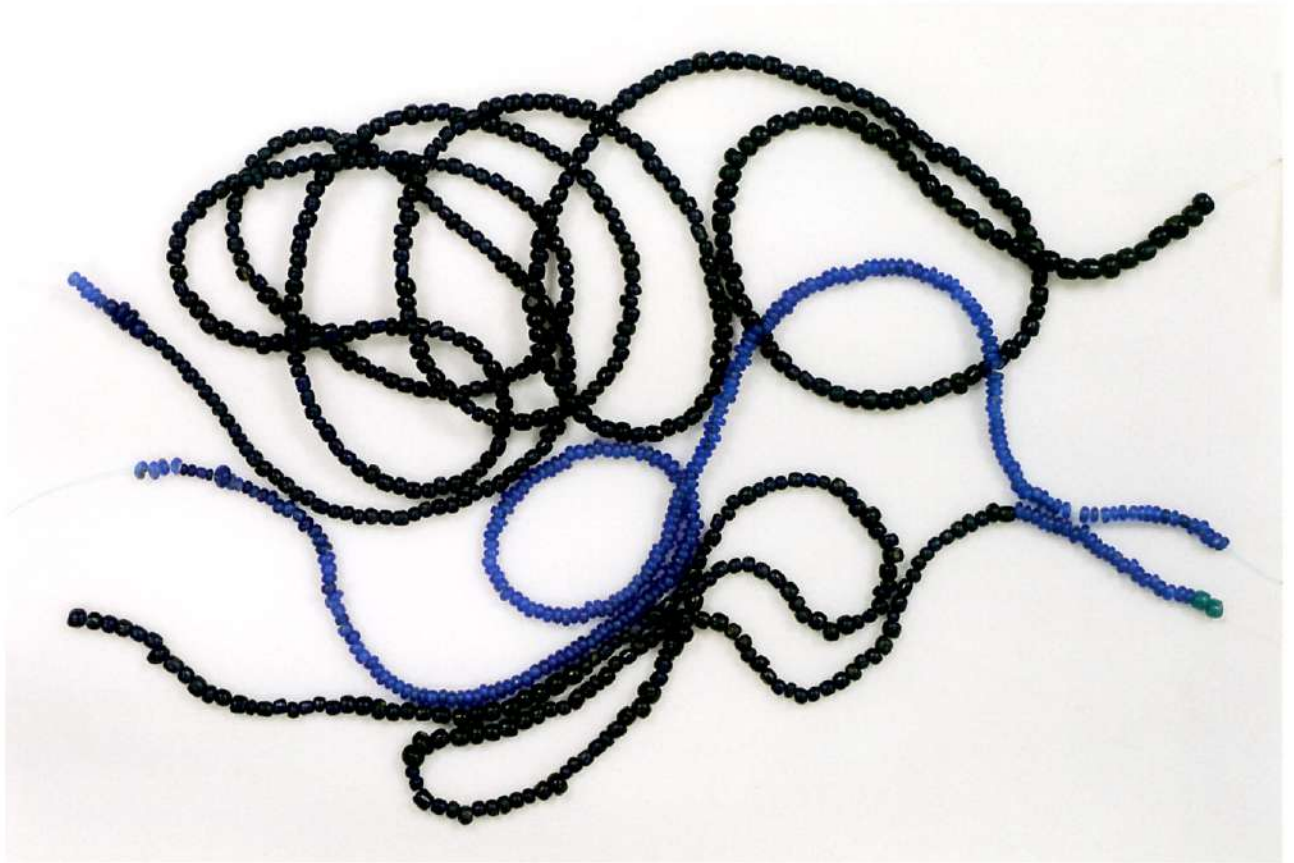
SK28出土銅戈・銅矛



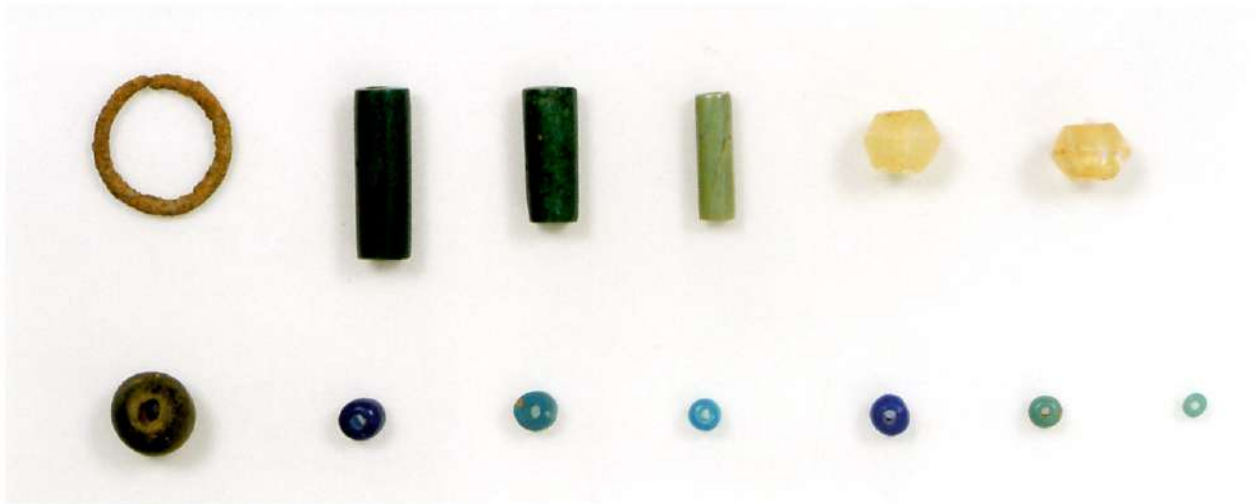
SK185出土銅鏡（保存処理前）



SK185出土銅鏡（保存処理後）



SK185出土ガラス玉



SO120出土装身具

序 文

宗像市は九州島の北岸に位置し玄界灘に面しています。古来から玄界灘沿岸地方は、朝鮮半島や中国大陸との海を介した交流を通じ、先進的な文化を取り入れてきました。絶海の孤島である沖ノ島では、航海の安全を祈るために、連綿と国家的祭祀が執り行われました。本市では「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録に向け、福岡県や福津市と共同で活動しており、平成21年1月5日にはユネスコの世界遺産暫定リストに登録されました。平成24年4月28日には「海の道 むなかた館」が開館し、郷土の歴史や文化を学べる拠点施設の役割を果たすとともに、世界遺産登録活動のガイダンス施設としての役割も担っています。

宗像市は豊かな自然と歴史遺産に恵まれたところですが、高度成長期以降は急速にベッドタウン化が進み、貴重な遺跡や景観が失われてきました。そうしたなかで、平成3・5年度に調査された朝町竹重遺跡は、史跡公園として整備することができ、体験学習の場として活用されています。

朝町竹重遺跡では、弥生時代の大規模墳墓群と古墳時代の古墳群が発掘されました。発掘調査から20年の月日が流れ、遅ればせながら調査報告書を刊行することができました。本書が歴史研究の一助となり、地域の文化財に対しての理解を深めることに貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なご援助を頂いた、地元の方々や関係諸機関、並びに発掘・整理作業に携わった方々に厚く御礼申し上げます。

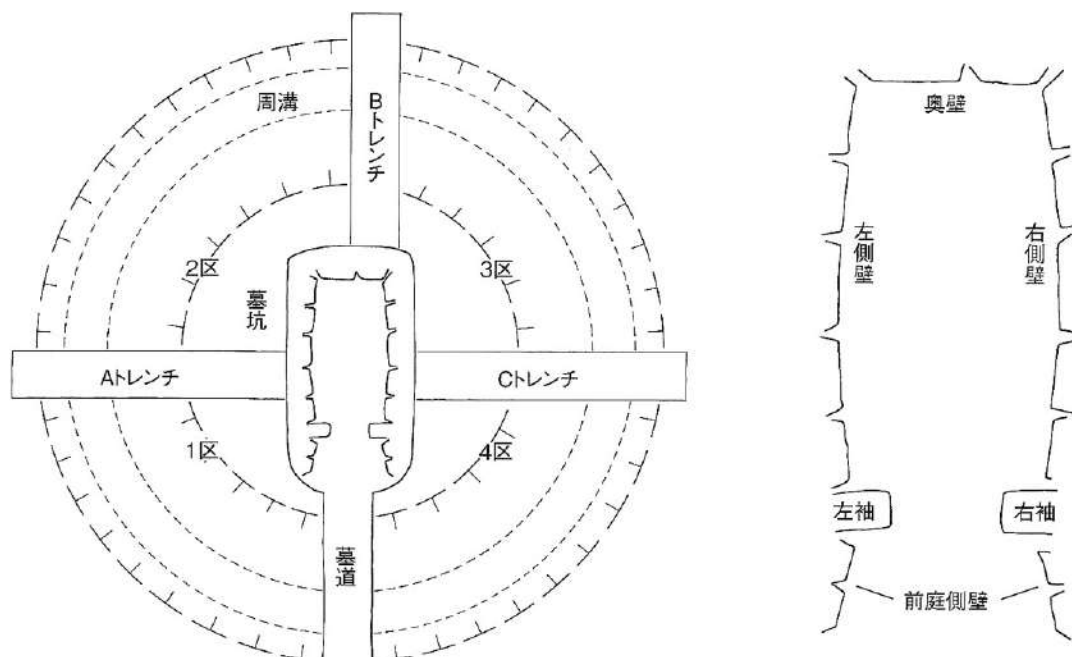
平成25年3月31日

宗像市教育委員会

教 育 長 久 芳 昭 文

例 言

1. 本書は、平成3・5年度に国・県の補助を受けて発掘調査した、朝町竹重遺跡（宗像市大字朝町字竹重2464番地2他）の調査報告書である。
2. 発掘調査は、宗像市教育委員会が事業主体となって実施した。
3. 朝町竹重遺跡の宗像市文化財番号は00563である。
4. 本書の遺物番号は、挿図や遺構に係わらず、すべて通し番号である。
5. 本書の遺構番号は、遺構の種類ごとに分けた通し番号ではなく、全体の通し番号である。
遺構の名称は次のように記号化した。SK：土坑（木棺）墓・土坑 ST：甕棺墓 SD：溝状遺構 SO：古墳
6. 本書に使用した座標値は旧座標のものであり、遺構図の方位は、すべて磁北である。
7. 遺構実測図は、原俊一・安部裕久・白木英敏・岡崇が主に作成した。
8. 遺物実測図は、松岡千鶴子・岡本格が主に作成した。
9. 遺構写真は、原・安部・白木・岡が撮影し、遺物写真は、岡本が主に撮影した。
製図は、中原美知子が作成し、遺物の整理は、西村広子・田代貞子・田崎絃子・東和子・濱田広美が行った。
10. 本書の執筆は表の作成を松岡、その他は佐藤正義と協力し、岡本が行った。
11. 本書の編集は岡本が行った。



古墳と石室の部分名称

本文目次

第1章 序 説	1
1. 調査に至る経過	1
2. 組織と構成	1
3. 位置と環境	2
4. 調査の概要	5
第2章 調査の記録	10
1. 土坑墓（木棺墓）・土坑の調査	10
2. 土器棺墓の調査	73
3. SK81～83検出時出土遺物	75
4. 溝状遺構の調査	75
5. 古墳の調査	77
第3章 概 括	125

挿図目次

第1図 朝町竹重遺跡と周辺遺跡 (1/25,000)	4
第2図 朝町竹重遺跡周辺地形図 (1/2,500)	5
第3図 現況測量図 (1/250)	6・7
第4図 遺構配置図 (1/250)	8・9
第5図 SK4～7・10・11実測図 (1/40)	32
第6図 SK12～16実測図 (1/40)	33
第7図 SK17～22実測図 (1/40)	34
第8図 SK23～27・29実測図 (1/40)	35
第9図 SK28・30・31実測図 (1/10・1/40)	36
第10図 SK32～37実測図 (1/40)	37
第11図 SK38～42・44・45実測図 (1/40)	38
第12図 SK46～51実測図 (1/40)	39
第13図 SK52～55実測図 (1/40)	40
第14図 SK56・58・59・62実測図 (1/40)	41
第15図 SK63～68実測図 (1/40)	42
第16図 SK69～74実測図 (1/40)	43
第17図 SK75・76・78～80実測図 (1/40)	44
第18図 SK81～83・85～88実測図 (1/40)	45
第19図 SK89・90実測図 (1/40)	46
第20図 SK91～96実測図 (1/40)	47
第21図 SK97～103実測図 (1/40)	48
第22図 SK104～110実測図 (1/40)	49
第23図 SK111～117実測図 (1/40)	50
第24図 SK122～124・126実測図 (1/40)	51
第25図 SK127～129・132実測図 (1/40)	52
第26図 SK133～138実測図 (1/40)	53
第27図 SK139～142・144・145実測図 (1/40)	54
第28図 SK146～152実測図 (1/40)	55
第29図 SK153～158・161実測図 (1/40)	56
第30図 SK163・164・166・169～172実測図 (1/40)	57
第31図 SK173・175・182実測図 (1/40)	58
第32図 SK174・176～179・181・183実測図 (1/40)	59
第33図 SK184・185・188～192実測図 (1/40)	60
第34図 SK186・187実測図 (1/40)	61
第35図 SK出土遺物実測図① (1/3)	62
第36図 SK出土遺物実測図② (1/3)	63
第37図 SK出土遺物実測図③ (1/3)	64
第38図 SK出土遺物実測図④ (1/3)	65
第39図 SK出土遺物実測図⑤ (1/3)	66
第40図 SK出土遺物実測図⑥ (1/3)	67
第41図 SK出土遺物実測図⑦ (1/3)	68
第42図 SK出土遺物実測図⑧ (1/2)	69
第43図 SK出土遺物実測図⑨ (1/1・1/2・1/3)	70
第44図 SK出土遺物実測図⑩ (1/1)	71
第45図 SK出土遺物実測図⑪ (1/1)	72
第46図 ST8・131実測図 (1/20)	73
第47図 ST8・131出土遺物実測図 (1/4)	74
第48図 SK81～83検出時出土遺物実測図 (1/3)	

.....	76
第49図 SD57実測図 (1/40)	76
第50図 SD57出土遺物実測図 (1/3)	76
第51図 SO1現況測量図 (1/100)	78
第52図 SO1地山整形図 (1/100)	78
第53図 SO1主体部実測図 (1/40)	79
第54図 SO1出土遺物実測図 (1/2・1/3) ...	80
第55図 SO3現況測量図 (1/100)	81
第56図 SO3墳丘測量図 (1/100)	82
第57図 SO3地山整形図 (1/100)	83
第58図 SO3墳丘土層図 (1/100)	84
第59図 SO3主体部実測図 (1/40)	85
第60図 SO3出土遺物実測図① (1/3)	87
第61図 SO3出土遺物実測図② (1/3)	89
第62図 SO3出土遺物実測図③ (1/3)	90
第63図 SO3出土遺物実測図④ (1/3)	91
第64図 SO3出土遺物実測図⑤ (1/4)	92
第65図 SO3出土遺物実測図⑥ (1/4)	93
第66図 SO3出土遺物実測図⑦ (1/1・1/3)	94
第67図 SO3出土遺物実測図⑧ (1/2)	95
第68図 SO9主体部実測図 (1/30)	96
第69図 SO118地山整形図 (1/100)	97
第70図 SO118墳丘土層図 (1/100)	97
第71図 SO118主体部実測図 (1/40)	99
第72図 SO118出土遺物実測図① (1/3) ...	100
第73図 SO118出土遺物実測図② (1/3) ...	101
第74図 SO118出土遺物実測図③ (1/2・1/3・1/4)	102
第75図 SO119地山整形図 (1/100)	103
第76図 SO119主体部実測図 (1/40)	104
第77図 SO119出土遺物実測図① (1/3) ...	105
第78図 SO119出土遺物実測図② (1/3) ...	106
第79図 SO120地山整形図 (1/100)	107
第80図 SO120主体部実測図 (1/40)	108
第81図 SO120石室内遺物出土状況図 (1/20)	109
第82図 SO120出土遺物実測図① (1/3) ...	110
第83図 SO120出土遺物実測図② (1/4・1/10)	

.....	111
第84図 SO120出土遺物実測図③ (1/2・1/4)	112
第85図 SO120出土遺物実測図④ (1/1) ...	113
第86図 SO125地山整形図 (1/100)	114
第87図 SO125主体部実測図 (1/40)	115
第88図 SO125出土遺物実測図① (1/3) ...	117
第89図 SO125出土遺物実測図② (1/3) ...	118
第90図 SO125出土遺物実測図③ (1/4) ...	119
第91図 SO125出土遺物実測図④ (1/1・1/4)	120
第92図 SO130地山整形図 (1/100)	121
第93図 SO130主体部実測図 (1/40)	122
第94図 SO130出土遺物実測図① (1/3) ...	123
第95図 SO130出土遺物実測図② (1/1・1/4)	124

表目次

第1表	土坑(木棺)墓・土坑計測表	128
第2表	古墳主体部計測表	131
第3表	土器計測表	132
第4表	SO120出土装身具計測表	137
第5表	石製品計測表	137
第6表	鉄製品計測表	138
第7表	SK185出土ガラス玉計測表	139

図版目次

巻頭カラー図版1	SK28周辺 SK28出土土器 SK28出土銅戈・銅矛
巻頭カラー図版2	SK185出土銅鏡・ガラス玉 SO120出土装身具
図版1	I区全景 II・III区南東側全景(北東から)
図版2	II・III区南東側全景(西から) III区北西側全景 IV区全景

図版3 SK4・7・10～15
図版4 SK16～22
図版5 SK23～25・27・28・37
図版6 SK29～34
図版7 SK35・36・38～42・44
図版8 SK45～47・49～51
図版9 SK52～54
図版10 SK55・56
図版11 SK58・59・62～66
図版12 SK67～69・71・72
図版13 SK73～76・79
図版14 SK78・82・83・85・86
図版15 SK89
図版16 SK90～95
図版17 SK97～101・105
図版18 SK102～104・106・109～116・122
図版19 SK123～124・126～129
図版20 SK132～139
図版21 SK140～142・144～147・149・150
図版22 SK151～158・164・166・169
図版23 SK172～174・177～179・181・183
図版24 SK184～187
図版25 SK出土遺物（土器）

図版26 SK出土遺物（土器・銅矛）
図版27 SK出土遺物（銅戈）
図版28 SK出土遺物（銅鏡・鉄製品・耳環・石製品）
図版29 ST8・131 SD57
図版30 SO1①
図版31 SO1②
図版32 SO3①
図版33 SO3②
図版34 SO3③
図版35 SO3④
図版36 SO9・SO118①
図版37 SO118②
図版38 SO118③
図版39 SO119①
図版40 SO119②
図版41 SO120①
図版42 SO120②
図版43 SO120③
図版44 SO125①
図版45 SO125②
図版46 SO125③
図版47 SO130

第1章 序 説

1. 調査に至る経過

平成3年度に個人の畑地造成のための開発申請があったが、申請地には古墳の所在が確認されていたため、保存のための協議を地権者と重ねたが、やむなく国庫・県費補助を受け緊急発掘調査が行われることになった（1次調査）。調査の進展につれて、古墳群とともに大規模な土坑（木棺）墓群が検出され、銅戈や銅鉾などの希少な資料を含む遺物が出土した。そのため、遺跡の重要性に鑑み、地権者の了解を得て平成4年度に宗像市第11号指定文化財となった。その後、平成5年度には史跡公園への整備に向けた確認調査が行われ、古墳群・土坑（木棺）墓群ともに範囲が広がることが確認された（2次調査）。

文化財保護法にかかる手続き

1次調査

発掘調査通知 平成3年7月24日 3宗教社発第492号
埋蔵物発見届 平成4年3月31日 3宗教社発第1336-2号
埋蔵文化財保管証 平成4年3月31日 3宗教社発第1337-2号

2次調査

発掘調査通知 平成5年12月1日 5宗教社発第1187号
埋蔵物発見届 平成6年3月28日 5宗教社発第1543号
埋蔵文化財保管証 平成6年3月28日 5宗教社発第1544号

2. 組織と構成

平成3年度発掘調査組織

総 括	宗像市教育委員会	教 育 長	森 下 照 清
		教 育 部 長	中 山 宏 基
		社会教育課長	吉 田 繁 利
		文 化 係 長	尾 山 清
庶務・会計		主 事	原 俊 一
発掘調査担当			原 俊 一
		技 師	安 部 裕 久
		技 師	白 木 英 敏
		技 師	岡 崇

平成5年度発掘調査組織

総 括	宗像市教育委員会	教 育 長	森 下 照 清
		教 育 部 長	芹 野 温 亘

	社会教育課長	吉田繁利
	文化係長	原俊一
庶務・会計		原俊一
発掘調査担当	主任技師	安部裕久
	技師	白木英敏
	技師	岡崇

平成24年度報告書作成組織

総括	宗像市教育委員会	教育長	久芳昭文
		市民協働・環境部長	福崎常喜
		郷土文化学習交流課長	清水比呂之
		文化財係長	安部裕久
庶務・会計		主査	判田博明
報告書担当		技師	佐藤正義

3. 位置と環境

宗像市内陸部は、三方を標高の低い山地で囲まれた盆地状の地形を呈している。市域を貫流する釣川の本流は市内吉留の山地に源流があり、多くの支流が合流して玄界灘に流れ込む。朝町竹重遺跡は、市南部の宮若市との行政境界をなす山地から派生する丘陵上に立地する。丘陵の東には釣川支流の朝町川、西には朝町川に合流する二次支流の綿打川が流れる。

朝町竹重遺跡が立地する丘陵の北側先端付近の野坂大木遺跡（30）では、団地の造成時に福岡教育大学により土師器や須恵器と若干の弥生土器が採集された^(注1)。南側の丘陵には野坂中松元古墳群（31）が存在したが、前述の団地造成で消滅し遺跡の詳細は不明である。

朝町竹重遺跡から北西約1kmの光岡長尾遺跡（24）では前期後半から中期前半にかけての貯蔵穴群が検出された。その中には環溝で囲まれた一群があり、環溝・貯蔵穴ともに大量の遺物が出土した。環溝の断面はV字形で南北2個所には、地山を削り残した陸橋が設けられている。環溝の内側からは52基の貯蔵穴が検出され、特異な遺物として、41号貯蔵穴出土の陶埴（土笛）があげられる^(注2)。

西へ約1.5kmの光岡草場遺跡（19）では24基の土坑墓と2基の小児甕棺墓が検出された。時期は中期後半と考えられる^(注3)。

西南西約1kmには野坂一町間遺跡（26）がある。1次調査では弥生から古墳時代の遺構が検出された。古墳時代の1号住居跡からは鍛冶炉が2基検出されている。2次調査では奈良から平安時代の掘立柱建物が5棟検出され、遺構検出面で円面硯の脚部が採集された^(注4)。

東南東1kmの浦谷古墳群（38）では未調査古墳6期が残存するが、3次にわたりA～Kの11支群に分けられた46基の古墳と5基の小石室や須恵器窯跡1基などが調査された。古墳の時期は5世紀から7世紀と考えられる。特殊な遺構として、5世紀代のI-1号墳に伴うと考えられるベンガラ埋納遺構や、古墳築造が終息した後の8世紀代と考えられる鉄滓埋納遺構が検出された^(注5)。浦谷古墳群の南の朝町山ノ口遺跡（39）では22基の古墳が調査され1基が保存

されている。5号墳と6号墳から鍛冶工具の鉄鉋と鉄鎚が出土した^(注6)。浦谷古墳群から朝町川を隔てた北東の丘陵では朝町百田遺跡(37)が調査された。26基の古墳や7基の小石室などが調査され、浦谷古墳群と同様に鉄滓埋納遺構が検出された^(注7)。朝町百田遺跡の北東の丘陵には古代の窯跡群である朝町木山遺跡(36)がある^(注8)。

北東0.5kmの朝町町ノ坪遺跡(32)では弥生から古墳時代の竪穴住居が検出された。朝町町ノ坪遺跡から荒堀川を越えた北東の丘陵には朝町妙見遺跡(33)があり4基の古墳が調査された^(注9)。

注1 宗像町教育委員会 福岡教育大学歴史研究部考古学班1978「野坂の土器について」

注2 宗像市史編纂委員会 1997「宗像市史」通史編第1巻 自然考古

注3 宗像市教育委員会1987「埋蔵文化財発掘調査報告書－1986年度－」宗像市文化財調査報告書 第12集

注4 宗像市教育委員会1985「埋蔵文化財発掘調査報告書－1984年度－」宗像市文化財調査報告書 第9集

2003「むなかたの文化財」

注5 宗像市教育委員会1982「浦谷古墳群Ⅰ」宗像市文化財調査報告書 第5集

1988「浦谷古墳群Ⅱ」宗像市文化財調査報告書 第16集

1992「浦谷古墳群Ⅲ」宗像市文化財調査報告書 第36集

注6 宗像市教育委員会1984「朝町山ノ口Ⅰ」宗像市文化財調査報告書 第14集

1991「朝町山ノ口Ⅱ」宗像市文化財調査報告書 第34集

注7 宗像市史編纂委員会1997「宗像市史」通史編第1巻 自然考古

注8 宗像市教育委員会2002「むなかたの文化財」

注9 宗像市教育委員会1984「埋蔵文化財発掘調査概報－1983年度－」宗像市文化財調査報告書 第7集



第1図 朝町竹重遺跡と周辺遺跡 (1/25,000)

1. 朝町竹重遺跡 2. 久原瀧ヶ下遺跡 3. 久原遺跡 4. 光岡長把遺跡 5. 曲田代遺跡 6. 曲香畑遺跡
7. 田久貴船前遺跡 8. 田久松ヶ浦遺跡 9. 田久立崎遺跡 10. 田久内園遺跡 11. 田久内園A遺跡
12. 田久瓜ヶ坂遺跡 13. 田久甲ノ上遺跡 14. 赤間宿跡 15. 王丸梅ノ木谷遺跡 16. 王丸出口遺跡
17. 光岡辻ノ園遺跡 18. 光岡原遺跡 19. 光岡草場遺跡 20. 王丸河原遺跡 21. 光岡六助遺跡 22. 光岡番田遺跡
23. 光岡長尾遺跡 24. 光岡大野地遺跡 25. 野坂松ヶ崎遺跡 26. 野坂一町間遺跡 27. 大穂町町口遺跡
28. 野坂ホテ田遺跡 29. 野坂塚ノ元遺跡 30. 野坂大木遺跡 31. 野坂中松元古墳群 32. 朝町町ノ坪遺跡
33. 朝町妙見遺跡 34. 名残小田代遺跡 35. 名残木山遺跡 36. 朝町木山遺跡 37. 朝町百田遺跡
38. 浦谷古墳群 39. 朝町山ノ口遺跡 40. 朝町山添遺跡 41. 朝町官作遺跡 42. 野坂新田遺跡 43. 野坂中山遺跡

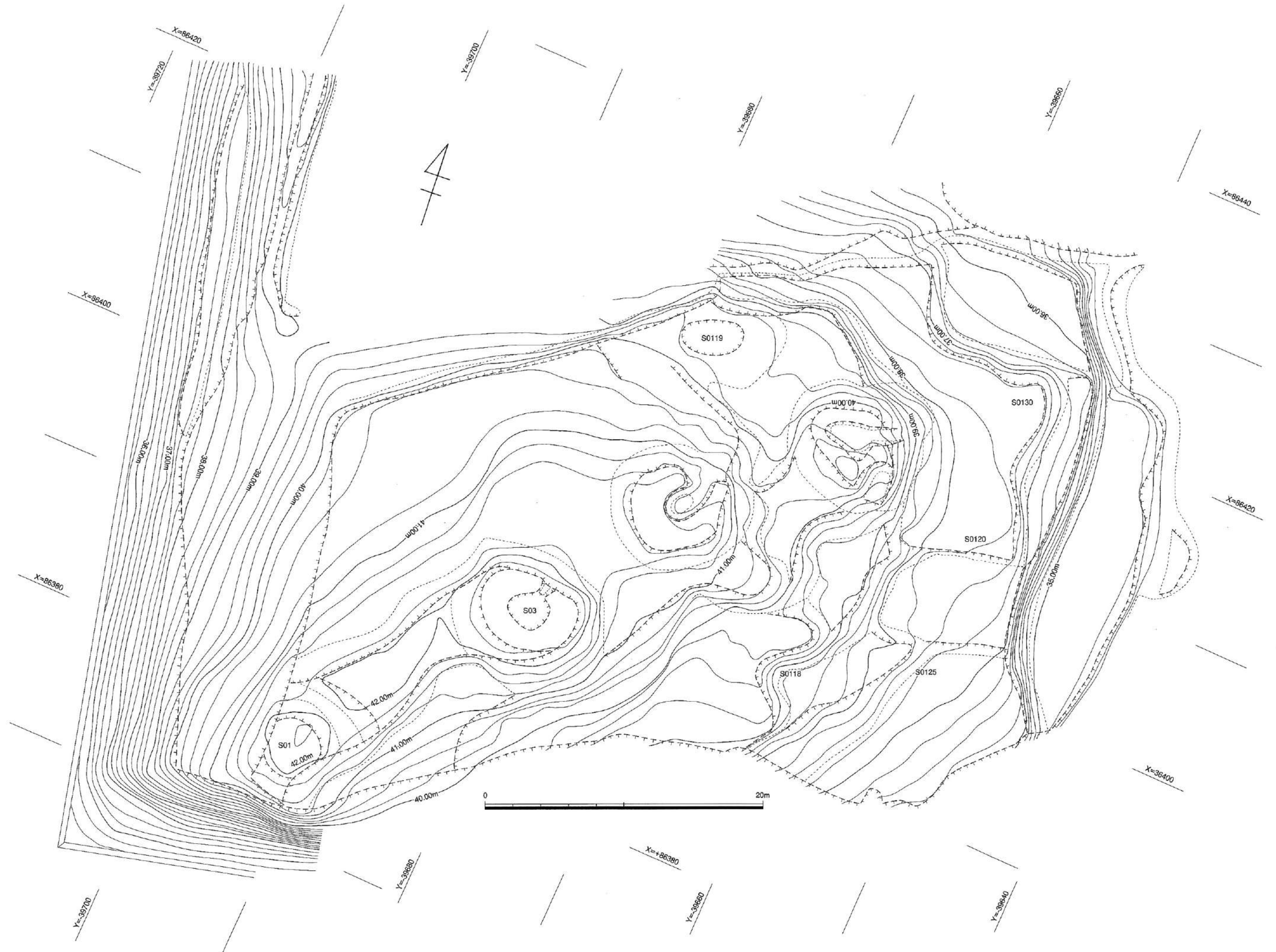
4. 調査の概要

発掘調査時には調査区を分けていないが、報告にあたって便宜的に、Ⅰ次調査地をⅠ区、Ⅱ次調査地をⅡ～Ⅳ区に分けた。調査面積は、Ⅰ次調査が約560㎡、Ⅱ次調査が約500㎡であり、遺構検出面の標高は、約37～41.5mである。調査前は檜林であった。

1次調査は、墳丘が残っていたSO1・3から着手したが、墳丘下に弥生時代の土坑（木棺）墓が検出され、調査の進展につれて大規模な墓群を形成することが判明した。2次調査は、墓群の広がりを把握することを中心に行われた。主な遺構には土坑（木棺）墓と土坑166基・古墳8基・土器棺墓2基・溝状遺構1条がある。このうち土坑（木棺）墓と土坑は、どちらに区分するか判別しがたいものがあり、一括して記載している。



第2図 朝町竹重遺跡周辺地形図 (1/2,500)



第3図 現況測量図(1/250)

第2章 調査の記録

1. 土坑墓（木棺墓）・土坑の調査

2段掘り土坑墓の構造説明のなかで「埋葬坑」とあるのは、「主体部」とよばれることの多い、実際に遺体を安置した墓坑床面の掘り込みを指しているが、主体部という用語は土坑（木棺墓）の部分名称としては違和感があるため、今回は埋葬坑とした。そして、この埋葬坑の深さを土坑墓と木棺墓を区別する際の一応のひとつの目安として用いている。すなわち、他に根拠が見出せないばあい、埋葬坑に遺体を横たえたとして、上端から顔などがはみ出す程の深さしかないものを木棺墓、十分な深さがあり木蓋で覆って問題ないものを土坑墓としている。

SK4（第5図 図版3）

I区東端で検出した。楕円形の土坑内に床面から浮いた状態で4個の石が配置されている。遺物の出土がなく、時期や性格等は不明。

SK5（第5図 図版3）

SK4から7m北西に位置する。不整円形の土坑内に床面から浮いた状態で3個の石が配置されている。時期や性格等は不明。形態的にはSK4と同様である。

SK6（第5図 図版3）

I区SO3南東側で検出した2段掘りの木棺墓で、埋葬坑はやや北東に片寄る。

出土遺物（第35図 図版25）

弥生土器 1は短頸の壺である。SK6とSK56の埋土から出土した破片が接合した。二つの遺構間は2m弱であり、現場での取り上げミスか、破碎されたものか判然としない。口縁は短く、概して器壁が厚い。調整は外面がハケメ後一部にミガキ、内面は口縁部がハケメ、胴部はナデ調整で指頭痕による凹凸が著しい。2はSK6の埋土から出土した壺の口縁部片である。頸部は直に立ち上がる。口縁上面は僅かに外傾し、端部は断面が三角形である。調整は外面がハケメ、内面はナデである。

SK7（第5図 図版3）

I区SO3北西側で検出した2段掘りの土坑墓である。SK44に切られる。墓坑南側コーナー付近で、床面から浮いた状態で供献土器の壺が出土した。

出土遺物（第35図 図版25）

弥生土器 3は壺である。口縁から胴部上位は残存していない。やや上げ底の底部で、調整は外面がミガキ、内面はナデ仕上げである。

SK10（第5図 図版3）

I区北側で検出した2段掘りの土坑墓である。SK64・107を切り、SK23・108に切られる。墓坑内から埋葬坑にやや落ち込むような状態で石材を検出した。残存する墓坑上端から石材下

面までは40cm以上レベル差があるため標石とするには無理があるだろう。棺蓋の押さえとしても1材では少ないように思われる。

出土遺物（第35図）

弥生土器 4は高坏の坏部と考えられる。内外面ともに丹塗りである。口縁部に向かって徐々に肥厚し、端部上面を面取りする。

SK11（第5図 図版3）

I区北側中央付近で検出した土坑墓で、SK106を切る。床面幅は南側が少し広く、頭位は南かもしれない。

SK12（第6図 図版3）

I区中央西側で検出した2段掘りの土坑墓である。墓坑は長方形プランで、埋葬坑は北西に片寄っており片方の小口を墓坑と共有する。頭位は墓坑内テラスの形状から南東であろうか。

SK13（第6図 図版3）

I区北側で検出した土坑墓である。SK11から北西に4.5m程離れている。南側の幅が広く、床面レベルもやや高いため、南が頭位であろう。

SK14（第6図 図版3）

SK13から南西に1.5m程で検出した土坑墓である。SK15と主軸を直交させて切り合うが、先後関係は不明である。

SK15（第6図 図版3）

前述の通りSK14と切り合うが、先後関係は不明である。両方の小口部で墓坑内に削り出しを設けた木棺墓である。西側の小口部削り出しの平面形は凸字状であるが、東側は方形であり、それぞれ形状が違う。床面は平坦で、側板の痕跡は認められなかったが、組合せ式の木棺と考えられる。

SK16（第6図 図版4）

SK11の南で検出した両方の小口部で墓坑内に削り出しを設けた木棺墓である。小口部の平面形は、両方とも台形である。

SK17（第7図 図版4）

SK16の南西約1mで検出した土坑墓である。SK24を直行して切る。

SK18（第7図 図版4）

SK17の南で検出した。墓坑は南東部を削平されているが、2段掘りの土坑墓である。埋葬坑の床面幅は北西側がやや広く、レベル差はほとんど無いが、頭位であろう。

SK19（第7図 図版4）

SK13の東で検出した2段掘りの土坑墓である。SK20・21を切る。埋葬坑は北側に足元掘り込みをもつ。埋葬坑床面から10cm程浮いて鉄製鉈1点が出土した。

出土遺物（第43図 図版25）

鉄製品 44は鉈である。全長11.2cmと短く、身部には柄の木質が残存する。刃部・身部ともに断面は三日月形で、刃部には反りをもたず、鏑もない。弥生時代の鉈でも古い形態である。

SK20（第7図 図版4）

SK19に切られて検出した2段掘りの木棺墓である。北西側の墓坑は削平されている。南西側ではSK19に切られ不明であるが、埋葬坑北東側の小口部は墓坑と共有する。

SK21（第7図 図版4）

SK19・22に切られて出土した木棺墓である。棺身を固定するために裏込めの土を充填しており、断面は丸みをもつため割竹形の木棺が想定される。木棺の幅は、裏込め土の状況から東側が広いと考えられ、こちらが頭位であろう。床面の中央やや西に小穴がある。

SK22（第7図 図版4）

SK21を切って検出した2段掘り木棺墓である。墓坑の西半は削平されているため不明であるが、東側小口部に削り出しをもつ。本来は両側に削り出しがあった可能性がある。埋葬坑の幅は東側が広く、頭位であろう。

出土遺物（第5図 図版25）

弥生土器 7は壺である。口縁～頸部は欠損し、調整は内外面ともにナデ。供献土器の可能性がある。

SK23（第8図 図版5）

I区北側で検出した2段掘りの土坑墓で、東半は調査区外で未掘である。SK10・108を切る。墓坑の検出に失敗したため、調査区境界の土層により墓坑上端を推定した。

SK24（第8図 図版5）

SK17に切られて検出した土坑墓である。床面は東側が高く、高低差が20cm程ある。

SK25（第8図 図版5）

SK12の西側で検出した2段掘りの木棺墓で、SK37に切られる。埋葬坑はやや東に片寄り、南側小口部は墓坑と半ば共有する状態である。埋葬坑の幅は南側が広く頭位であろう。

SK26（第8図）

SK25から北に2m近く離れて検出した2段掘りの木棺墓で、SK39との切り合い関係は不明である。埋葬坑の南西側小口部は墓坑と共有する。

SK27（第8図 図版3）

SK26のすぐ北側で検出した土坑墓である。長さは2.19mでかなり大きい。床面の幅は南側が広く、こちらが頭位かもしれない。

SK28（第9図 巻頭カラー図版1 図版5）

SK27西側で検出した二段掘りの木棺墓で、SK100を切り、SK39に切られる。横断土層図からは裏込めの状況は確認できるが、木棺の形状は判然としない。埋葬坑東側から完形の銅戈と袋部から刃部の途中までを欠損した胴矛が1点ずつ出土した。埋葬坑の長軸に直交して、鋒を同一方向に向け、縦並びの状態であり、いずれも斜めに傾斜して出土した。銅戈はおそらく土圧によって湾曲しており、青銅武器の出土状況からすれば割竹形木棺の可能性がある。埋葬坑床面は東側が幅広く、頭位と考えられる。床面中央部に小穴を検出した。

出土遺物（第35・38図 巻頭カラー図版1 図版25・26・27）

弥生土器 5と6は胎土・焼成ともに似通っており同一個体の小型の壺の可能性があるが、5のような口縁部は類例を見出せない。いずれも埋土から出土した。5の頸部は直に立ち上がり、緩やかに外湾し、口縁端部内面を突出させる。調整は頸部外面がハケメで他はナデである。6の底部は上げ底で厚く、胴部は偏球形で器壁が厚い。調整は、外面の胴部下半はハケメで上半はナデ、内面はナデである。

青銅製品 41は細形胴矛の鋒から身の破片である。鋒の先端から1cm程度は刃こぼれが認められないが、それより鋒から測って6cm弱あたりまでは、刃こぼれが著しい。42は完形品の細形胴戈である。とても薄く華奢なものであり、遺構説明で述べたように湾曲している。樋には斜格子文帯がある。

SK29（第8図 図版6）

I区SO3の北西側、SK16の東1.5m程で検出した土坑墓である。床面は南西側が20cm程高い。

SK30（第9図 図版6）

SK29の南で検出した土坑墓で木棺墓の可能性があり、東南側でコの字形に高さの低いテラスを形成している。床面は東南側が高く、南西小口部では床面から若干浮いて壺（9）が出土した。

出土遺物（第36図 図版25）

弥生土器 8は埋土から出土した甕である。口縁部は上面が平坦で内面の突出は短い。胴部上位に三角突帯が一条巡る。調整は全体に磨耗して不明瞭であるが外面の突帯から上位はヨコナデである。9は小型の壺である。概して器壁が厚い。調整は内面がナデ調整、外面は磨耗で不明。

SK31（第9図 図版6）

I区北端で検出した2段掘りの土坑墓で、SK32を切る。墓坑上位から供献土器が出土した。埋葬坑はやや北東に片寄り、南東側がやや幅広く、頭位であろう。

出土遺物（第36図 図版25）

弥生土器 10は墓坑上層から出土した供献土器の壺である。鋤先状の口縁部上面はほぼ水平で、内面の突出は小さい。頸部は直線的に開き、胴部最大径は中位よりやや上にある。底部はやや上げ底である。調整は、胴部外面は磨耗するがヘラミガキと思われ、内面はナデ。

SK32 (第10図 図版6)

SK31に切られて検出した2段掘りの土坑墓である。東側をSK31に切られているため明確ではないが、墓坑の長軸から斜めにずれて埋葬坑が掘られている。床面は東側が広く、頭位であろう。床面中央に小穴がある。

SK33 (第10図 図版6)

I区北側SK19～21から東に2～3m離れて検出した土坑墓である。SK34を切る。埋葬坑床面は北東側が20cm弱高い。

SK34 (第10図 図版6)

SK33に切られて検出した2段掘りの土坑墓である。墓坑南東側コーナー上位から供献土器が出土した。埋葬坑床面は東側がやや幅広く、頭位であろう。床面中央より西側に小穴がある。

出土遺物 (第36図)

弥生土器 11は墓坑から出土した供献土器の壺で、胴部下位以下のみ残存する。非常に脆く、出土時にバインダーで固定してとりあげたが、胴部と底部は接合できなかった。やや突出気味の底部で、調整は胴部外面がハケメ、底部外面はナデ。

SK35 (第10図 図版7)

I区西側SK12の南で検出した2段掘り土坑墓である。埋葬坑床面は北側小口部で狭くなっており、南側が頭位かもしれない。

SK36 (第10図 図版7)

SK28南西で検出した土坑墓で、SK38を切る。埋葬坑は南側が少し幅広く、床面レベルも高いため、頭位かもしれない。

SK37 (第10図 図版5)

SK35から北に2m程離れて検出した2段掘り土坑墓である。SK25を切る。西側と南側は調査区外であり、全体を検出できていないが、埋葬坑は南側へ徐々に広がっており、南が頭位であろう。

SK38 (第11図 図版7)

I区西側SK26の南で検出した2段掘りの土坑墓で、SK36・65に切られる。墓坑の東側コーナーで、床面から浮いて供献土器(34)が出土した。埋葬坑は北東側が幅広く、頭位であろう。

出土遺物 (第36図 図版25)

弥生土器 12は埋土から出土した壺の口縁部である。強く外湾し、端部は口唇状である。調

整は磨耗で不明。胎土に赤褐色砂礫を含む。13は埋土から出土した壺の口縁部である。口縁端部上面はやや内傾し、内面は突出しない。調整は磨耗で不明。14は墓坑から出土した供献土器の壺である。鋤先状の口縁部で、端部内面の突出は小さい。底部はやや上げ底で、胴部最大径は中位よりやや上にある。内外面ともナデ調整で、胎土は細砂粒を含むが緻密である。

SK39（第11図 図版7）

SK38から東へ2m程離れて検出した土坑墓である。SK28を切る。床面は南側がやや高いが、幅広いのは北側であり、頭位は北であろう。

SK40（第11図 図版7）

I区SO3西側で検出した土坑墓であるが、木棺墓の可能性はある。北東の小口部で床面から浮いて石材が2個検出され、北西側壁の上部内側には一部で粘土帯が密着していた。床面は石材のある北東側が幅広くやや高いため、こちらが頭位であろう。

SK41（第11図 図版7）

SK40の南西で検出した2段掘りの木棺墓である。北西側はSO3の地山整形により削平される。

SK42（第11図 図版7）

SK41の南で検出した土坑墓であるが、長さ0.63mと小さく、床面も平坦ではないため疑問はある。

SK44（第11図 図版7）

SK40の北東2mで検出した土坑墓で、SK7を切る。

SK45（第11図 図版8）

SK44の東で検出した2段掘りの木蓋土坑墓と考えられる。埋葬坑南側小口部と東西両側壁中央付近で、目張り用と考えられる粘土を検出した。南側小口部の粘土はアーチ状であり、割り竹状の蓋が想定される。幅の広い南側が頭位と考えられる。

SK46（第12図 図版8）

1区中央より北側、SK16の北東で検出した土坑墓で、SK47を切る。南側が幅広く、頭位であろう。

SK47（第12図 図版8）

SK46に切られて検出した土坑墓である。

SK48（第12図）

SK46の南東で検出した。土坑墓と思われるが、検出に失敗したため疑問がある。

SK49 (第12図 図版8)

I区SO3主体部に切られ、SK50を切る。2段掘り土坑墓であるが残存状況が悪い。

SK50 (第12図 図版8)

I区SO3主体部・SK49に切られる2段掘りの土坑墓である。墓坑はかなり縦に長い。埋葬坑は南側で幅広く、頭位であろう。

SK51 (第12図 図版8)

I区SO1とSO3の間で検出した2段掘りの土坑墓である。埋葬坑床面は北東側が広く、頭位であろう。

SK52 (第13図 図版9)

SK51の南で検出した2段掘りの木棺墓で、南東側小口部に削り出しを設ける。埋葬坑はやや北東に片寄り、南東側の墓坑床面から浮いた状態で供献土器(15)が出土した。埋葬坑は南東側が幅広く、頭位であろう。床面中央付近に小穴がある。

出土遺物 (第37図 図版25)

弥生土器 15は供献土器の壺である。全体的に器壁が厚い。鋤先状の口縁部で端部内面の突出は小さく、頸部は直線的に開く。底部はやや上げ底で、胴部最大径は中位より上にある。胴部外面の調整は下位がヘラミガキで上位がナデ。内面はナデ調整である。

SK53a・53b (第13図 図版9)

SK52の南西で検出した2段掘り土坑墓である。SK53a南東側で、埋葬坑と平行に一部側壁を挟って土坑(SK53b)が掘られている。乳幼児?との2体(同時)埋葬かもしれない。SK53aの埋葬坑は南西側が幅広く、頭位であろう。床面中央付近に小穴がある。

SK54 (第13図 図版9)

I区SO3主体部に切られ、SK55・56・59を切る2段掘りの土坑墓である。SK56→55→59→54(古→新)の順で切り合う。墓坑の北西側を切られて明確ではないが、埋葬坑は墓坑の長軸と斜めにずれて掘られているかもしれない。埋葬坑は東側が幅広く、頭位であろう。

SK55 (第13図 図版10)

SK54・58・59に切られ、SK56を切る2段掘りの土坑墓である。埋葬坑は隅丸長方形プランで、床面は北東側が少し高い。

SK56 (第14図 図版10)

SK54・55に切られる木棺墓である。両小口部に断面が台形の削り出しを設ける。両小口部と木棺の北西側長辺の一部に目張り用と考えられる粘土を検出した。墓坑の木棺部にあたる床面の横断面は緩やかな丸みを持ち、小口部の粘土の形状と考え合わせれば割り竹形の木棺が想定される。ただ、床面の丸みは緩やかなもので、長辺の粘土は床面に密着し、加えて床面から

小口部上面粘土までの高さは30cm程度であるため、棺蓋は割り竹状といえても、棺身は割り竹状とまではいえない浅いものかもしれない。少し湾曲した板状のものや、木製の棺身ではなかったことも想定できようか。墓坑北東側コーナー上位から供献土器が出土した。

出土遺物（第37図 図版25）

弥生土器 16は供献土器の壺である。非常に脆く、バインダーで固定しながら取り上げたため出土時の器形の歪みを残している。口縁部は外湾し、肩部はやや張る。頸部外面にハケメがあり、胴部はヘラミガキ調整と思われるが、バインダーの影響ではっきりしない。

SK58（第14図 図版11）

SK55を切る二段掘りの小さな土坑墓であり、墓坑南西側にテラスをもつ。このテラスは小口部の削り出しかもしれないが、北東側をトレンチで破壊したこともあり判然としない。

SK59（第14図 図版11）

I区SO3主体部とSK54に切られ、SK55・72を切る2段掘りの木棺墓で、埋葬坑は北西に片寄る。残存する埋葬坑の床面の半分以上を掘りすぎてしまった。

SK62（第14図 図版11）

I区北側で検出した木棺墓で、SO9・SK64・75に切られる。墓坑床面で溝状の掘り込みを検出したため、組み合わせ式の木棺墓と考えられる。東側の小口部の溝は、SK64に切られていることもあり不明である。床面中央からやや西で、粘土塊を検出したが用途は不明である。

SK63（第15図 図版11）

I区SO3の北側で検出した土坑墓である。SK49とSK91に切られ、残存状況が悪い。

SK64（第15図 図版11）

I区北側で検出した2段掘りの土坑墓である。SO9・SK10に切られ、SK107を切るが、SK87との切り合い関係は不明である。墓坑南側にテラスをもつが、掘りすぎかもしれない。埋葬坑は西に片寄る。

SK65（第15図 図版11）

I区西側で検出した土坑墓で、SK38・66を切る。床面は南側が20cm程高い。

出土遺物（第37図 図版25）

弥生土器 17は小型の壺で、底部は上げ底である。調整は外面がヘラミガキと思われ、内面はナデ。18は壺の口縁部片である。端部内面は小さく突出する。端部外面はハケメ板で面取りをしているようにみえる。

SK66（第15図 図版11）

SK65に切られる小型の2段掘り土坑墓である。

SK67 (第15図 図版12)

SK65の西で検出した2段掘りの土坑墓で、西半は調査区外である。

出土遺物 (第37図)

弥生土器 19は小型の壺の胴部である。外面は黒塗りの可能性がある。調整は外面がミガキで、内面はナデである。**20**も小型の壺の胴部である。胴部外面には沈線が巡るが、沈線を施した後にハケメ調整をしたように観察できる。内面はナデ調整である。

SK68 (第15図 図版12)

I区北西側SK15の南西で検出した2段掘りの土坑墓で、SK83・85を切る。埋葬坑は東側に片寄る。南側の幅が広く、頭位であろう。墓坑の南側コーナー付近で、床面から浮いて供献土器が出土した。

出土遺物 (第37図 図版25)

弥生土器 21は供献土器の壺である。鋤先状の口縁部で、底部はやや上げ底である。胴部最大径は中位よりかなり上にあり、肩が張る形態である。最大径のすぐ下にM字突帯が巡り、全体的に器壁が薄い。外面の胴部下半はミガキ調整である。

SK69 (第16図 図版12)

SK68の南で検出した土坑墓で、SK83に切られる。北側に足元掘り込みをもつが、通例とは形態が異なり疑問が残る。

出土遺物 (第38図 図版25)

弥生土器 22は小型の壺の胴部片で、埋土から出土した。横に巡る沈線の下に、斜めに3条の沈線がある。調整は外面がハケメで、内面はナデ。

SK70 (第16図)

SK68の北で検出した土坑墓?で、SK71・86に切られる。残存状況が悪く判然としないが、東側小口の立ち上がりは土坑墓とするには緩やかである。

SK71 (第16図 図版12)

SK70を切る土坑である。

出土遺物 (第38図 図版25)

弥生土器 23は小型の壺か甕の底部である。やや上げ底で厚い。調整は胴部外面がハケメで、内面がナデ。

SK72 (第16図 図版12)

I区SO3南側で検出した2段掘りの土坑墓で、SK59に切られる。埋葬坑は墓坑床面の長さいっぱい掘られている。東側が幅広く、頭位であろう。墓坑北側コーナー部の上位で、供献土器が出土した。

出土遺物 (第38図 図版25)

弥生土器 24は供献土器の壺である。鋤先状の口縁部で端部は外に短く伸び、内側に小さく

突出する。上面は少し外傾する。頸部は締まり、あまり長くない。胴部は算盤玉状であり、最大径は中位よりやや上にある。底部は僅かに上げ底で、やや厚い。調整は、頸部外面がハケメで内面はヘラミガキ。胴部外面上位はハケメ後ナデ、下位はヘラミガキと思われる。

SK73 (第16図 図版13)

SK72の北西で検出した土坑墓で、SK117を切る。北側が少しすばまり、床面は南側が少し高いので、頭位は南であろう。

SK74 (第16図 図版13)

SK73の南西で検出した木棺墓で、SK117を切る。両方の小口部で削り出しを設ける。南西側削り出しの平面形は台形だが、北東側削り出しの平面形は凸字状であり、SK15と同様に形態が違う。埋葬坑は浅い掘り込みである。

SK75 (第17図 図版13)

I 区北側で検出した土坑墓で、SK62を切る。

SK76 (第17図 図版13)

I 区SO1とSO3の間で検出した2段掘りの木棺墓で、SK88を切る。両方の小口部で削り出しを設ける。埋葬坑は横断面が舟底状ではあるが、あまり丸みをもたない。

出土遺物 (第38図 図版25)

弥生土器 25は壺である。埋土中から出土した。平底の底部で調整は不明瞭。

SK78a・78b (第17図 図版14)

SK76の南西2mで検出した2段掘りの木棺墓である。2基の埋葬坑をもち、切り合いもみとめられなかったため、2体(同時)埋葬の木棺墓と考えられる。遺構検出に失敗し、南側は大きく掘りすぎている。2基の埋葬坑の北東側墓坑に設けられたテラスも、78b側では掘りすぎており、図面上で復元している。北東壁の中央は内側に少し突出する部分があり、1段下がって、2基の埋葬坑を区切るようにテラスがある。しかし、このテラスは中程で途切れ、2基の埋葬坑を完全に区切るようにはなっていない。延長上の南東側壁も尾根状に内側に突出する。埋葬坑は78aの方が長い、床面で0.85mしかなく小さなものである。

SK79 (第17図 図版13)

I 区南側SO1主体部に切られる2段掘りの土坑墓である。埋葬坑の中央よりも北東側の上方にあたる墓坑内で供献土器が出土した。埋葬坑上端よりも、10cm以上レベルが高い位置である。

出土遺物 (第38図 図版25)

弥生土器 26は供献土器の壺である。非常に脆くバインダーで固定して取り上げた。頸部は少し内傾して立ち上がり、やや外湾して口縁端部で強く屈曲させる。胴部最大径は中位にあり、底部は僅かに上げ底である。内外面ともにナデ調整と思われるが、バインダーの影響で判然としない。

SK80 (第17図)

SK79の西で検出した土坑墓で、SO1主体部に切られる。

SK81 (第18図)

SK65の北側で検出した土坑墓である。SK82・83に切られる。

SK82 (第18図 図版14)

SK81・83を切る2段掘りの木棺墓である。非常に残りが悪い。墓坑の南東コーナーで供献土器が出土したが墓坑検出面よりも上位にあたる。

出土遺物 (第38図 図版26)

弥生土器 27は供献土器の壺である。胴部中位から上は残存しない。内外面ともにナデ調整である。

SK83 (第18図 図版14)

SK69・81を切り、SK68・82に切られる2段掘りの土坑墓である。埋葬坑は北東側が幅広く、頭位であろう。

出土遺物 (第38図)

弥生土器 28は高坏の坏部と考えられる。内外面ともに丹塗りであるが、ほとんど剥落し調整は不明。**29**は壺の口縁部である。口縁端部は外に短く屈曲する。内外面ともナデ調整であるが、外面の一部には、タテ方向のヘラミガキが施されるようである。

SK85 (第18図 図版14)

SK68に切られる2段掘りの土坑墓であるが、ほとんどが調査区外になるため埋葬坑は未調査である。

SK86 (第18図 図版14)

I区北西端で検出した2段掘りの木棺墓で、SK70を切る。

SK87 (第18図)

I区北側で検出した土坑墓で、SK64と切り合うが、新旧関係は不明である。

SK88 (第18図)

I区SO1とSO3の間で検出した2段掘りの小さな土坑墓で、SK76に切られる。埋葬坑床面は南側が広く、頭位であろう。

SK89 (第19図 図版15)

SK88の南東で検出した木棺墓で、両方の小口部で削り出しを設ける。削り出しの断面形は蒲鉾型で、割り竹形の棺蓋を載せるのに適した形であるが、土層断面からは木棺の形態は想定できない。棺身はK56と同様に、割り竹状としても、浅いものであったと考えられる。北東側

にだけ長辺に沿って浅い掘り込みがあり、棺蓋を固定させるためのものと考えられる。SK56では、同じく北東側で粘土帯を検出した。墓坑の主軸方向もほぼ同じであり関連性が窺える。木棺部の西側コーナー上方の埋土から供献土器が出土した。

出土遺物（第39図 図版26）

弥生土器 30は供献土器の壺である。頸部は少し外傾して立ち上がり、口縁部は強く屈曲して内面には稜がつく。端部上面はやや丸味をもつ。胴部最大径は中位より上にあり、ほぼその位置に三角突帯1条をめぐらし、底部はわずかに上げ底である。底部近くに外面からの焼成後穿孔が1ヶ所ある。調整は胴部外面がヘラミガキで内面はナデ、頸部外面はタテ方向のハケメであり、このハケメはかなり装飾的である。SK72出土の24も頸部に同様の調整を施すが、30の方がハケメの条痕も深く、外見上目立つ。

SK90a・b（第19図 図版16）

I区SO3主体部に切られる2段掘りの土坑墓である。2体（同時）埋葬と考えられ、2基の埋葬坑は地山を削り出した低い仕切りによって分けられるが、途中で途切れる部分がある。埋葬坑の幅は東側が広く、頭位であろう。墓坑の北側で床面から浮いて供献土器が出土した。

出土遺物（第39図）

弥生土器 36は供献土器の壺である。バインダーで固定して取り上げているが、接点が不明なところが多く、全形を復元できなかった。鋤先状の口縁部で、端部内面は少し丸みをもって突出する。底部は少し上げ底である。胴部最大径と考えられるところに三角突帯1条を巡らす。胴部外面下位はヘラミガキ調整であるが、他はバインダーの影響で不明である。

SK91（第20図 図版16）

SK90の北西で検出した2段掘りの土坑墓である。SK63を切り、SK90・98との切り合いは不明である。埋葬坑は北東側に片寄り、小口部で墓坑と壁を共有する状態である。南西側がやや幅広く、頭位と考えられるが、床面レベルは20cm程低い。

SK92（第20図 図版16）

I区SO3南側で検出した2段掘りの土坑墓である。埋葬坑中央より南西側に小穴がある。北東側が幅広く、頭位であろう。

SK93（第20図 図版16）

I区SO1北東側で検出した土坑である。調査時の所見では土坑墓と判断されていない。

SK94（第20図 図版16）

I区SO1北西側で検出した土坑墓である。足元掘り込みをもつ。

SK95（第20図 図版16）

I区SO1南東側で検出した土坑墓である。北東側が幅広く、頭位であろう。

SK96 (第20図)

I区SO1の北側で検出した2段掘り土坑墓であるが、ほとんどが調査区外であり、埋葬坑は未調査である。

SK97 (第21図 図版17)

SK96の北東側で検出した2段掘りの土坑墓で、埋葬坑は足元掘り込みをもつ。

SK98 (第21図 図版17)

I区SO3主体部に切られる2段掘りの土坑墓である。SK90・98と切り合うが新旧関係は不明である。埋葬坑は南西側にやや広がるため、南西が頭位になるかもしれない。

SK99 (第21図 図版17)

I区SO3主体部に切られる土坑である。調査時の所見では土坑墓と判断されていない。

SK100 (第21図 図版17)

SK28に切られる2段掘りの土坑墓である。埋葬坑は東側に片寄る。

SK101 (第21図 図版17)

I区SO3南東側で検出した小さな土坑墓である。南西側がすぼまるため、頭位は北東側であろう。

出土遺物 (第39図)

弥生土器 32は壺の底部片である。調整は磨耗で不明。

SK102 (第21図 図版18)

I区北端で検出した土坑墓で、足元掘り込みをもつ。

SK103 (第21図 図版18)

I区SO1とSO3の間SK89の北東で検出した土坑墓である。不整形で長辺の両側にテラスをもつ。床面は東側が広く、頭位であろう。北東側テラスから鉄鏃2点が出土した。

出土遺物 (第43図 図版28)

鉄製品 45・46は古墳時代の鉄鏃である。45は2個の透かし孔をもつ。

SK104 (第22図 図版18)

SK103の東で検出した2段掘りの土坑墓である。墓坑に対して埋葬坑が大きい。

SK105 (第22図 図版17)

I区北側、SK10の南で検出した2段掘りの木棺墓である。南東側の小口部に削り出しをもつが、反対側は削平されているため不明である。木棺部の長辺両側の一部と削り出し部で粘土帯を検出した。この木棺墓も棺蓋は割り竹状になると考えられるが、棺身は浅いものになると

考えられる。

SK106 (第22図 図版18)

I 区北側で検出し、SK11に切られる。不整形で北東側にテラスをもつ。形態的には土坑墓と考えられないが、埋土から耳環が出土したため土坑墓の可能性もある。

出土遺物 (第43図 図版28)

装身具 47は耳環である。表面が泥と錆に覆われて観察できないが、銀製である。径は2.05×1.85cm、断面は円形で径は約0.3cmである。

SK107 (第22図)

I 区北側SK105北で検出した土坑墓で、SK10・64に切られる。残りが悪いため、1段掘りか2段掘りの墓坑になるか不明である。

SK108 (第22図)

SK107の東で検出した土坑墓である。SK23に切られる。

SK109 (第22図 図版18)

I 区SO3北東側で検出した土坑墓である。南側が幅広く、頭位であろう。

SK110 (第22図 図版18)

I 区中央部西側SK35の南で検出した土坑墓で、足元掘り込みをもつ。

SK111 (第23図 図版18)

I 区中央部で検出した2段掘りの土坑墓で、SO3の北西側に位置し、SK116に切られる。埋葬坑は南東側で幅広く、頭位であろう。

出土遺物 (第39図)

弥生土器 33は壺の口縁部である。埋土から出土。頸部は外湾し、口縁端部は口唇状である。内面の口縁端部付近はハケメ調整である。

SK112 (第23図 図版18)

SK111の北東2m程で検出した小さな土坑墓で、SK113を切る。

SK113 (第23図 図版18)

SK112に切られる二段掘りの土坑墓である。埋葬坑の北西小口部に浅い掘り込みをもち、足元掘り込みかもしれない。

出土遺物 (第39図)

弥生土器 34は壺の口縁部である。埋土から出土。頸部は外傾して開き、外湾する。内面の口縁端部付近はハケメ調整である。

SK114（第23図 図版18）

I区SO3南西側で検出した遺構で、SK115を切る。平面形は楕円形に近く、床面の北西壁側に小穴がある。形態的に土坑墓とするには疑問がある。

SK115（第23図 図版18）

SK114に切られる遺構である。残りが悪く、形態的にも土坑墓とするには疑問がある。

SK116（第23図 図版18）

SK111を切る土坑墓である。幅が広い東側が頭位であろう。

SK117（第23図）

I区SO3南側で検出した土坑で、SK73・74に切られる。

SK122（第24図 図版18）

Ⅱ区SO125南東側で検出した2段掘りの土坑墓である。木蓋土坑墓と考えられ、埋葬坑の外側には方形に囲むように堅く締まった土を敷き詰めており、平面でも確認できた。木蓋を固定するものであろう。

SK123（第24図 図版19）

SK122の北西で検出した2段掘りの土坑墓で、SO125の主体部と墓道に切られる。埋葬坑は北側ですばまっており、南側が頭位であろう。

SK124（第24図 図版19）

Ⅱ区SO125主体部の北西で検出した2段掘りの土坑墓である。墓坑の平面形は長楕円形で、埋葬坑は南西に片寄る。

SK126（第24図 図版19）

SK124の北東で検出した2段掘りの土坑墓である。北側は攪乱されており不明であるが、南側小口部では埋葬坑が墓坑よりもはみ出す形態である。

SK127（第25図 図版19）

Ⅱ区SO125の周溝に切られる2段掘りの土坑墓で、東半部は調査区外である。埋葬坑は西側が狭くなるため、東側が頭位であろう。

SK128（第25図 図版19）

SK127の北で検出した木棺墓である。両方の小口部で、断面蒲鉾形の削り出しを設ける。北側小口部では粘土を検出した。SK56などと同様に割り竹形の木蓋と浅い棺身の木棺と想定される。

SK129 (第25図 図版19)

Ⅱ区SO120周溝に切られる2段掘り土坑墓である。埋葬坑の南東側が幅広く、頭位であろう。
出土遺物 (第39図)

弥生土器 31は壺の底部片で、埋土から出土。磨耗で調整は不明。

SK132 (第25図 図版20)

Ⅱ区SO130南側周溝に切られる2段掘りの土坑墓である。埋葬坑は墓坑に対して大きなものである。北側にすばまるため、頭位は南側であろう。

SK133 (第26図 図版20)

Ⅱ区SO130の主体部と墓道に切られる木棺墓である。両方の小口部に、断面カマボコ形の削り出しを設ける。木棺部の南側の長辺と削り出し部に帯状の粘土を検出した。SK56などと同様に割り竹状の木蓋と浅い棺身の木棺と想定される。東側小口部上方の埋土からは供献土器が出土した。

出土遺物 (第40・43図 図版26・28)

弥生土器 37は供献土器の壺である。鋤先状の口縁部で端部内側の突出は弱く、外側にもあまり伸びない。頸部はやや外湾して緩やかに外に開く。胴部最大径付近に三角突帯を1条巡らす。底部はわずかに上げ底で分厚い。胴部外面の調整はヘラミガキで、内面はナデ。

石製品 50は埋土から出土した砥石である。平坦面以外でもほぼ全面を使用している。

SK134 (第26図 図版20)

Ⅱ区SO130の西側で検出した小さな土坑墓である。東側が幅広く、頭位であろう。

SK135 (第26図 図版20)

SK134の南で検出した小さな2段掘り土坑墓である。

SK136 (第26図 図版20)

SK135と主軸方向が同一で、北に接して検出した小さな土坑墓である。どちらも小さなもので、なんらかの関連性も疑えるが、SK135と異なり検出段階では2段掘りではない。

SK137 (第26図 図版20)

Ⅱ区SO125主体部の北東で検出した土坑墓で、SK138を切る。足元掘り込みをもつ。

SK138 (第26図 図版20)

SK137に切られて出土した2段掘りの小さな土坑墓である。埋葬坑の床面は南側が幅広く頭位であろう。

SK139 (第27図 図版20)

Ⅱ区SO125主体部とSK124に切られる小さな2段掘りの土坑墓である。埋葬坑の幅は床面で

18cmしかないが、深さは50cm以上あり、平面の規模に対してかなり深い。方位は略方位である。

SK140（第27図 図版21）

Ⅱ区北側で検出した2段掘りの土坑墓で、SK136から西に6mほど離れている。埋葬坑床面から石戈か石剣の切っ先が出土した。刺された被葬者の体内に残されたものかもしれない。もしそうならば、石剣の可能性が高い。

出土遺物（第43図 図版28）

石製品 49は石戈か石剣の切っ先である。丁寧に研がれている。

SK141（第27図 図版21）

Ⅱ区SO118の墓道に切られる2段掘りの土坑墓である。墓坑に対して埋葬坑が大きい。墓坑南側コーナーの外で、供献土器が出土した。明らかに墓坑上端ラインより外側で出土しており、上部からひしゃげた出土状況からみて、ある程度の盛土が存在した証拠になると考えられる。また、（1段目）墓坑が浅いからといって、必ずしも削平されたと短絡的に判断できないことも解る。

出土遺物（第40図）

弥生土器 38は供献土器の壺である。鋤先状の口縁部で端部内側の突出は弱く、上面はやや丸味を帯びる。頸部は締まり、直線的に開く。胴部最大径は中位より少し上にあり、そのまた少し上に三角突帯が1条巡る。底部は少し上げ底である。調整は胴部外面の下位にヘラミガキが観察できる。

SK142（第27図 図版21）

Ⅱ区SO118主体部の北西で検出した土坑墓である。床面は北西側がやや幅広く、頭位かもしれない。

SK144（第27図 図版21）

Ⅲ区SO119主体部南側南検出した小さな2段掘りの土坑墓である。埋葬坑床面は北東側が幅広く、頭位であろう。

SK145（第27図 図版21）

SK144の西で検出した小さな2段掘り土坑墓である。埋葬坑東側小口付近に小穴があるが、足元掘り込みかもしれない。

SK146（第28図 図版21）

SK140の北で検出した2段掘りの土坑墓で、SK147を切る。墓坑の平面形は不整形で、壁も半分近くオーバーハングし、あまり企画性を感じられない。埋葬坑は南に片寄り、これも整った形態ではない。

SK147 (第28図 図版21)

SK146に切られ、SK148を切る土坑墓である。

SK148 (第28図)

SK147に切られる土坑墓で、幅に対して長さが短い。

SK149 (第28図 図版21)

Ⅱ区SO118主体部に切られる土坑墓である。

SK150 (第28図 図版21)

Ⅱ区SO125主体部の西側で検出した土坑墓で、SK151に切られる。細長い土坑墓である。南西側がやや幅広く、頭位かもしれない。

SK151 (第28図 図版22)

SK150を切る土坑墓である。南側が幅広く、頭位であろう。

SK152 (第28図 図版22)

Ⅱ区SO118主体部の北側で検出した小さな2段掘りの土坑墓で、SK162を切る。埋葬坑は南側が幅広く、頭位であろう。

SK153 (第29図 図版22)

Ⅱ区SO118主体部の南東でした2段掘りの土坑墓である。墓坑の東側は残存しないが、埋葬坑の小口部は墓坑と共有する形態になるものであろう。埋葬坑床面の中央よりやや南側には、傾斜が変換するラインがあり、南側が高くなる。床面幅は南側が広く、頭位であろう。

SK154 (第29図 図版22)

SK153の南東で検出した小さな土坑墓である。床面は北側が広く、頭位であろう。

SK155 (第29図 図版22)

Ⅱ区SO125の南側周溝に切られた土坑墓である。

SK156 (第29図 図版22)

SK155の北東で検出した小さな2段掘りの土坑墓である。埋葬坑の幅は南西側が少し広く、頭位かもしれない。

SK157 (第29図 図版22)

Ⅱ区SO125の南西で検出した2段掘りの土坑墓である。埋葬坑は南側が幅広く、頭位であろう。

SK158（第29図 図版22）

Ⅲ区SK144の東で検出した小さな2段掘りの土坑墓である。

SK161（第29図）

Ⅱ区SO125主体部北西側で検出した土坑墓である。床面の半分程を掘りすぎた。

SK163（第30図）

Ⅱ区SO130主体部の南東で検出した小さな2段掘り土坑墓である。

SK164（第30図 図版22）

Ⅲ区SO119墓道北側で検出した2段掘りの木蓋土坑墓である。埋葬坑の東側半分を囲んで木蓋の目張り用と考えられる粘土を検出した。東側小口部の両側には小さな掘り込みがあるが、役割は不明である。

SK166（第30図 図版22）

Ⅲ区のSO119主体部に切られる2段掘りの土坑墓である。

SK169（第30図 図版22）

Ⅲ区西側で検出した土坑墓で、SK170を切る。平面形は不整形で、削平された北西部を除き墓坑にテラスをもつので、3段掘りともいえる形態になっている。埋葬坑の東側小口にも小さなテラスがある。

SK170（第30図）

SK169に切られる土坑墓である。小さいが幅広の土坑墓である。

SK171（第30図）

SK170の北東で検出した小さな土坑墓である。

SK172（第30図 図版23）

SK171の北東で検出した土坑墓で、足元掘り込みをもつ。

SK173a・b（第31図 図版23）

SK172の東で検出した2段掘りの木蓋土坑墓で、2体（同時）埋葬である。どちらの埋葬坑も足元掘り込みをもつ。両方の埋葬坑東側小口部とSK173aの南側長辺に目張り用と考えられる粘土を検出した。

SK174（第32図 図版23）

Ⅲ区SO119の北側で検出した小さな2段掘りの土坑墓である。

SK175 (第31図)

SK173とSK174の間で検出した2段掘りの土坑墓である。SK182と切り合うが、先後関係は不明である。埋葬坑は足元掘り込みをもち、南側の側壁は墓坑と共有する。このような土坑墓は類例がない。埋土から緑色凝灰岩製管玉の破片が出土したが、バラバラに細片化し図化することができなかった。

SK176 (第32図)

Ⅳ区中央から東側で検出した土坑墓である。北東側小口部には攪乱坑がある。

SK177 (第32図 図版23)

SK176の南西で検出した小さな土坑墓で、足元掘り込みをもつ。

SK178 (第32図 図版23)

Ⅳ区北西側で検出した2段掘りの木棺墓である。両方の小口部に削り出しを設けるが、南西側はほとんど削平される。北東側削り出しの両側は細く掘り込み状になり、南西側では小口部で掘り込み状であったものが、長辺に沿って続きテラスになっている。墓坑床面には木棺を固定するための土が判別できた。棺蓋は割り竹状のものであろうが、SK56などに比べ木棺部の掘り込みが深いので、棺身もやや深いものになるのだろうか。埋葬坑床面中央には小穴があり、中央から少し南西で石鏃が出土した。被葬者の体内に刺さっていたものかもしれない。また、墓坑北東コーナー上位から供献土器が出土した。

出土遺物 (第41・43図 図版26・28)

弥生土器 39は供献土器の壺である。頸部から口縁部にかけて、緩やかに外湾して開く。胴部最大径は中位より少し上にあり、底部はわずかに上げ底である。胴部内面はナデ調整であるが、他は磨耗のため不明である。

石製品 48は埋葬坑床面から出土した安山岩製の石鏃である。先端を少し欠損する。完形だったとしても1.5cm程度の小さなものであろう。

SK179 (第32図 図版23)

SK174の北東で検出した土坑墓である。西側に2箇所テラスがある。形態的には土坑墓とするには疑問がある。

SK181 (第32図 図版23)

Ⅳ区南側で検出した小さな土坑墓である。

SK182 (第31図)

SK175と切りあうが先述の通り先後関係は不明である。土坑墓ではないだろう。

SK183 (第32図 図版23)

SK175の南西で検出した小さな土坑墓である。

SK184 (第33図 図版24)

Ⅳ区南端で検出した2段掘りの土坑墓である。埋葬坑北西の小口部は攪乱を受けている。南東側小口部では粘土を少し検出した。

SK185 (第33図 図版24)

Ⅳ区東側で検出した土坑墓である。主体部は長楕円形を呈し、南側に浅い掘り込みがある。豊富な副葬品が出土したが、土坑墓の規模は小さい。西側側壁近くの床面から倣製内行花文鏡が、また床面に散らばるように、多量のガラス玉が出土した。ガラス玉の数は、完形品で1388個ある。

出土遺物 (第43・44・45図 巻頭カラー図版2 図版28)

青銅製品 43は倣製内行花文鏡で、鏡面を下にして出土した。鏡面には木質が残存する。鏡背は、断面蒲鉾形の縁の内側に内行花文帯を配する。その内側に何らかの図文があるが、錆上りが悪く判然としない。残存最大径は6.4cmであるが、推定最大径でも6.5cm程度であろう。

装身具 51～274はガラス玉である。完形品で1388個と他に破片もある。巻末の計測表(1266まで計測)を参照されたい。

SK186 (第34図 図版24)

Ⅳ区中央付近で検出した木棺墓で、SK193を切る。北東側小口部で、内側にあまり突出しない削り出しを設ける。埋葬坑は浅く横断面は丸みをもつ。木棺は割竹形のものが想定される。墓坑南東側には木棺裏込めのためと考えられる土を敷き詰めている。木棺部上方には標石の可能性のある塊石が、墓坑東側コーナー上方では供献土器が出土した。

出土遺物 (第41図)

弥生土器 40は供献土器の壺である。頸部から口縁端部に向けて徐々に肥厚し、頸基部に甘い三角突帯を巡らす。胴部は算盤玉状をなし、胴部最大径は中位より少し上にあり、底部は上げ底である。調整は外面がハケメ、内面は頸部がハケメで他はナデ。

SK187 (第34図 図版24)

SK186の南東で検出した2段掘りの土坑墓である。墓坑北西側には長辺に沿ってスロープ上のテラスがある。東側コーナー部では外に大きく広がり土坑状になるが、別遺構かもしれない。埋葬坑小口部外側の長軸方向の延長上に、北東側で2個、南西側で1個の石材が、墓坑壁際に配置される。

出土遺物 (第39図)

弥生土器 35は壺の底部で、埋土から出土した。底部はやや上げ底である。調整は、外面がハケメ後ナデと思われ、内面は磨耗で不明。

SK188 (第33図)

Ⅳ区南側で検出した土坑墓である。SK189と切り合うが、先後関係は不明である。

SK189 (第33図)

SK188と切り合い関係にある、小さな2段掘りの木棺墓である。埋葬坑が東に片寄り、形も不整形である。

SK190 (第33図)

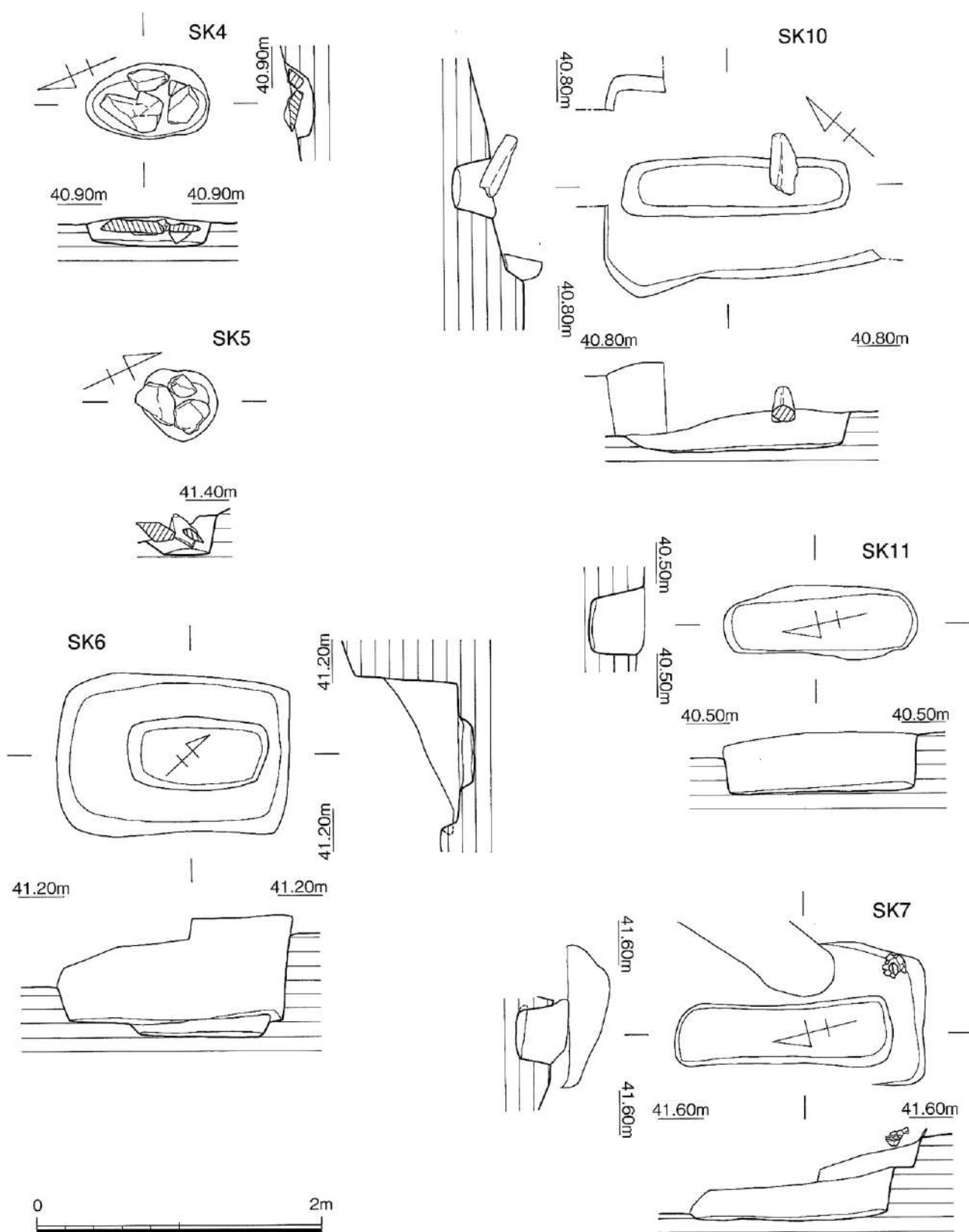
SK188北西で検出した土坑墓である。床面が整っておらず、土坑墓とするには疑問がある。

SK191 (第33図)

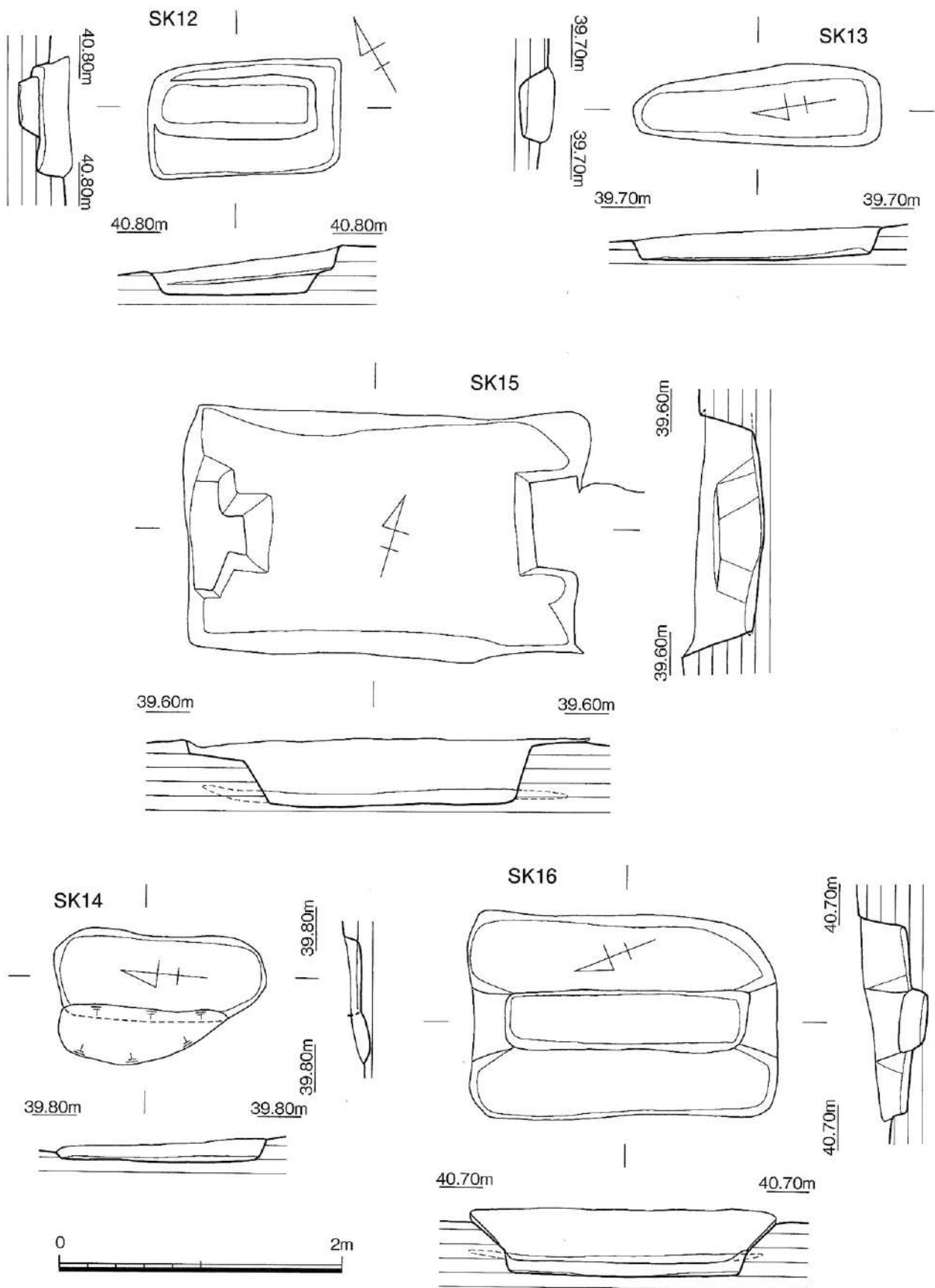
SK190の東で検出した土坑である。SK192を切る。調査時の所見では土坑墓か疑われている。

SK192 (第33図)

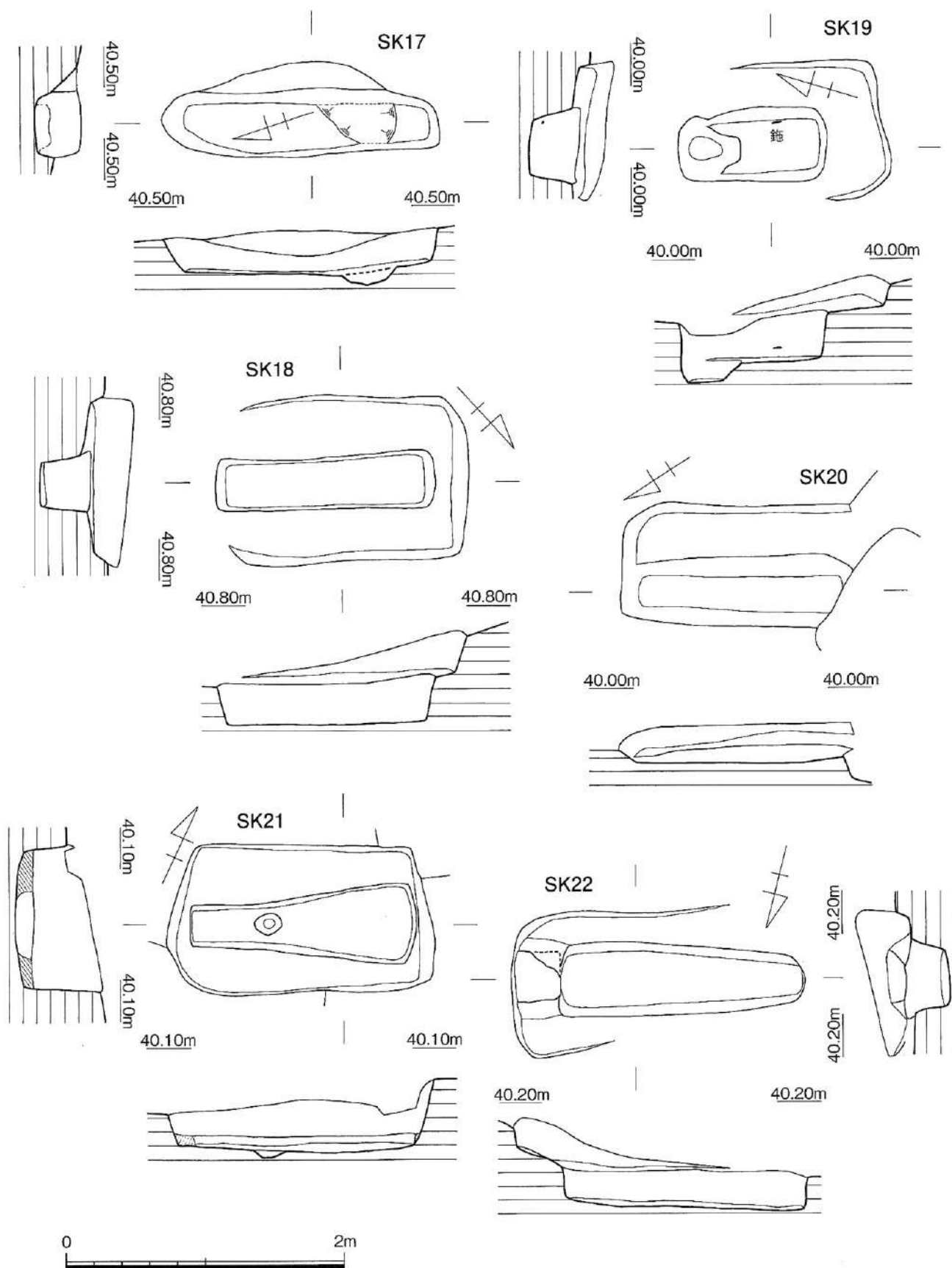
SK192に切られる土坑である。調査時の所見では土坑墓か疑われている。



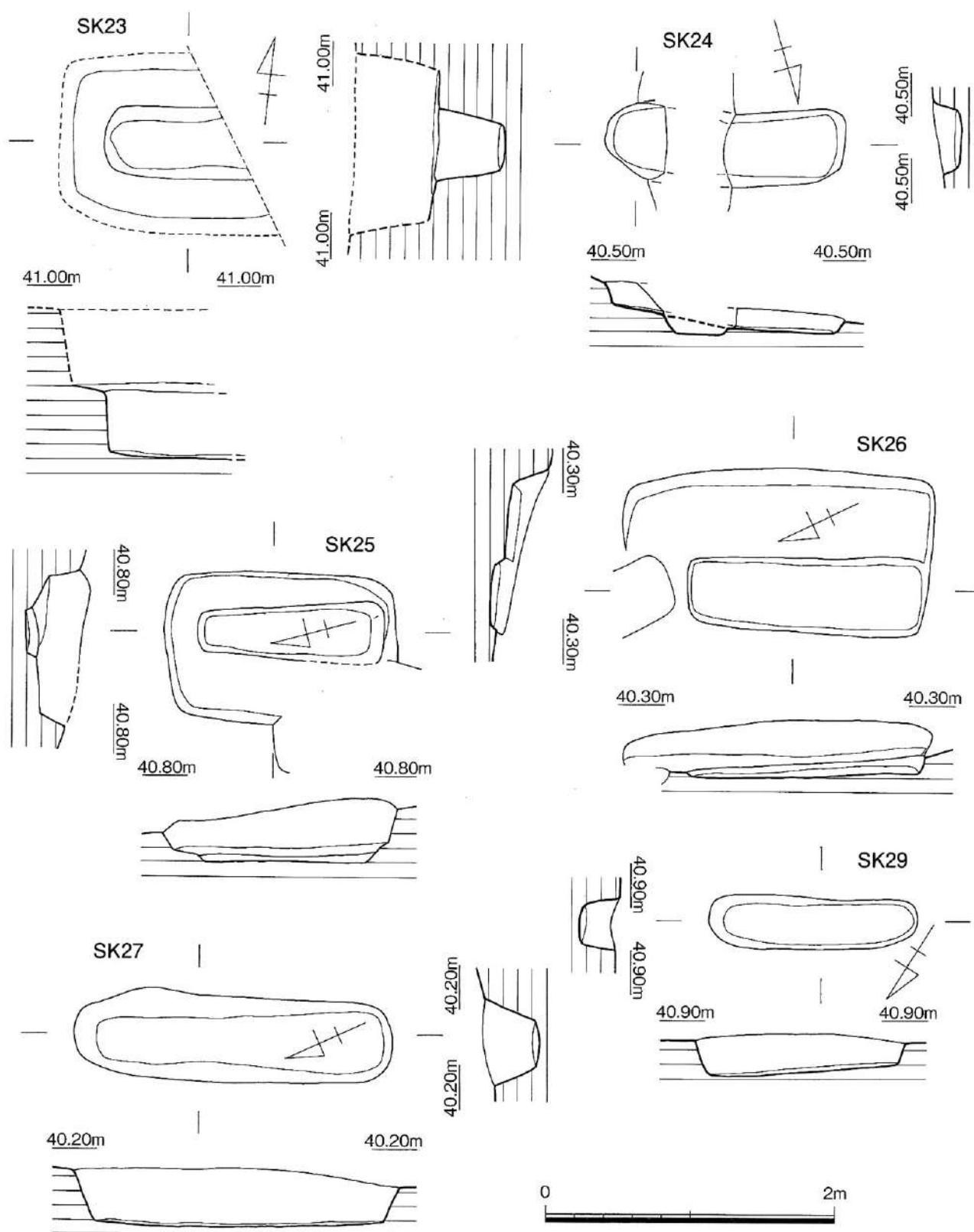
第5図 SK4~7・10・11実測図 (1/40)



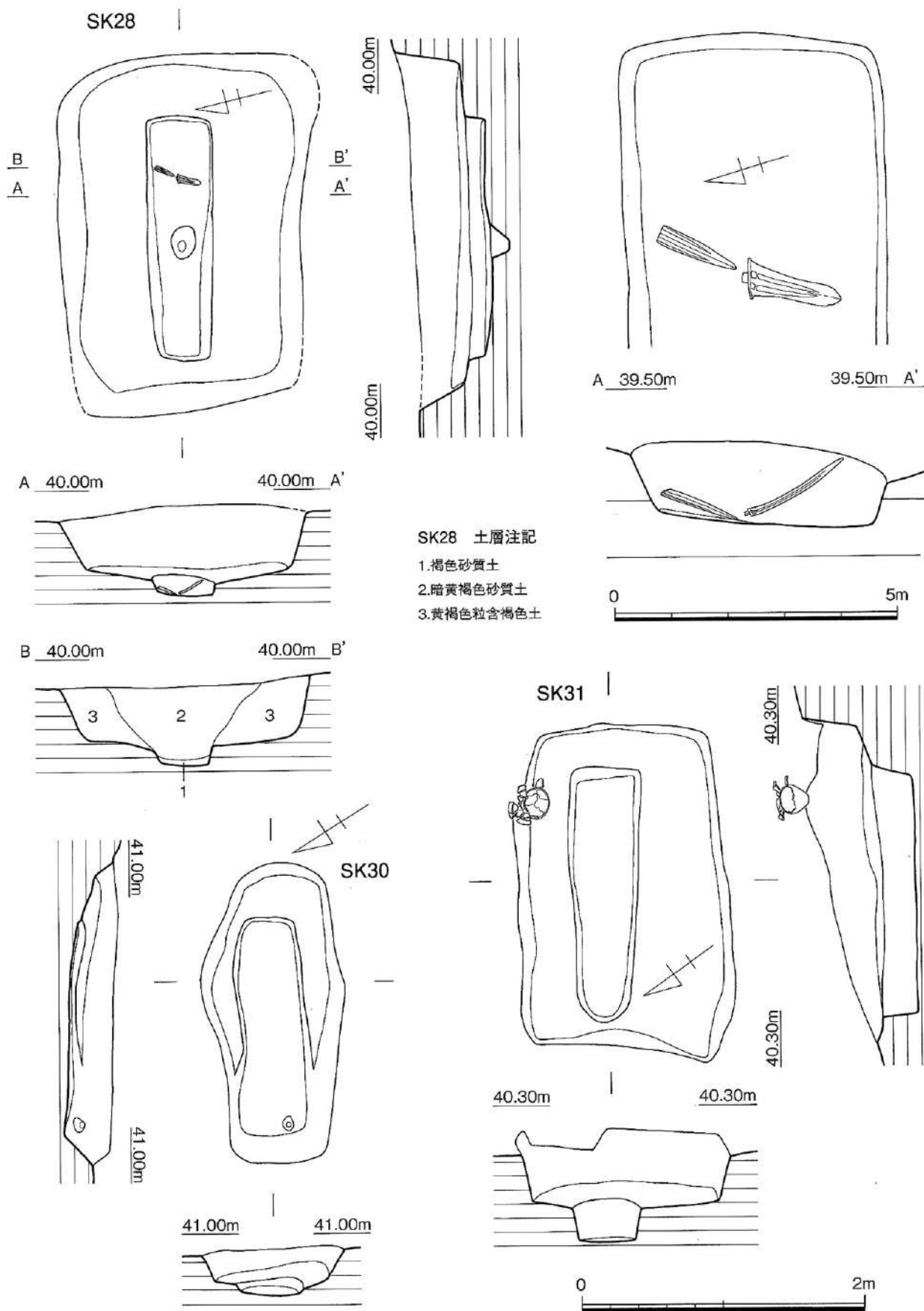
第6図 SK12~16実測図 (1/40)



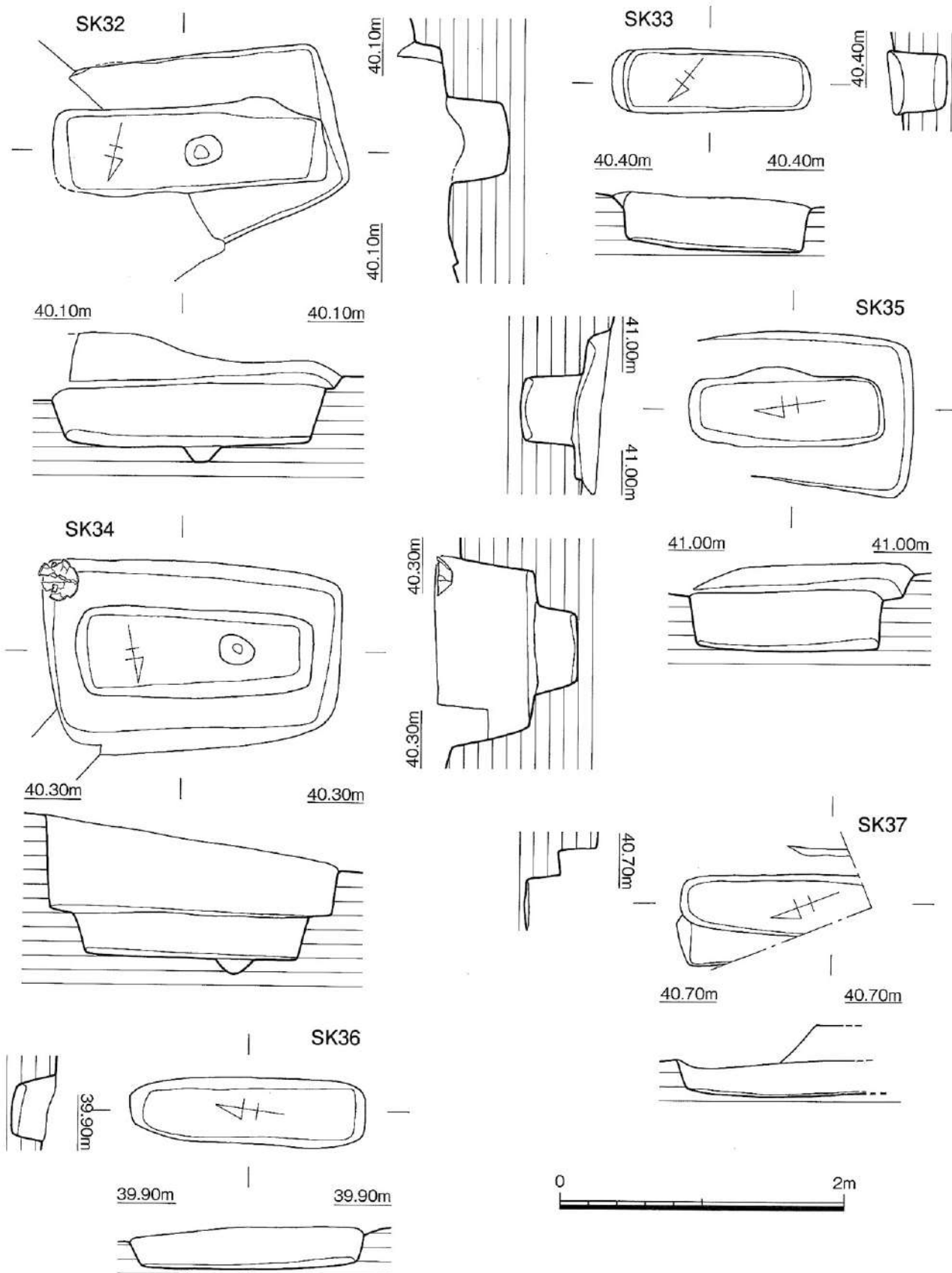
第7図 SK17~22実測図 (1/40)



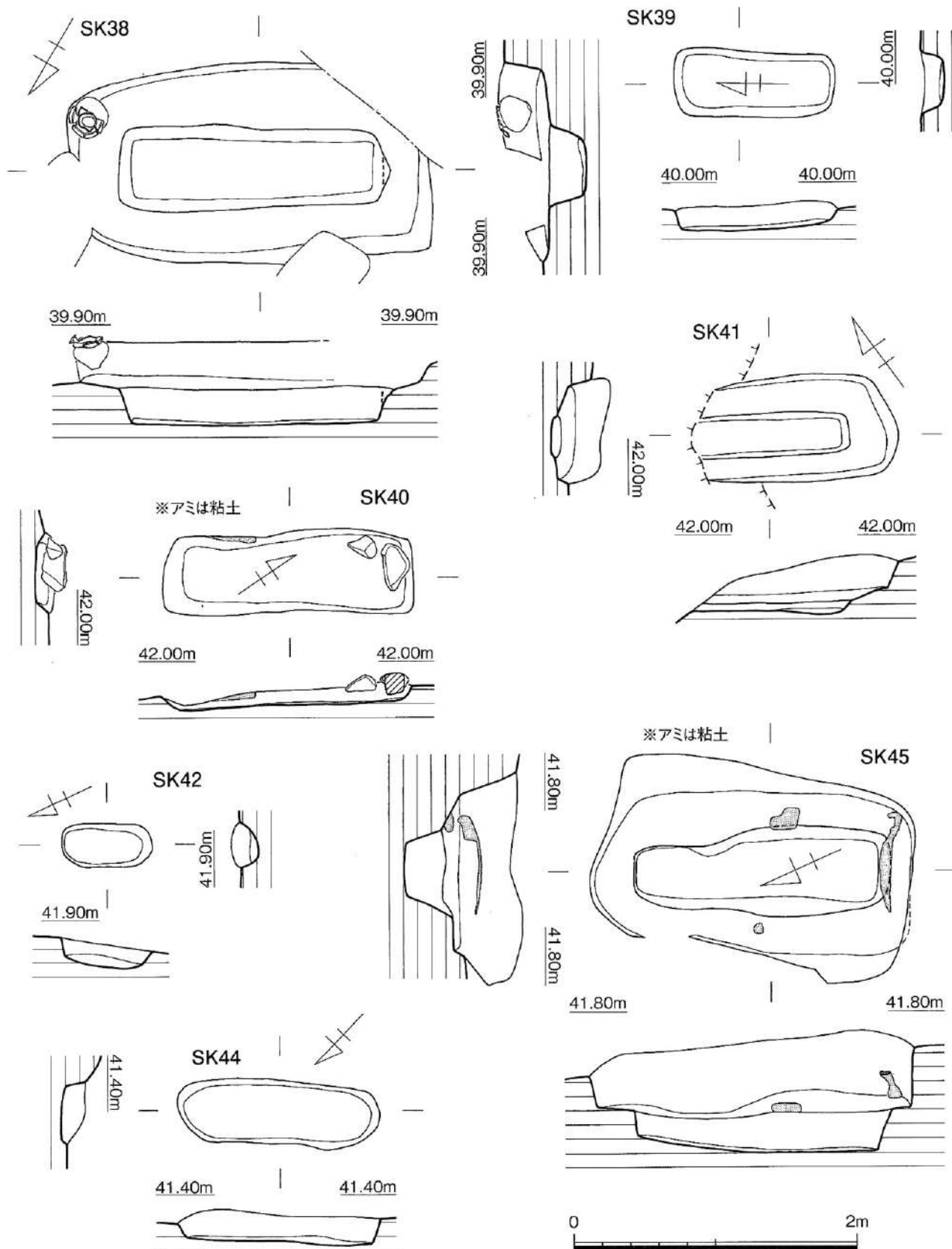
第8図 SK23~27・29実測図 (1/40)



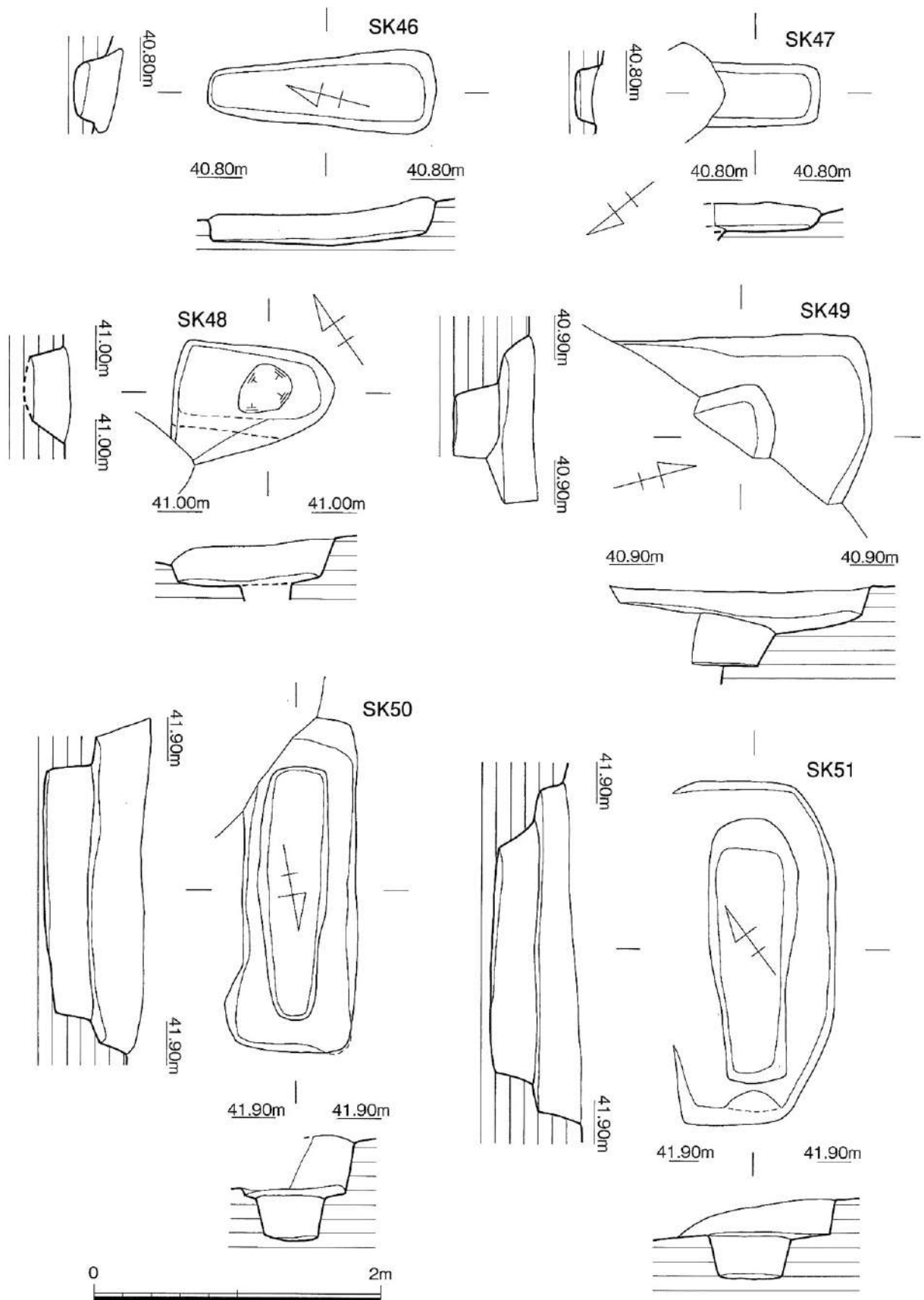
第9図 SK28・30・31実測図 (1/10・1/40)



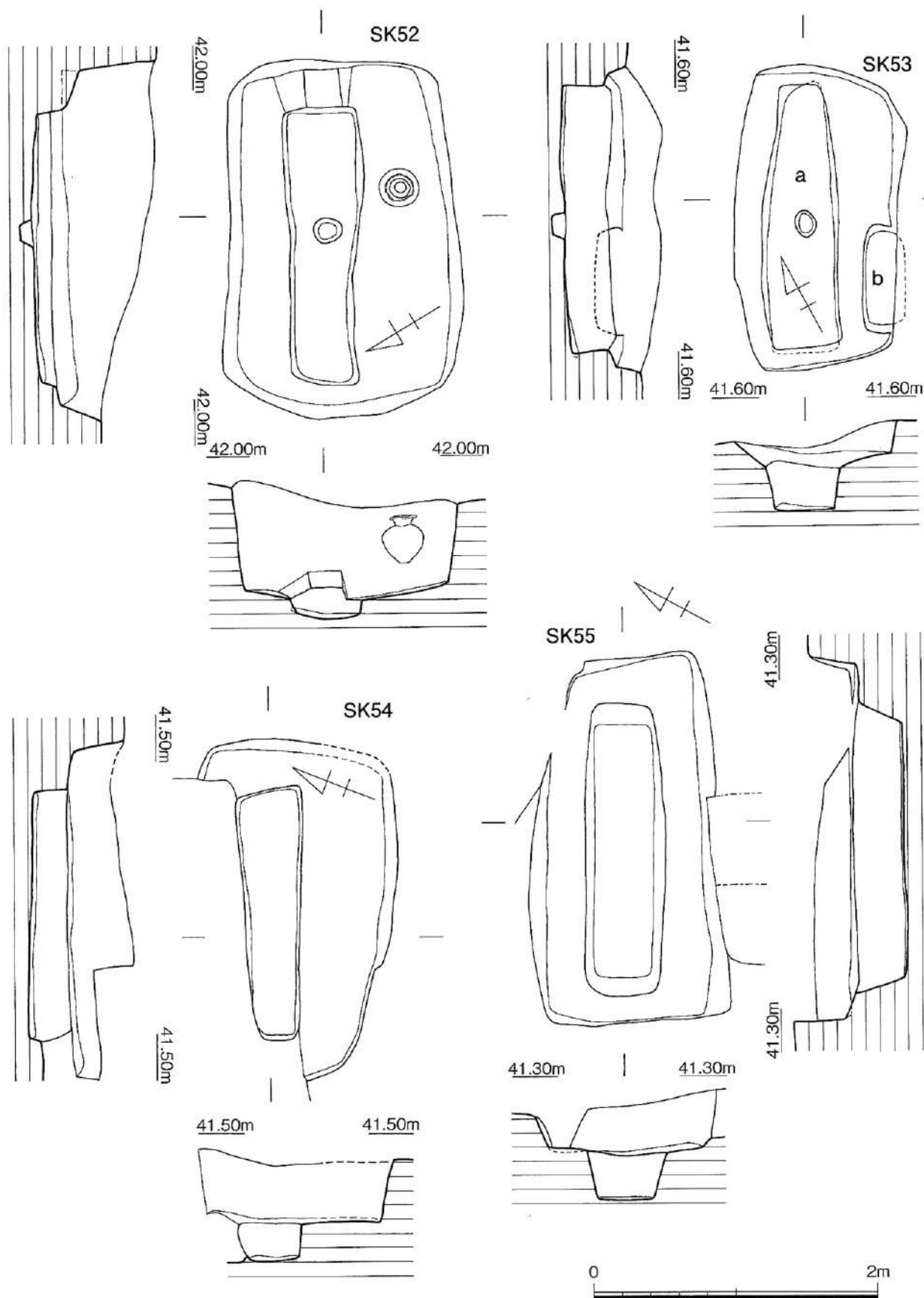
第10図 SK32~37実測図 (1/40)



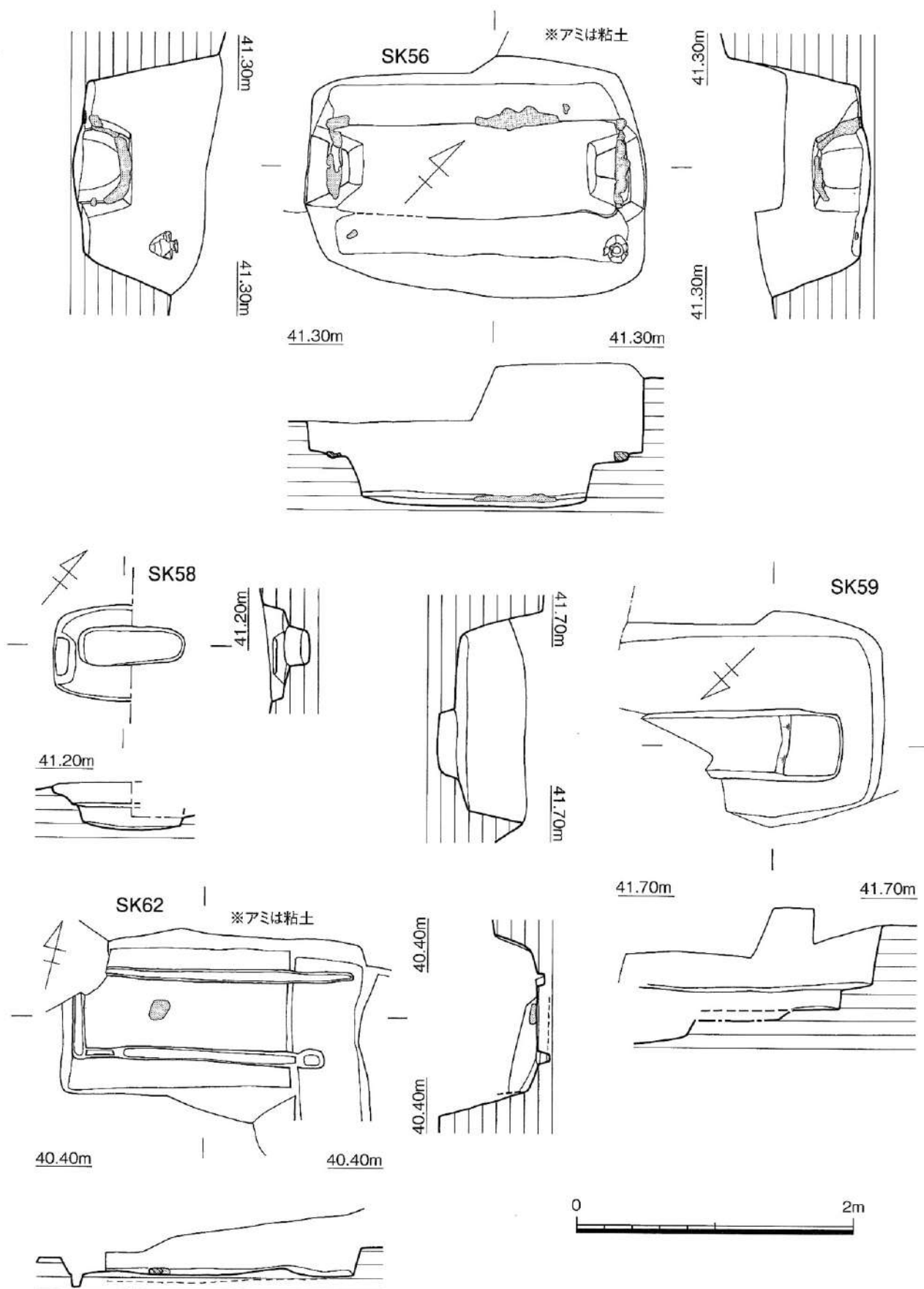
第11図 SK38~42・44・45実測図 (1/40)



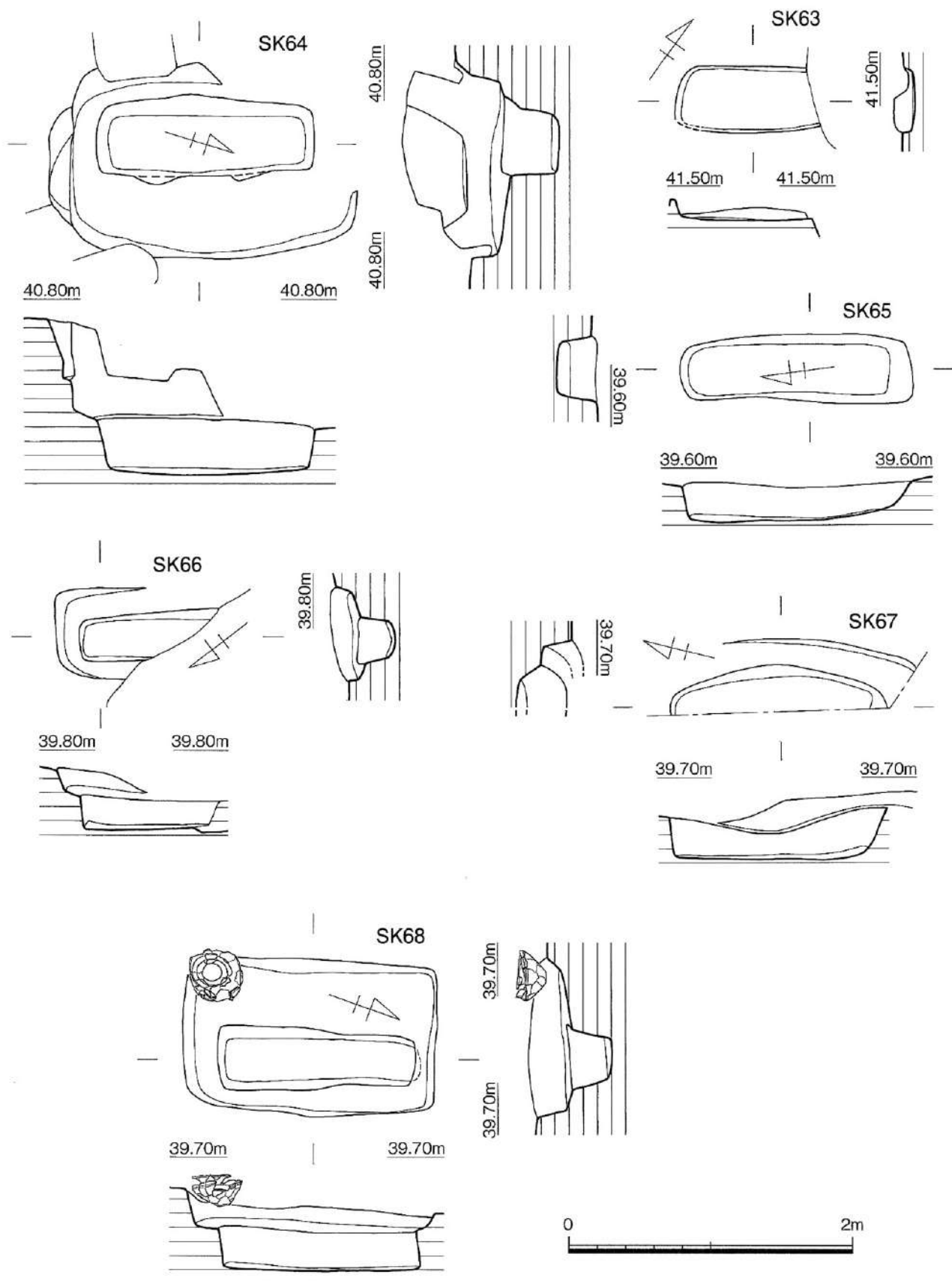
第12図 SK46~51実測図 (1/40)



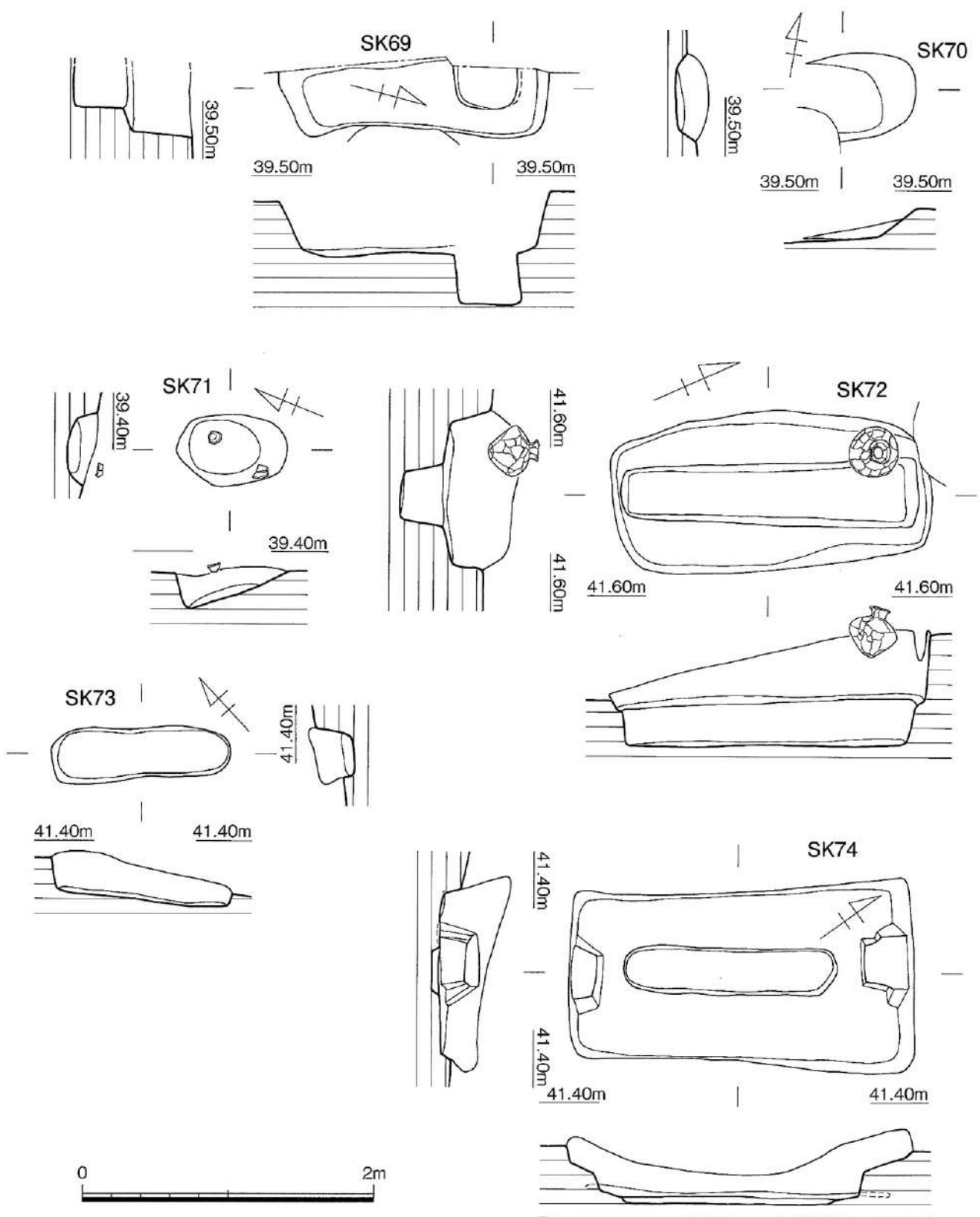
第13図 SK52~55実測図 (1/40)



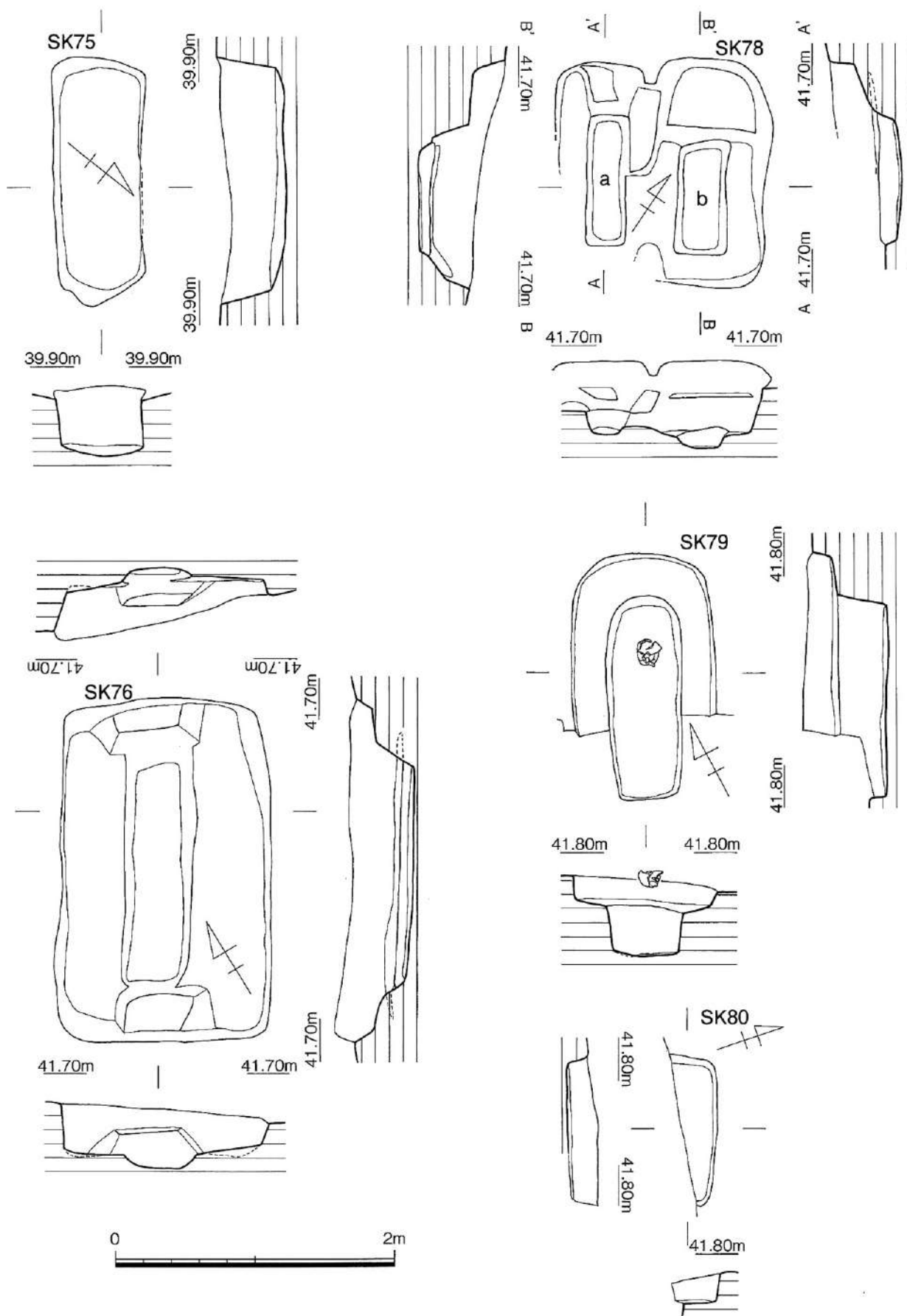
第14図 SK56・58・59・62実測図 (1/40)



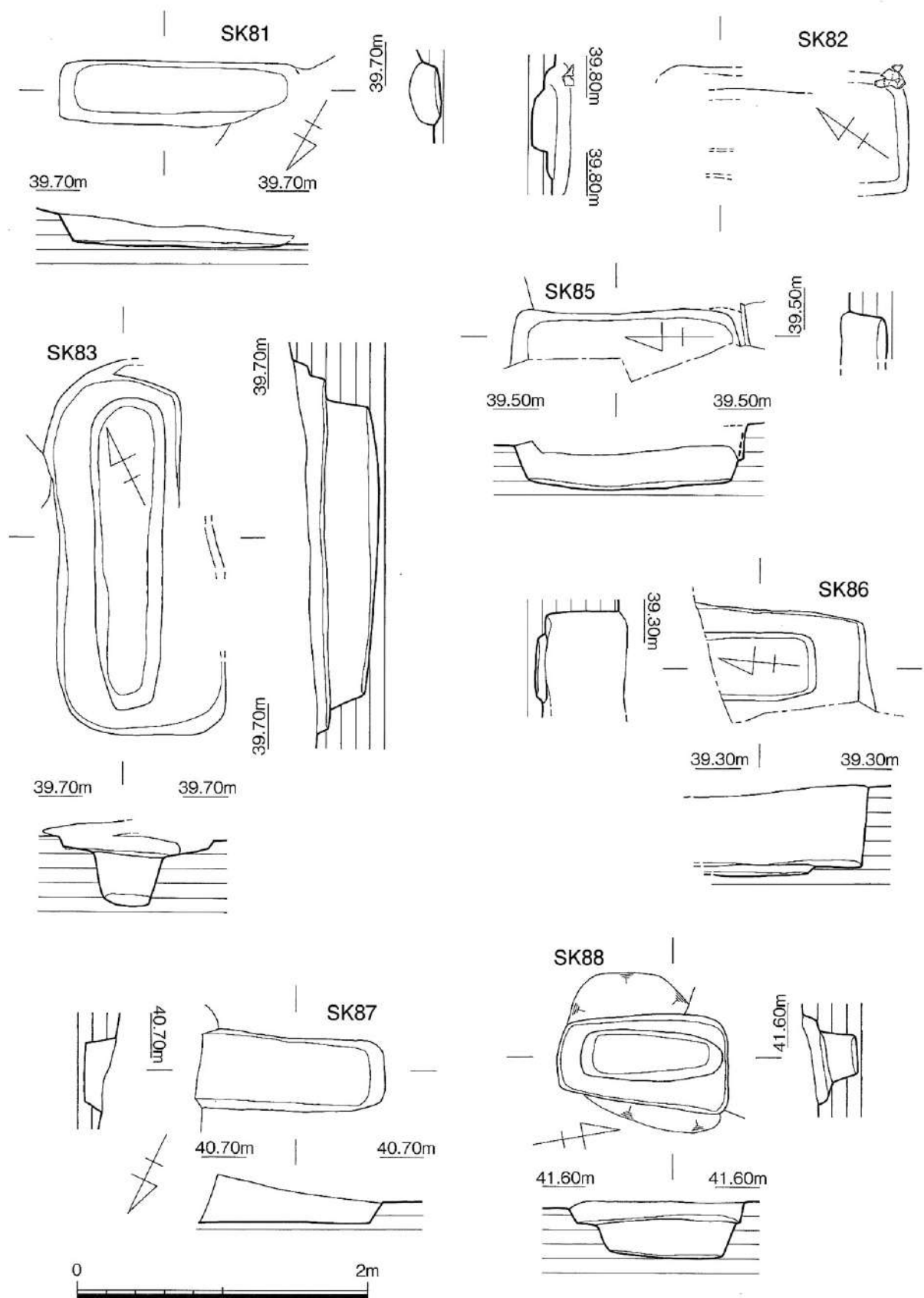
第15図 SK63~68実測図 (1/40)



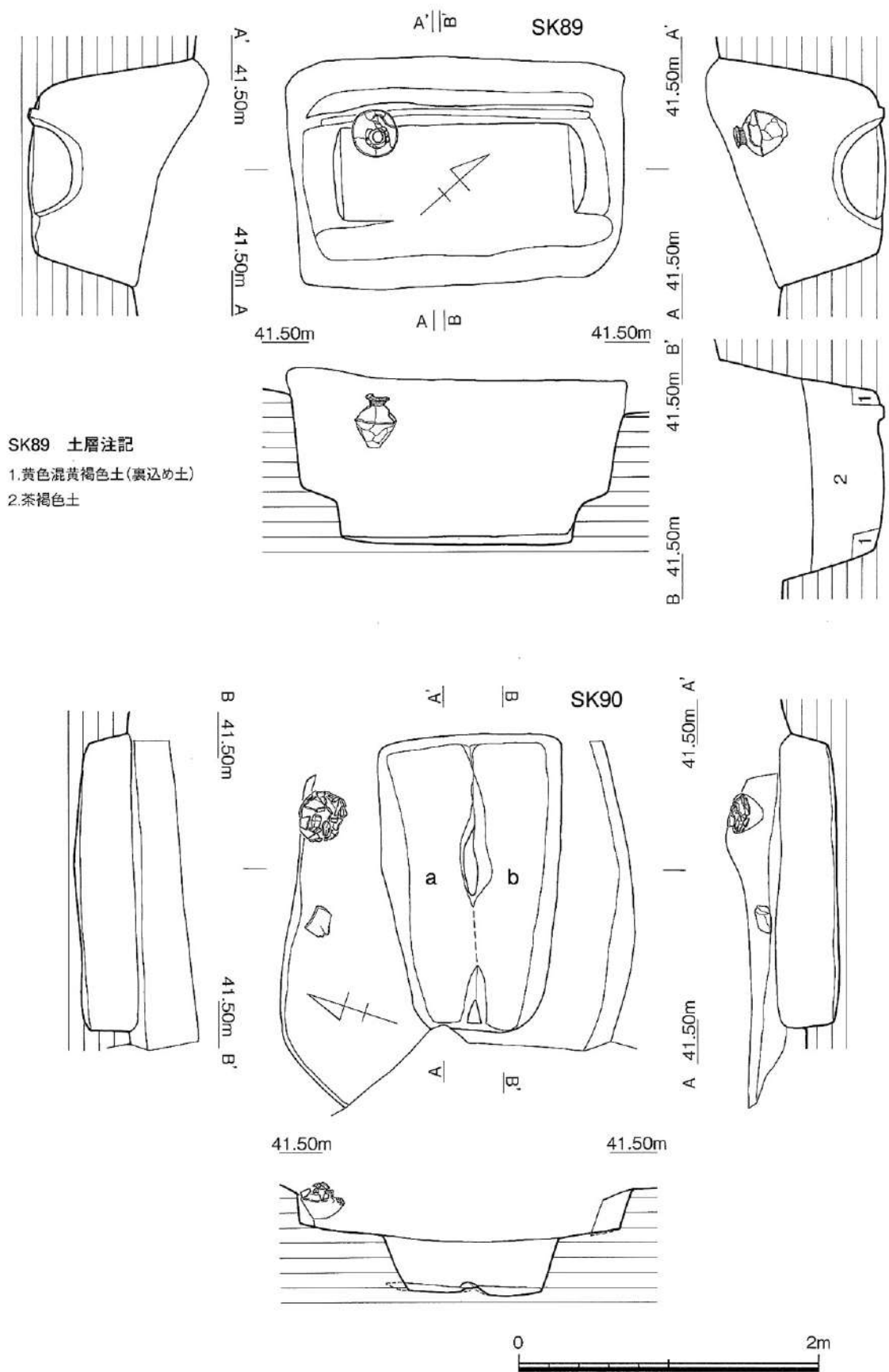
第16図 SK69~74実測図 (1/40)



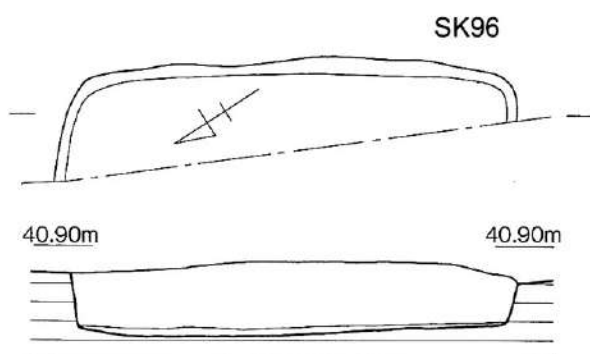
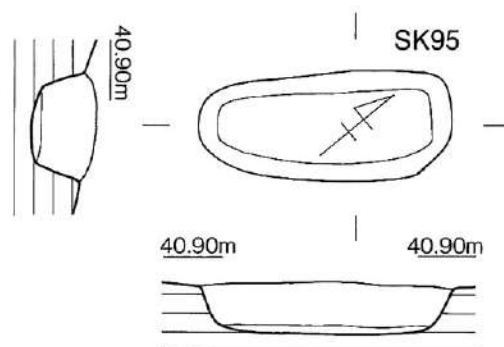
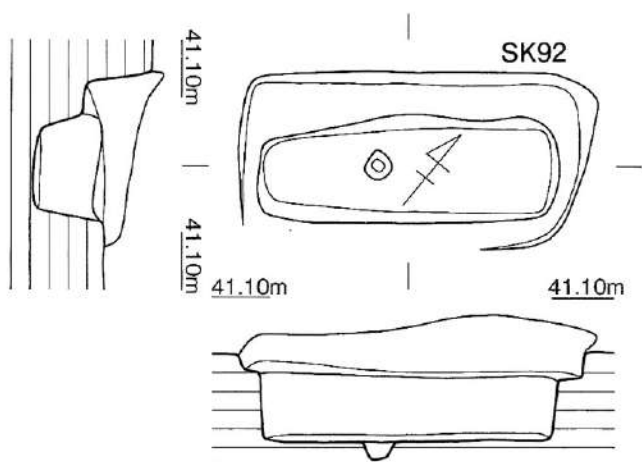
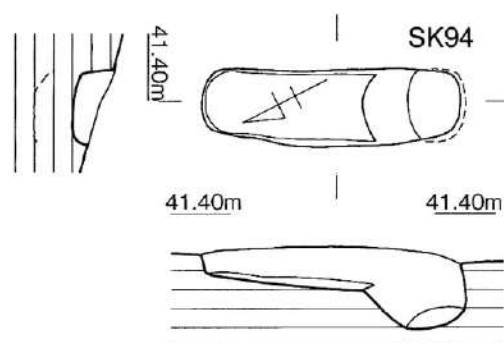
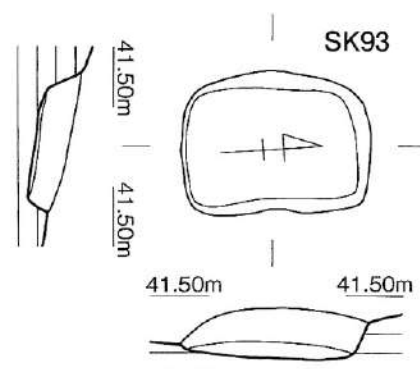
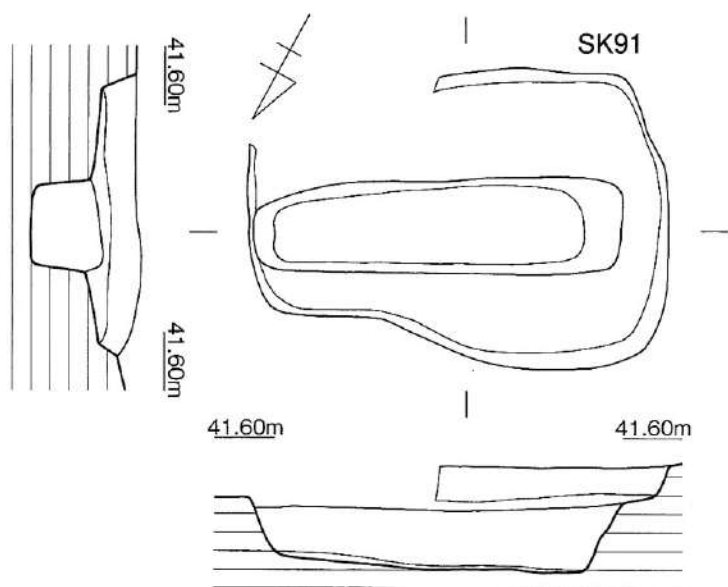
第17図 SK75・76・78～80実測図 (1/40)



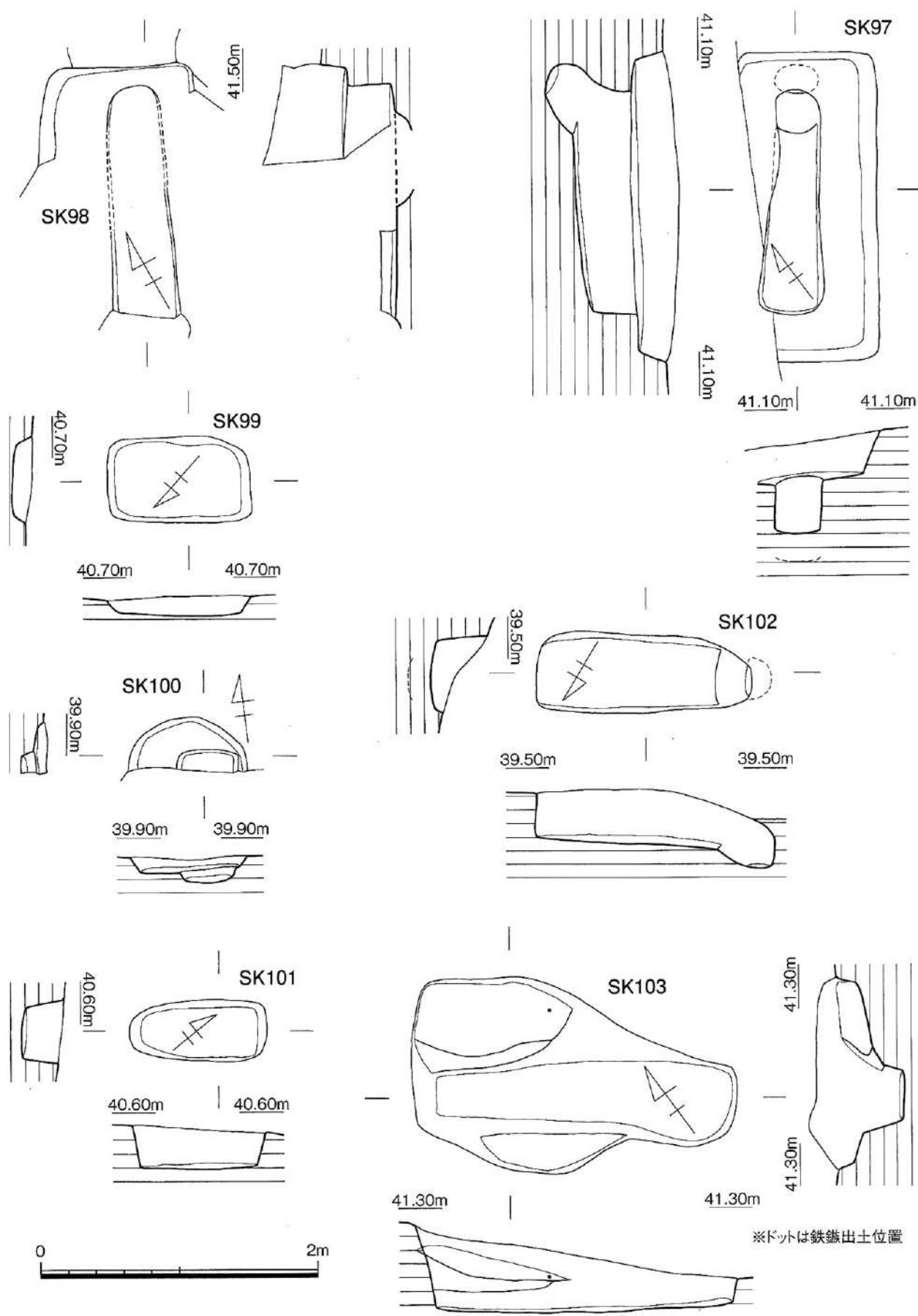
第18図 SK81~83・85~88実測図 (1/40)



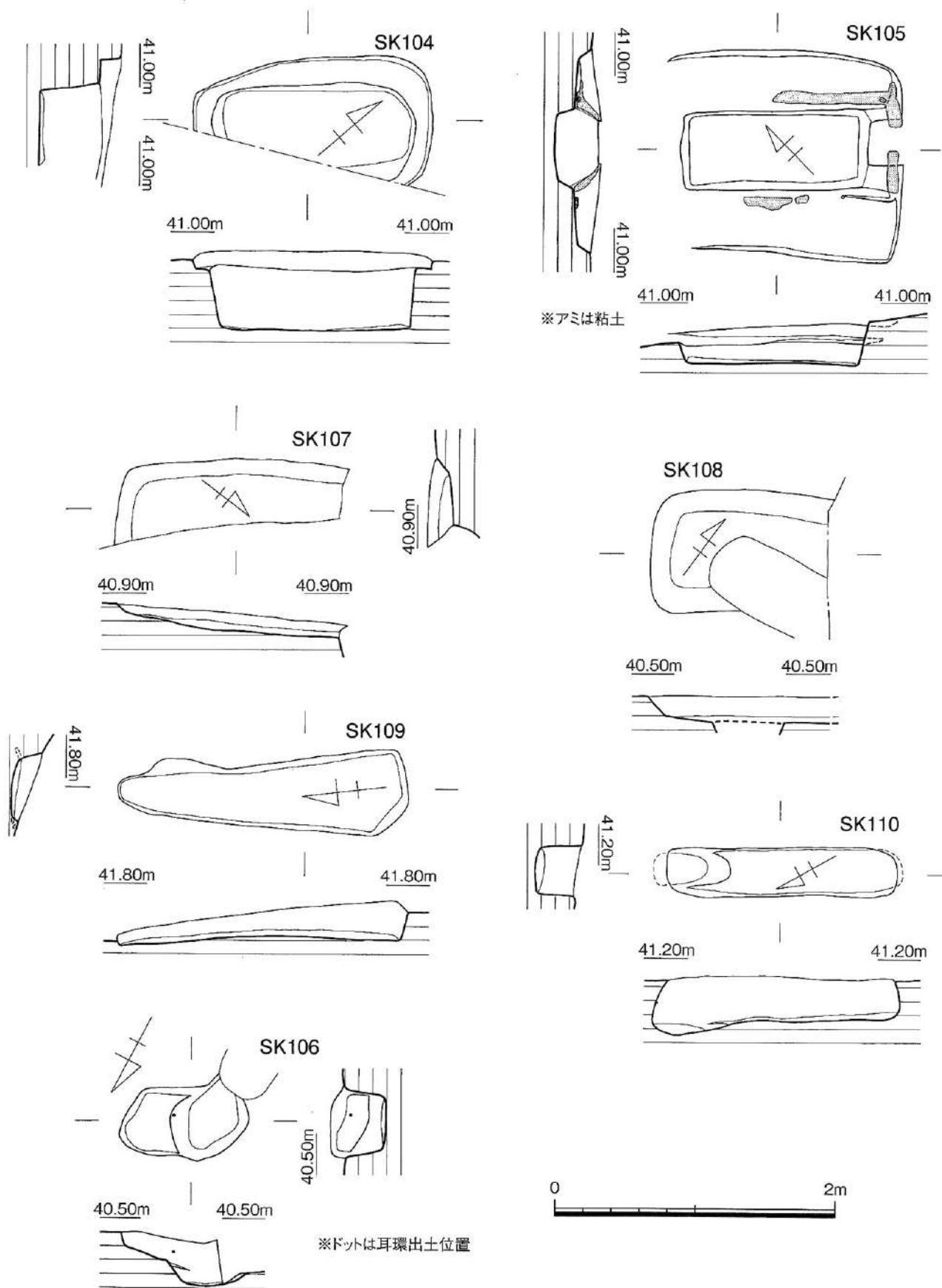
第19図 SK89・90実測図 (1/40)



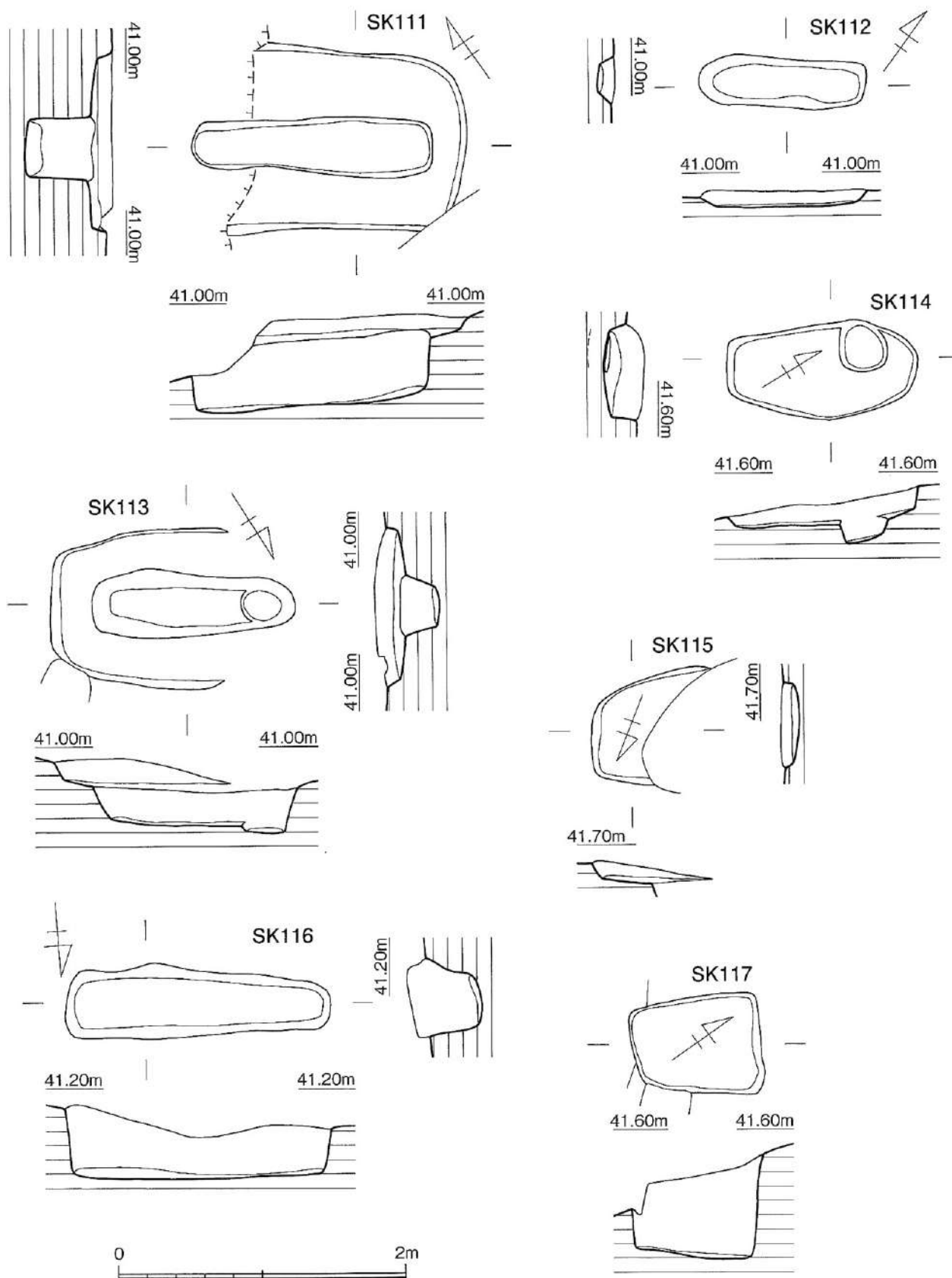
第20図 SK91~96実測図 (1/40)



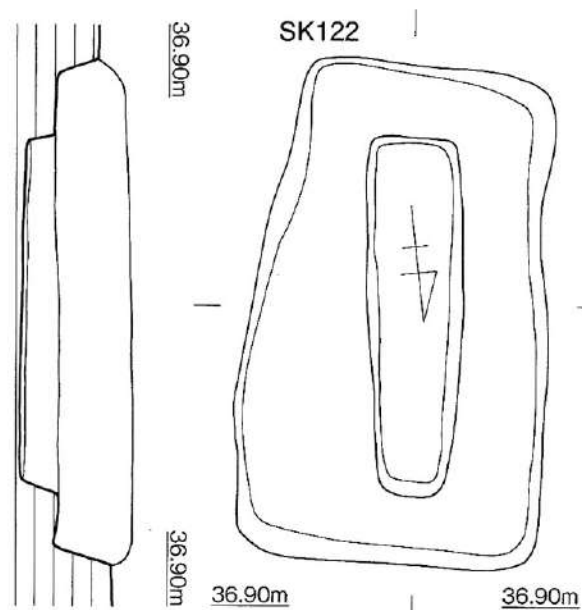
第21図 SK97～103実測図 (1/40)



第22図 SK104~110実測図 (1/40)

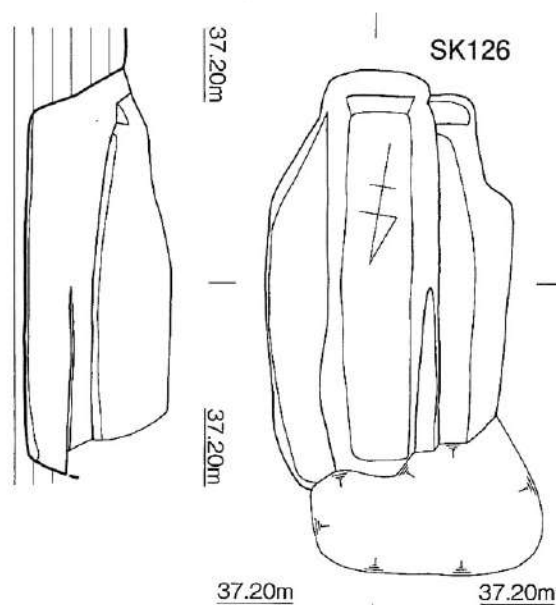
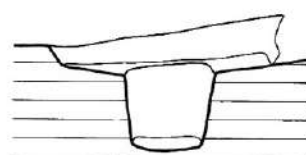
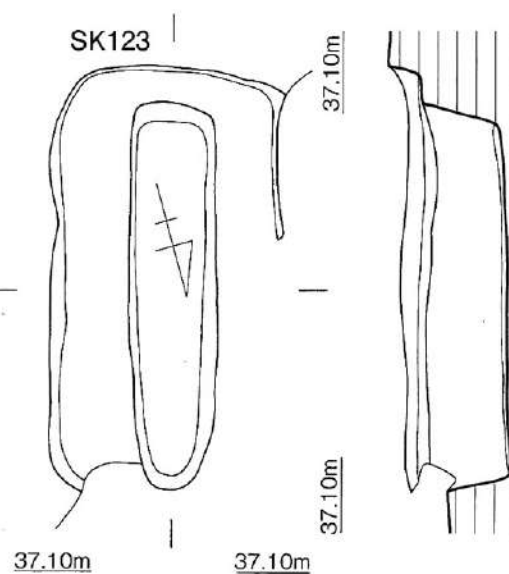
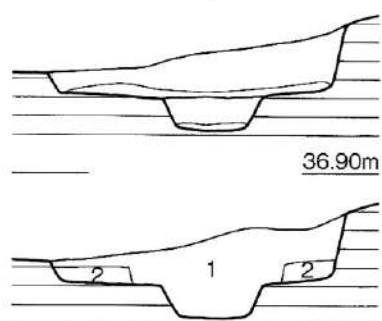


第23図 SK111~117実測図 (1/40)

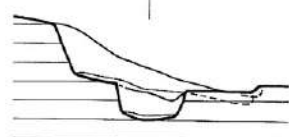
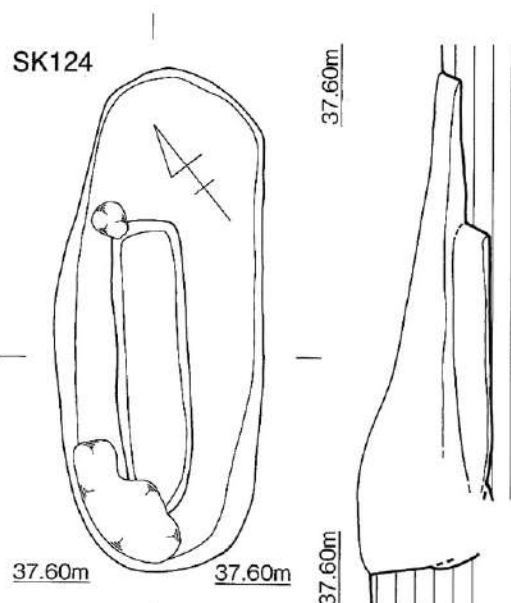
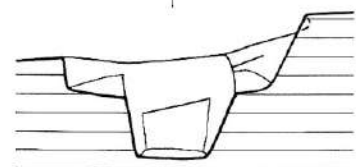


SK122 土層注記

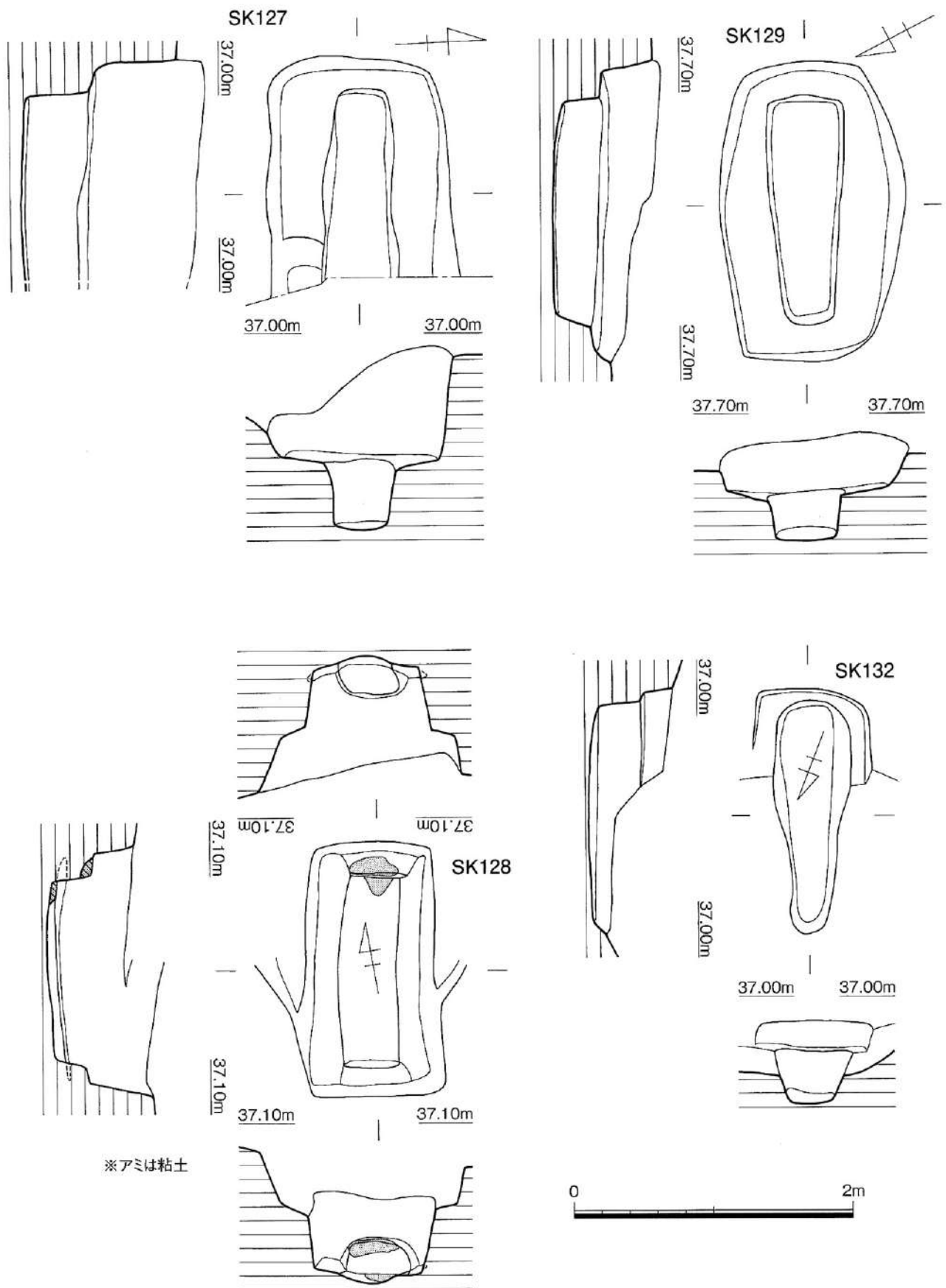
- 1.暗赤褐色土+暗灰色弱粘質土
(やや柔らかい)
- 2.暗赤茶色粘質土(硬くしまる)



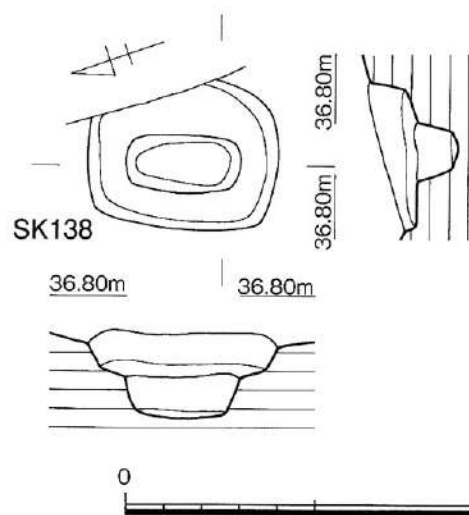
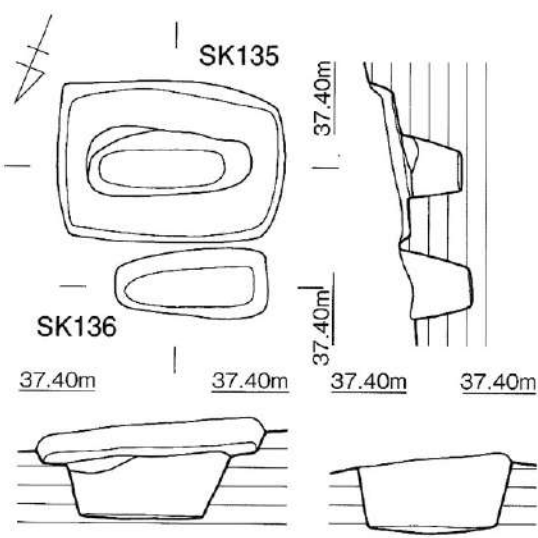
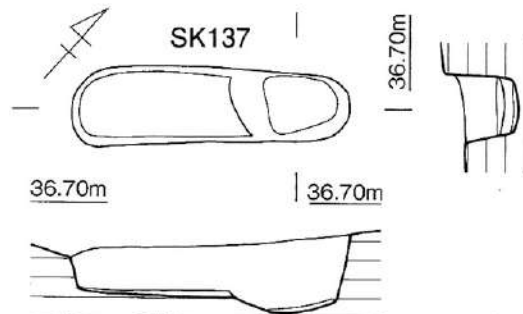
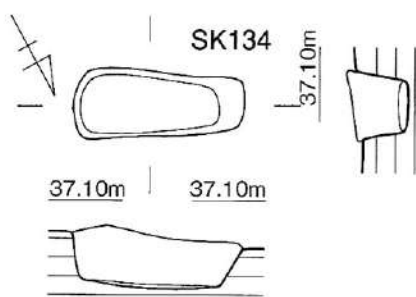
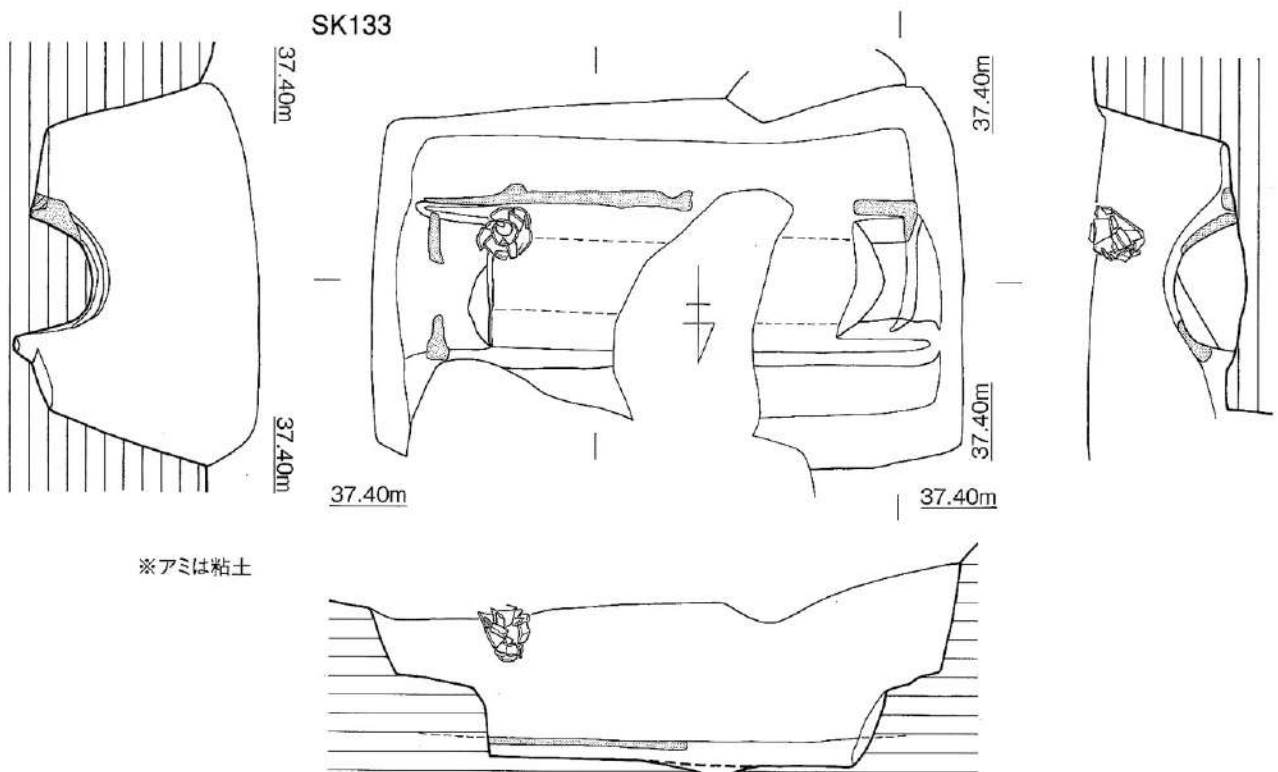
37.20m 37.20m



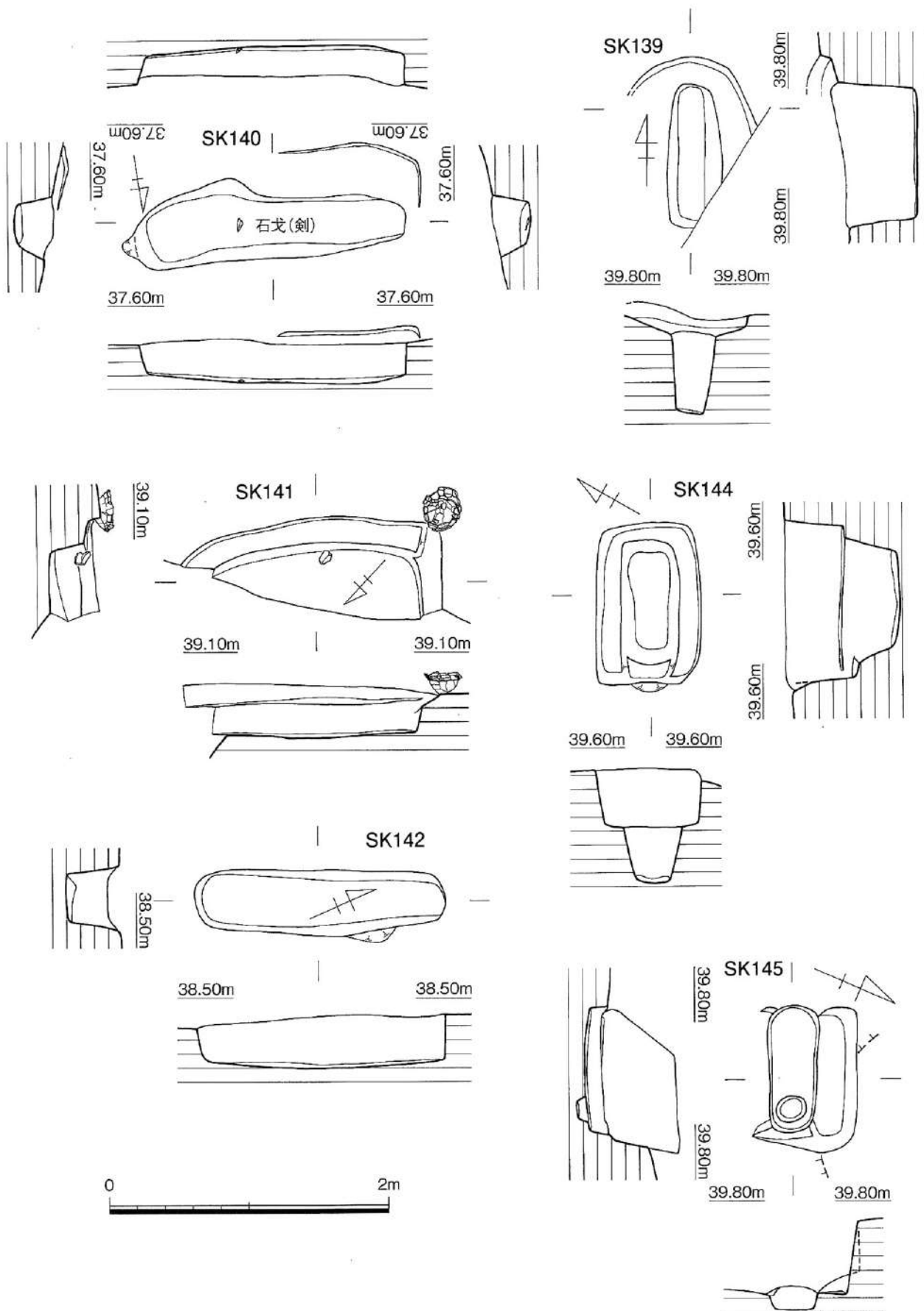
第24図 SK122~124・126実測図 (1/40)



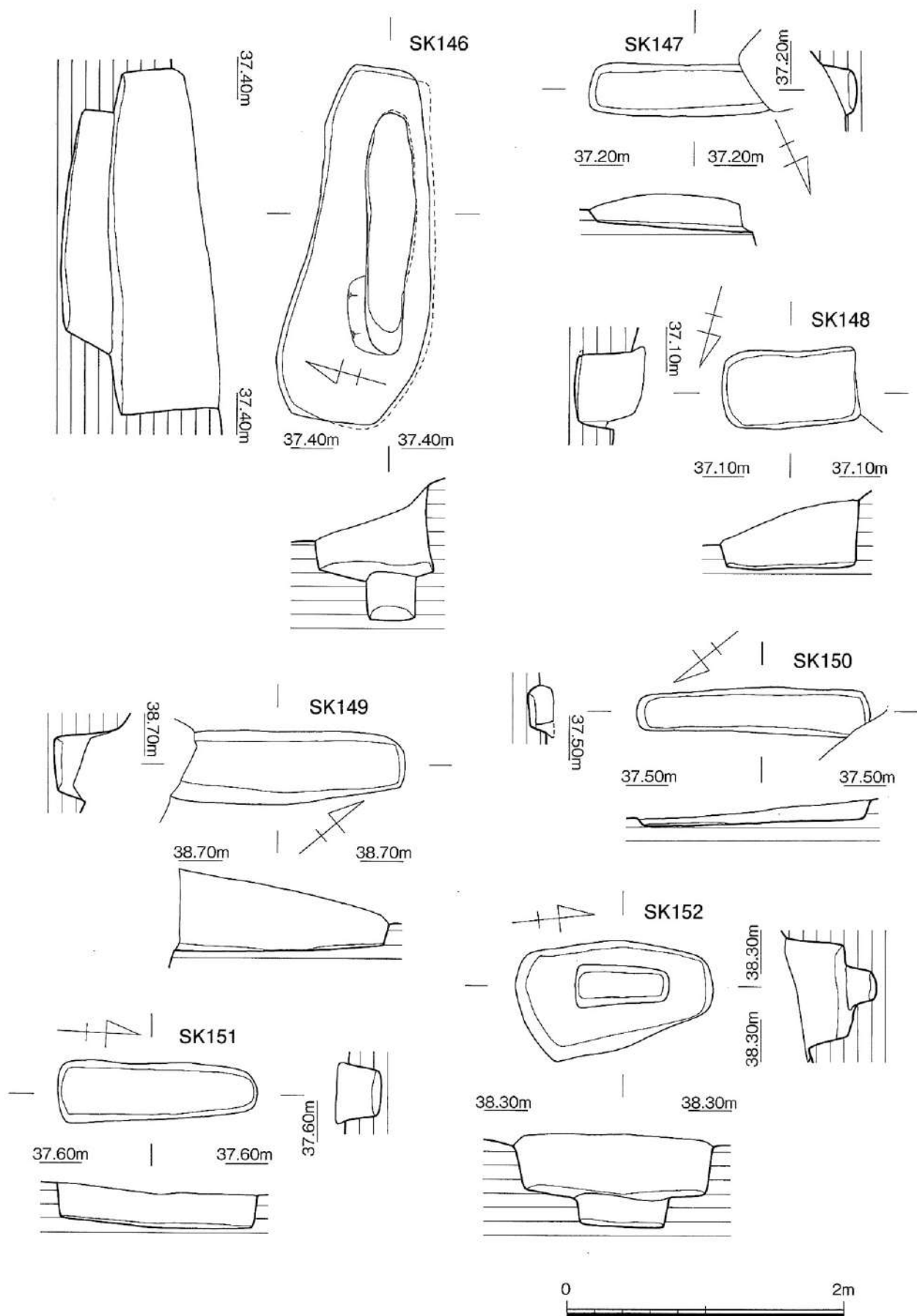
第25図 SK127~129・132実測図 (1/40)



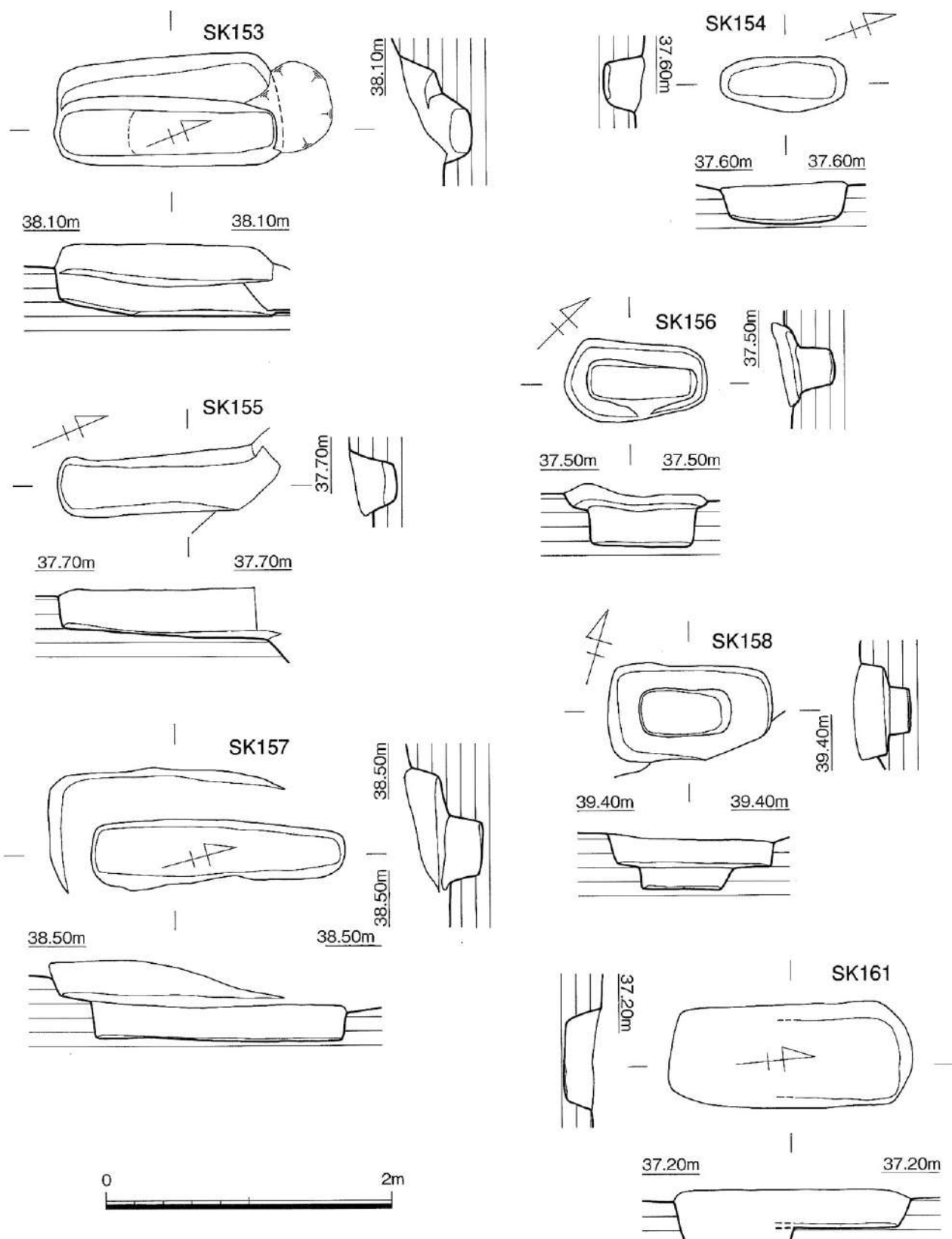
第26図 SK133~138実測図 (1/40)



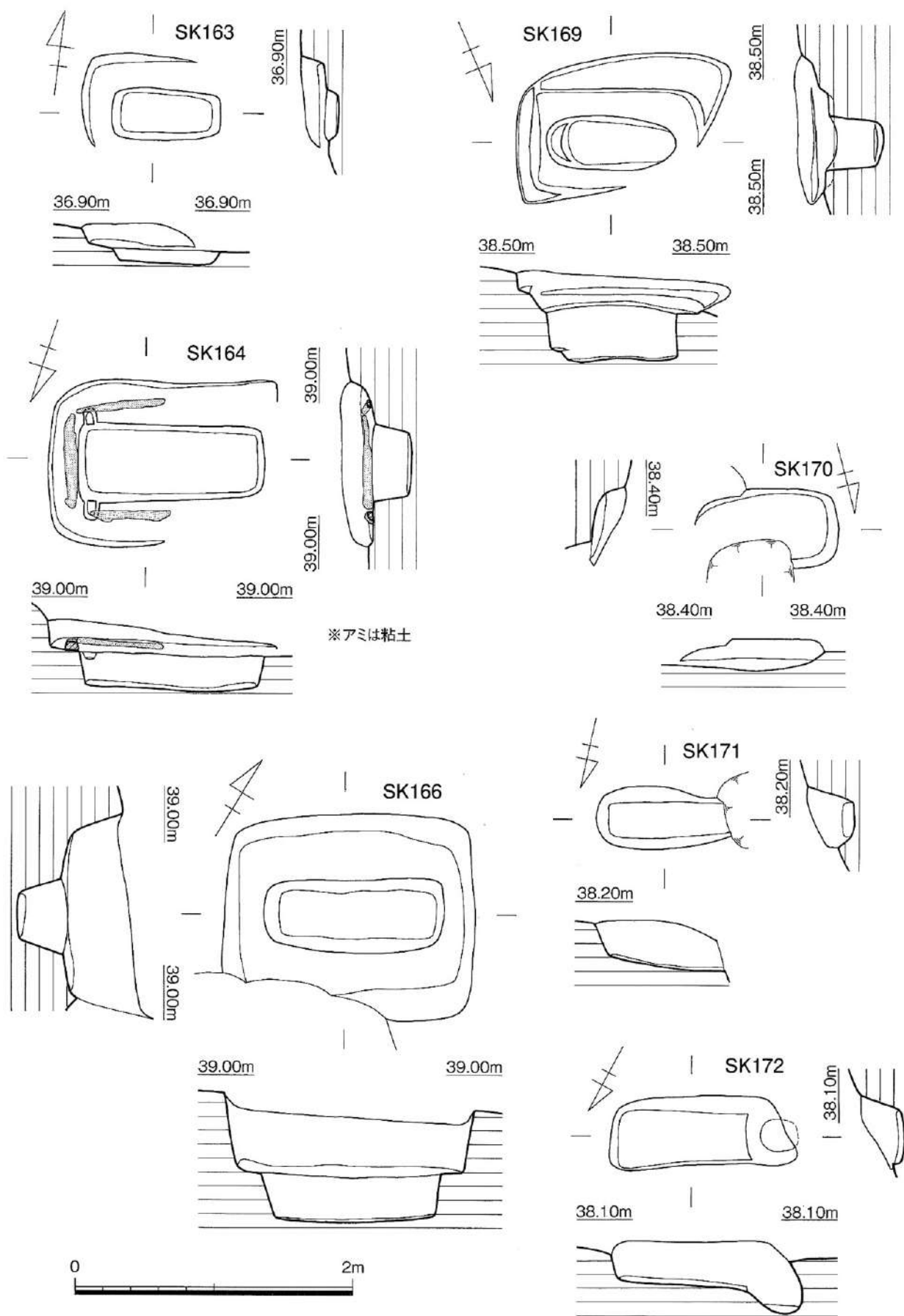
第27図 SK139~142・144・145実測図 (1/40)



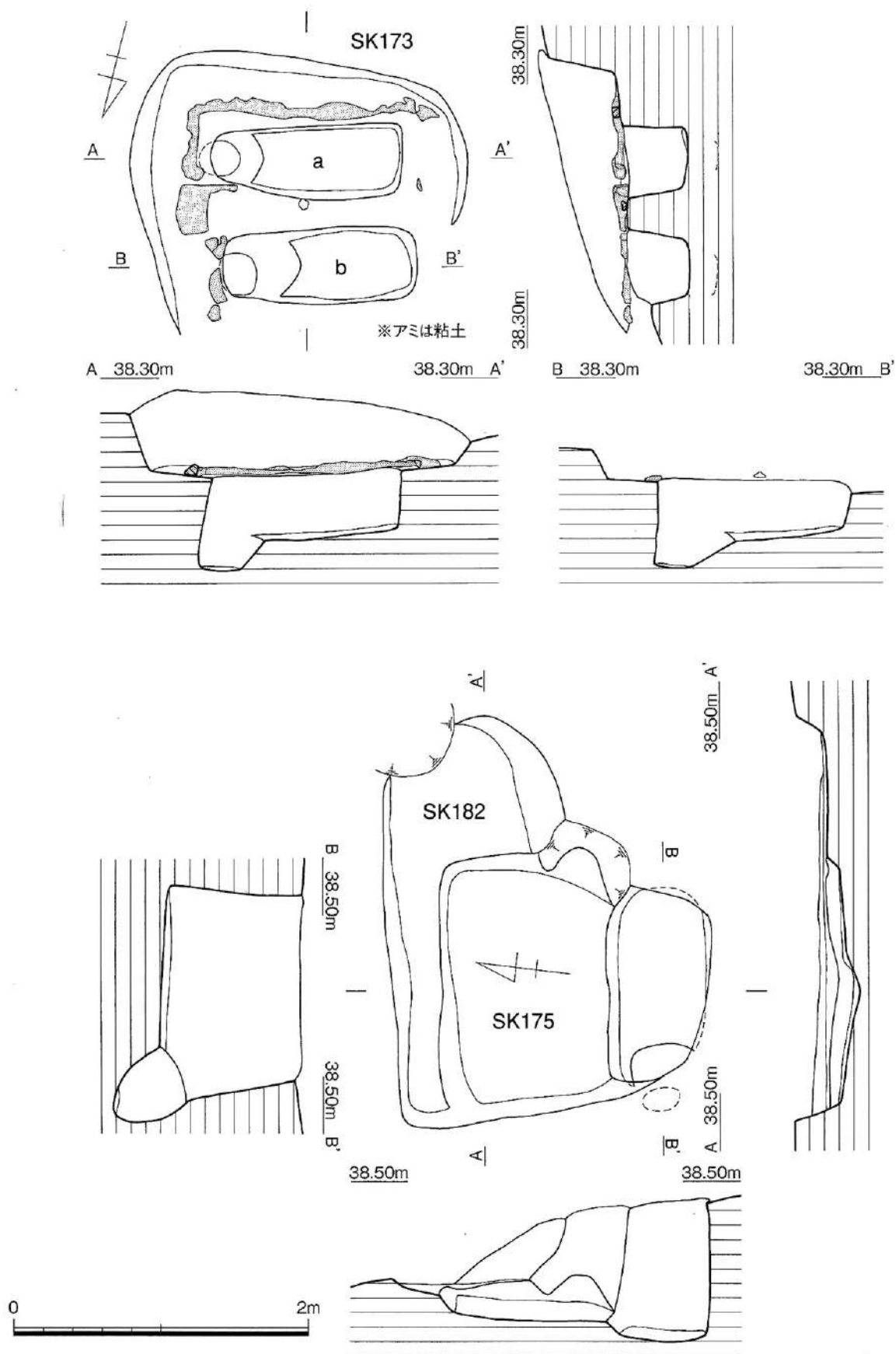
第28図 SK146~152実測図 (1/40)



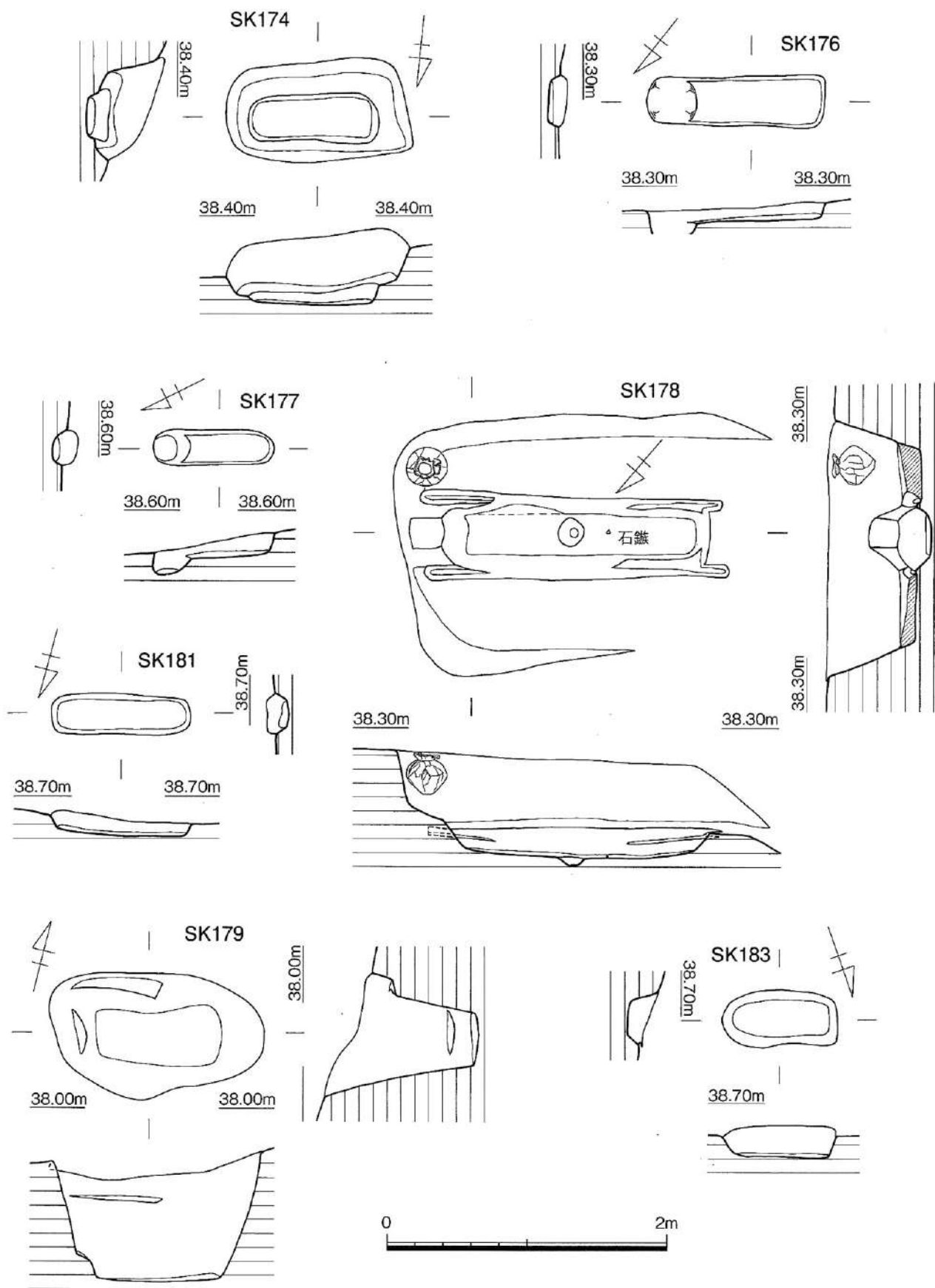
第29図 SK153~158・161実測図 (1/40)



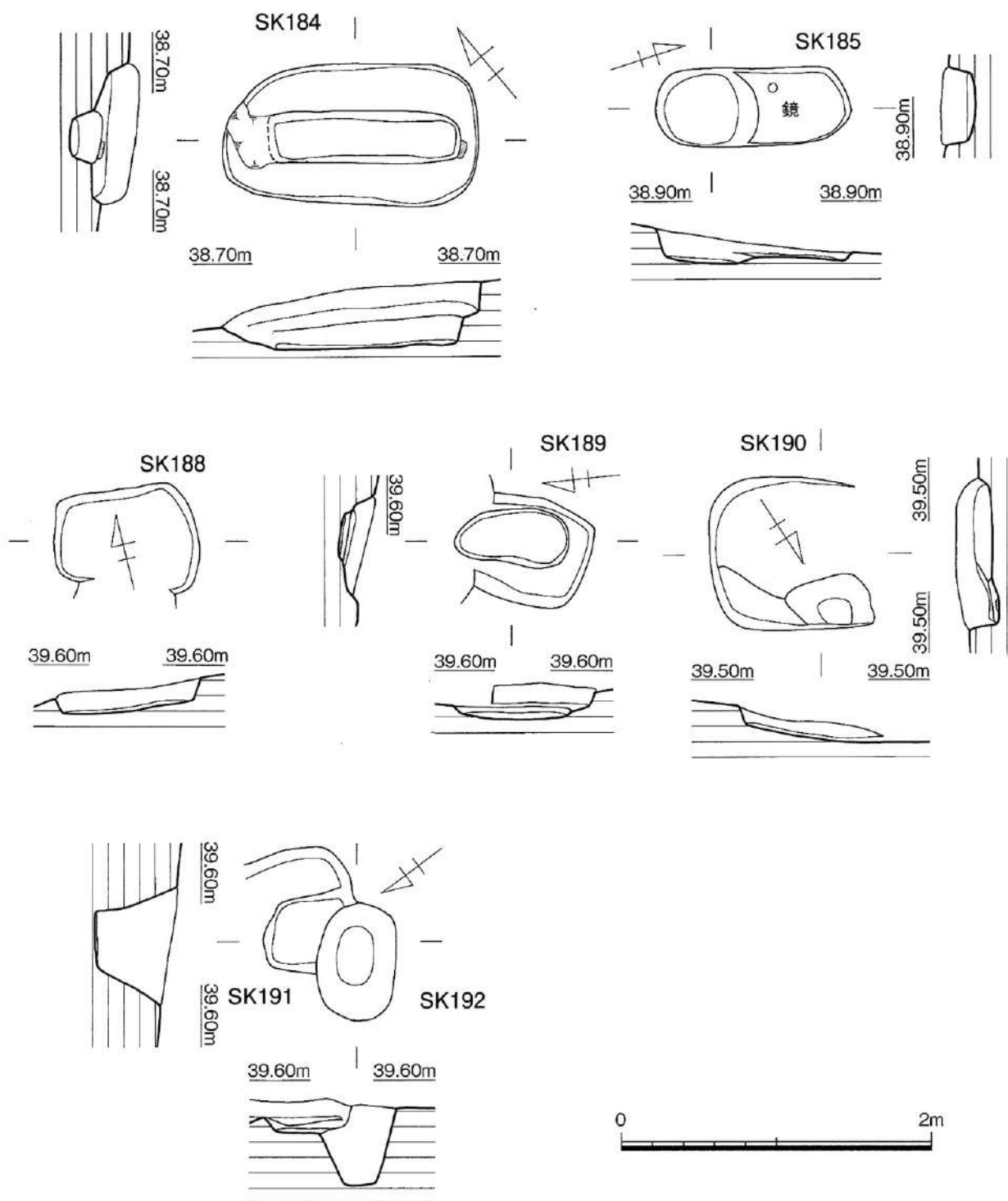
第30図 SK163・164・166・169~172実測図 (1/40)



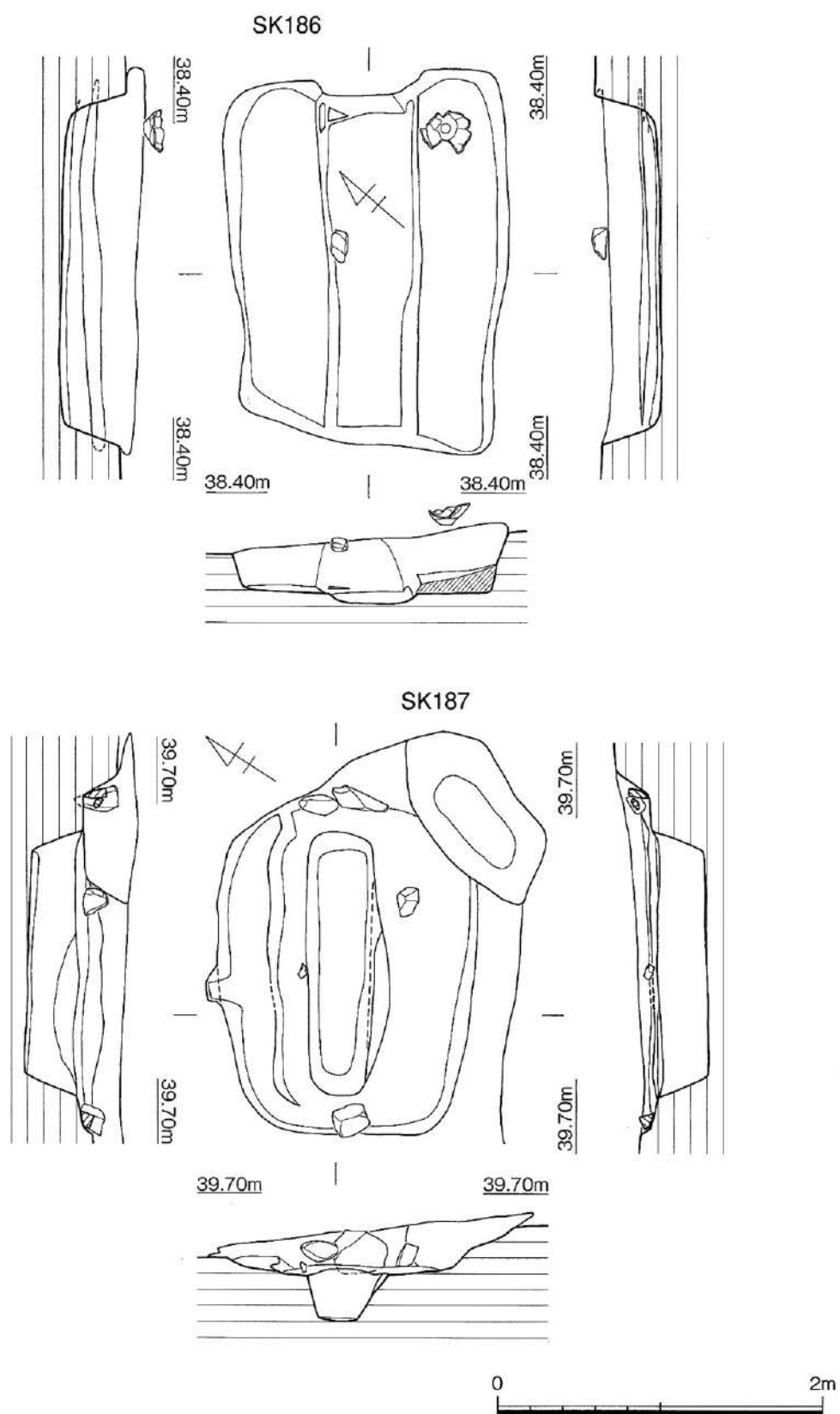
第31図 SK173・175・182実測図 (1/40)



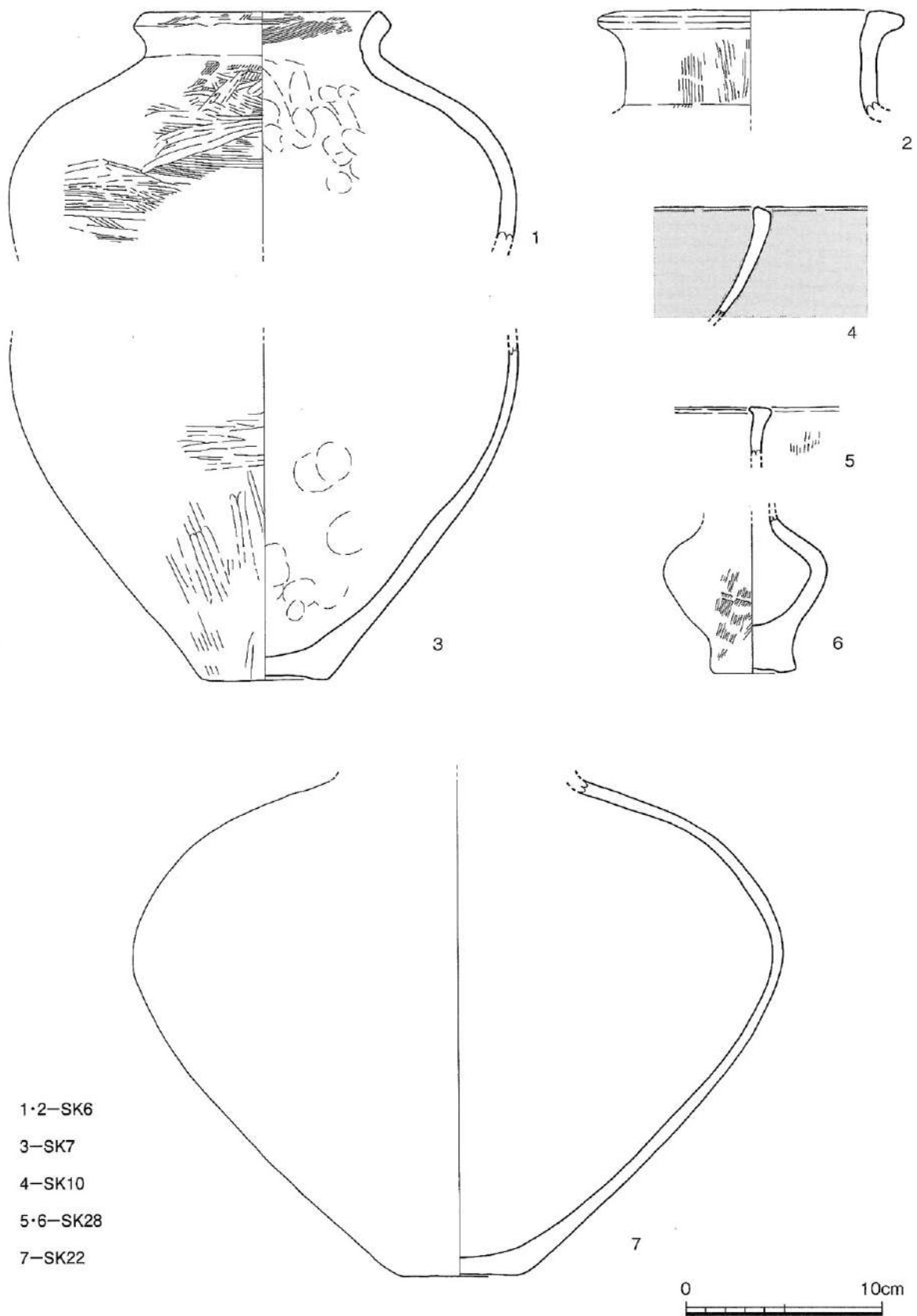
第32図 SK174・176～179・181・183実測図 (1/40)



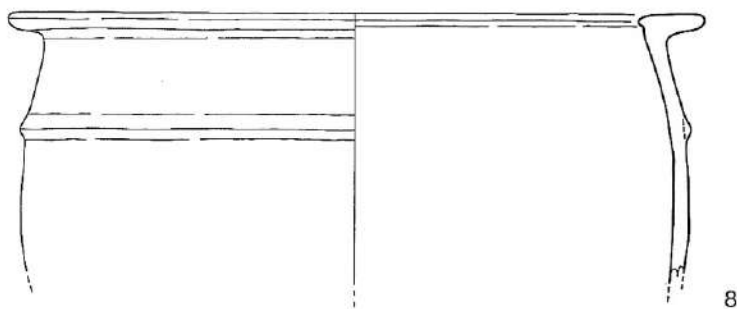
第33図 SK184・185・188～192実測図 (1/40)



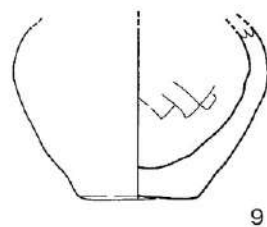
第34図 SK186・187実測図 (1/40)



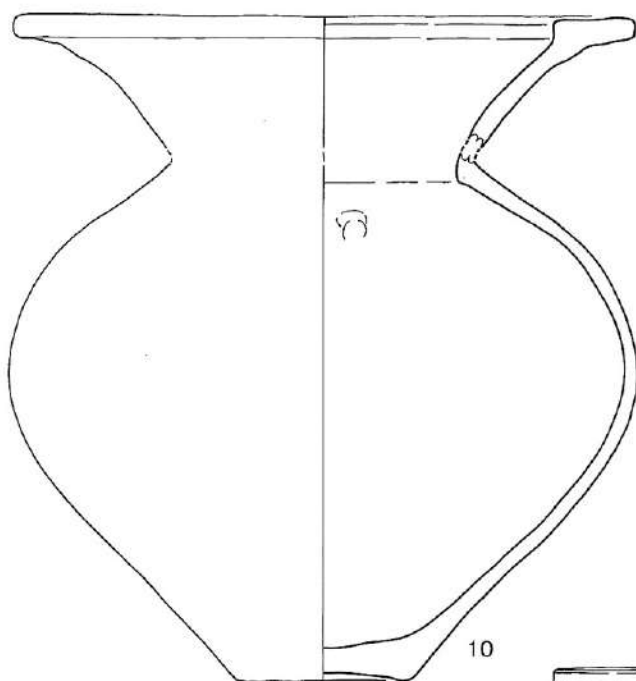
第35図 SK出土遺物実測図① (1/3)



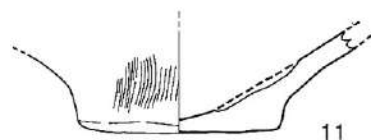
8



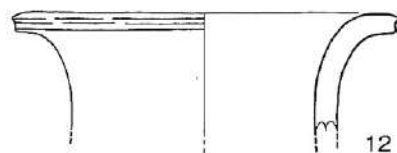
9



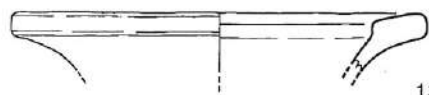
10



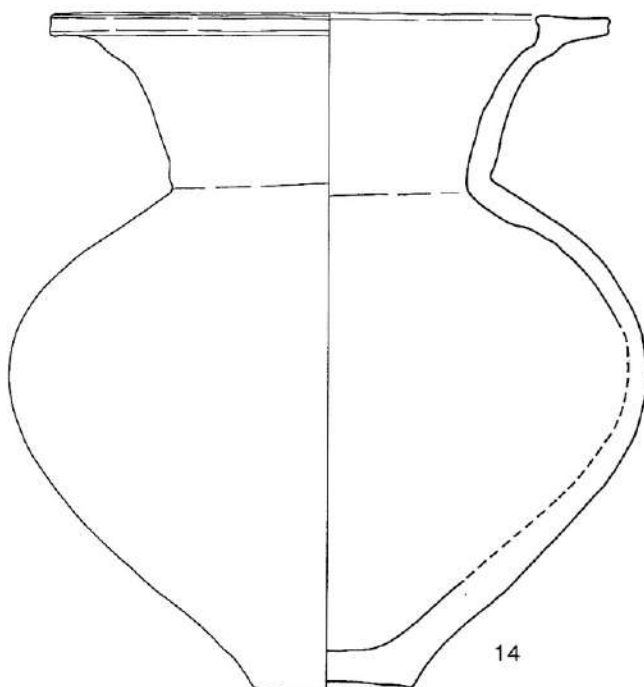
11



12



13



14

8・9-SK30

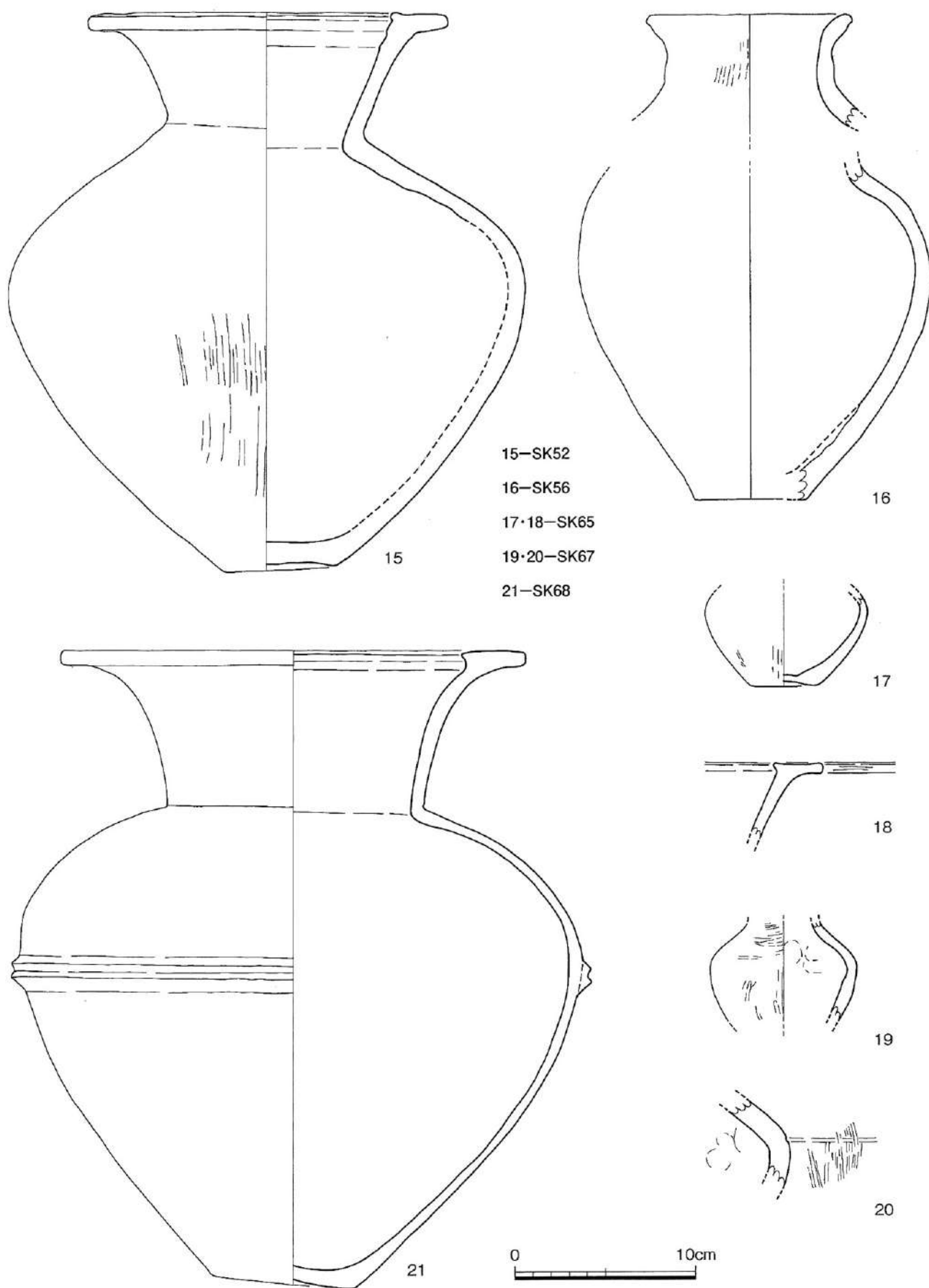
10-SK31

11-SK34

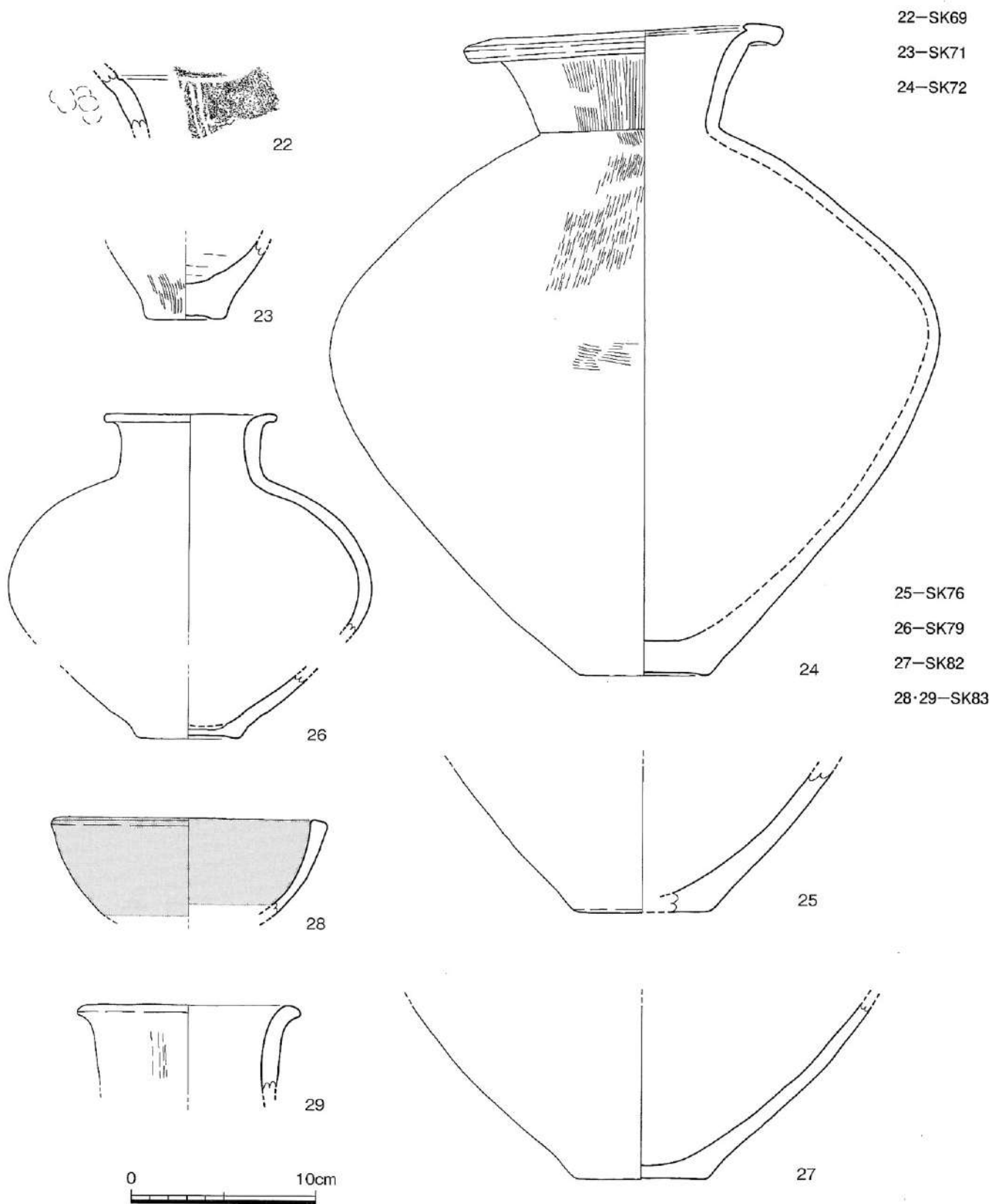
12~14-SK38



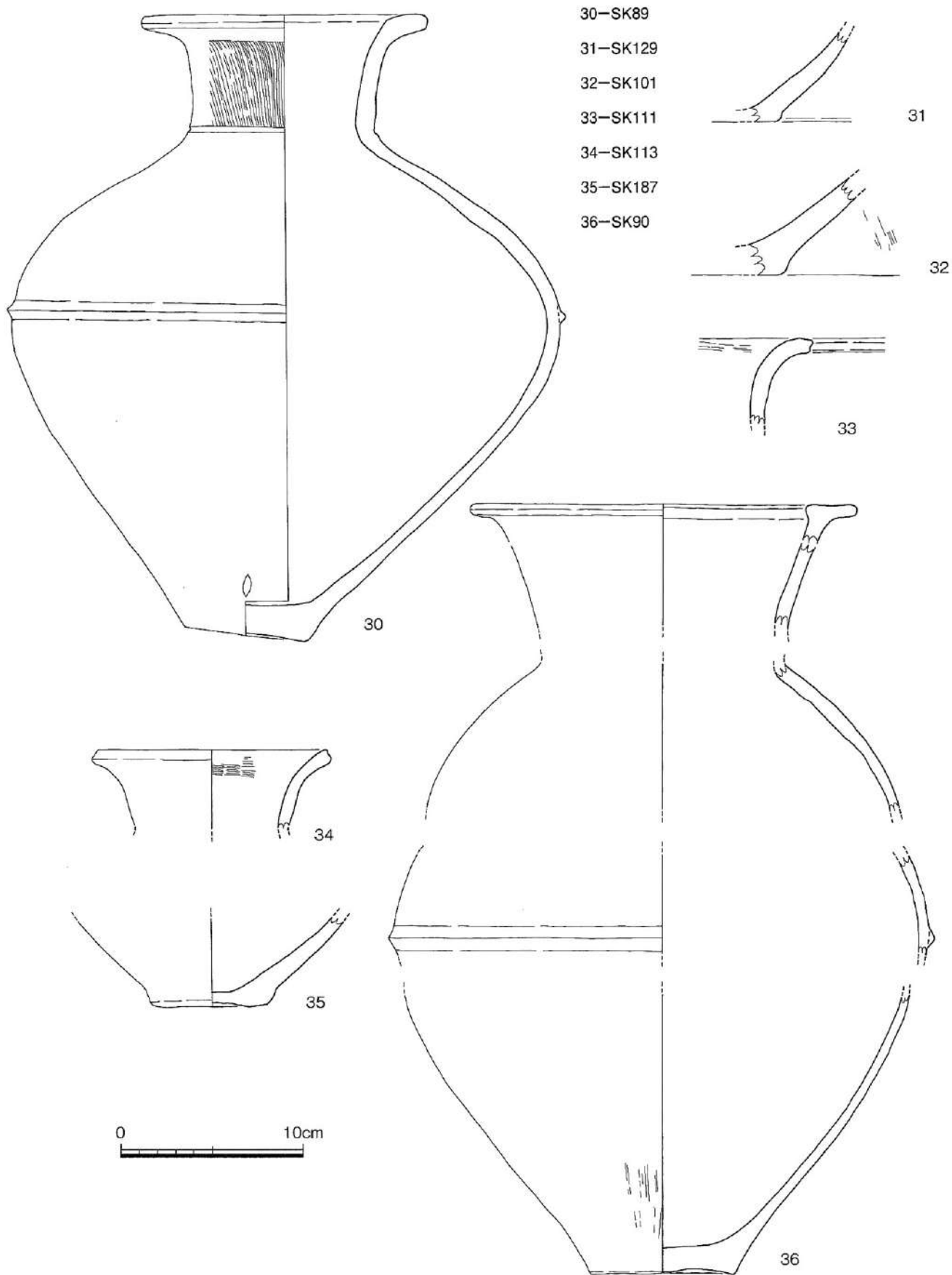
第36図 SK出土遺物実測図② (1/3)



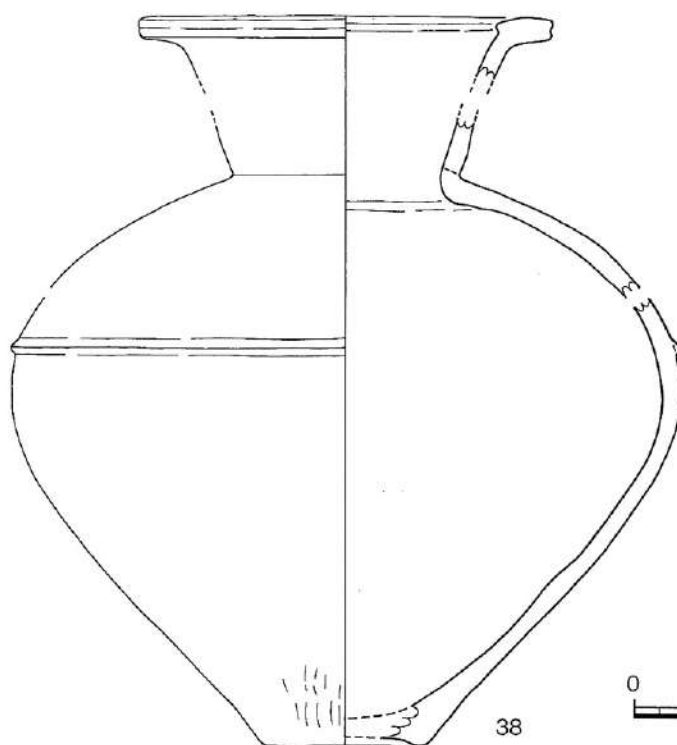
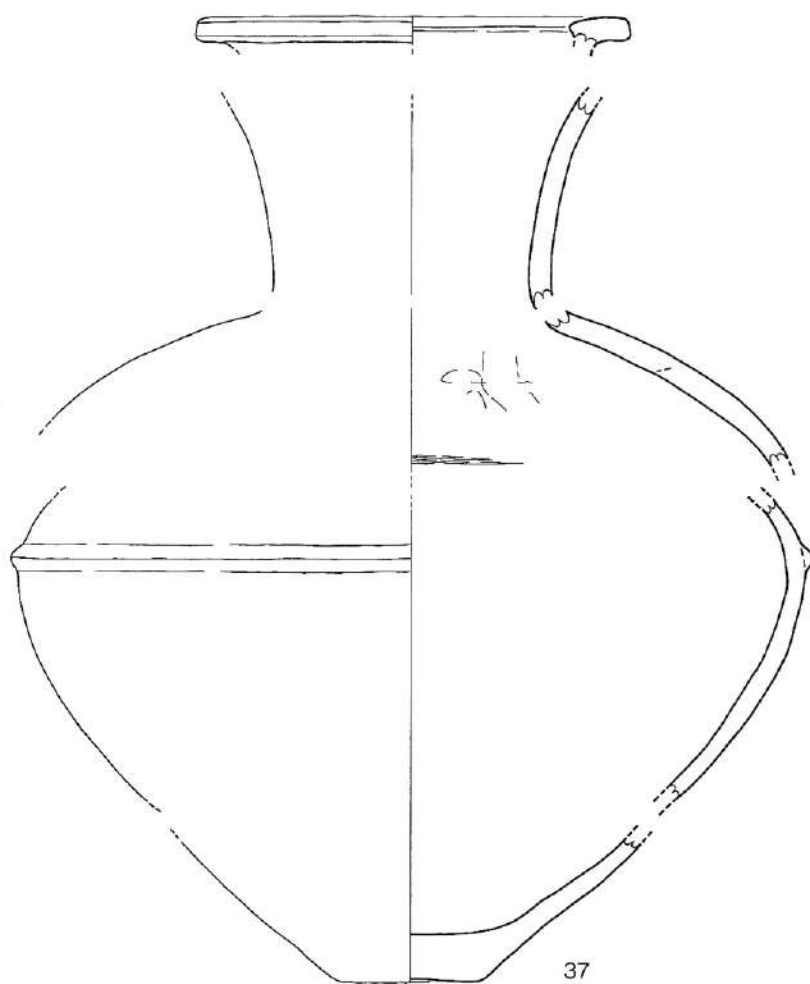
第37図 SK出土遺物実測図③ (1/3)



第38図 SK出土遺物実測図④ (1/3)

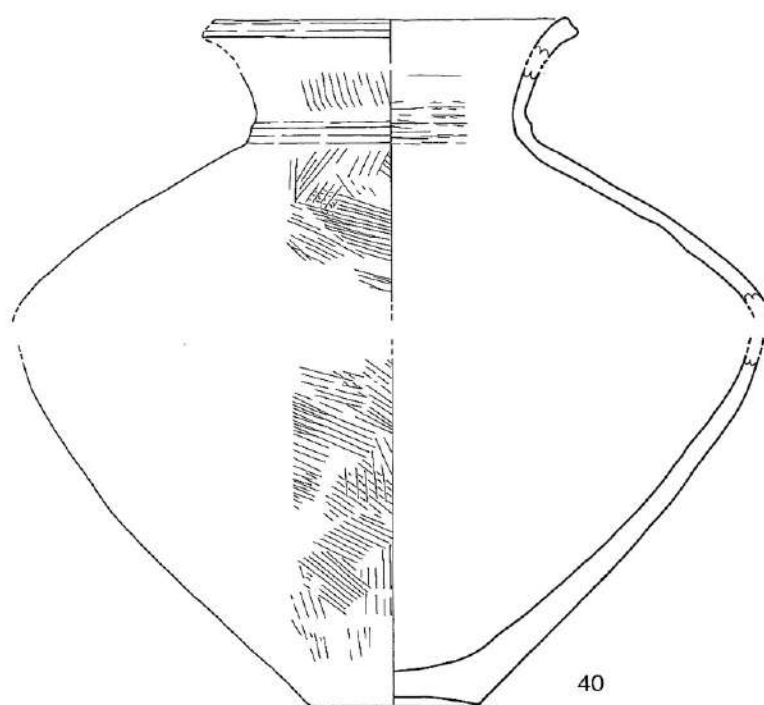
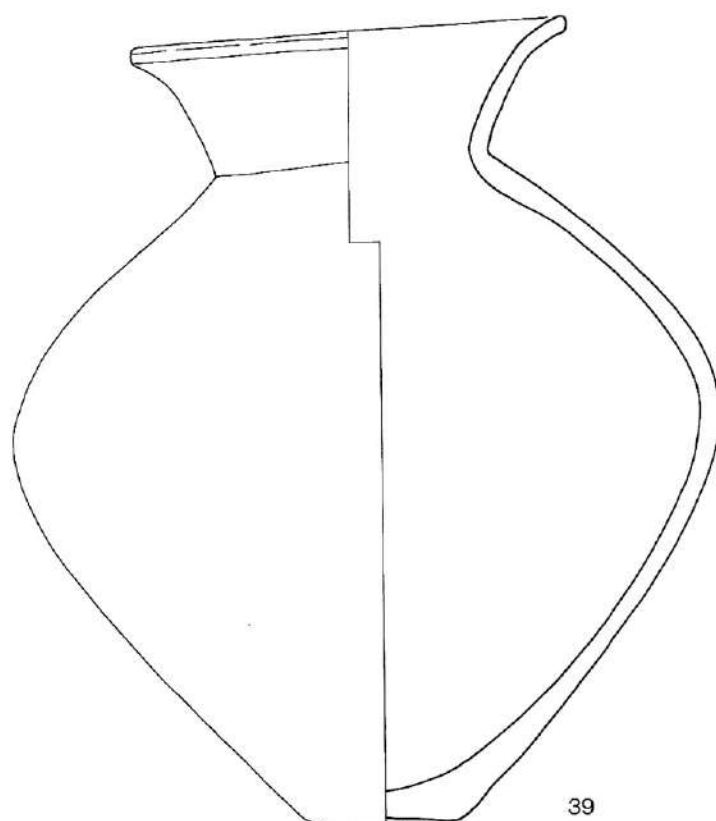


第39図 SK出土遺物実測図⑤ (1/3)

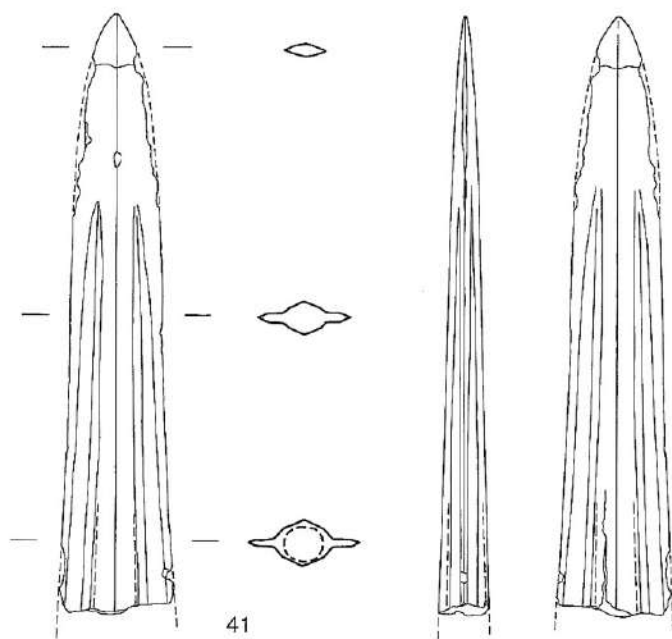


0 10cm

第40図 SK出土遺物実測図⑥ (1/3)



第41図 SK出土遺物実測図⑦ (1/3)

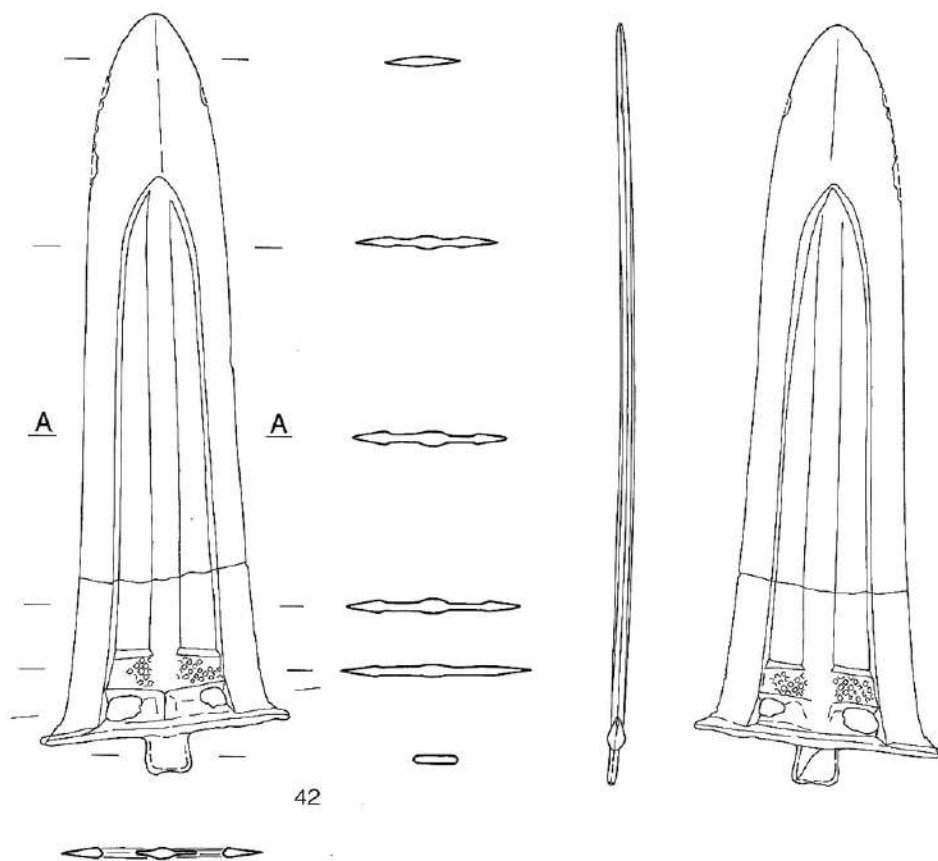


銅戈計測表 (cm)

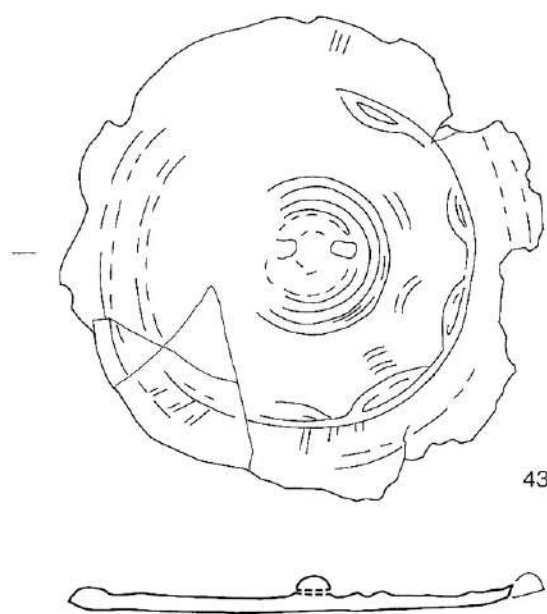
全長	20.2
身右側長	18.4
身左側長	19.2
茎長	1.0
茎幅	1.2
茎厚さ	0.25
A 幅	4.05
A 背幅	0.75
A 背厚さ	0.4
関幅	6.6
関厚さ	0.45
孔内径右側	0.62×0.5
孔内径左側	0.85×0.67

銅矛計測表 (cm)

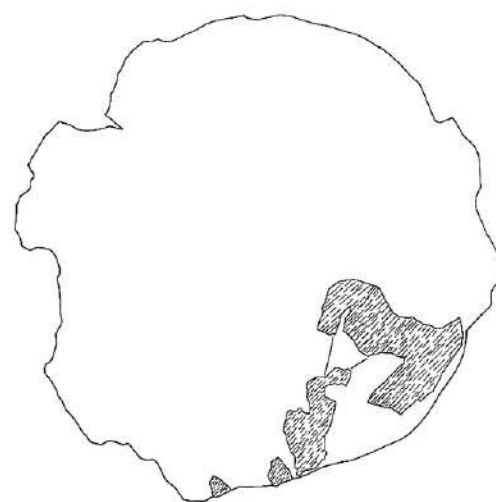
残存長	15.9
残存幅	3.0
残存背幅	1.75
残存背厚さ	1.25



第42図 SK出土遺物実測図⑧ (1/2)



43



0 3cm

43-SK185

44-SK19

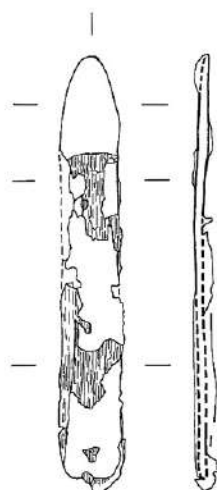
45-46-SK103

47-SK106

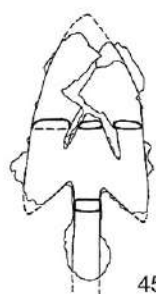
48-SK178

49-SK140

50-SK133



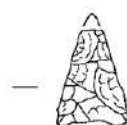
44



45



46



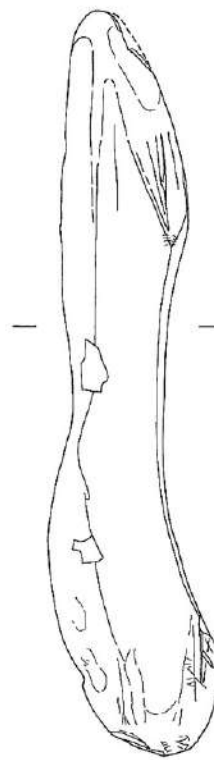
48

0 2cm



49

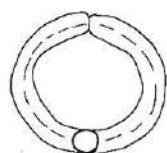
0 5cm



50

0 10cm

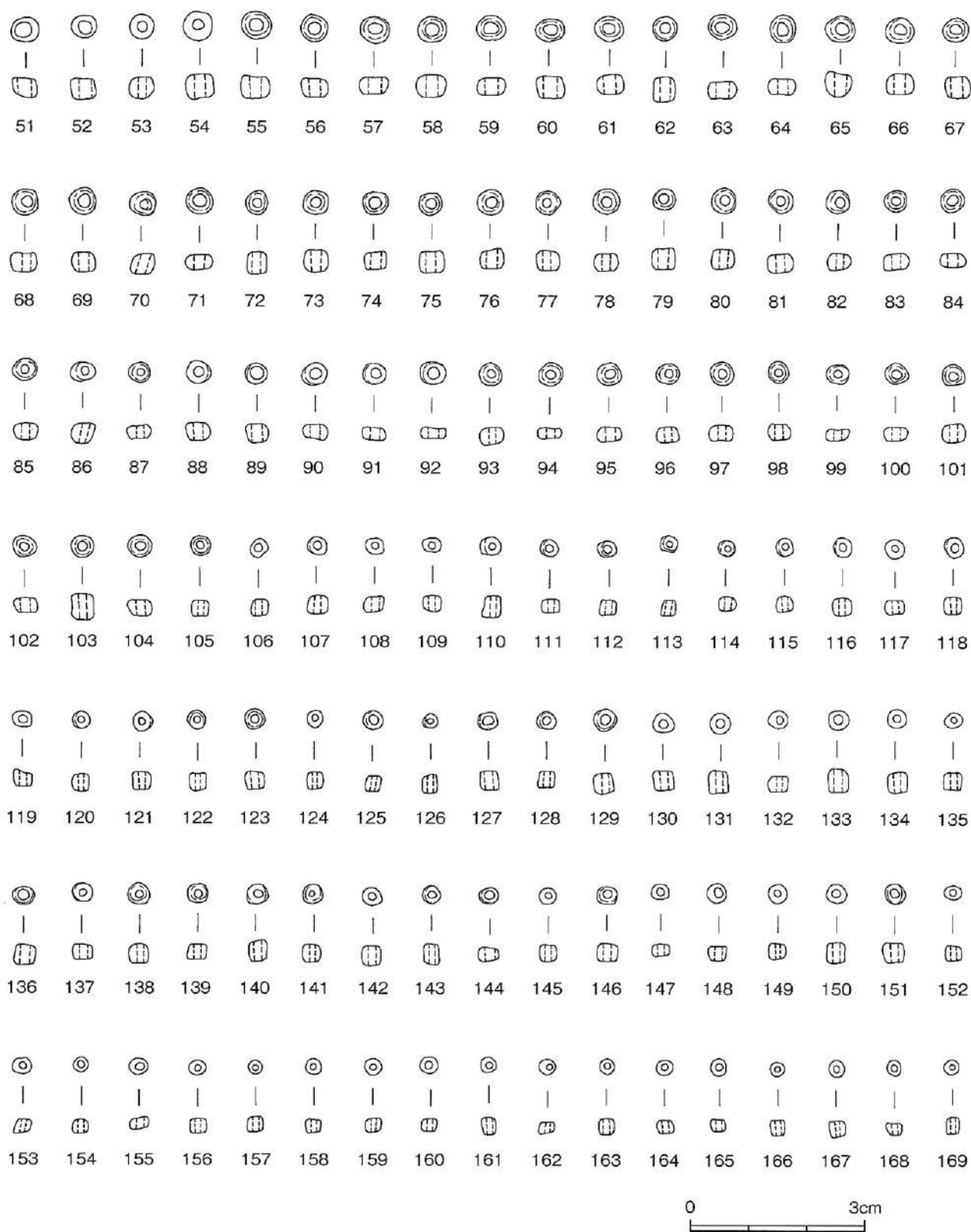
0 5cm



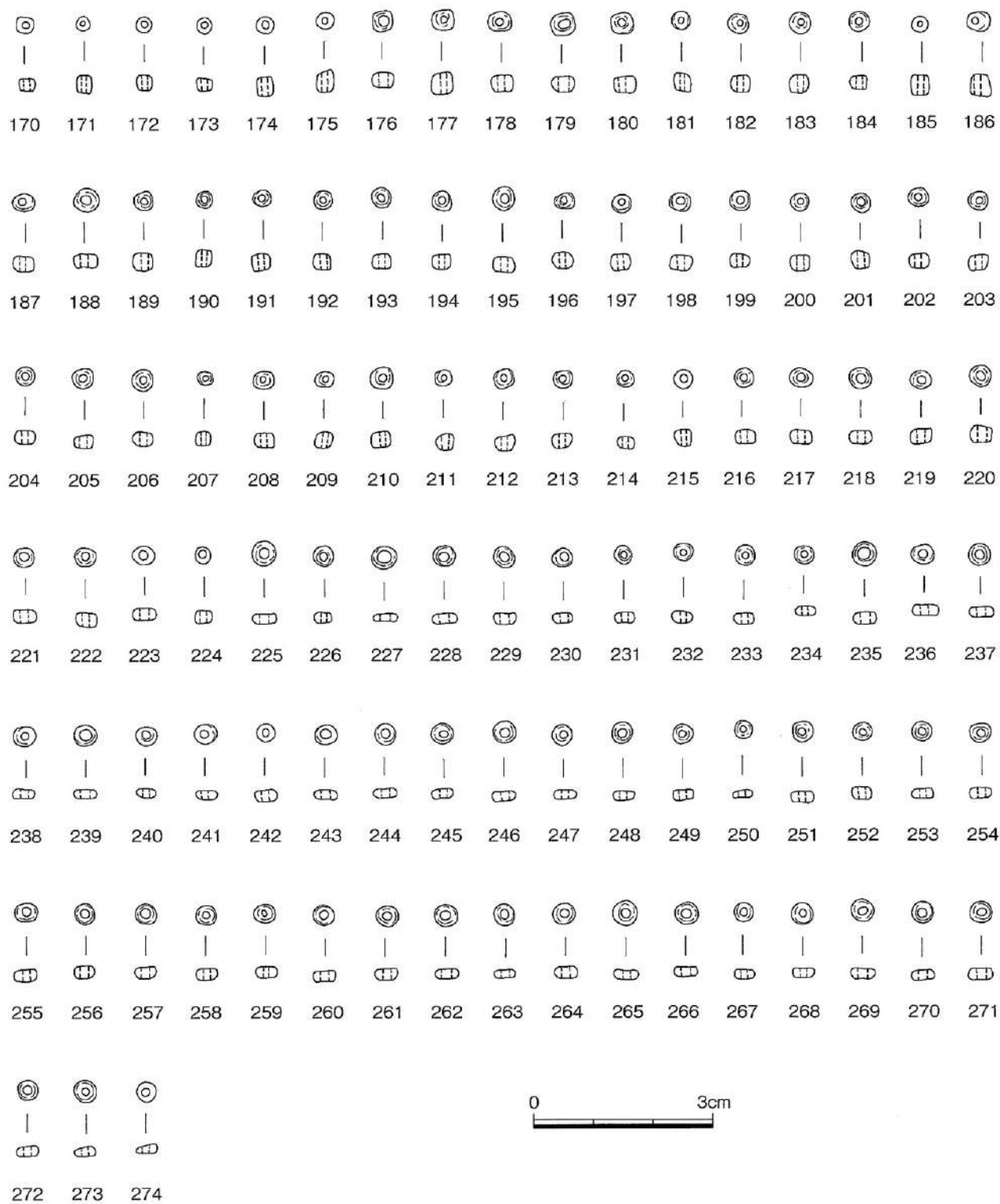
47

0 3cm

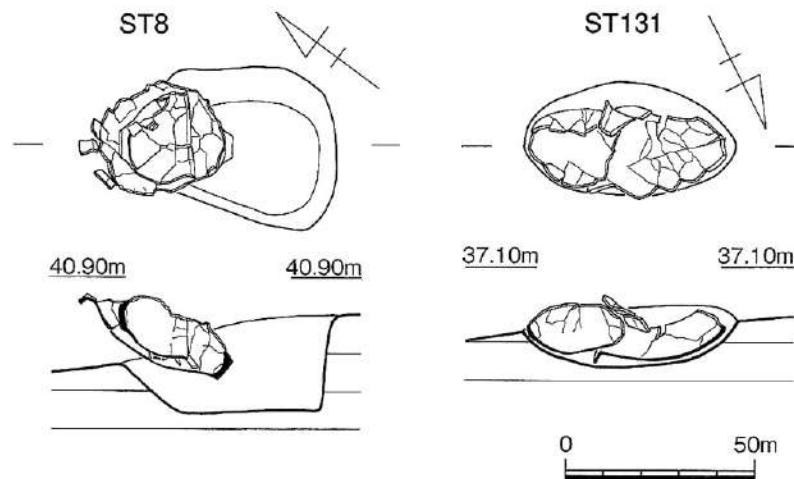
第43図 SK出土遺物実測図⑨ (1/1・1/2・1/3)



第44図 SK出土遺物実測図⑩ (1/1)



第45图 SK出土遺物実測図⑪ (1/1)



第46図 ST8・131実測図 (1/20)

2. 土器棺墓の調査

ST8 (第46図 図版29)

I区北側で検出した。SK46の北、SK11の東、SK106の南東にあたる。呑口式甕棺墓で、墓坑南側にやや間隙がある。墓坑は不整形で、上端の規模は $0.57 \times 0.42\text{m}$ 。埋葬傾斜角度は41度である。

出土遺物 (第46図 図版29)

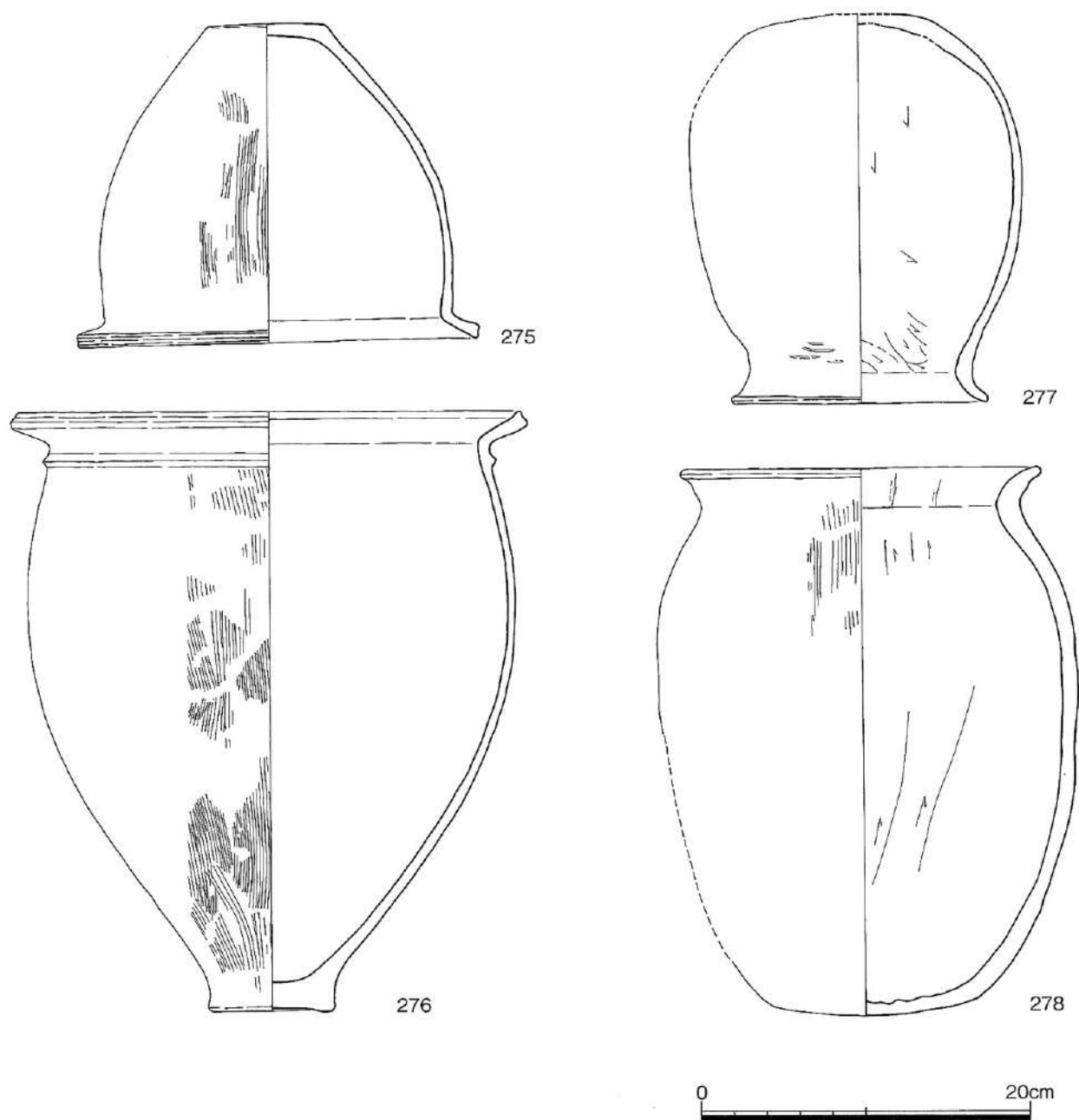
弥生土器 275 (上甕) は甕である。口径に対して器高の低いタイプである。口縁端部内面は少しだけ跳ね上げる。底部外面はわずかに丸みがある。口縁はやや立ち、胴部外面の調整は、外面がハケ、内面はナデ。**276 (下甕)** は甕である。口縁端部内面は少しだけ跳ね上げるが、275よりは目立つ。頸部外面の屈曲部の少し下に三角突帯1条を巡らす。底部は少し上げ底である。調整は、胴部外面がハケメ、内面はナデ。

ST131 (第46図 図版29)

II区北側で検出した。SK148の南東にあたる。呑口式甕棺墓で、墓坑は甕棺がギリギリ納まるように掘られていたようである。埋葬は水平に行われている。

出土遺物 (第46図 図版29)

土師器 277 (上甕) は甕である。口縁部は外湾し、端部は丸い。胴部最大径は下位にあり下膨れの形である。底部は丸みがある平底状である。調整は外面がナデ、内面はヘラケズリ。**278 (下甕)** は甕である。口縁部は外湾し、端部は丸い。長い胴部で、底部は丸みのある平底状である。調整は外面がハケメ後ナデ、内面はヘラケズリ。



第47図 ST8・131出土遺物実測図 (1/4)

3. SK81～83検出時出土遺物 (第48図)

279～285はSK81～83の遺構検出面で出土した土器である。279は壺の口縁部で、外湾して開く。内外面とも丹塗りである。磨耗で調整は不明。280も壺の口縁部である。端部内側はあまり突出しない。281も壺である。底部は平底で、外面は丹塗りである。内面はナデ調整、外面は磨耗で不明。282は甕の底部として掲載したが、蓋かもしれない。283は高坏の脚部片である。284は鋤先状口縁の高坏で、内外面ともに丹塗りである。285は壺の頸部から胴部中位片で、外面と頸部内面は丹塗りである。胴部内面に顔料が流れる。

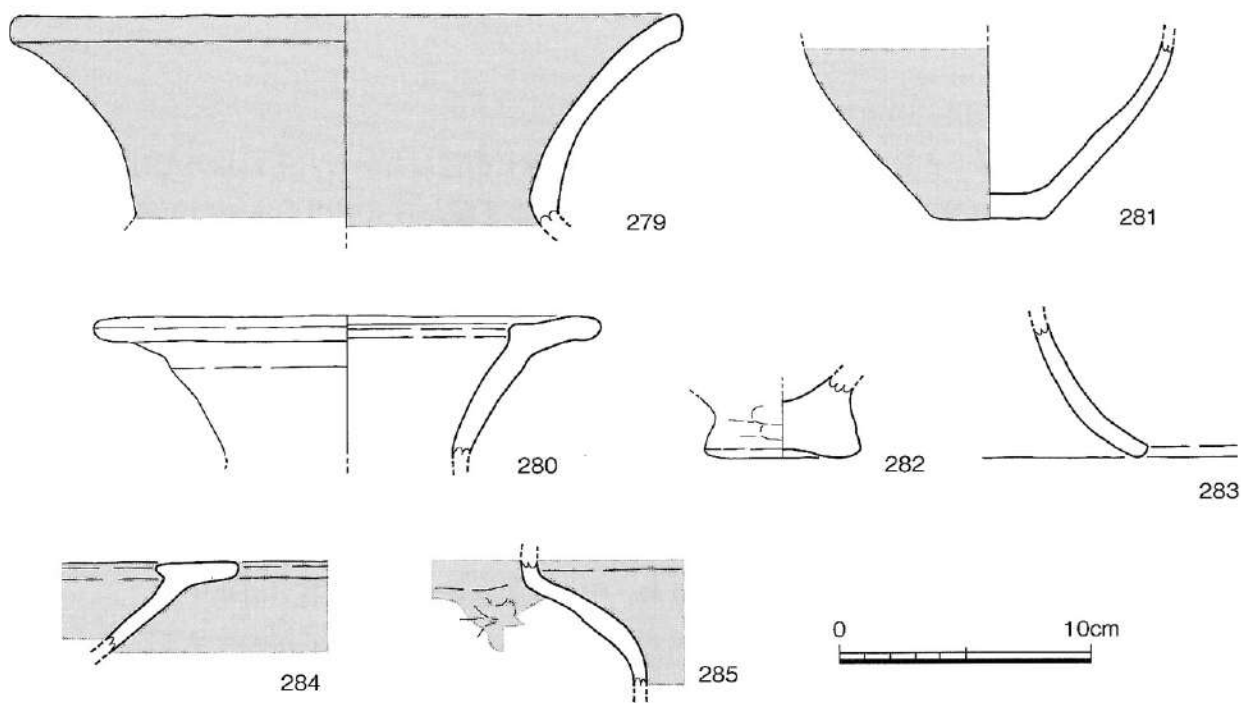
4. 溝状遺構の調査

SD57 (第49図 図版29)

I区SO3の北側で検出した。墓域を区画する溝の可能性も考えられたが、他に同様な遺構は検出できなかった。遺物も少なく実測にたえる遺物は286の壺だけである。

出土遺物 (第50図 図版29)

286は小型の壺である。胴部は算盤玉状で、頸部はすばまる。底部は突出して厚い。外面調整はハケメ後ナデで、内面はナデ。



第48図 SK81~83検出時出土遺物実測図 (1/3)

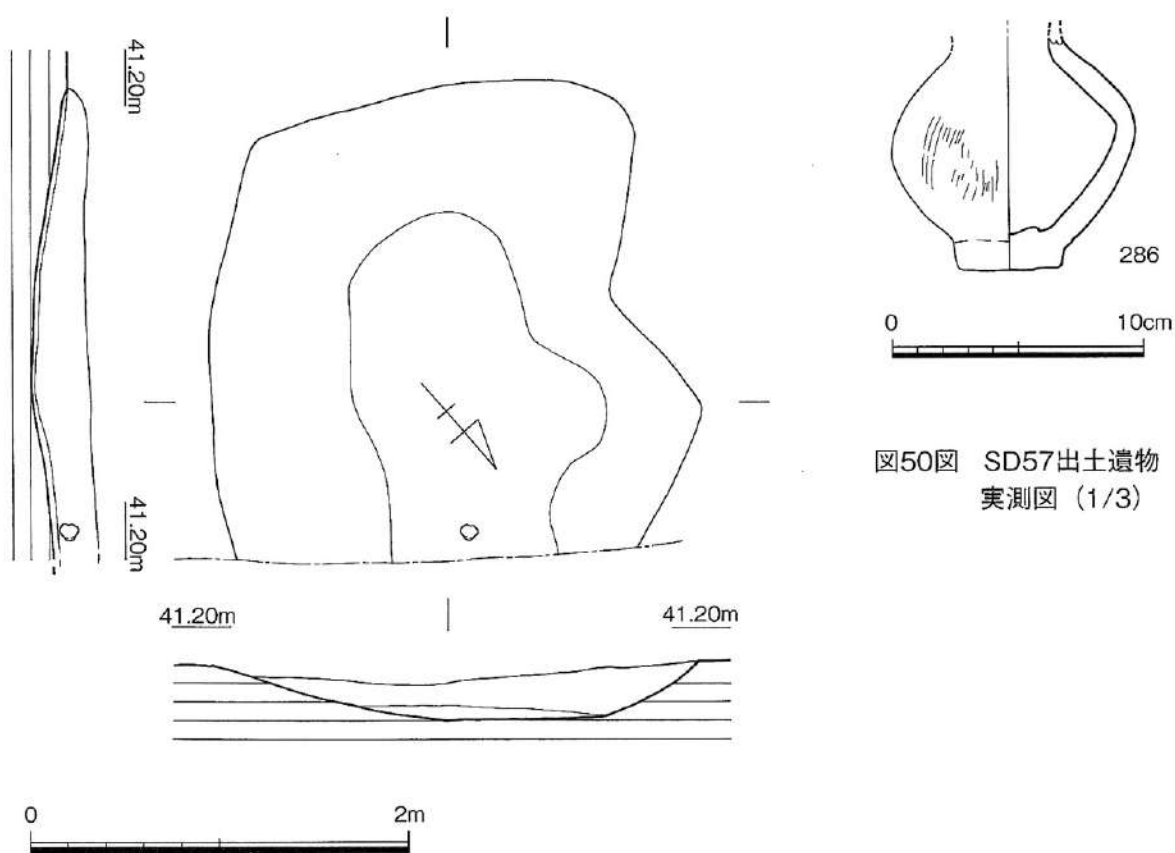


図50図 SD57出土遺物
実測図 (1/3)

第49図 SD57実測図 (1/40)

5. 古墳の調査

1) SO1 (第51～53図 図版30・31)

明確な盛土は確認できなかった。墳丘北側にのみ周溝を掘削している。それ以外では墳裾と考えられる地形変換線は確認できなかった。北側周溝の下端から玄室中心までの距離は3.5m前後である。

主体部

石室上部が破壊され、天井石の配列や前壁構造の有無は不明だが、竪穴系横口式石室だと考えられる。

腰石は壁を構成する他の石材よりは比較的大きなものを用いるが、突出した大きさではない。両側壁は腰石から上位で内傾し、奥壁は垂直に積み上げる。

玄門部は両袖式で、袖石は両側とも1段目は柱状に石を立て、いずれも3段目まで残存している。框石は2石ずつ2段の石積みで構成され、その上に板状の石と塊石で閉塞する。

床面の平面形はわずかに胴張りの狭長な長方形であり、ほぼ全面に敷石が残存する。

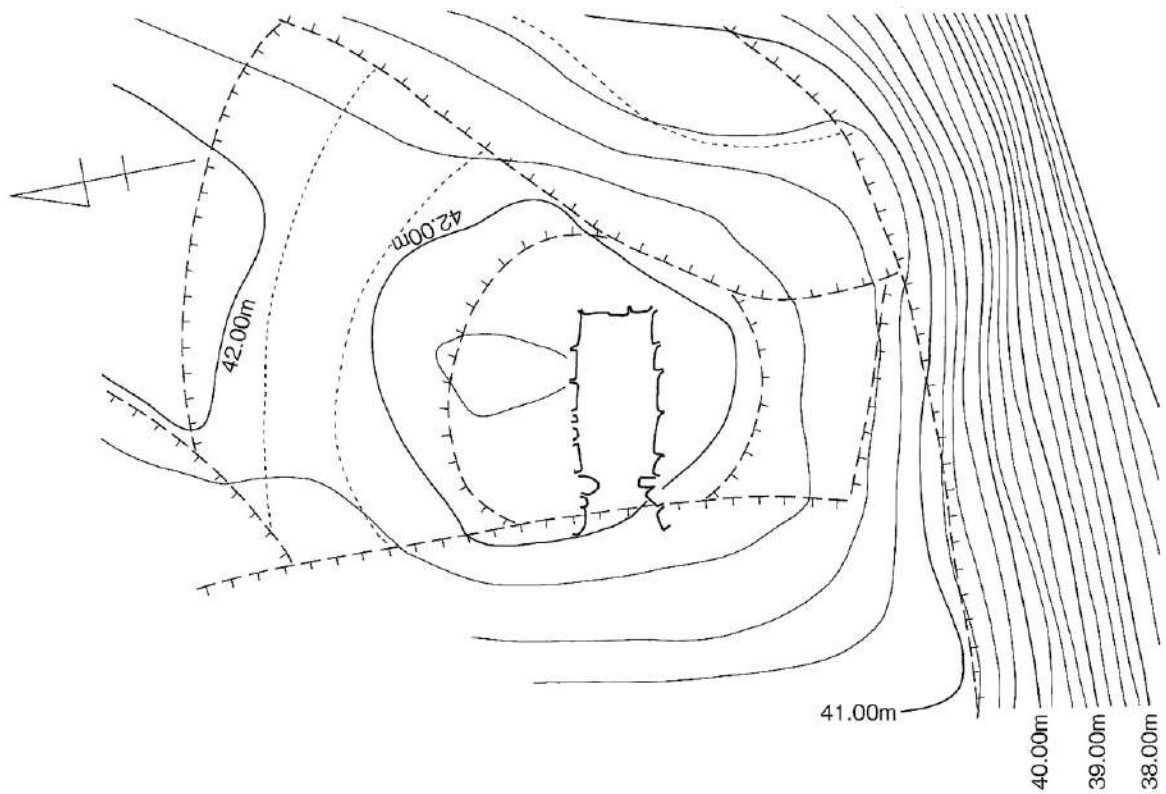
前庭側壁が構築されるが幅の短いものである。

墓道は未発達で玄門部に向けて竪穴を掘り込んだような形態である。

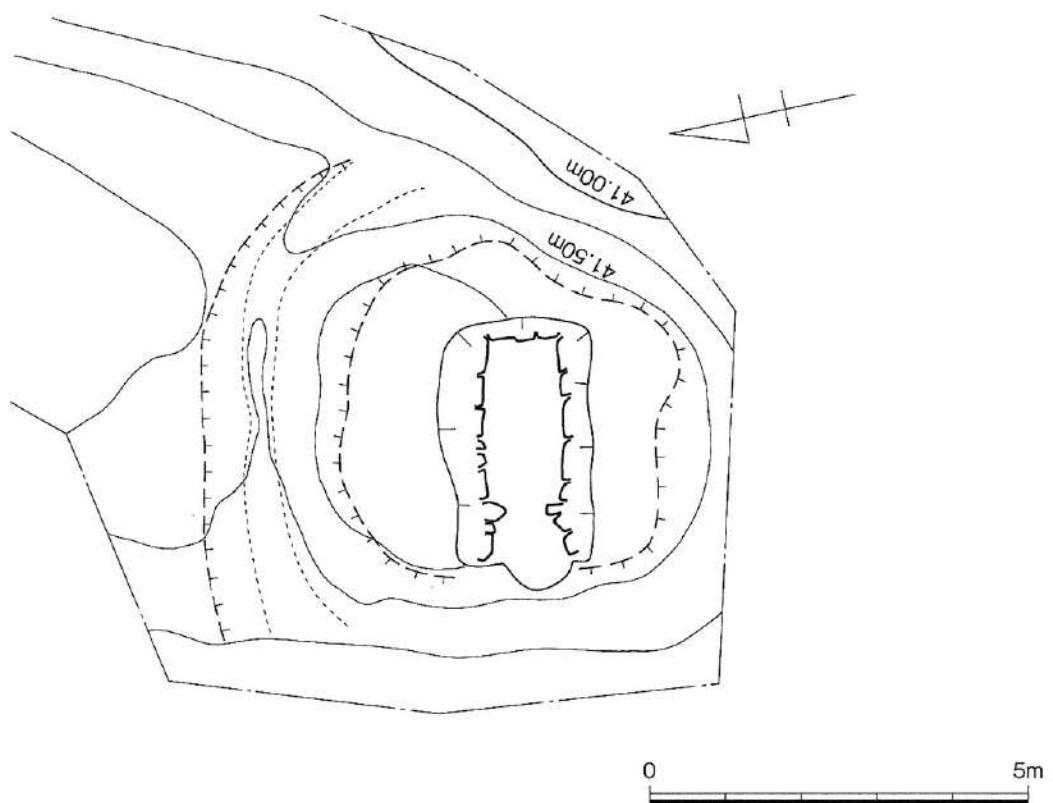
出土遺物 (第54図 図版31)

土器 287は3区墳丘で出土した土師器の高杯である。口縁部は全て欠損し、調整は磨耗で不明。288は口縁部を全て欠損するが、須恵器の長頸壺や平瓶などになると考えられる。墳丘から西側に離れた位置の表土から出土し、本古墳に伴うものではないだろう。内面の調整は回転ナデ、胴部外面は降灰により不明瞭であるが、底部付近はヘラケズリを施す。底部外面はナデ調整。

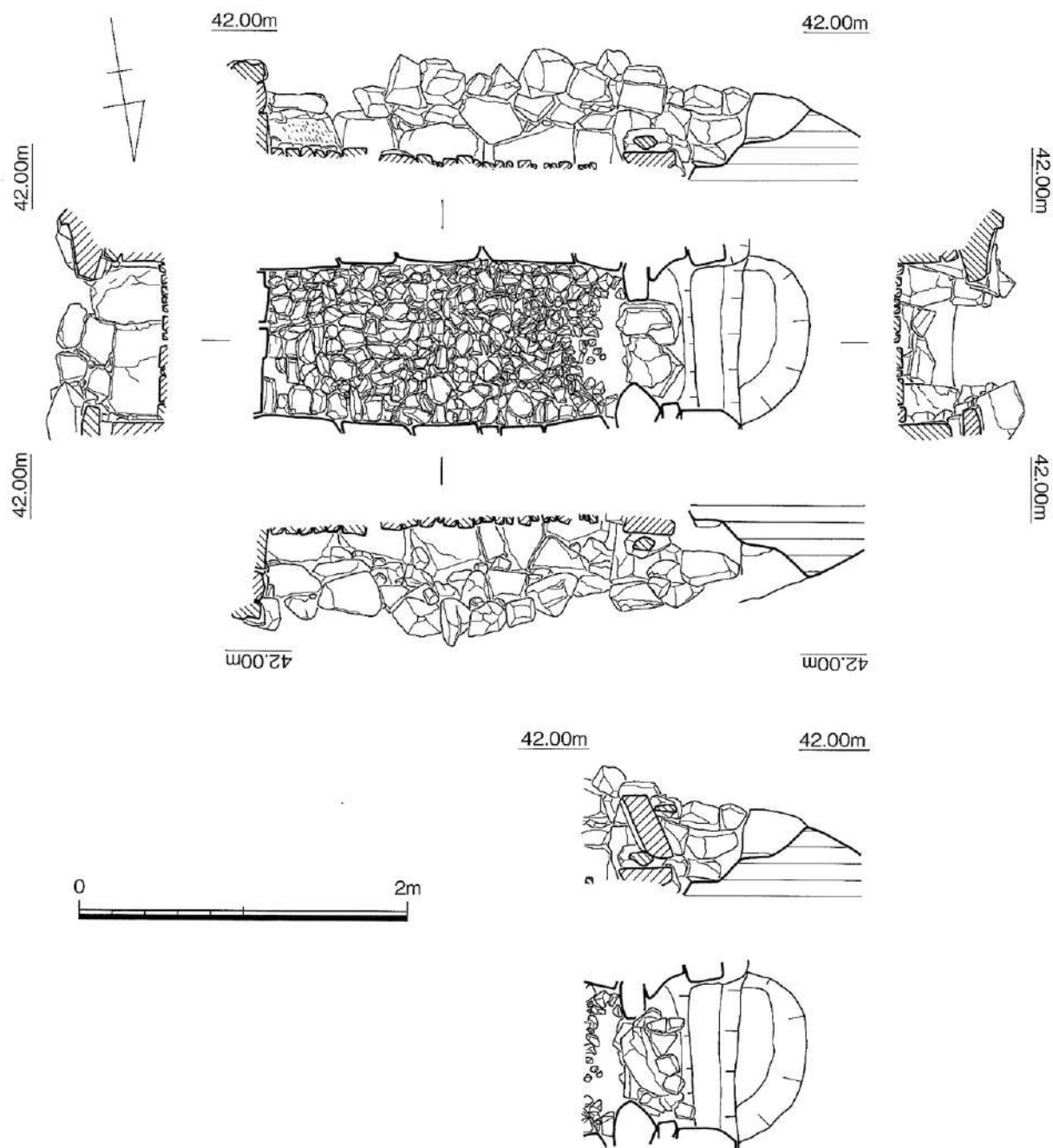
鉄器 289～292はいずれも石室床面から出土した。289・290は鉄鏃である。289は長頸鏃の完形品で、290は頸～関部付近の破片である。291は刀子で切っ先を欠く。292は291の柄元金具である。



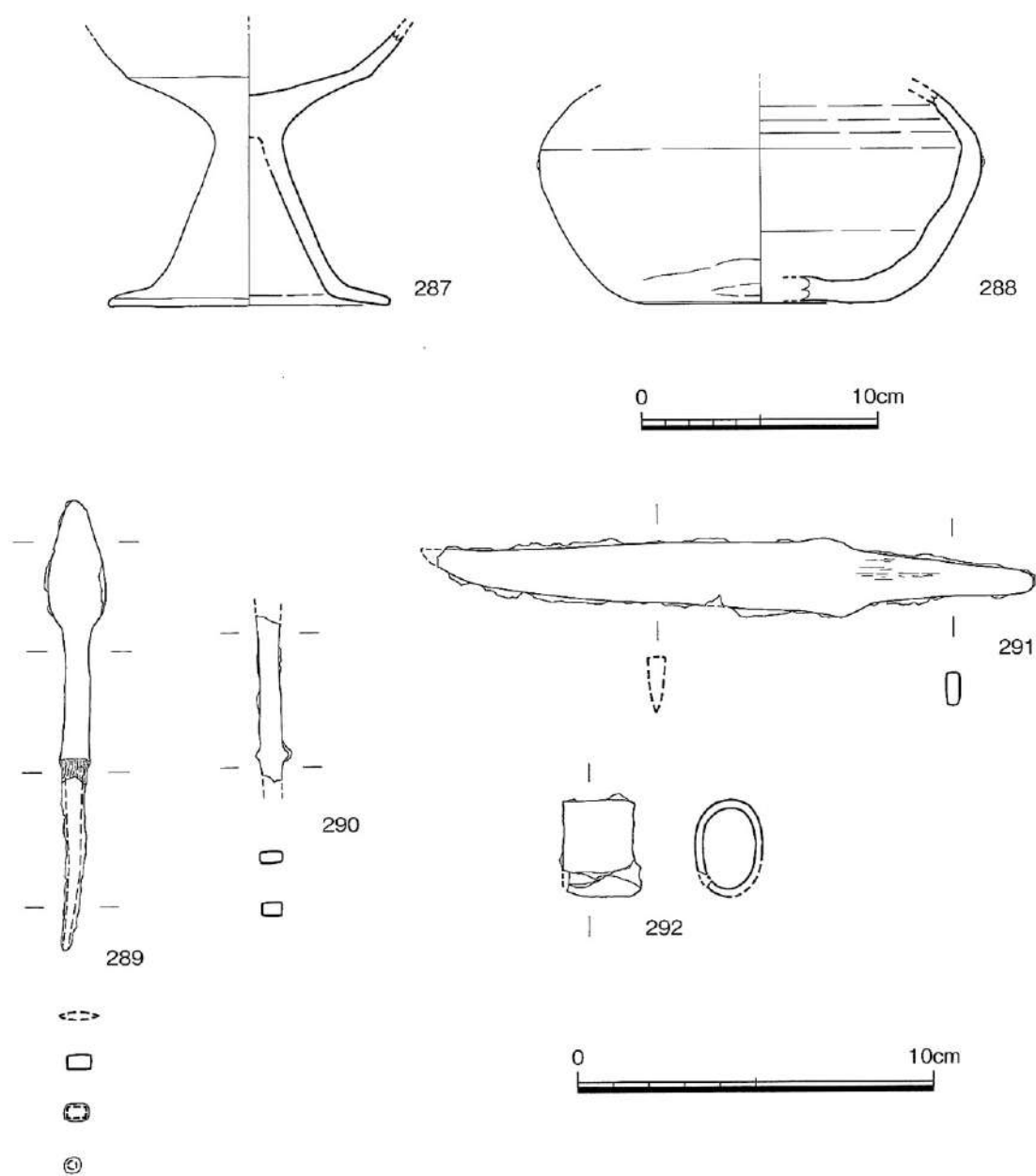
第51図 S01現況測量図 (1/100)



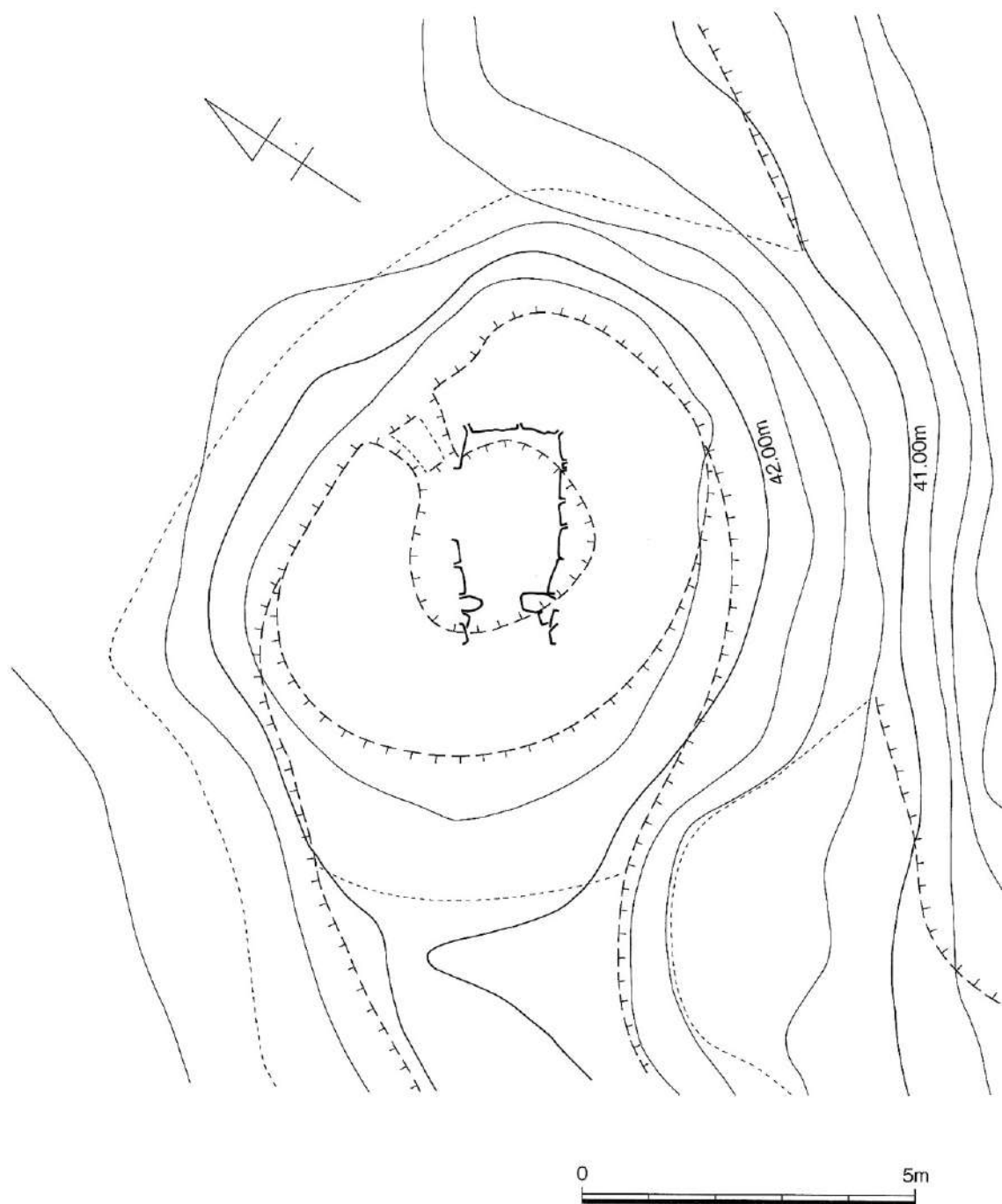
第52図 S01地山整形図 (1/100)



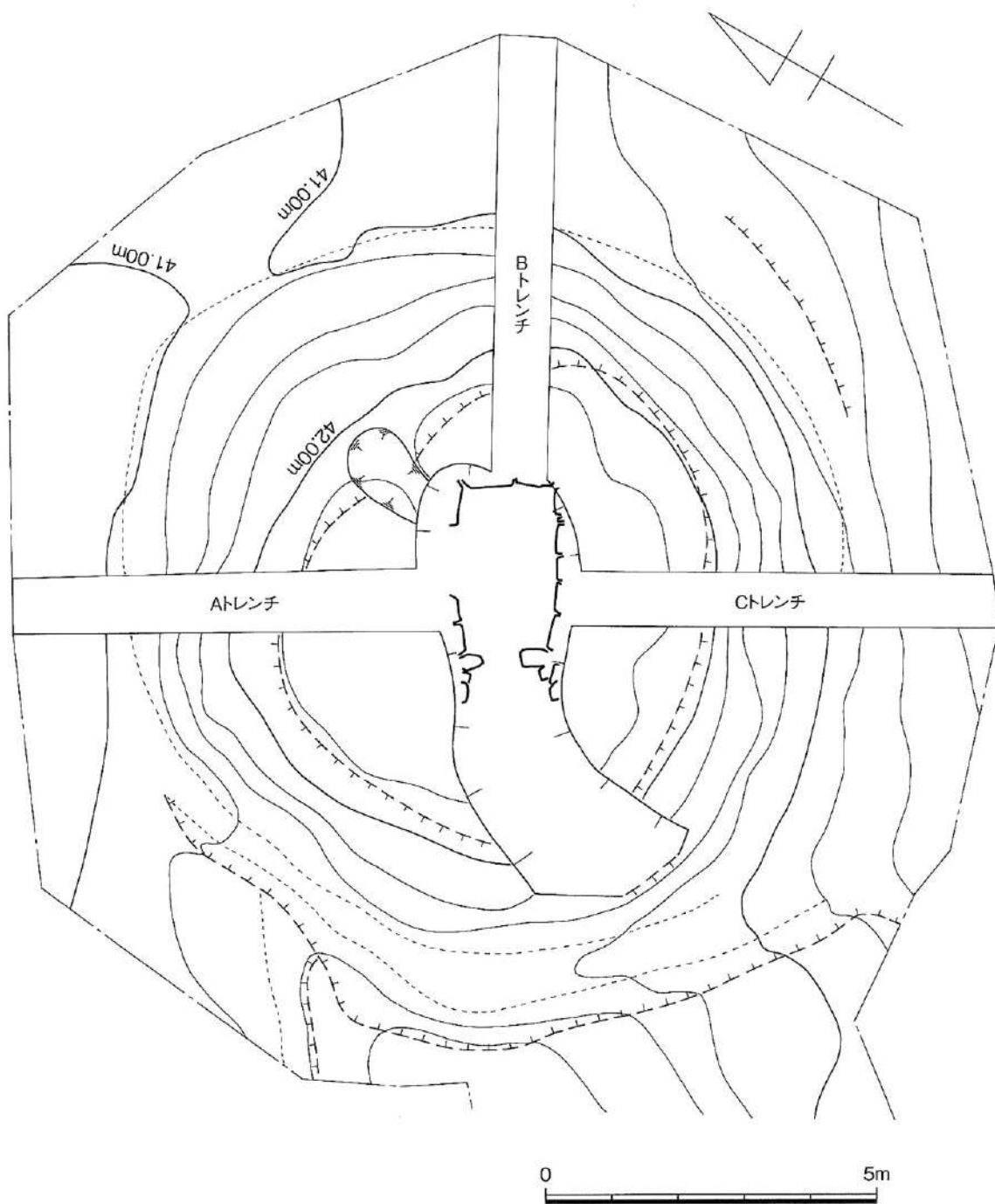
第53図 S01主体部実測図 (1/40)



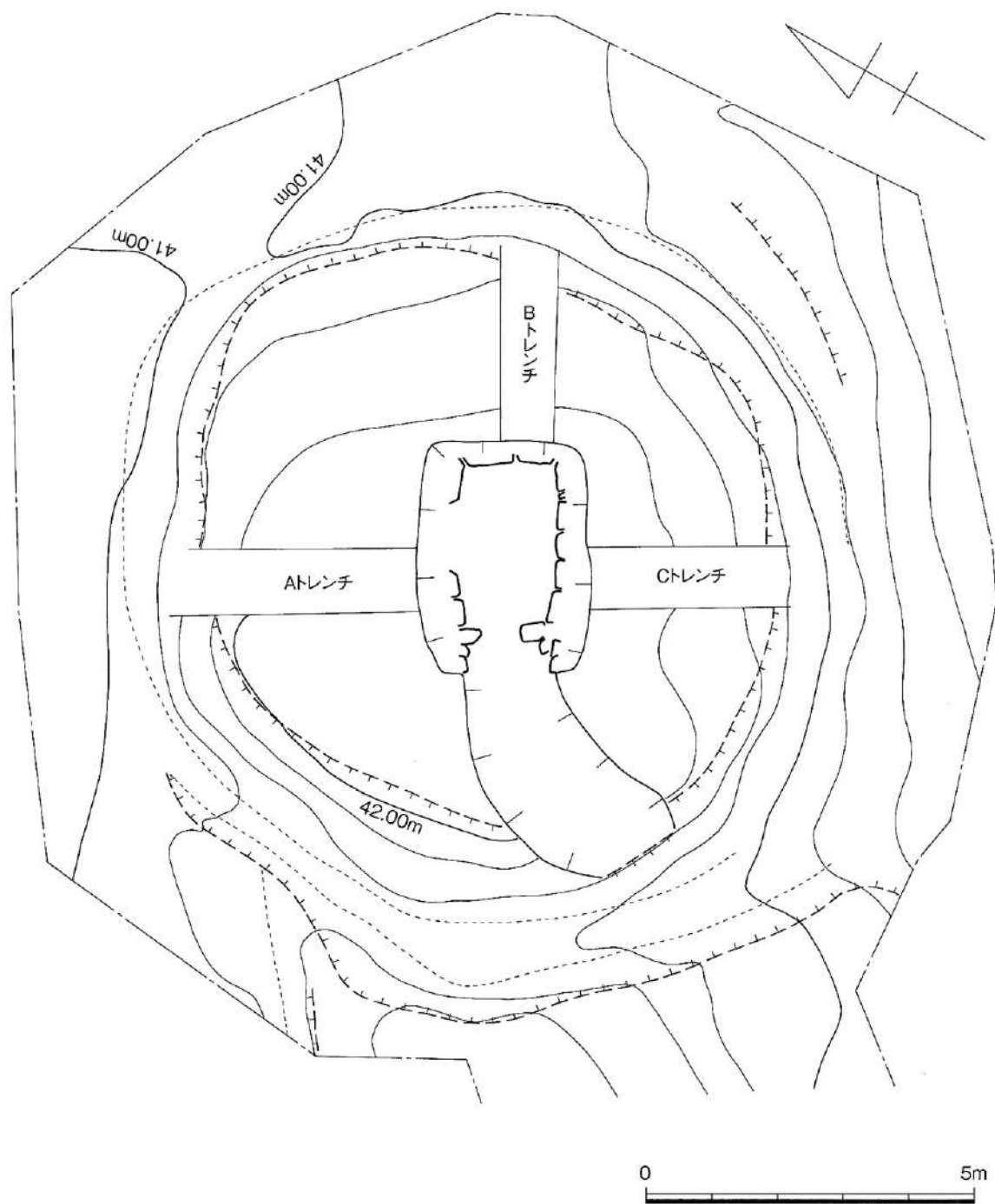
第54図 S01出土遺物実測図 (1/2・1/3)



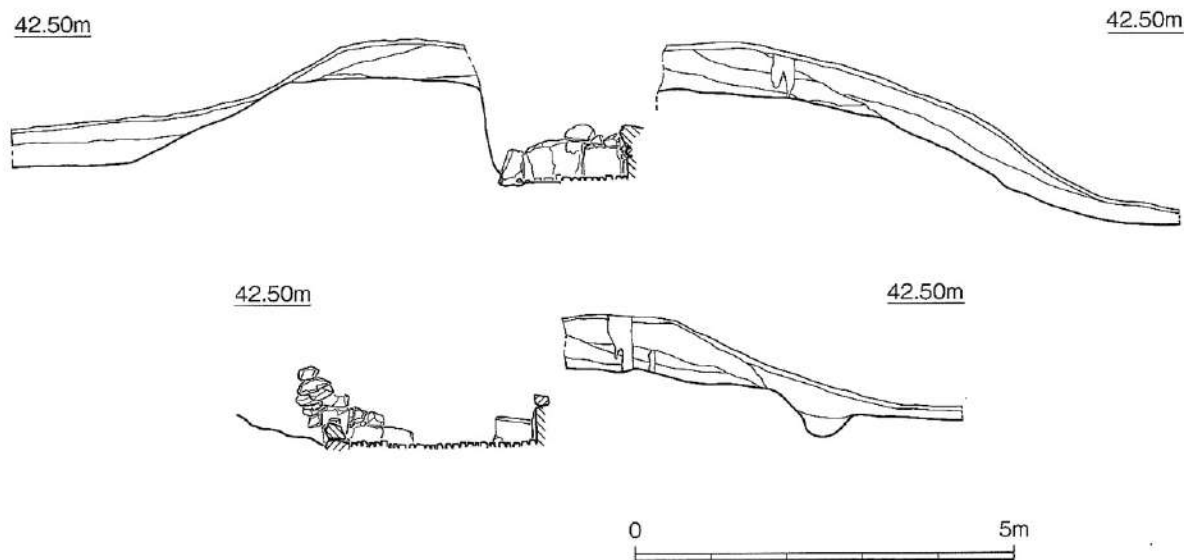
第55図 S03現況測量図 (1/100)



第56図 S03墳丘測量図 (1/100)



第57図 SO3地山整形図 (1/100)



第58図 SO3墳丘土層図 (1/100)

2) SO3 (第55～59図 図版32・33)

地山整形により墳裾を削り出し、西側にのみ周溝を掘削している。盛土は旧表土の上から積み上げており、厚いところで約1.2m残存している。径約11mの円墳である。

主体部

主体部の横穴式石室は破壊され、左側壁は腰石の一部も抜かれている。

玄門部は両袖式で両側とも1段目は柱状に石を立て2段目まで残存している。框石は2段で構成され、1段目は横長の石1個であるが、2段目は塊石3個を横に並べて用いている。その上に板状の石と塊石で閉塞する。

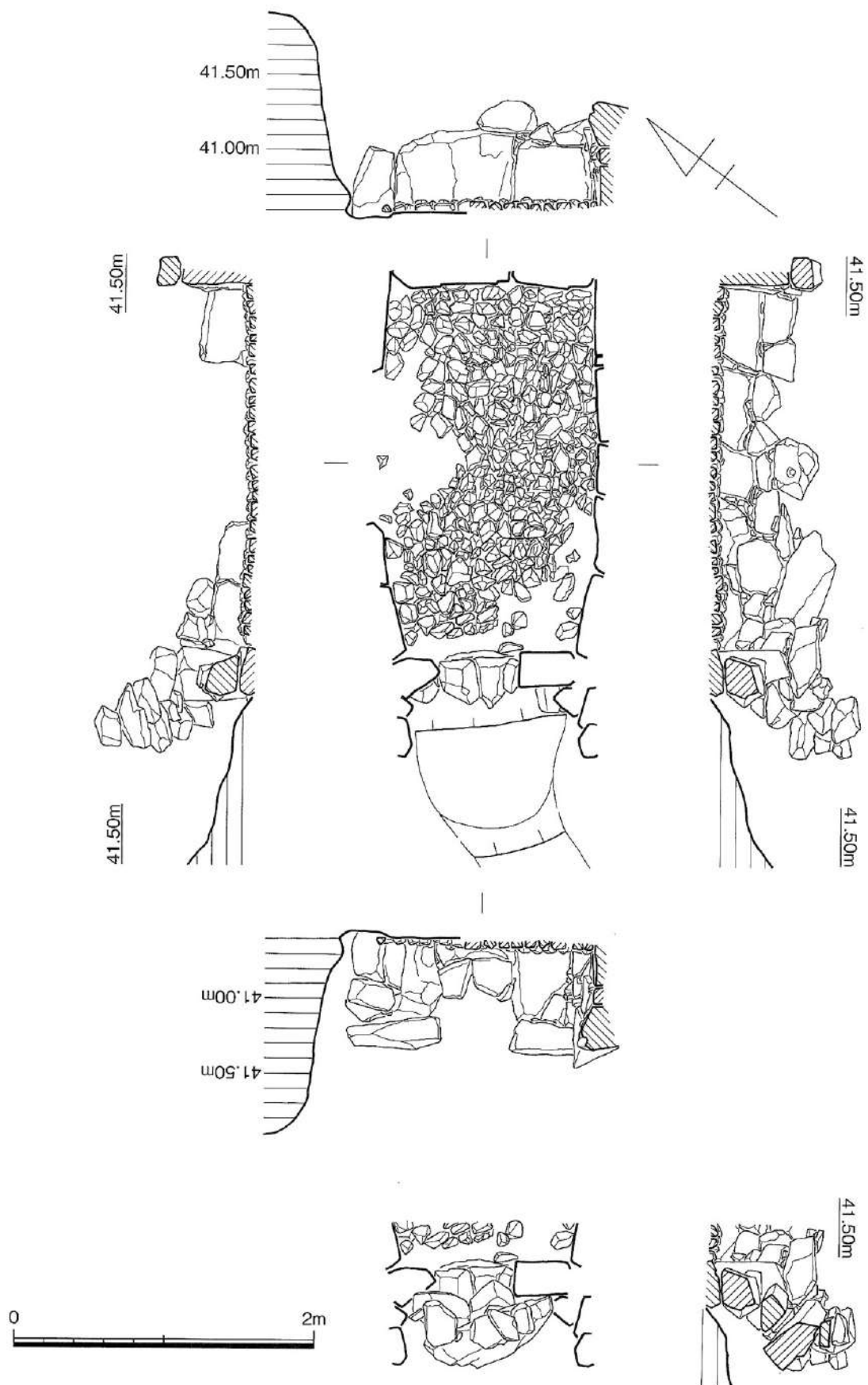
床面の平面形は玄門部側の幅が少し短く、わずかに胴張りの形態で、敷石はほぼ残存している。

前庭側壁が構築されるが幅の短いものである。

墓道は玄門に向かって降り、平面で見ると斜めに接続する。

出土遺物 (第60～67図 図版33～35)

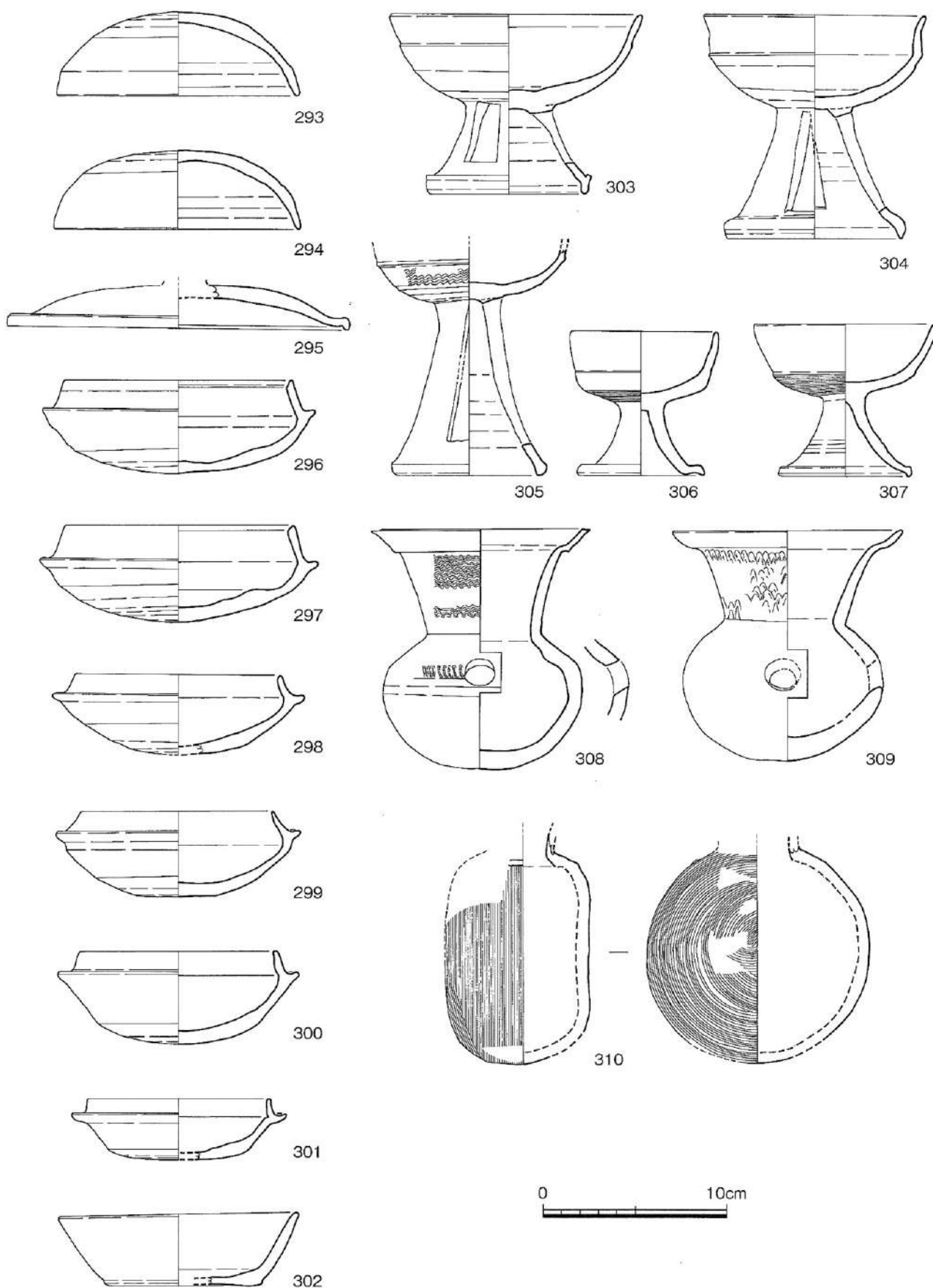
須恵器 293～295は坏蓋である。293・294は1区墳丘から出土。天井部外面は回転ヘラケズリ調整。295は3区墳丘から出土。調整は、外面が回転ナデ、内面は、口縁部が回転ナデで、他は不定方向ナデである。つまみが欠損している。3区墳丘から出土。296～301は坏身である。底部外面はいずれも回転ヘラケズリを施す。296は4区墳丘出土。口縁端部内面を凹ませる。297も4区墳丘出土。口縁部は端部に向かい厚みを増し、端面は僅かに凹むか平坦。298・299は1区墳丘出土。298の口縁部は少し外湾し、端部は丸く作る。299の口縁部は端部をすばませる。300は1区墳丘と4区周溝から出土。口縁端部は内湾気味。301は4区墳丘出土。口縁部は垂直に近く立ち上がる。底部の丸みが少なく、復元口径は9.9cmと小さい。302はBトレンチ出土。底部切り離しは回転ヘラ切りだと考えられるが、その後のナデにより判然としない。調整は、



第59図 SO3主体部実測図 (1/40)

口縁から体部が回転ナデ、底部内面は不定方向ナデ。303～307は高坏である。303～305の坏部の底部外面はいずれも回転ヘラケズリ調整である。303は1区の墳丘と周溝から出土。脚部は3方向に台形透かしを穿つ。304も1区の墳丘と周溝から出土した。脚部はやや長脚化しており、4方向に三角形透かしを穿つ。口縁部は外湾する。305は4区周溝から出土。脚部は303よりもさらに長脚化が進み、4方向に三角形透かしを穿つ。坏部に波状文を施す。306は1区墳丘と周溝・4区墳丘・墓道先端部から出土。坏部の底部外面はカキメ調整。307は1区墳丘と墓道先端から出土。坏部の底部外面はカキメ調整。308・309は甕である。308は4区の墳丘と周溝・1区墳丘・石室埋土・墓道南側から出土。頸部に波状文、胴部に刺突文を施す。309は1区墳丘から出土。頸部に波状文を施すが、胴部は無文である。310～312は提瓶である。310は1区墳丘から出土。調整は、外面がカキメ、内面は回転ナデとナデである。311も1区墳丘から出土。体部外面はカキメと回転ナデ調整、内面はカキメと回転ナデ調整で同心円あて具痕が残る。把手は輪状に体部に接合するか、鍵状になるかは、破損のため不明である。312は1区の墳丘と周溝から出土。体部外面は回転ヘラケズリと回転ナデ調整、内面は回転ナデとナデ調整で平行な刻みの当て具痕が残る。313は平瓶である。4区墳丘から出土。口縁部外面にヘラ記号を施す。胴部外面はカキメと回転ナデ調整である。314は提瓶や壺類の口縁部であろう。1区墳丘から出土。315は長頸壺などの口縁部だと考えられる。4区墳丘から出土。3条の沈線を施す。316～319は甕である。316は4区墳丘から出土。胴部外面はカキメ調整で下位に平行タタキ目を残し、内面は回転ナデで下位に同心円当て具痕を残す。口縁部外面にヘラ記号を施す。317は墓道先端と4区墳丘から出土。調整は、内外面ともに体部中位以上が回転ナデ。中位以下は、外面が一部擬格子状になる平行タタキ目を残し、内面は同心円当て具痕の上にタテ方向のナデ。318は1区墳丘から出土。体部外面はカキメ調整であるが、中位は回転による調整ではなくハケメ状である。内面は中位以上が回転ナデで下位がナデ。口縁部外面にヘラ記号を施す。319は1区墳丘から出土。口縁部外面に粗雑な波状文を施し、沈線1条を巡らす。体部外面は擬格子タタキ後カキメ調整で、内面は同心円当て具痕を残す。320・321は壺である。いずれも墳丘から出土。320は須恵質の焼成で分厚い底部の破片である。調整は内外面ともにナデ。内面には細かい単位で粘土を抉り取った痕がある。321は高台付きのものである。内面が回転ナデ、胴部外面は自然釉とその剥離による荒れで不明である。底部切り離しは回転ヘラ切りだと思われる。339は壺で1区墳丘から出土。口縁部は短く、少し外傾して立ち上がる。胴部外面は平行タタキ後カキメ調整で、内面は同心円当て具痕を残す。口縁部は内外面ともに回転ナデ調整であるが、外面には平行タタキ痕が残る。340～342は同一個体の甕である。1・4区墳丘と墓道から出土。体部外面は擬格子タタキ後カキメ調整で、内面は同心円当て具痕を残す。343・344も甕である。343は4区の墳丘と周溝から出土。原型をとどめない程に焼け歪んでいる。口縁部外面にヘラ記号を施し、胴部外面には自然釉が流れる。調整は、胴部外面が擬格子タタキ後カキメで、内面に同心円当て具痕を残す。344は1・4区墳丘と墓道先端から出土。体部外面はカキメ調整で、タタキ目を残さない。内面は胴部上半を中心に同心円当て具痕を残すが、他はナデ消されている。

土師器 322は短頸壺である。3区墳丘から出土。体部外面はハケメ後ヘラミガキ調整で、内面はヘラミガキ調整である。323・324は鉢である。323は1区墳丘から出土。調整は磨耗により不明瞭であるが、体部内面はヘラミガキと思われ、外面は底部がヘラケズリである。324



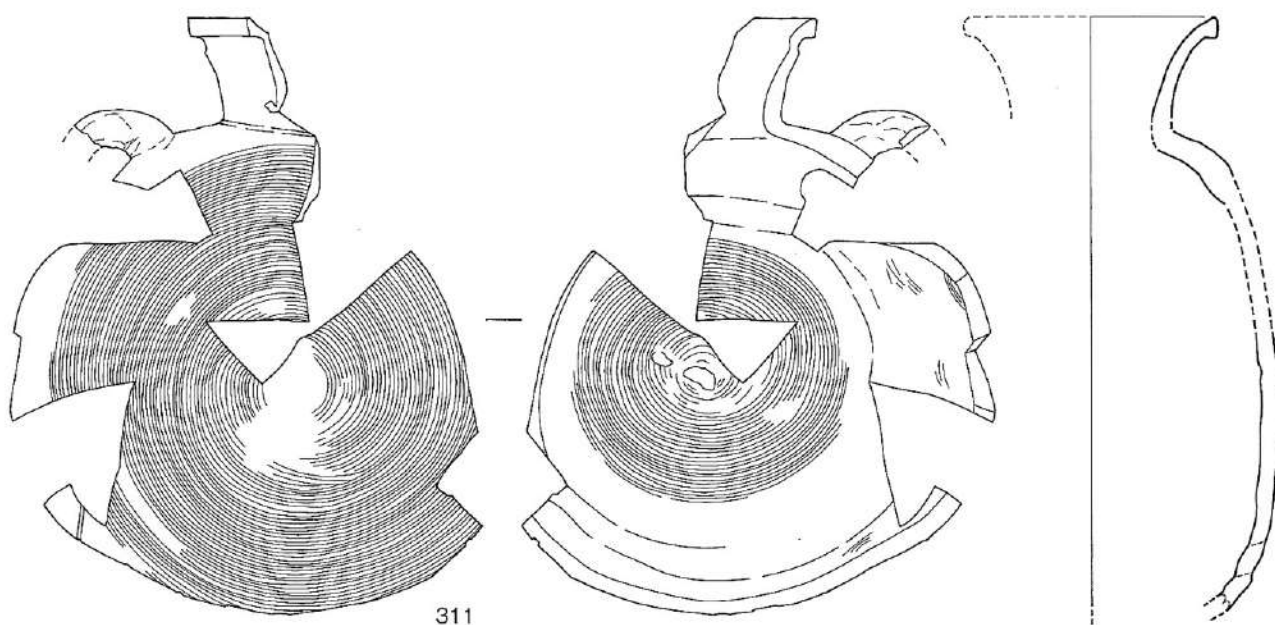
第60図 S03出土遺物実測図① (1/3)

は2区墳丘から出土。調整は磨耗で不明。やや歪みがあり、復元口径は、もう少し大きくなるかもしれない。後述の325と同様な形態であり、高坏の可能性もある。325～332は高坏である。325は2区の墳丘と周溝から出土。調整は磨耗で不明瞭であるが、坏部内面はヘラミガキ、脚柱部外面はタテ方向のナデと思われる。326は墓道下層から出土。調整は、坏部が内外面ともにヘラミガキ、脚柱部は内面がヨコ方向ヘラケズリで、外面は単位が明瞭なタテ方向のナデ。全体に丁寧な作りのものである。327は2区墳丘から出土。調整は、坏部内面がヘラミガキと思われ、脚柱部外面がタテ方向ナデ、脚部内面はヨコナデである。328は3区墳丘から出土。調整は、脚部が内面はナデで、外面がタテ方向のヘラミガキと思われるが、器面の状態からすればミガキよりはナデの感じがある。坏部内面はナデと思われる。329・330は2区墳丘から出土。調整は、脚部外面がタテ方向のナデと思われ、他は磨耗で不明。331も2区墳丘から出土。脚柱部外面の調整は328と似通っており、坏部内面と脚部内面はナデと思われる。332も2区墳丘から出土。調整は、脚部内面がヘラケズリと思われ、外面は磨耗で不明。333～335は甕である。333は4区墳丘から出土。外へあまり傾かず外湾する口縁部である。少し残存する内面屈曲部以下はヘラケズリ調整である。334は4区墳丘から出土。多少外湾する口縁部で、端部に向かって器壁が薄くなる。端部を若干摘み上げる。調整は、内面がハケメで、外面はヨコナデ。335は3～4区墳丘から出土。内湾する口縁部で端部を摘み上げる。調整は、口縁部内面がハケメ後ヨコナデで、他は磨耗で不明。336～338は甗の把手である。336・337は2区墳丘、338は3区墳丘から出土。

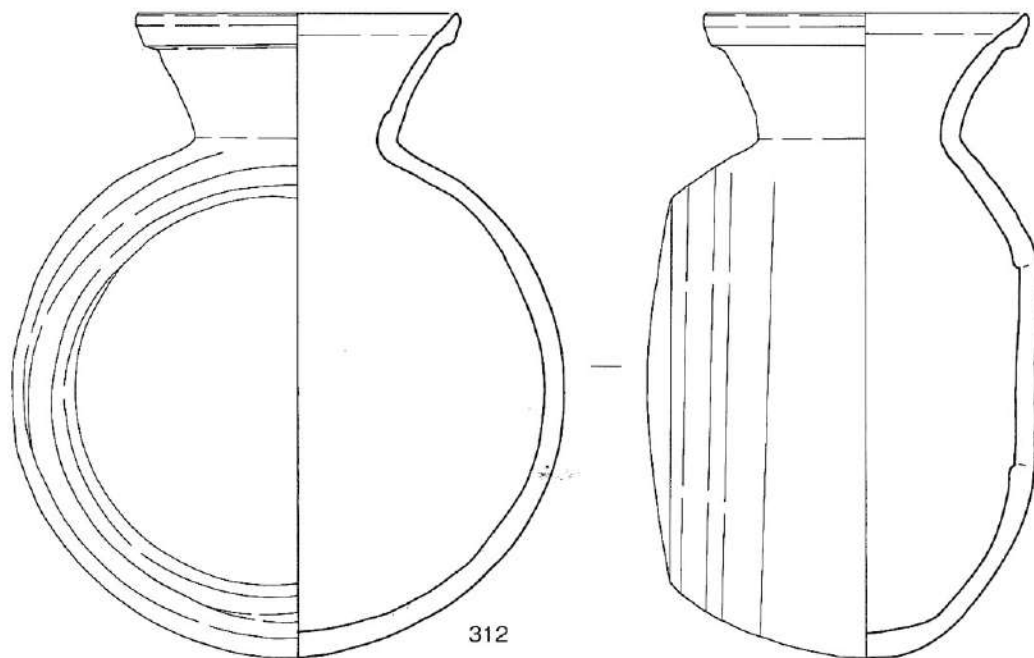
弥生土器 345は甕である。Aトレンチから出土。逆L字状口縁で、底部は上げ底であり、口縁屈曲部からかなり下がった位置に、三角突帯を1条巡らす。調整は、胴部外面が条線の間隔の狭いハケメで、底部外面はナデ。他は磨耗で不明。346は甕の底部と思われる。2区墳丘から出土。上げ底で裾が大きく張り出し、分厚いものである。内外面ともにナデ調整。347は壺の口縁部である。3区旧表土から出土。外面に粘土を貼り付けて断面三角形の口縁に仕上げる。内面がナデ調整、頸部外面はハケメの後にヘラミガキを施すと思われるが判然としない。348は壺である。345に近接してAトレンチから出土した。口縁部を欠損する他はほぼ完形のものである。底部は少し上げ底で、器壁が厚い。調整は、内面がナデ。胴部外面は磨耗で不明瞭だがハケメが残る。349は壺の胴部である。1区周溝から出土。内面はナデ調整、外面は磨耗で不明瞭だがハケメが残る。

石製品 350は砥石である。1区周溝床面から出土。2側面を主に使用している。351は凹基式の磨製石鏃である。4区表土から出土。断面は薄板状で、角度をつけて刃部を研ぎだす。

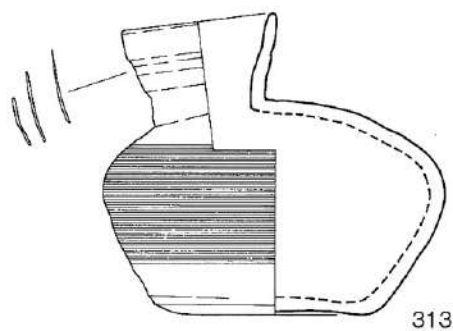
鉄製品 352～363は鉄鏃である。右側壁そばの床面から出土。352～354は方頭鏃で、352・353は完形品である。355～357は長頸鏃で茎を途中で欠損する。359～364は鏃身部を欠損する破片である。365・366は用途不明の鉄製品である。365は右側壁そばの床面から出土。片方の先端を円形に平たくしている。もう片方は錆膨れしており、欠損しているかもしれない。366は右袖付近の床面から出土した完形品である。片方は断面長方形に平たくして孔をひとつ穿ち、釘を打ち込んでいる。この部分では少し木質が残存する。もう片方は先端より3cm位から徐々に平たくしている。長さは18.4cmで、折り曲げる前の状態では31cm程であったと推定される。



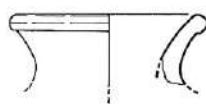
311



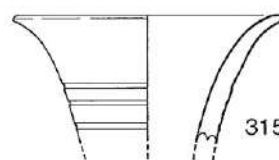
312



313



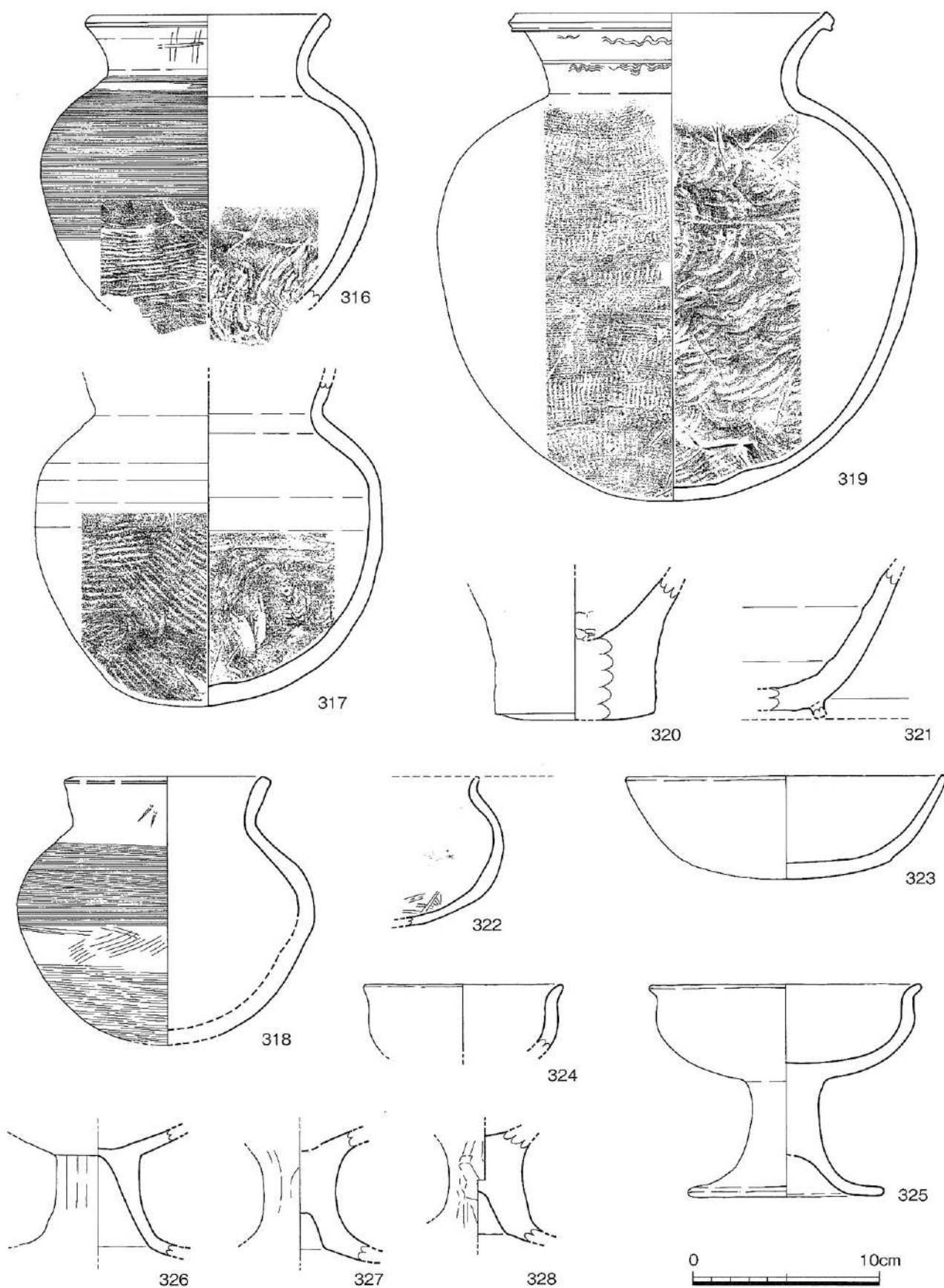
314



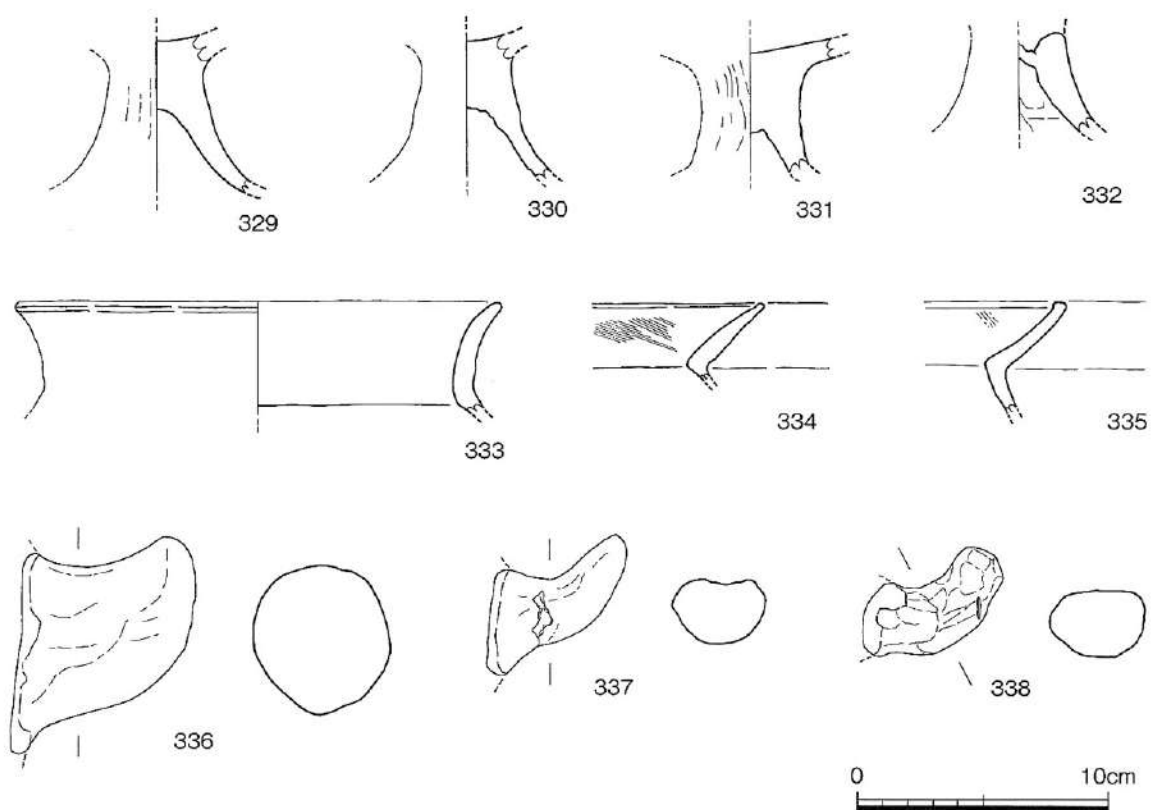
315

0 10cm

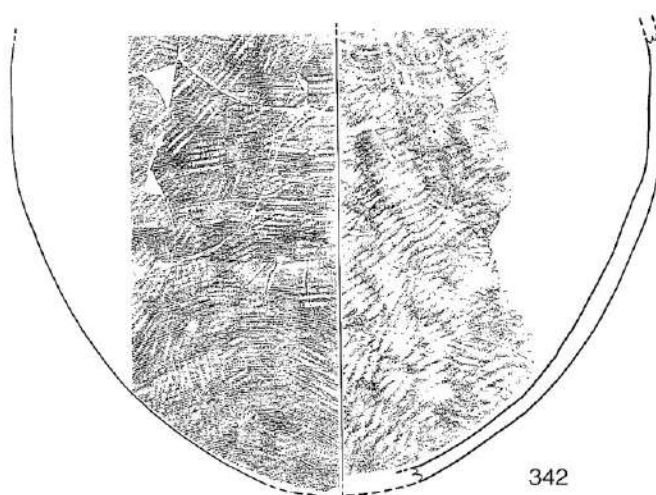
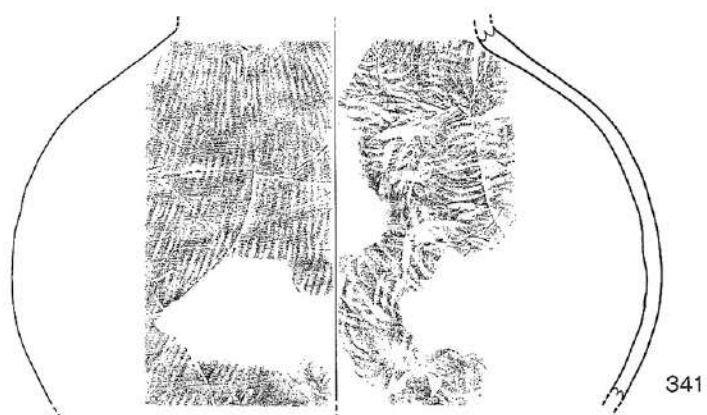
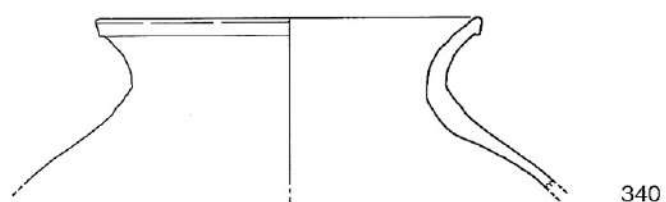
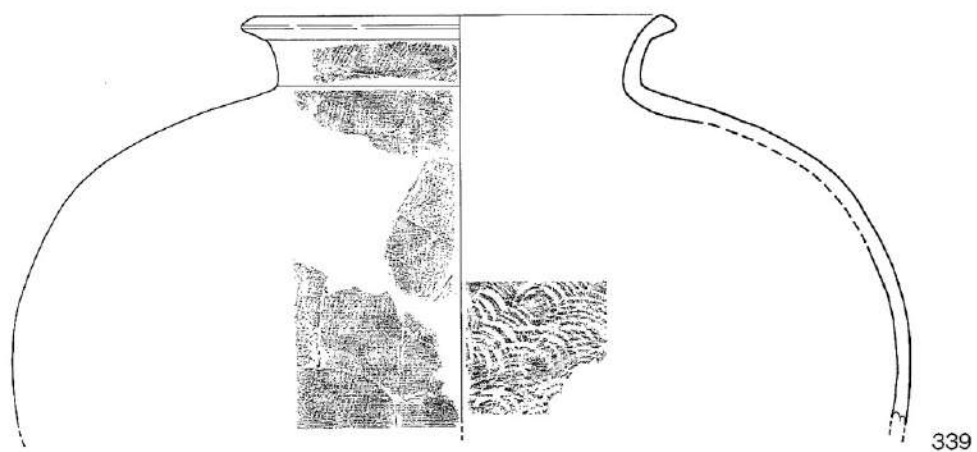
第61図 S03出土遺物実測図② (1/3)



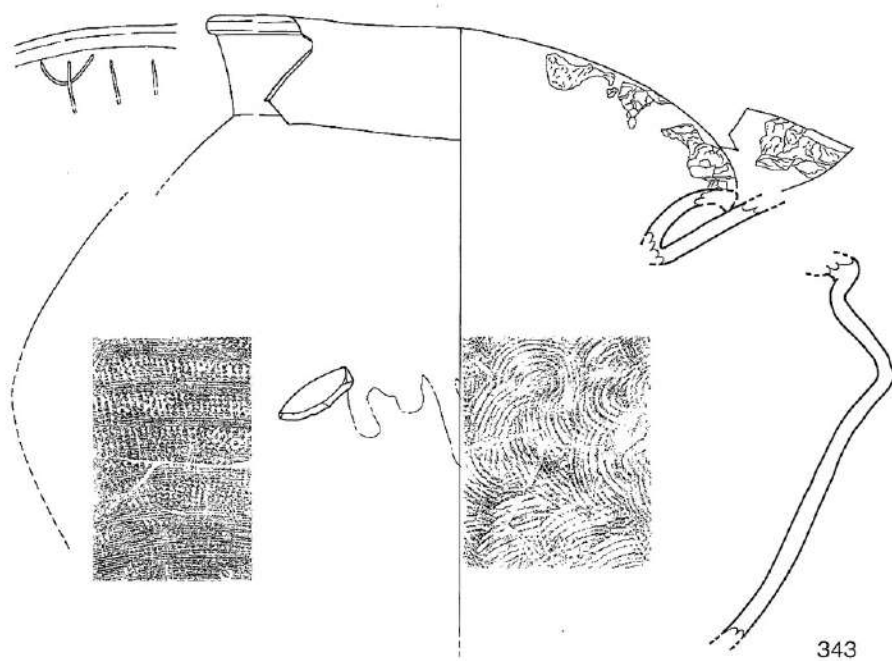
第62図 S03出土遺物実測図③ (1/3)



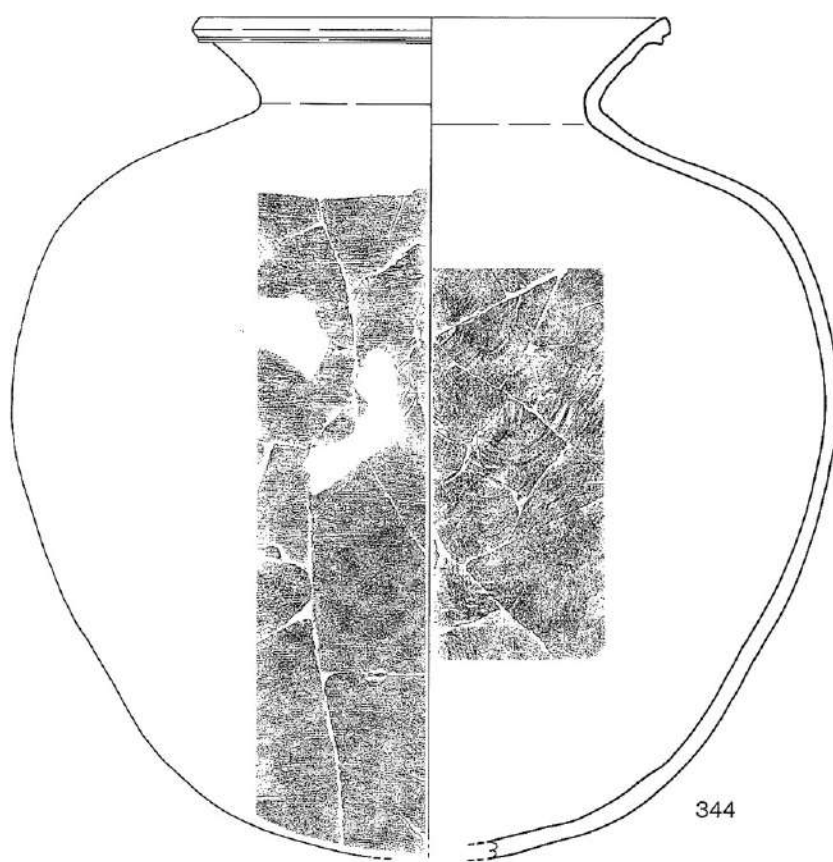
第63図 SO3出土遺物実測図④ (1/3)



第64図 S03出土遺物実測図⑤ (1/4)



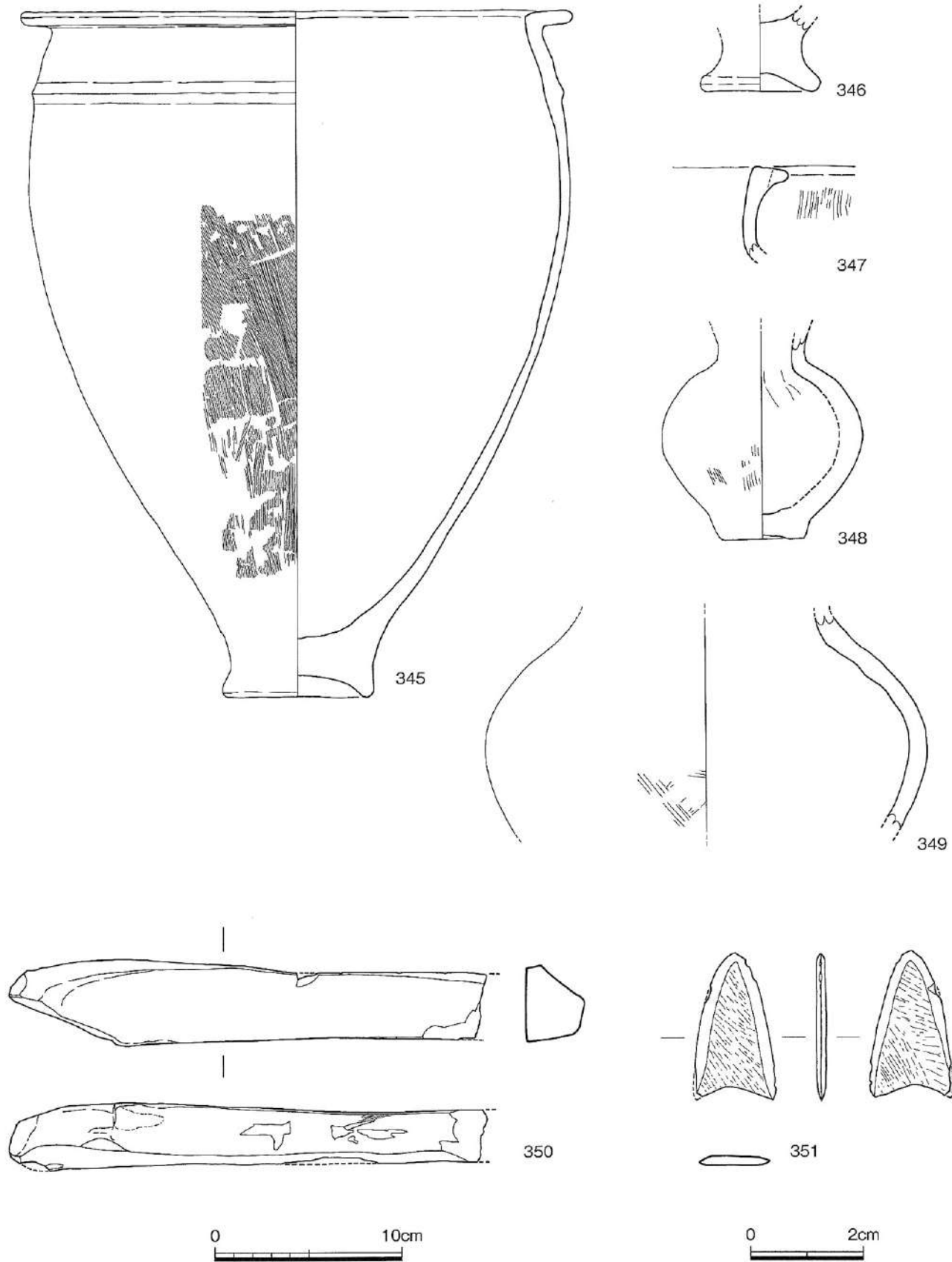
343



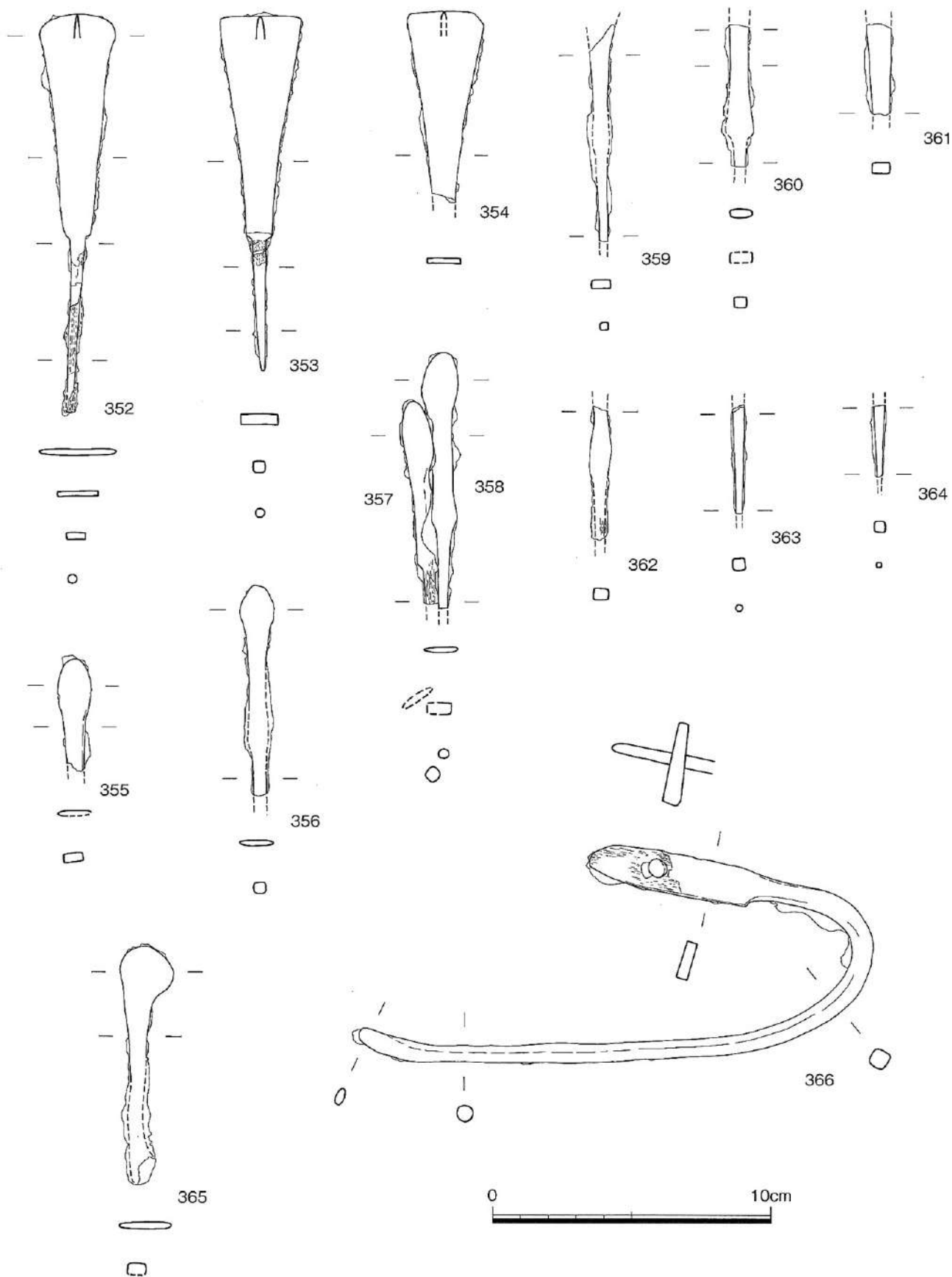
344



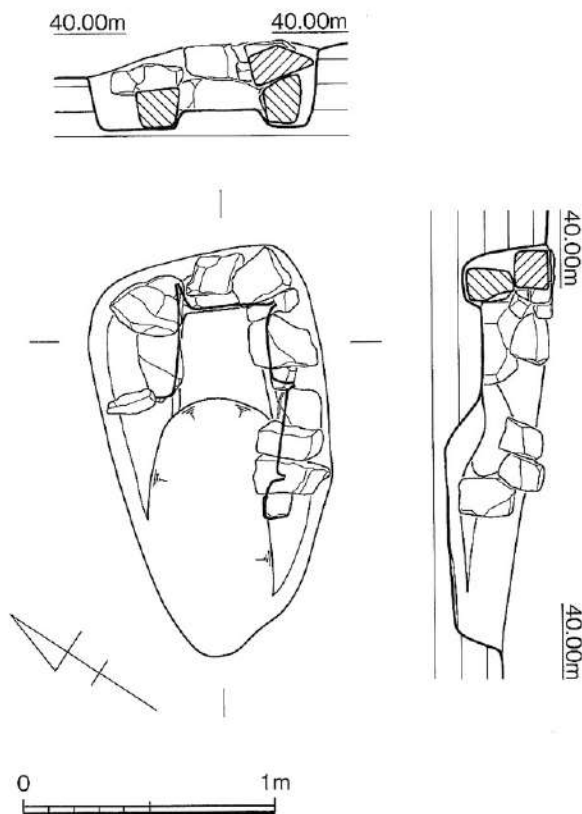
第65図 S03出土遺物実測図⑥ (1/4)



第66図 S03出土遺物実測図⑦ (1/1・1/3)



第67図 S03出土遺物実測図⑧ (1/2)



第68図 SO9主体部実測図 (1/30)

3) SO9 (第68図 図版36)

墳丘や周溝を確認できなかったが、本来周溝をもたず、墳丘も墓坑掘削時の土で石室を覆う程度の低いものであったと想定される。石室の規模が小さく、いわゆる小石室の範疇に入ると考えられる。削平に加え南西部では木根の攪乱を受け、残存状態は悪い。遺物の出土はない。

4) SO118 (第69～71図 図版36・37)

墳丘北側で、旧表土の上に積まれた盛土が最大約0.3mの厚みで残存していた。周溝は墳丘の西から北側にかけて検出したが、途中で削平され、墳丘を囲むように掘削されていたかは不明である。周溝下端から玄室中心までの距離は約4.5～5.5mである。

主体部

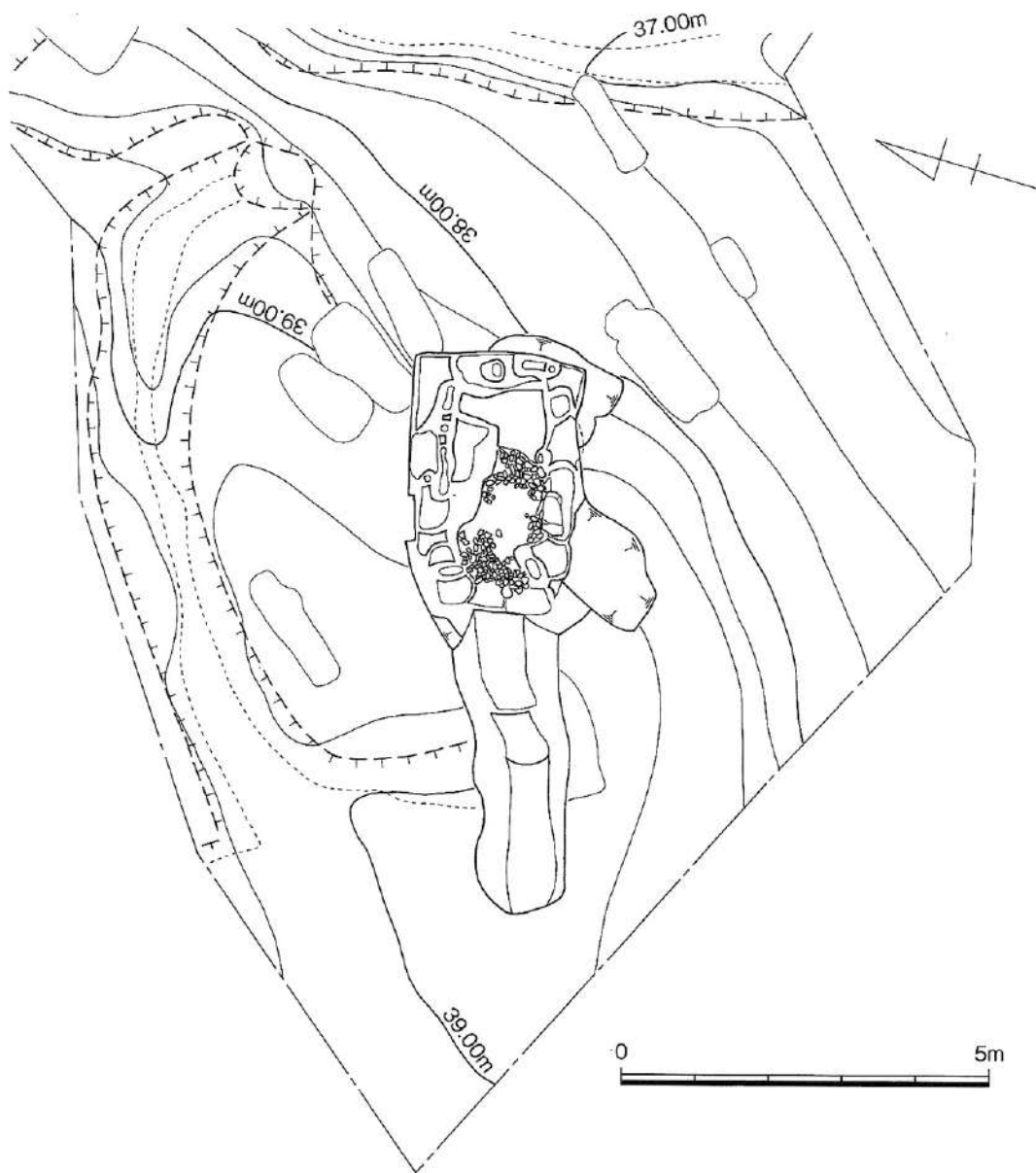
石室は破壊され石材をほとんど抜かれており、腰石1個と敷石の一部を残すのみである。石材の抜き取り痕からすると、両袖の横穴式石室だと考えられる。

墓道は玄門に向かって少し降る。

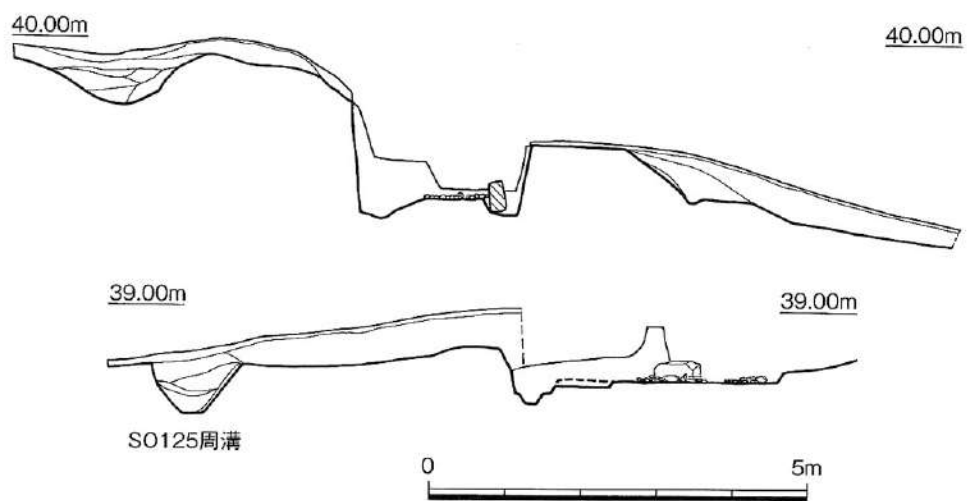
墓坑も大きく破壊され、上端の規模は、長さ3.81m、幅2.38mで、深さは1.31mである。

出土遺物 (第72～74図 図版37・38)

須恵器 367～369は坏蓋である。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリ調整。367・368は3区表土から出土。口縁端部内面を少し凹ませるが、368の方はかなり浅い。369は2区周溝から出土。口縁端部は丸く作る。370～377は坏身である。いずれも底部外面は回転ヘラケズリ調整。370・372は盗掘排土から、371・373・375は3区表土から、374は墓道から、376は1・4区から、377は1区周溝から出土。370の口縁部は内傾が弱く立ち上がりの長いもので、端部内面を凹ませる。371の口縁部は直線的に立ち上がり、端部を丸く作る。372は口縁部をほとんど失うが、残存部で判断すれば内傾が弱いものだと思われる。373の口縁部は直線的に立ち上がり、端部を丸く作る。374の口縁部はやや外湾気味で、端部は丸く作る。内面の2個所にヘラ記号が施



第69図 S0118地山整形図 (1/100)



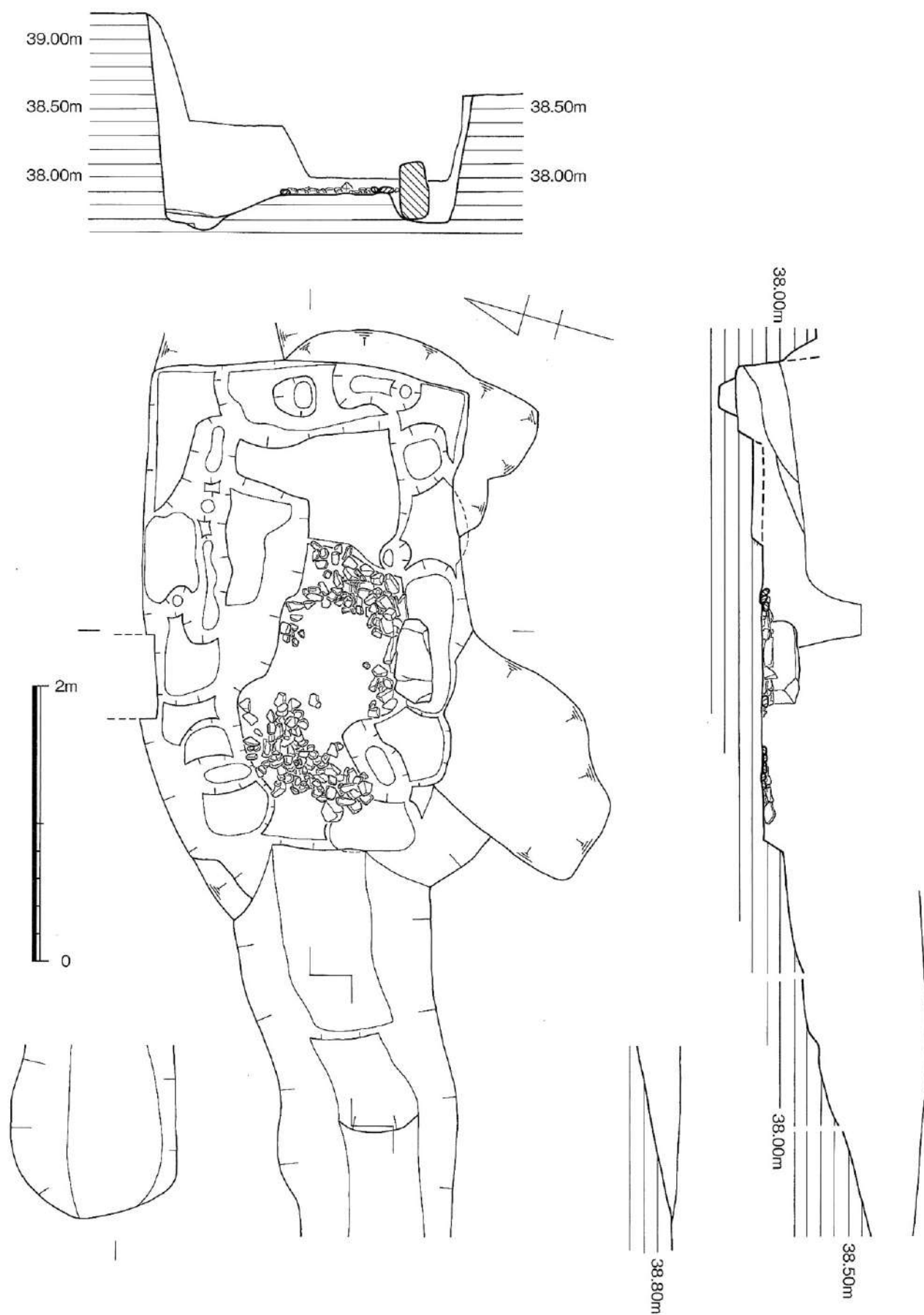
第70図 S0118墳丘土層図 (1/100)

される。375の口縁部もやや外湾気味で、端部を丸く作る。回転ヘラケズリ調整の範囲が狭い。376の口縁部もやや外湾気味で、端部を丸く作る。377の口縁部は直線的に立ち上がり、端部は尖り気味である。378・379は同一個体の坏である。1区周溝から出土。体部は内湾して立ち上がり、口縁部で外湾する。端部内面に平坦面を作る。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整。380・381は高坏である。いずれも4区盗掘排土から出土。380は坏部片で、体部外面に刺突文を施す。381は脚部片で、2段に3方向の透かしを穿ち、沈線が2条施される。外面はカキメ調整。382・383は提瓶である。382は2区周溝から出土。口縁端部を少し欠損するが、ほぼ完形のものである。体部の調整は、自然釉とその剥離による荒れで、外面の半分程度は不明だが、半面はカキメ調整である。383は1区周溝から出土。体部外面はカキメ調整である。384は甕である。2区周溝から出土。口縁と頸部に連続する刻線を施し、頸部に2条ずつ4条の沈線を巡らす。体部には2条の沈線の間に刺突文を施す。胴部下位から底部にかけては回転ヘラケズリ調整で、凸レンズ状の平底である。385は壺である。1区の墳丘と周溝から出土。肩が角張る形態である。体部外面は擬格子タタキ後カキメ調整で、中程から上位はさらに回転ナデ調整を施しタタキ目を消している。内面は下位に同心円当て具痕が残存する。386・387は短頸壺である。386は1・4区から出土。体部外面下位は回転ヘラケズリ調整、肩部はカキメ調整である。387は4区表土・墳丘から出土。蓋を被せて焼成した痕跡がある。体部外面はカキメ調整である。388は小型の壺である。2区墳裾から出土。胴部外面はカキメ、底部はヘラケズリ調整である。389は甕の口縁部片である。4区表土・墳丘から出土。頸部に甘い沈線が2条巡り、その上下に凹凸のごく浅い波状文を施す。394は甕である。西側墳丘・周溝・墓道の広範囲で破片が出土。歪みや焼き膨れが著しい。体部外面は擬格子タタキ後カキメ調整で、内面は同心円当て具痕が残存する。

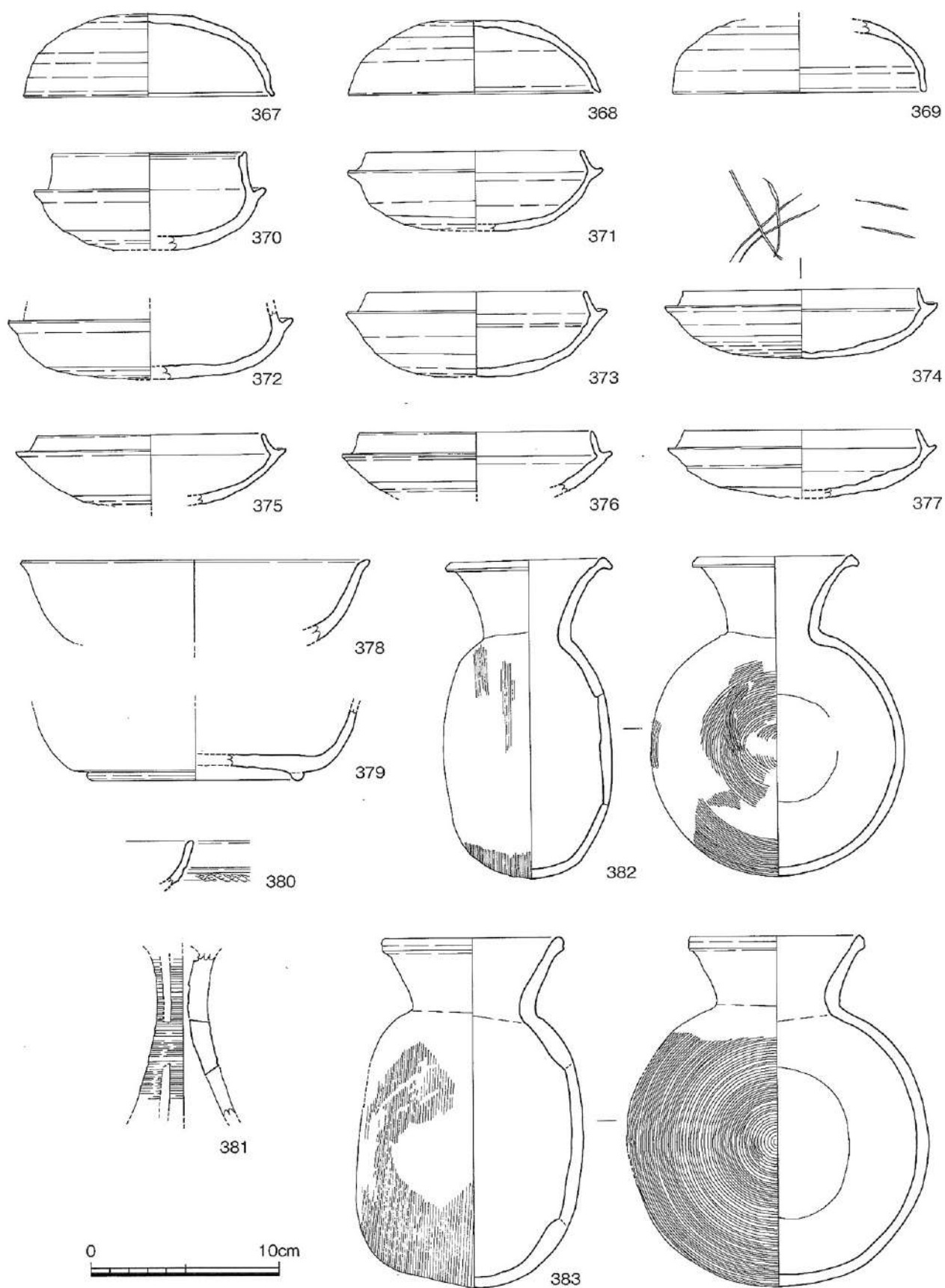
土師器 390は壺である。2区旧表土直上から出土。口縁部は内湾する。調整は磨耗により不明である。391～923は高坏である。391は4区盗掘排土から出土。脚柱部と裾部は接合しない。坏部の屈曲は明瞭に稜がつき、口縁部は外湾して端部を少し摘み上げる。調整痕は不明瞭であるが、脚柱部は外面がタテ方向のナデ調整で、内面はヘラケズリ調整である。392は2区の墳丘と周溝から出土。大型の高坏で、内面は磨耗で不明瞭であるが、ナデ後部分的にヘラミガキ調整を施すと思われる。外面はヘラミガキ調整である。393は3区盗掘排土から出土。裾端部を凹ませ内側を摘み出す。脚柱部と裾部の間の屈曲は明瞭なものではない。外面はナデ調整、内面は脚柱部がヘラケズリ、裾部はハケメ調整である。

弥生土器 395・396は壺である。395は2区旧表土直上から出土。鋤先状口縁のもので、内面の突出は弱い。396は3区表土から出土。少し上げ底の底部である。胴部外面は丹塗りで、部分的に顔料が残存する。外面はナデ調整、内面は磨耗で調整不明。

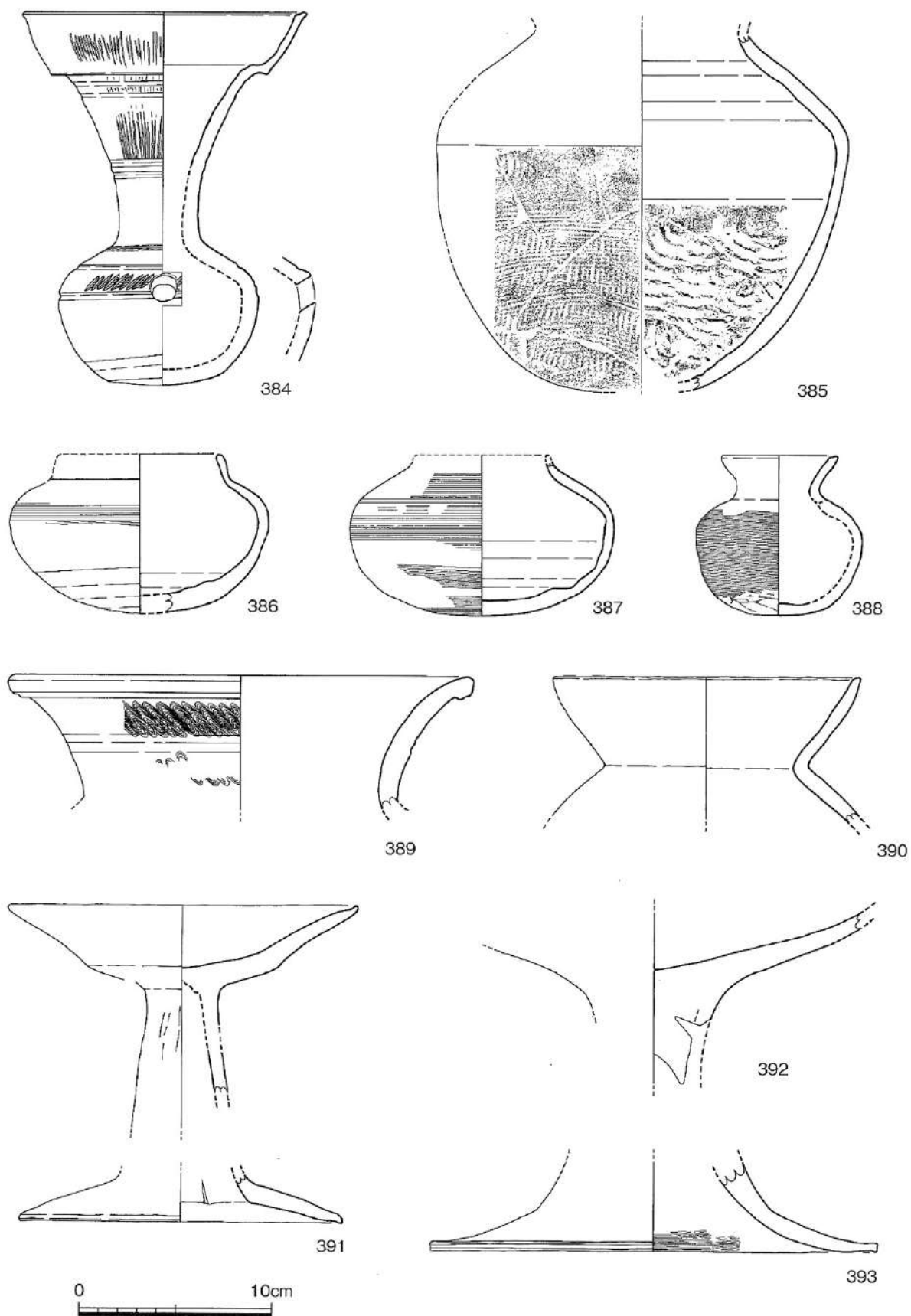
鉄製品 397・398は鉄鏃である。397は2区周溝から出土。長頸鏃で、切っ先と茎先端を欠損する。398は3区周溝から出土。関部付近の破片と思われる。



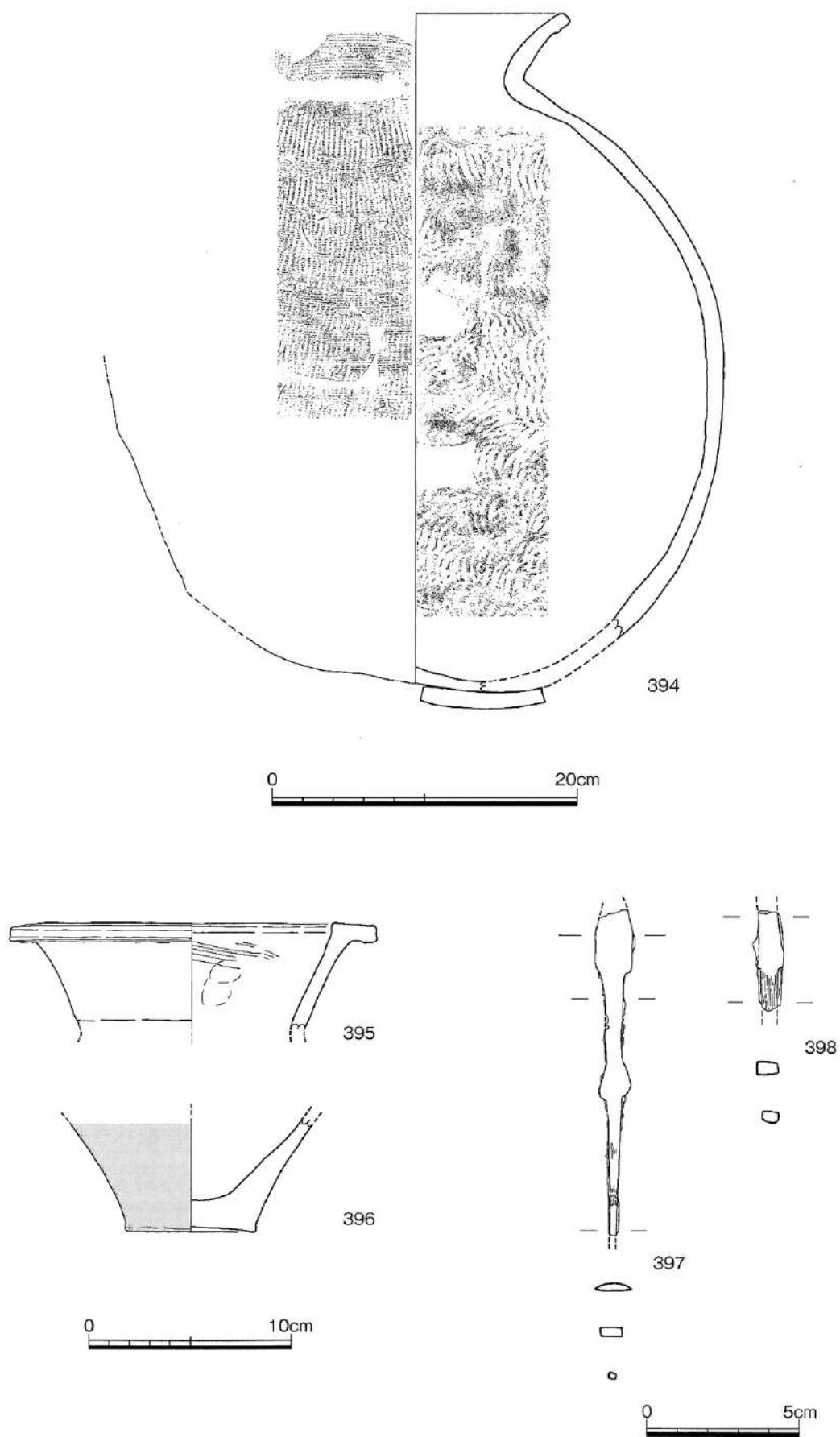
第71図 S0118主体部実測図 (1/40)



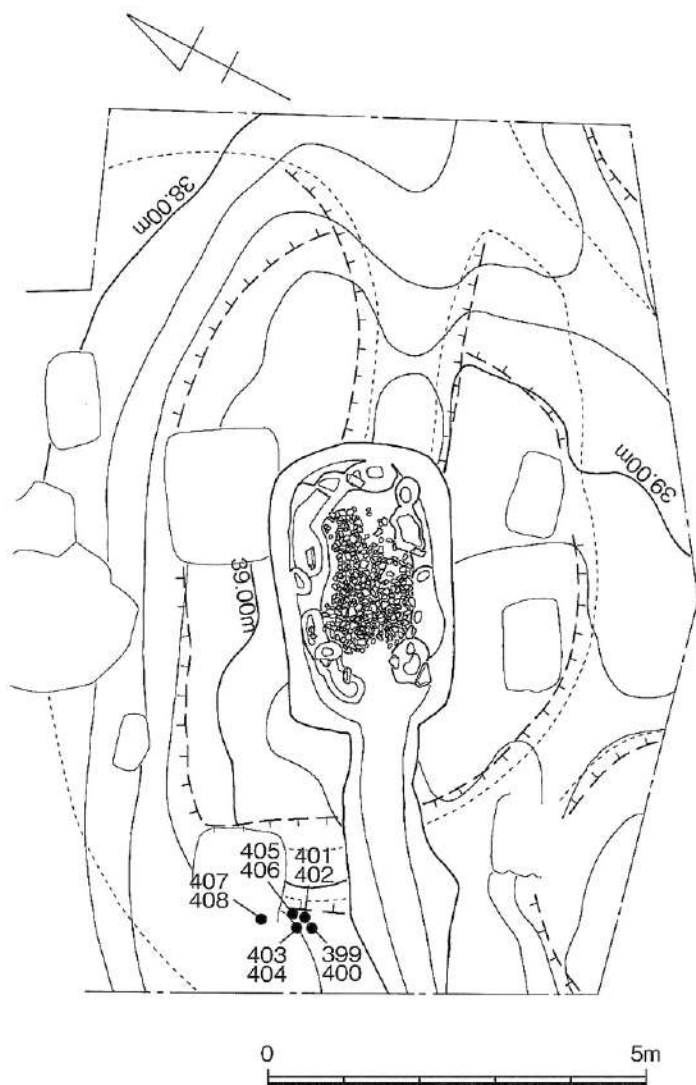
第72図 S0118出土遺物実測図① (1/3)



第73図 SO118出土遺物実測図② (1/3)



第74図 SO118出土遺物実測図③ (1/2・1/3・1/4)



第75図 SO119地山整形図 (1/100)

せた状態であった。407と408は色調や焼成具合が異なり製造時はセットのものではなかったと考えられる。399・401・403・405・408は天井部外面が回転ヘラケズリ調整で、口縁端部内面を凹ませる。399は口縁部と体部の境に甘い段をつける。405は口縁部と天井部の境を角張らせ、口縁部は緩やかに外湾する。400・402・404・406・407は底部外面が回転ヘラケズリ調整で、口縁端部を丸く作る。409・410・411は坏蓋である。409は1区周溝から出土。口縁部と体部の境に甘い段をつけ、口縁端部内面を凹ませる。天井部外面は回転ヘラケズリ調整である。410は本墳内での出土地点が不明である。口縁部と体部の境に段を付け、口縁部内面を凹ませる。411は4区墓道側から出土。かえりをもつもので天井部は回転ヘラケズリ調整。412は坏身である。1区周溝から出土。扁平な形態のものである。底部は回転ヘラケズリ調整で、口縁端部は丸く作る。413は坏である。4区Cベルト側から出土。底部外面はナデ調整。414は短頸壺である。1区周溝から出土。底部外面は回転ヘラケズリ調整で、胴部外面はカキメ後回転ナデ調整である。415は長頸壺である。1区墳裾から出土。口縁部と胴部は接合しない。肩部は角張り稜がつく。外面は自然釉とその剥離により調整不明瞭である。416～418は有蓋脚付き短頸壺である。

5) SO119 (第75・76図 図版39)

盛土は旧表土の上に最大0.2m残存していた。地山整形は南北より東西に長くおこなわれている。

主体部

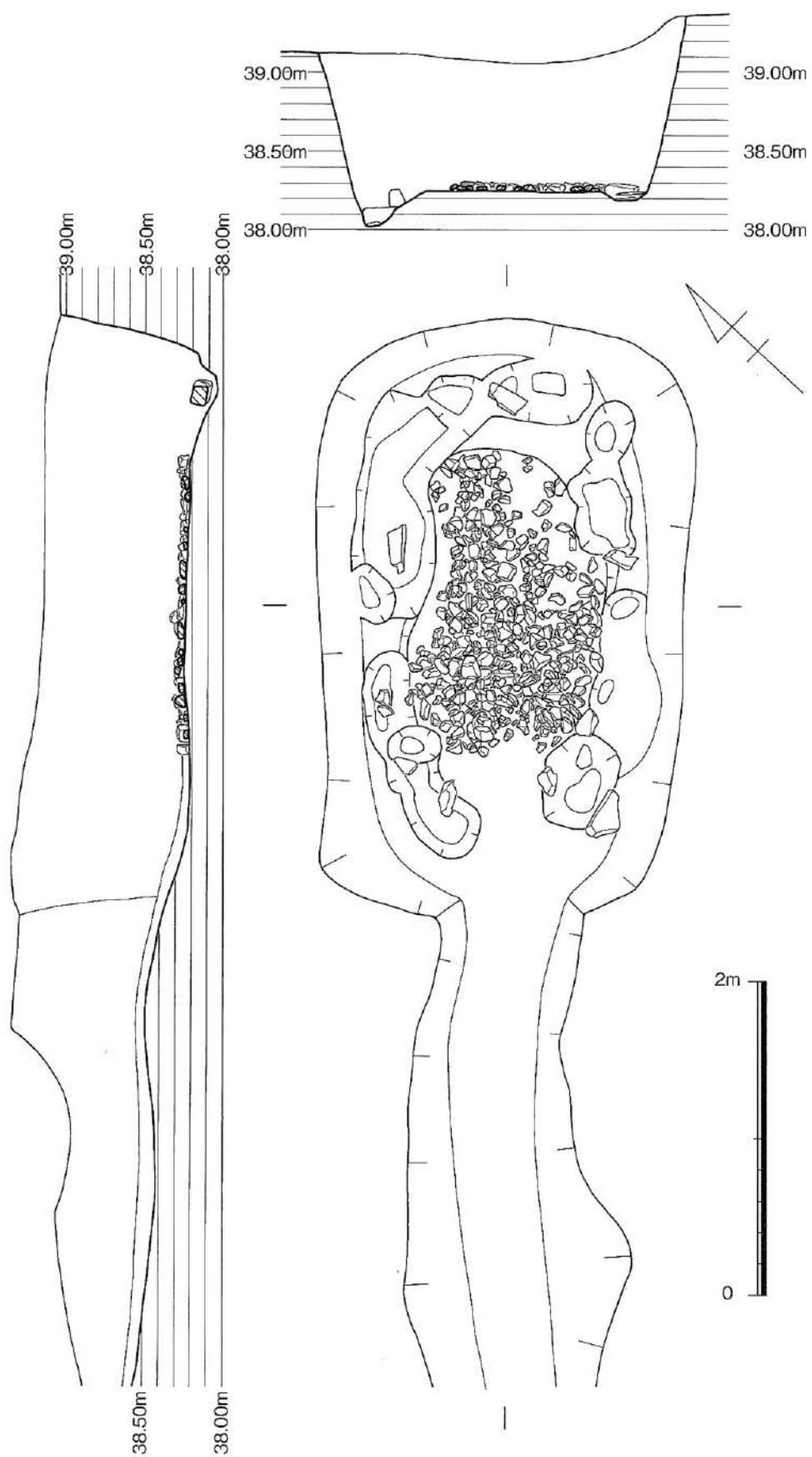
石室は破壊され腰石もすべて抜かれていたが、根固め石は残り敷石もかなり残存していた。石材の抜き取り痕からすれば、両袖の横穴式石室だと考えられる。

墓道床面は波打つような形状である。

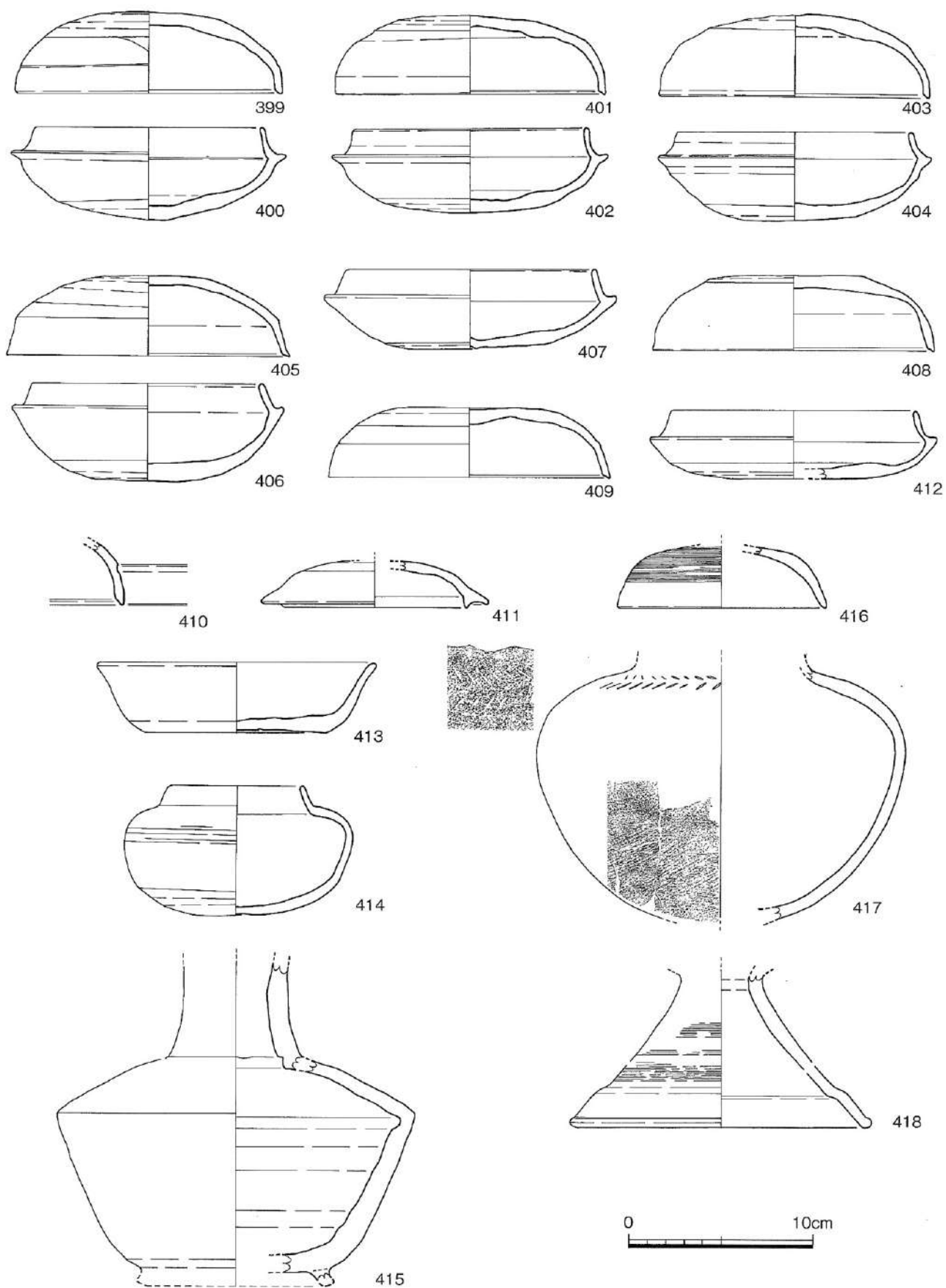
墓坑の上端の規模は、長さ3.83m、幅2.38mで、深さは1.11mである。

出土遺物 (第77・78図 図版40)

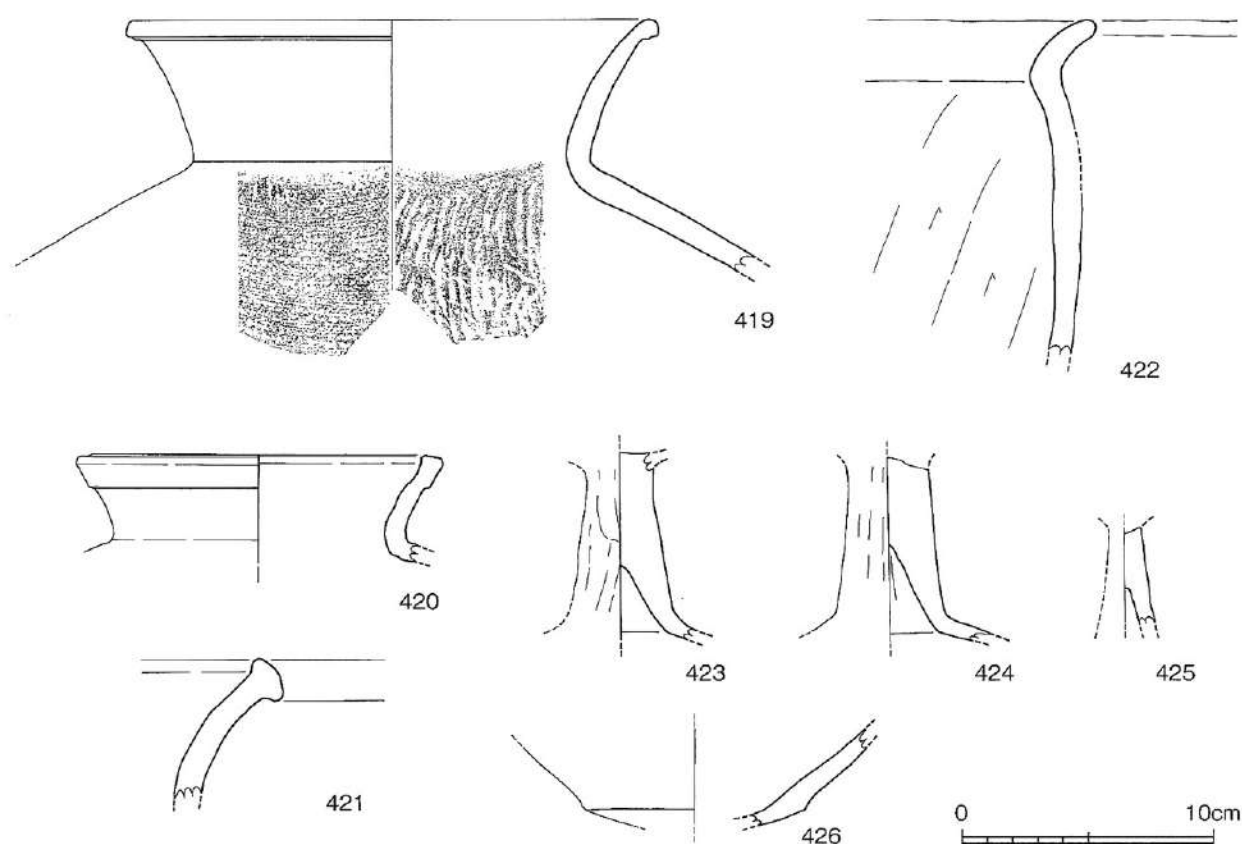
須恵器 399～408は墓道の左壁上端から北側の近いところで、一括して出土した。399・401・403・405・408は坏蓋、400・402・404・406・407は坏身である。出土状況では、399と400、401と402、403と404、405と406、407と408がセット関係になるが、400・402・404・406が正位に置かれていたのに対し、407は底部を上に向けてひっくり返し、その上に408をの



第76図 SO119主体部実測図 (1/40)



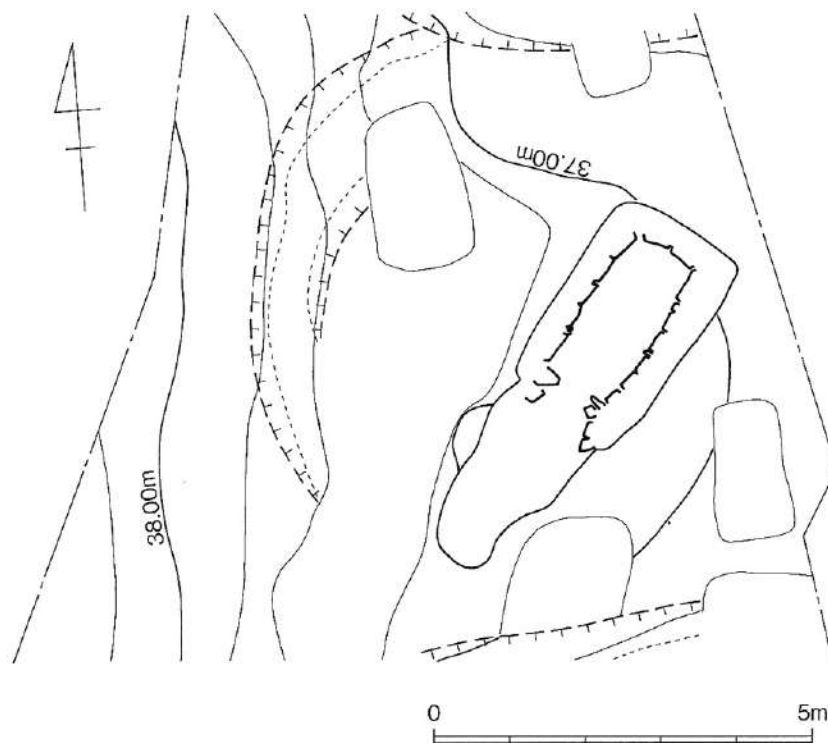
第77図 S0119出土遺物実測図① (1/3)



第78図 SO119出土遺物実測図② (1/3)

3区から出土。出土状況は不明であるが焼成具合や色調などから一連のものと判断した。蓋の416の天井部外面は条痕幅の狭いカキメ調整である。417の肩部には向きを変えた2段の刺突文を施す。外面は平行タタキの後416と同様な条痕幅の狭いカキメ調整である。タタキ目は中位付近に少し残存する。418は緩やかに外湾し端部付近で屈曲させる。端部はやや外に張り出させるように丸く作る。外面は屈曲部より上位がカキメ調整である。419～421は甕である。419は3区周溝から出土。胴部外面はカキメ調整で、内面は弧状の当て具痕が残存する。420も3区周溝から出土。口縁部のみを図化したが、同一個体と考えられる胴部片も出土している。端部の断面形は長方形で内面を摘み出す。図化していない胴部は、外面が擬格子タタキ後ナデ調整で、内面は同心円当て具痕が残存する。421も3区周溝から出土。口縁端部は内外面ともに突出させる。

土師器 422は甕である。1区墳裾から出土。胴部外面はナデ、内面はヘラケズリ調整である。423～426は高坏である。423・424は3区周溝から出土。ともに脚柱部外面はタテ方向のナデ調整。内面は423がナデ、424はヨコ方向のヘラケズリ調整である。425は1区墓道横から出土。ミニチュア高坏の脚部と考えられる。上面を凹ませて、坏部との接合面になっている。調整は磨耗で不明である。426は4区表土から出土。坏底部と口縁部の境に、明瞭な稜がつく。調整は磨耗で不明である。



第79図 SO120地山整形図 (1/100)

6) SO120 (第79～81図 図版41・42)

盛土は確認できなかったが、墳丘西側で浅い周溝を検出した。周溝下端から玄室中心までの距離は4m前後である。

主体部

両袖の竪穴系横口式石室である。両側壁の玄門部側、奥壁側ともに高さ1m程残存しており、楣石上面の高さも約1mである。両側壁最上位の幅は玄門部側で約30cm、奥壁側で約60cmと奥壁側が広がっている。崩落した石はあるものの、楣石上面と両側壁残存高の約1mの高さで天井石が架構されていたと考えて大きな誤差はないと考えられる。

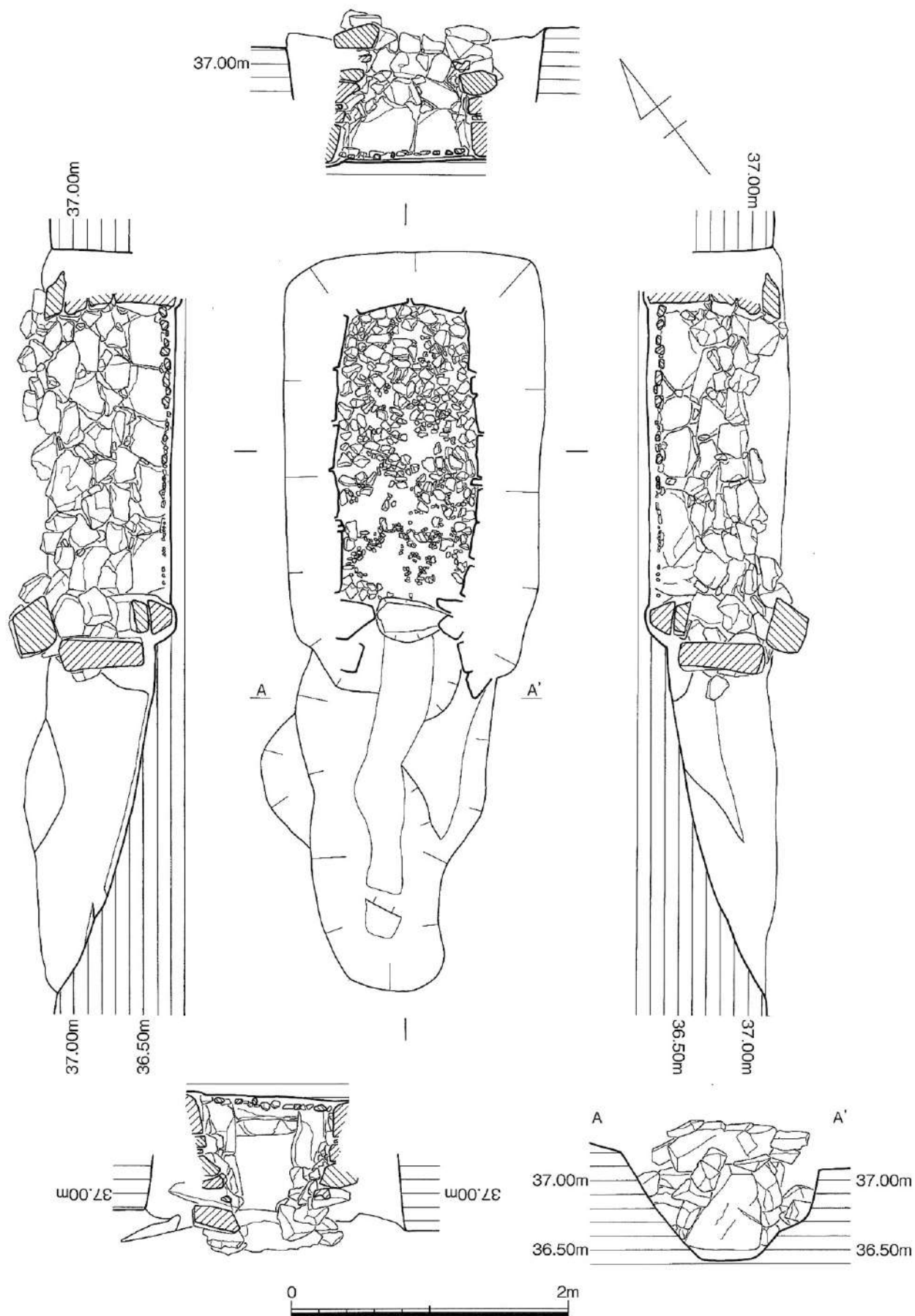
両側壁は腰石から上位で内傾し、SO1と違い奥壁でも少し内傾する。

玄門部は両袖式で袖石は両側とも1段目は柱状に石を立てている。框石は1石ずつ2段に横長の石を用いている。閉塞は框石上でおこなうのではなく、前庭部側に板状の石を立て、空隙を塊石で埋めている。

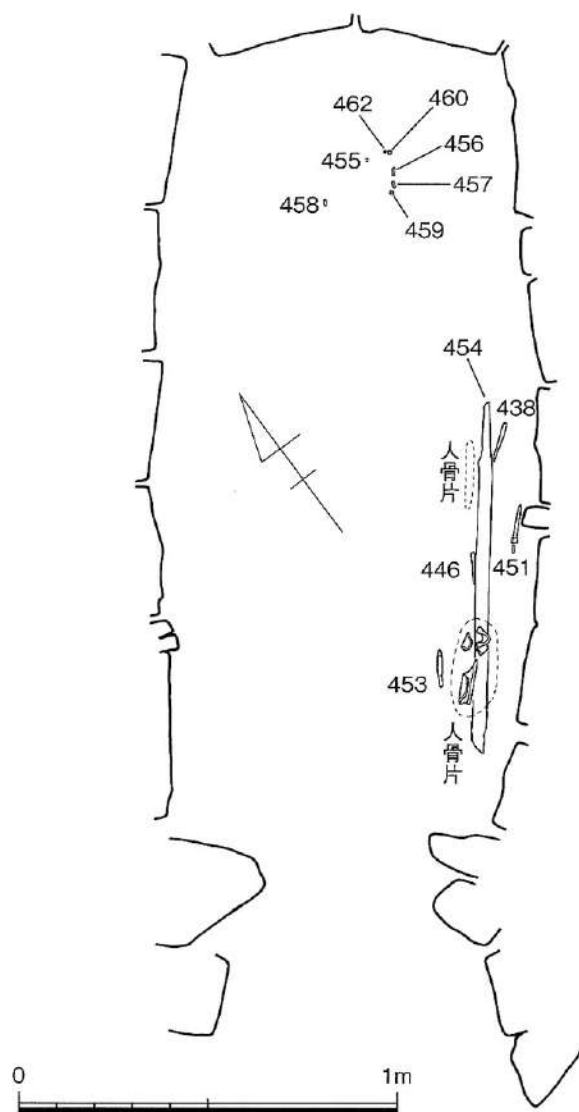
石室の平面形は、胴張りの狭長な長方形であり、敷石は全面に敷き詰められたものではないが、元来この様な状態であったのかもしれない。右側壁側で鉄製品がまとまって出土し、このあたりでは骨片が残存していた。奥壁側では装身具類が集中して出土した。前庭側壁が構築されるが幅の短いもので、墓道は玄門部に向かって降る。墓坑の上端の規模は、長さ3.1m、幅1.88mで、深さは1.02mである。

出土遺物 (第82～85図 巻頭カラー図版2 図版42・43)

須恵器 427は坏身である。トレンチから出土。口縁部は直線的に立ち上がり端部内面を少



第80図 SO120主体部実測図 (1/40)



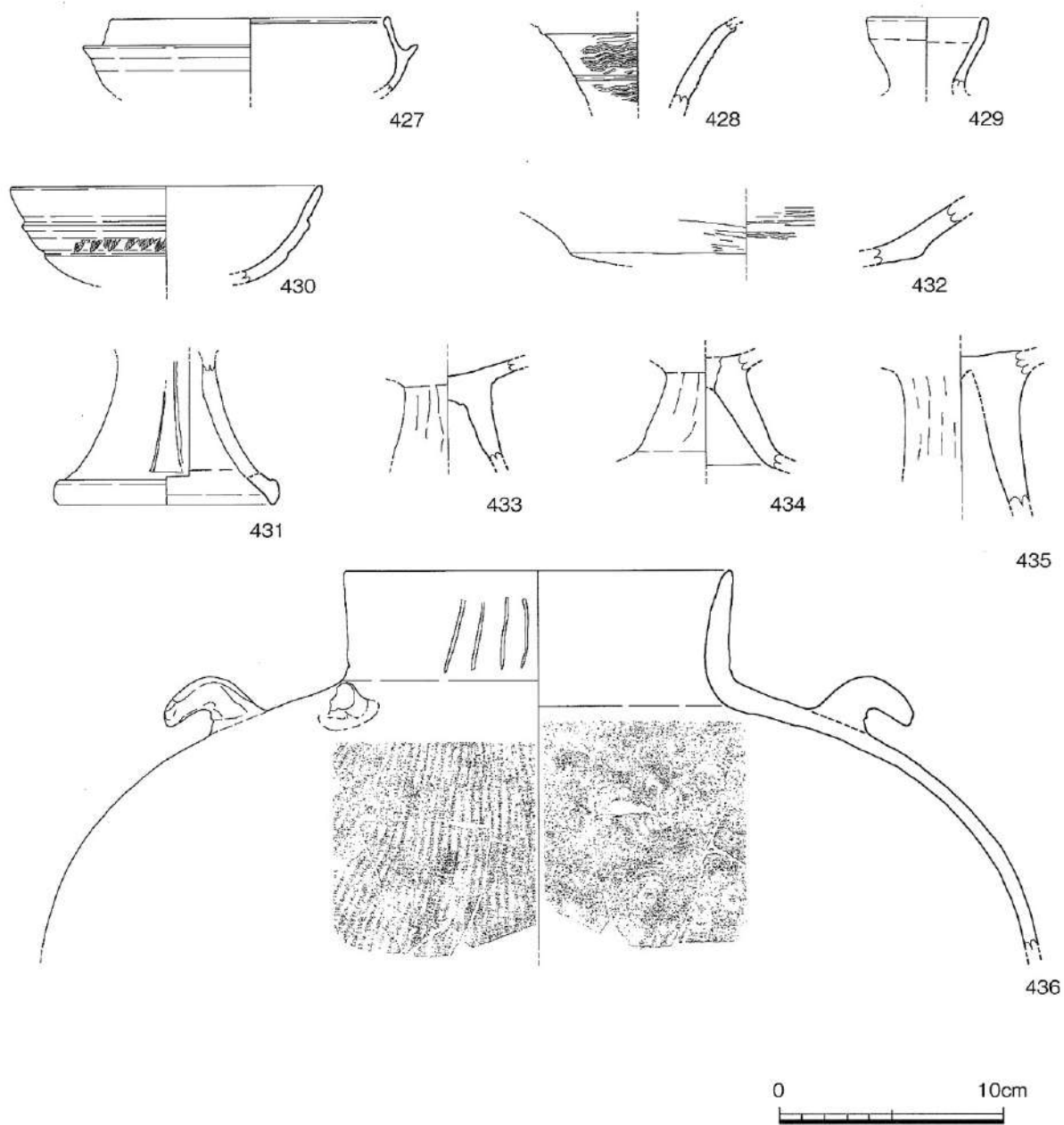
第81図 SO120石室内遺物出土状況図 (1/20)

し凹ませる。428は腿の頸部である。トレンチから出土。口縁端部はすべて欠損する。沈線を1条巡らせてその上下に波状文を施す。429は平瓶等の口縁部である。トレンチから出土。430と431は接合しないが、焼成具合や色調などから同一個体と考えられる高坏である。周溝から出土。坏部には波状文を施し、脚部には4方向に台形透かしを穿つ。436は壺である。西側表土など広範囲から出土。肩部は径の1/2程が欠損しているため、本来3個所に把手があったと考えられるが、原状では2個所にのみ残存している。口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、外面にヘラ記号を施す。胴部外面の調整は平行タタキ後ナデ、内面は同心円当て具痕が残存するが、ほとんどナデ消されている。437は甕である。西側表土など広範囲から出土。器高104cmの非常に大きなものであり、焼け歪みが大きい。口縁部には向きを変えた2段の刺突文と波状文を施す。胴部外面は平行タタキ後ナデ調整、内面は同心円当て具痕が残存する。

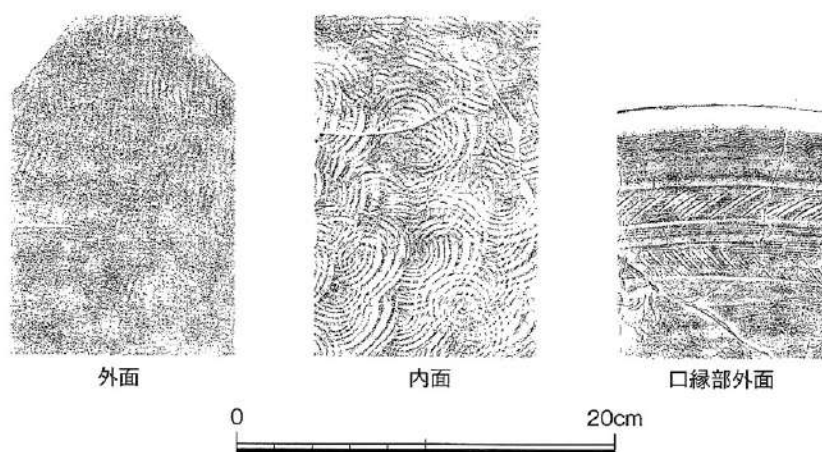
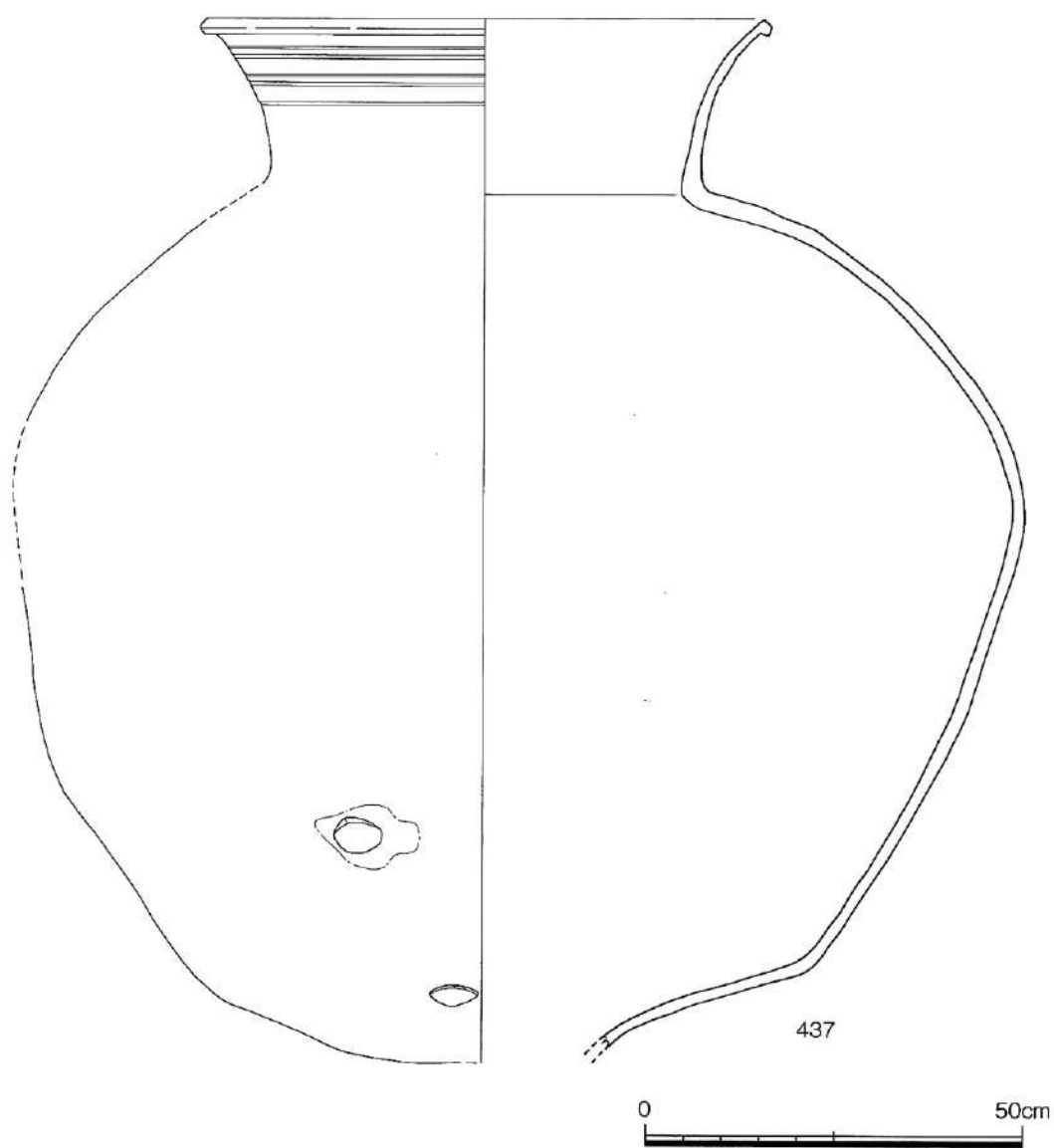
土師器 432～435は高坏である。いずれも周溝から出土。432は坏部で、内外面ともにヘラミガキ調整。433～435の脚柱部外面はタテ方向のナデ調整で、435の脚柱部内面はヨコ方向のヘラケズリである。

鉄製品 すべて石室の右側壁側から出土。438～450は鉄鏃である。440～443と444・446はそれぞれ同一形態の鏃身部をもつ。451・453は完形品の刀子である。452は451の柄元金具である。451の刃部付近には布目痕と思われるものがある。454は鉄刀である。目釘穴が1個所観察できる。刀身には鏽に覆われ種類の判別できない鉄製品が付着する。

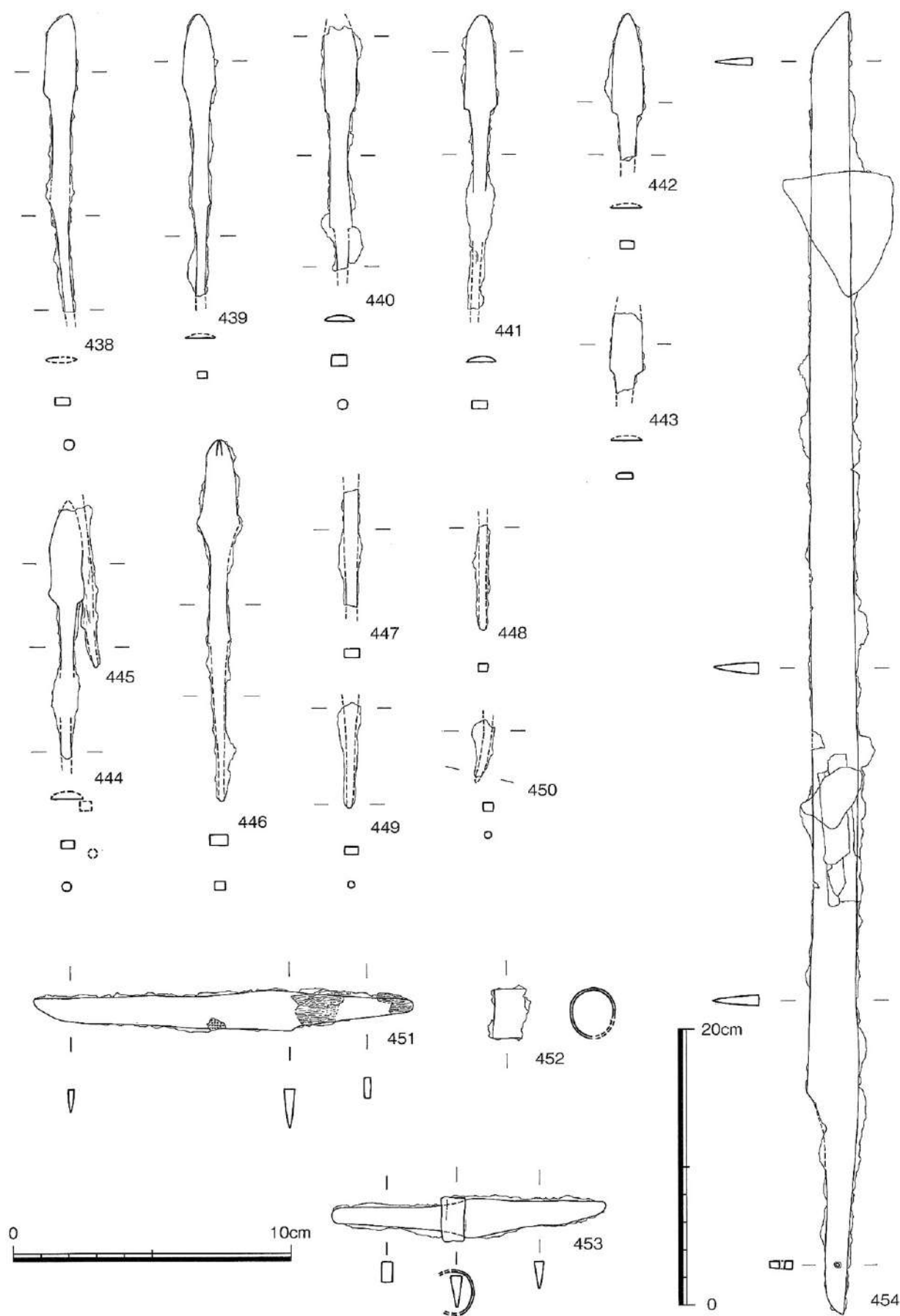
装身具類 すべて石室の奥壁側から出土。455は銀製の耳環である。小型で細身のものであり、表面は泥と錆に覆われ観測できない。外径1.6cm、断面は円形で径0.17cm。456～458は碧玉製の管玉である。456・457は片側穿孔で、458は両側穿孔である。459・460は水晶製のソロバン玉で、ともに片側穿孔である。461～467はガラス小玉である。



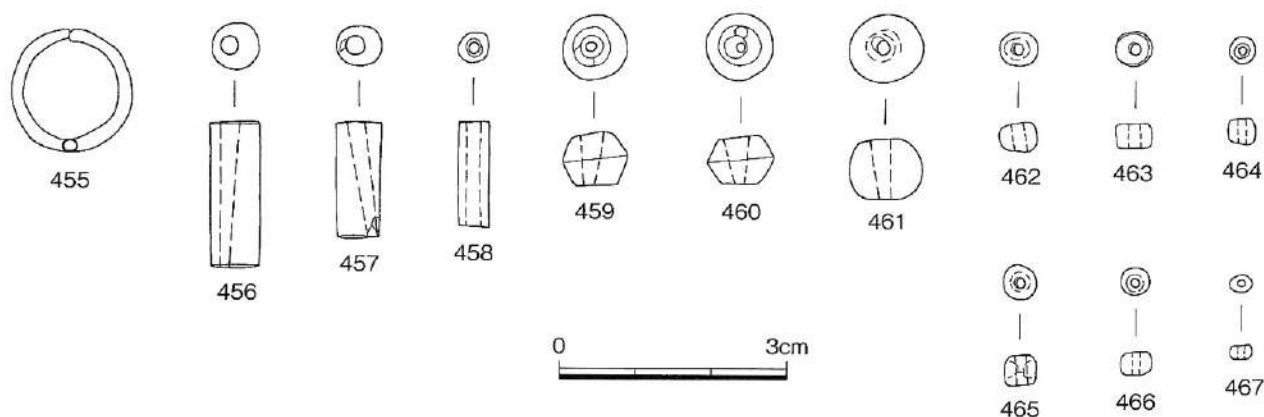
第82図 S0120出土遺物実測図① (1/3)



第83図 SO120出土遺物実測図② (1/4・1/10)



第84図 SO120出土遺物実測図③ (1/2・1/4)



第85図 SO120出土遺物実測図④ (1/1)

7) SO125 (第86・87図 図版44)

盛土は残存していないが、周溝を検出した。墳丘の北東から南側にかけては調査区外になるため全形は不明である。径10m前後の円墳である。

主体部

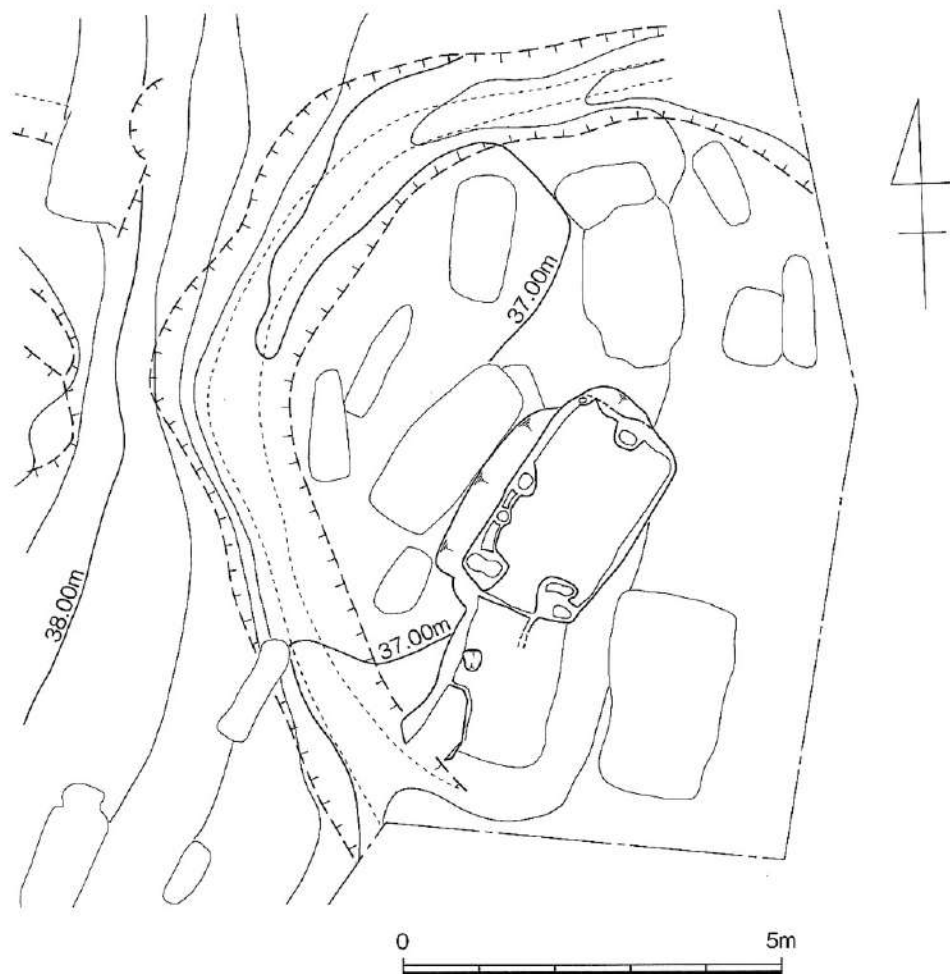
石室は破壊され石材も完全に抜き取られているが、抜き取り痕からすると両袖の横穴式石室だと考えられる。

墓道はSK-123を切って掘られており、掘り間違いにより墓道の全形の把握に失敗したが、玄門部に向かって若干降ると考えられる。

墓坑の上端の規模は、長さ3.05m、幅1.79mで、深さは0.74mである。

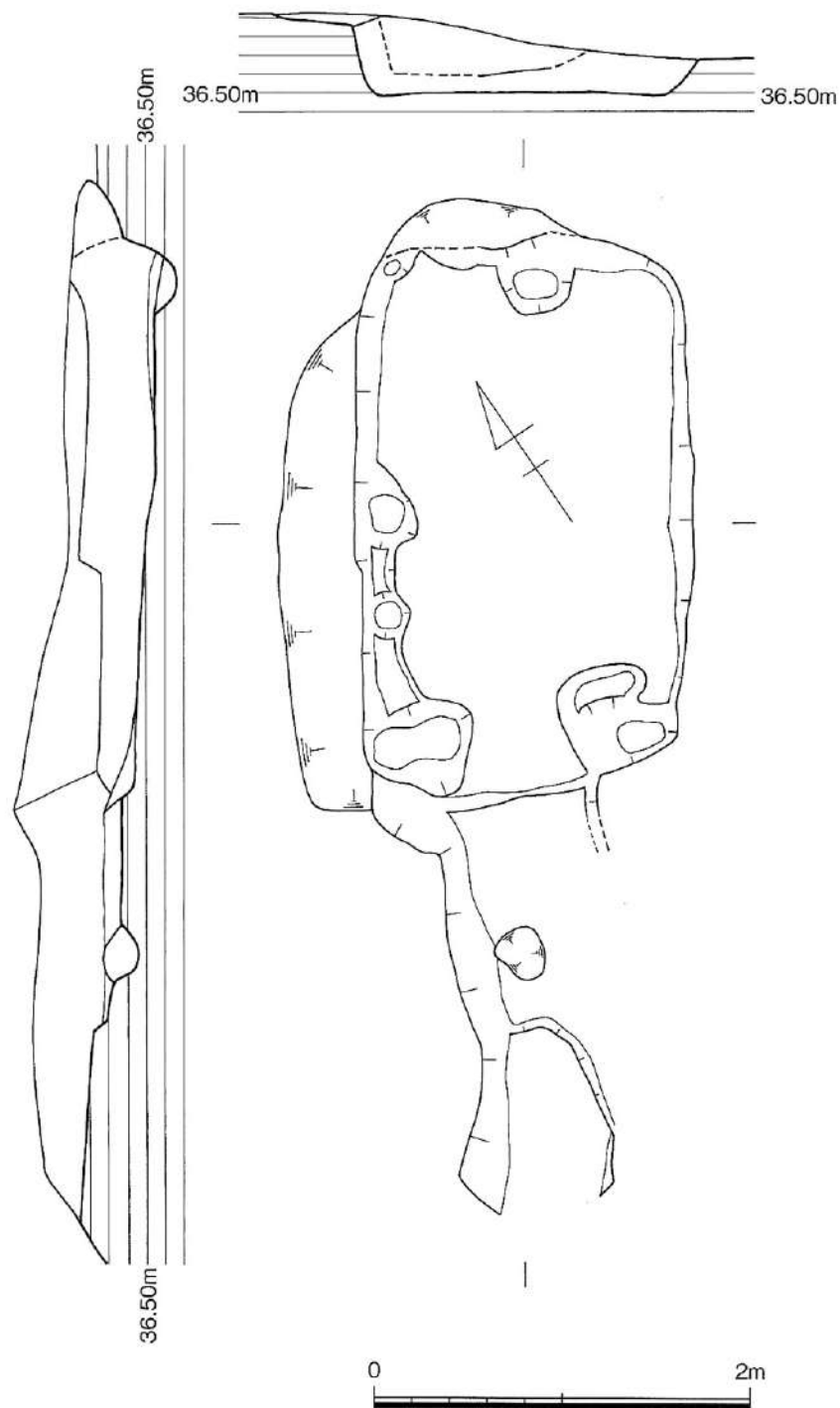
出土遺物 (第88～91図 図版44～46)

須恵器 468～471は1区周溝でまとまって出土した。468・470は坏蓋、469・471は坏身である。468と469、470と471がセットになる。468と469は身と蓋を組み合わせたうえでひっくり返した状態で、470と471は正位で出土した。468の天井部は回転ヘラ切りで切り離した後に平行タタキ?を施している。回転ヘラケズリ調整を施していない。内面には弧状の当て具が残存する。口縁端部を丸く作る。469の底部も回転ヘラ切りで切り離した後に平行タタキ?を施している。回転ヘラケズリ調整を施していない。内面には弧状の当て具が残存する。口縁端部は尖り気味にすぼまる。470の天井部も回転ヘラ切りで切り離した後に回転ヘラケズリを施していない。内面には当て具痕と思われるものがあるが判然としない。口縁端部を丸く作る。471の天井部も回転ヘラ切りで切り離した後に回転ヘラケズリを施していない。内面には当て具痕が残存する。口縁端部は尖り気味にすぼまる。472～477は坏蓋である。472～476は1区周溝から、477は周溝北側表土から出土。472は器壁が厚いもので、天井部外面は回転ヘラケズリ調整である。口縁部と体部の境に段をつけるが稜はあまり鋭くない。口縁端部を凹ませる。473も天井部外面は回転ヘラケズリ調整である。口縁部と体部の境に段をつけるが沈線状である。口縁端部内面を凹ませる。474も天井部外面は回転ヘラケズリ調整である。口縁部と体部の境に段をつけるが沈線状である。口縁端部内面を凹ませているが、内面の幅はやや広い。475も天井部



第86図 SO125地山整形図 (1/100)

外面は回転ヘラケズリ調整で、口縁端部を凹ませる。476も天井部外面は回転ヘラケズリで、口縁端部を丸く作る。477の天井部は回転ヘラ切りで切り離し、回転ヘラケズリ調整を施さない。口縁端部は丸く作る。478は壺蓋と考えられる。1区周溝から出土。天井部は回転ヘラ切りで切り離したままである。口縁部と体部の境に沈線を施し、口縁端部は丸く作る。外面にヘラ記号を刻む。479～485は坏身である。479は2区周溝、480は1区周溝から出土。ともに底部外面は回転ヘラケズリ調整で、口縁端部は丸く作る。481は1区周溝から出土。底部外面は回転ヘラケズリ調整で、口縁端部は平坦気味に丸く作る。482は2区周溝表土から出土。底部外面は回転ヘラケズリ調整で、口縁端部は尖り気味にすぼまる。483は周溝表土から出土。底部は回転ヘラ切りで切り離した後はナデ調整で、回転ヘラケズリ調整を施さない。口縁端部は鋭角にすぼまる。484は1区周溝から出土。底部は回転ヘラ切りで切り離した後はナデ調整で、回転ヘラケズリ調整を施さない。受け部は極端に上向きになり、口縁端部は尖り気味にすぼまる。485は1区周溝から出土。口縁部は外湾し、端部は丸く作る。486～489は高坏である。486は2区周溝表土から出土。坏部の底部外面は回転ヘラケズリ調整で、脚部には4方向に台形透かし



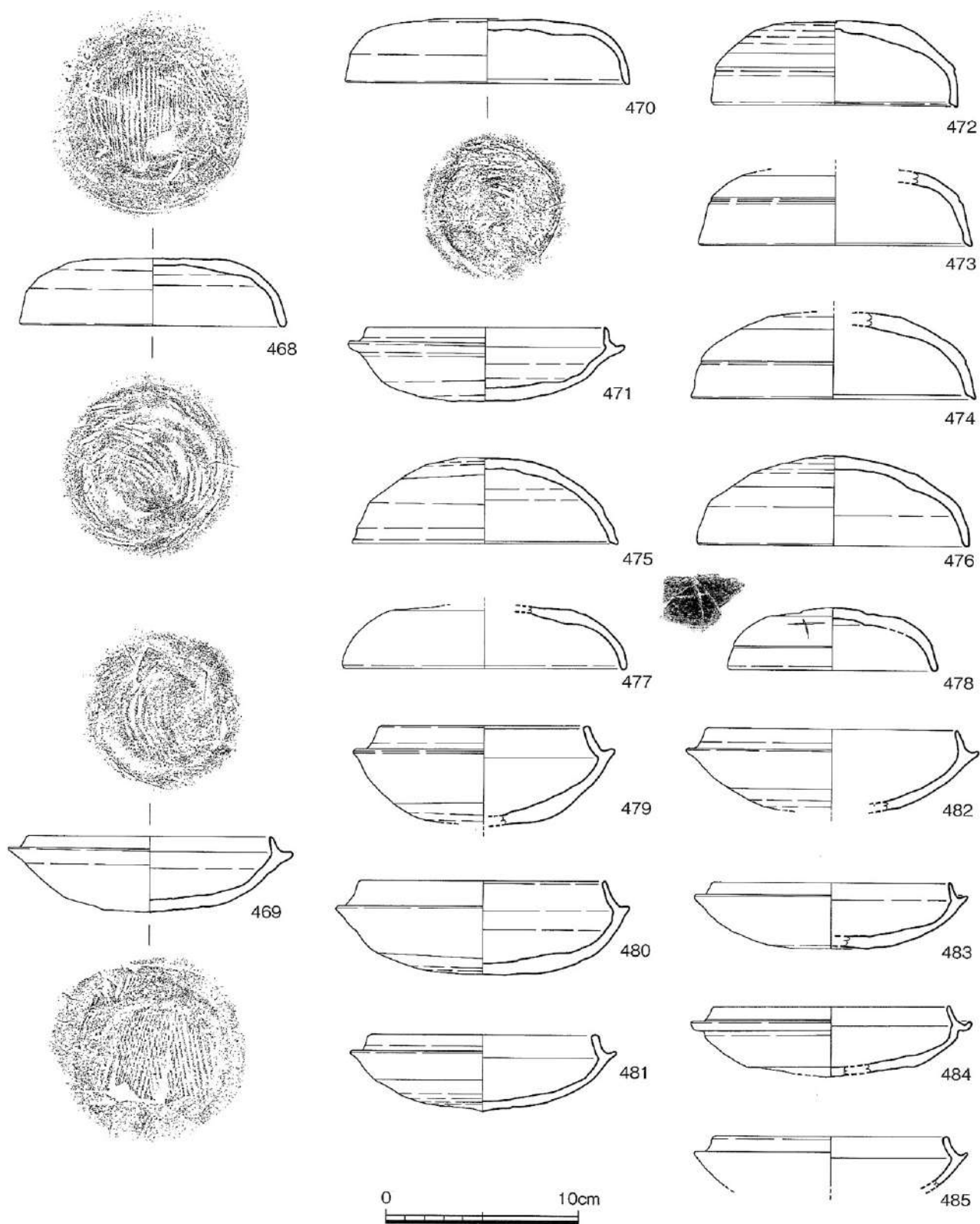
第87図 S0125主体部実測図 (1/40)

を穿つ。487は2区周溝から出土。486と同一個体の可能性がある。波状文を施す。488は1区周溝から出土。体部の段はかなり突出して鋭い稜がつき、口縁端部内面には沈線を施す。坏部の底部外面は回転ヘラケズリ調整である。489は1区周溝から出土。坏部の底部外面から脚部外面はカキメ調整である。490・491は甕である。490は1区周溝から出土。頸部の沈線より上位には波状文、肩部には刺突文を施す。体部外面中位から底部外面は回転ヘラケズリ、肩部外

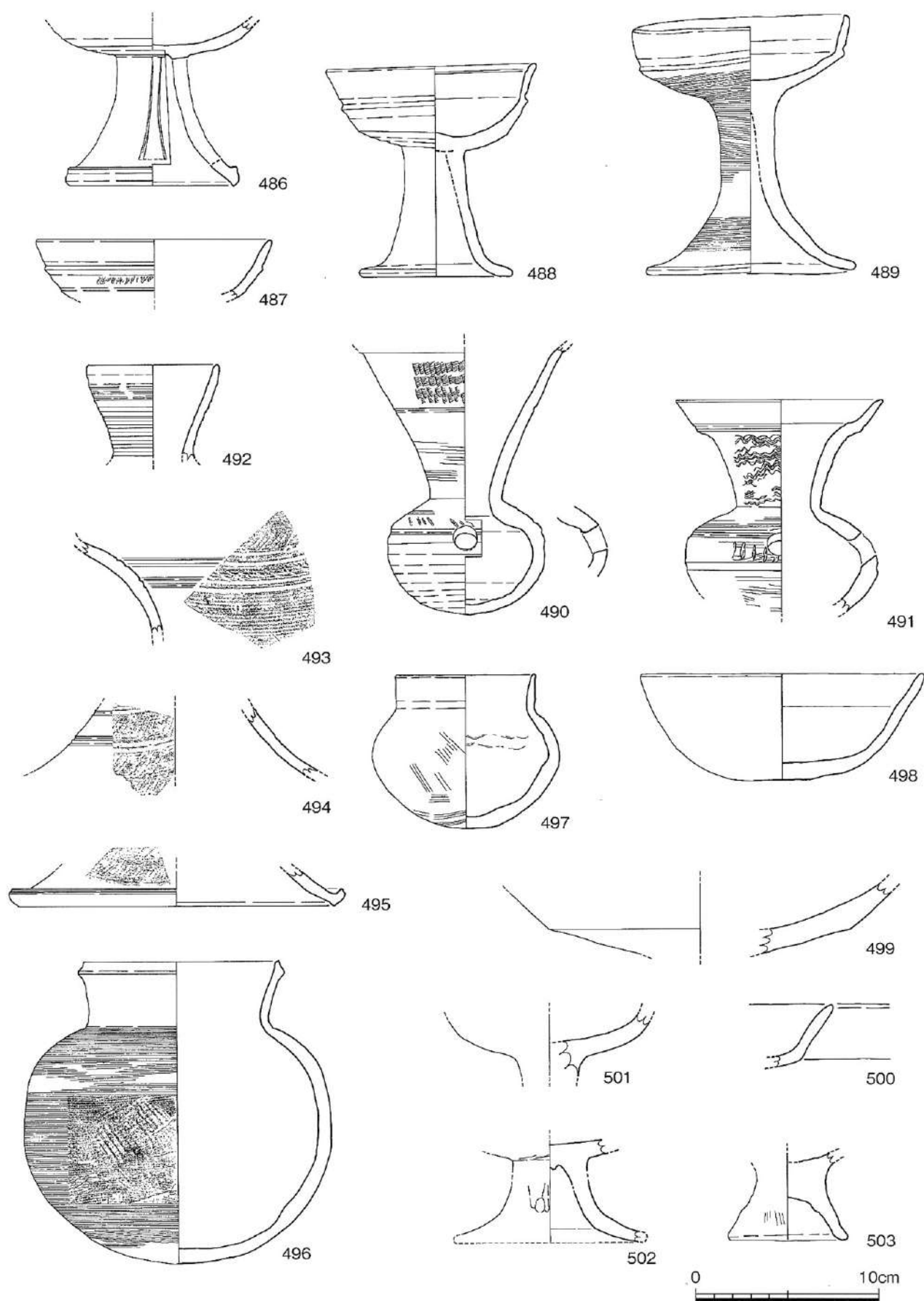
面から頸部外面下位はカキメ調整である。491は2区周溝から出土。頸部には波状文、体部中位には刺突文を施す。体部外面はカキメ調整である。492～495は焼成具合や色調などから同一個体のもので、脚付き壺になると考えられる。いずれも周溝から出土。492は口縁部で、外面はカキメ調整である。中位にあまい沈線を2条施す。493は胴部上位で、肩部には向きを変えた2段の刺突文を施し、それぞれの刺突文の下に2条の沈線を巡らす。沈線より下位はカキメ調整である。494・495は脚部である。粗雑な刺突文を施す。494と495の復元径からすれば、494の中位にある2条の沈線の上に1段と下に3段で、合わせて4段の刺突文が残存すると推定される。図化していないが、その他にも同一個体と考えられる胴部片が出土している。外面の調整は、擬格子タタキ後カキメ、内面は当て具痕が残存するが、ほとんどナデ消している。496・505～507は甕である。496と505は1区周溝から一括して出土した。496の外面は擬格子タタキ後カキメ調整で、タタキ目は部分的に残存する。内面の当て具痕はほとんどナデ消されている。505の口縁部外面にはヘラ記号を施す。体部外面は平行タタキ後カキメ調整である。内面には当て具痕が残存するが、胴部は同心円当て具で、底部は平行当て具を用いている。506は1区周溝から出土。口縁部外面にヘラ記号を施す。胴部外面は擬格子タタキ後カキメ調整で、口縁部にもほとんどナデ消された状態で、タタキ目が残存する。内面は同心円当て具痕が残存する。507は周溝から出土。頸部がしまる。胴部外面は平行タタキ後カキメ調整。内面は同心円当て具痕が残存し、ナデ調整される。504は横瓶である。周溝北から出土。口縁部に2箇所、ほぼ反対位置に同じ形のヘラ記号を施す。体部外面は擬格子タタキ後カキメ調整で、内面は同心円当て具痕が残存する。

土師器 497は壺である。2区周溝から出土。口縁部は直立する。胴部外面はハケメ調整。498は鉢である。1区周溝から出土。内面は口縁部の屈曲が明瞭だが、外面はわずかに凹むところがある程度で屈曲部をつけない。499～502は高坏である。499は1区周溝から出土。坏部の破片で口縁部は欠損する。器壁が厚く大型のものである。外面はヘラケズリ調整で、内面はナデ調整である。500も1区周溝から出土。坏部片である。口縁部は屈曲部からやや外湾して立ち上がる。501は周溝から出土。坏部は丸みを持つ。内外面ともにヘラミガキ調整である。502は1区周溝表土から出土。脚柱部外面はタテ方向のナデ調整で、内面はヨコ方向のナデ調整である。503は器種不明の脚部である。1区周溝から出土。外面はハケメ後ナデ調整で、内面はヘラケズリ調整だと考えられる。

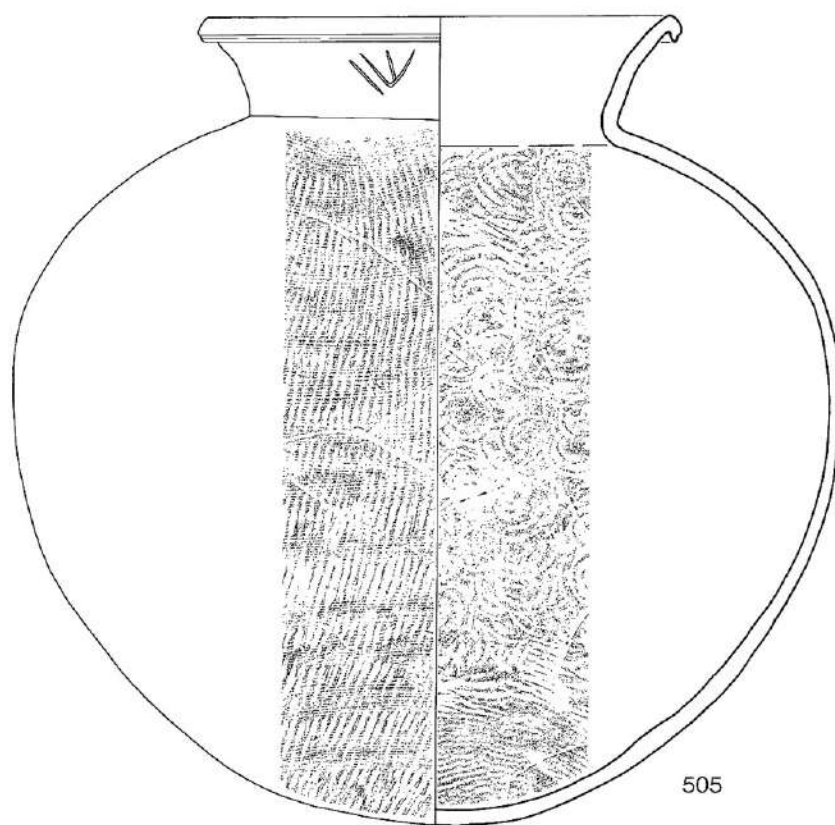
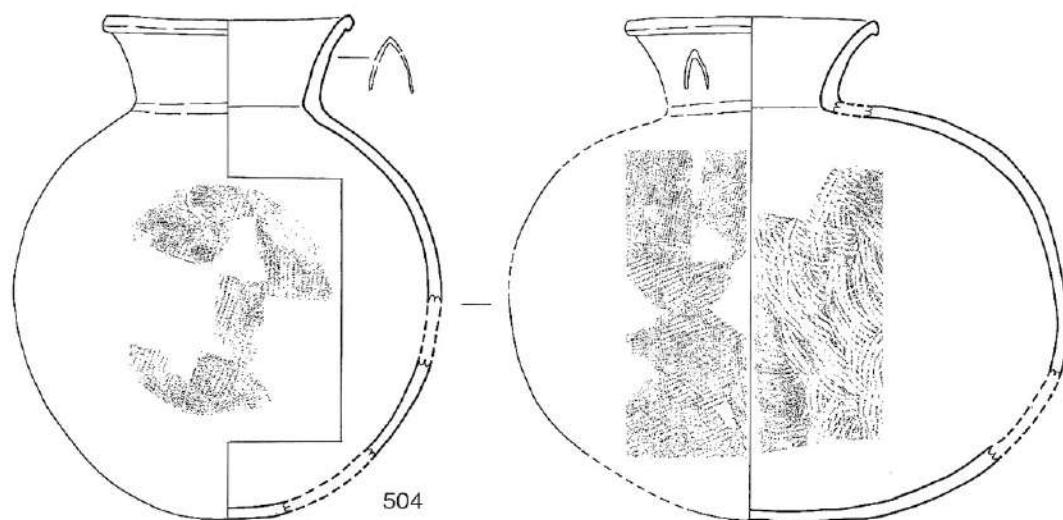
装身具類 508は土玉である。ラベルにはSK123と記載されていたが、SK123は本古墳と切り合い関係にあり、508も黒灰色に焼き上げられた古墳時代に特徴的なものであるため、本古墳出土品と判断した。径12.9mm、厚さ11.0mm、孔径2.3mm。



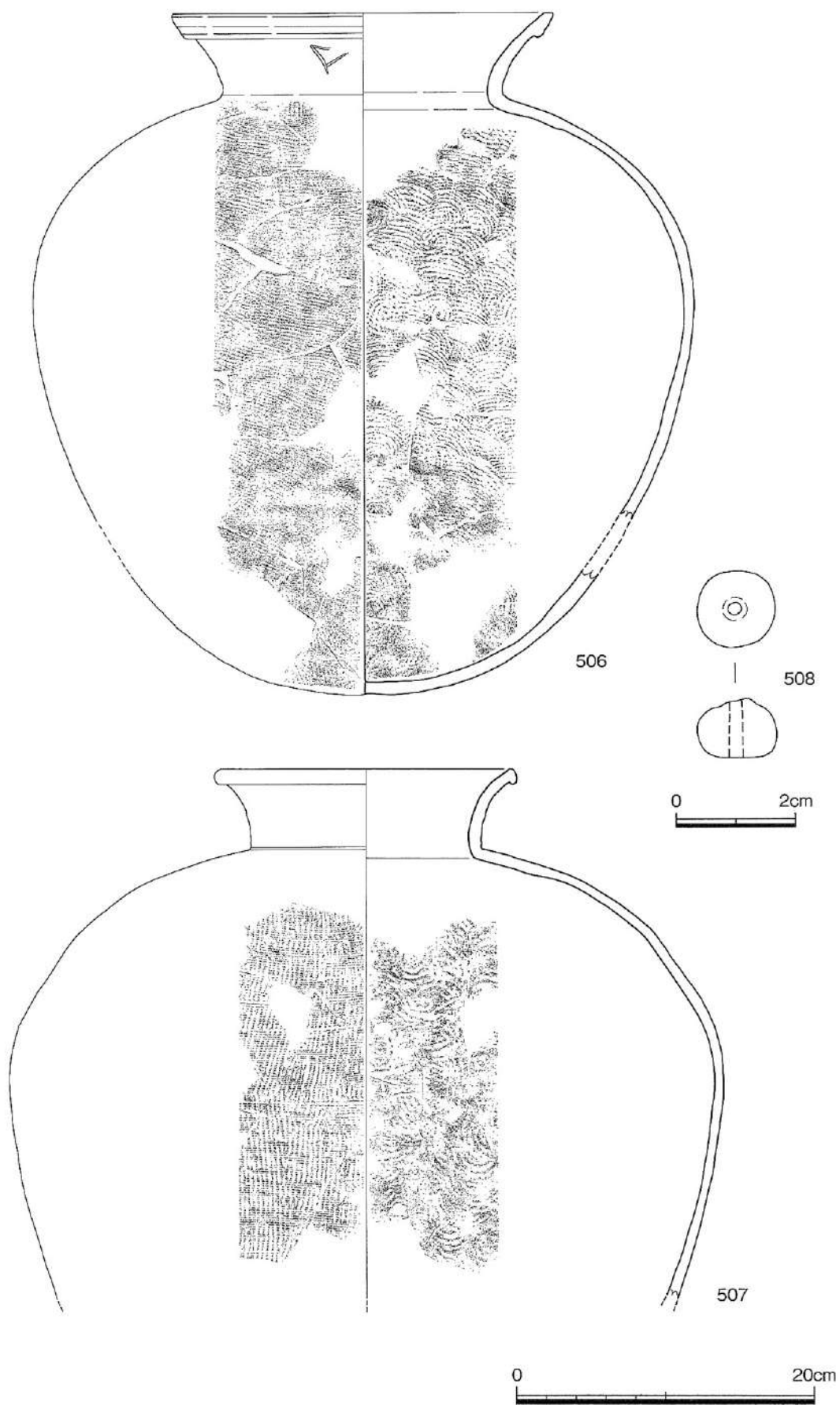
第88図 S0125出土遺物実測図① (1/3)



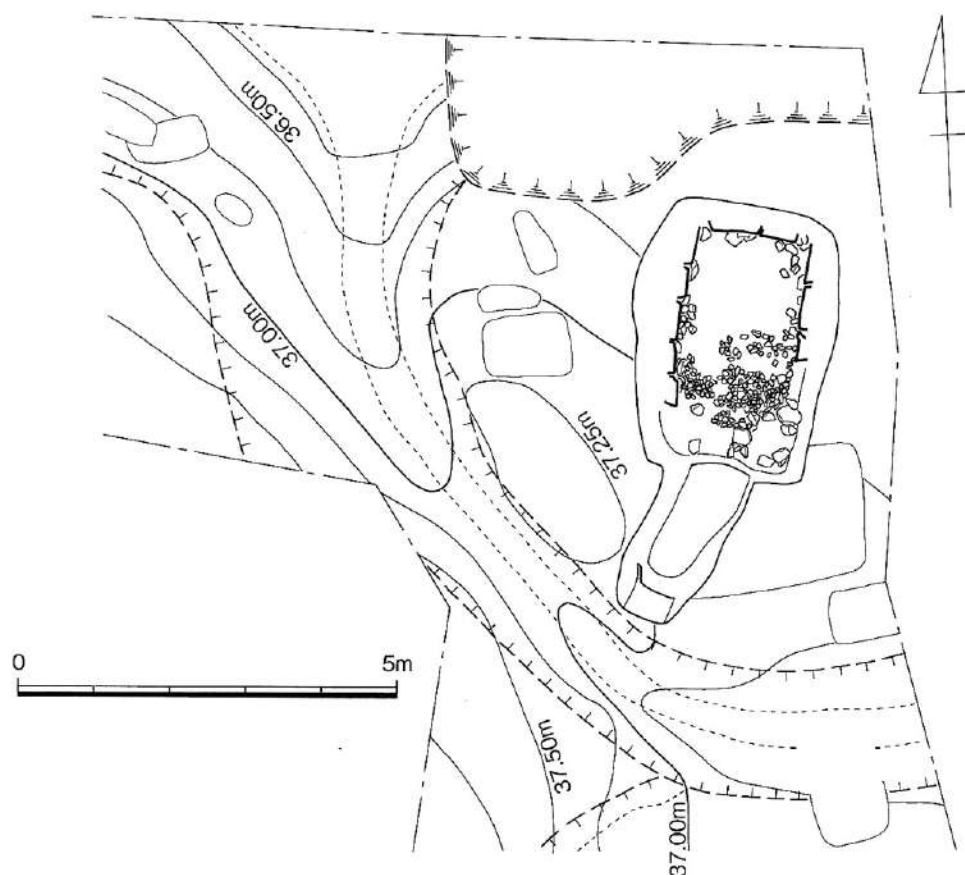
第89図 S0125出土遺物実測図② (1/3)



第90図 SO125出土遺物実測図③ (1/4)



第91図 SO125出土遺物実測図④ (1/1・1/4)



第92図 SO130地山整形図 (1/100)

8) SO130 (第92・93図 図版47)

盛土は残存していないが、墳丘の西から南側にかけて周溝を検出した。北側は削平され東側は調査区外であり、全形は不明である。周溝下端から玄室中心までの距離は4～5m前後である。

主体部

石室は破壊され残りは悪いが、玄門部側に残る根固め石の配置からすれば、両袖の横穴式石室だと考えられる。

左側壁は3段目まで残存しており。石積みは整ったものである。

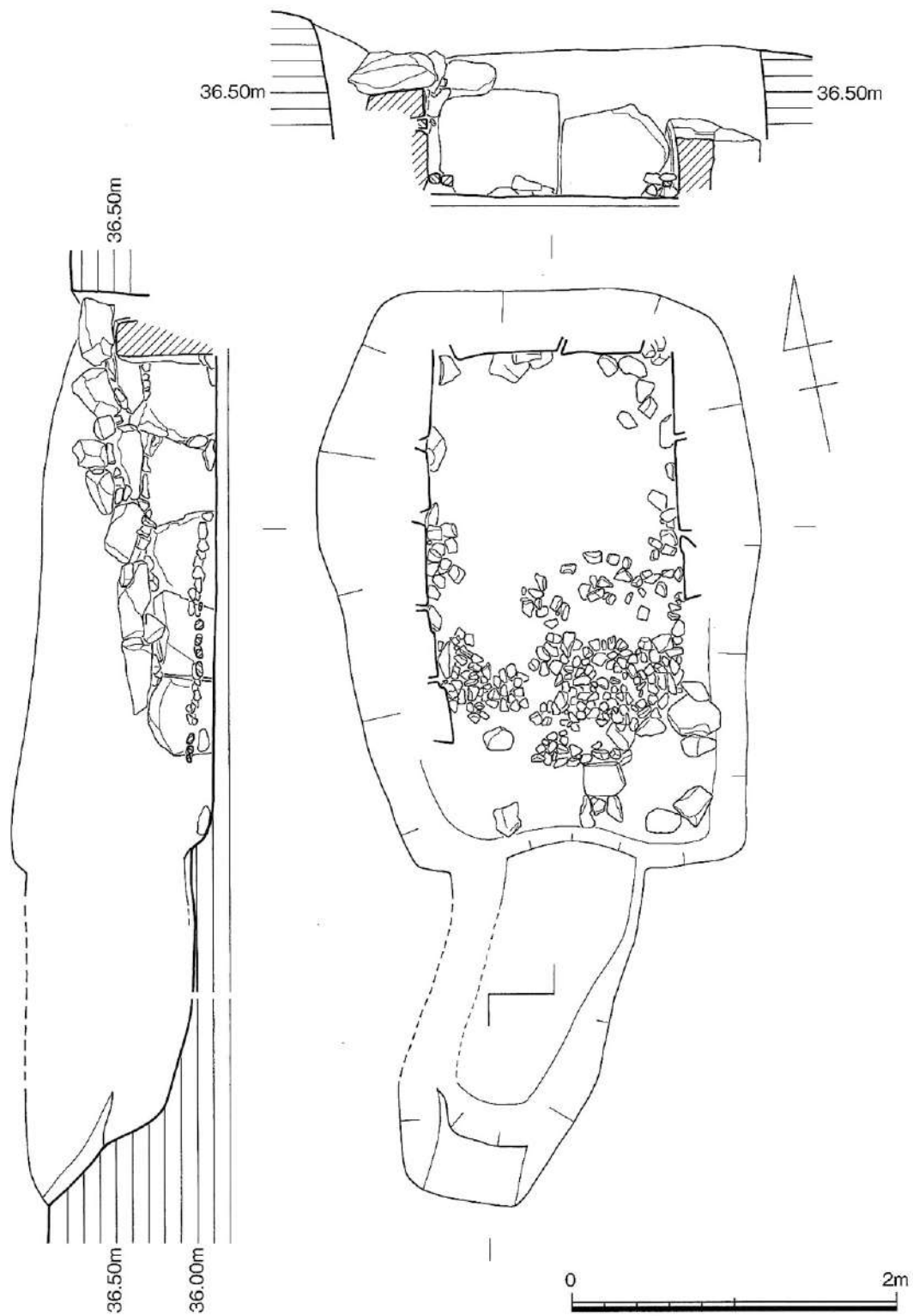
床面の平面形はやや胴張りの長方形であり、一部に敷石が残存する。

墓道はSK133を切って掘られるが西側で検出に失敗した。墓道先端部は急角度に掘り込まれ、ゆるやかに玄門部に向かって降り、平面形は石室に対して少し斜めに接続する。

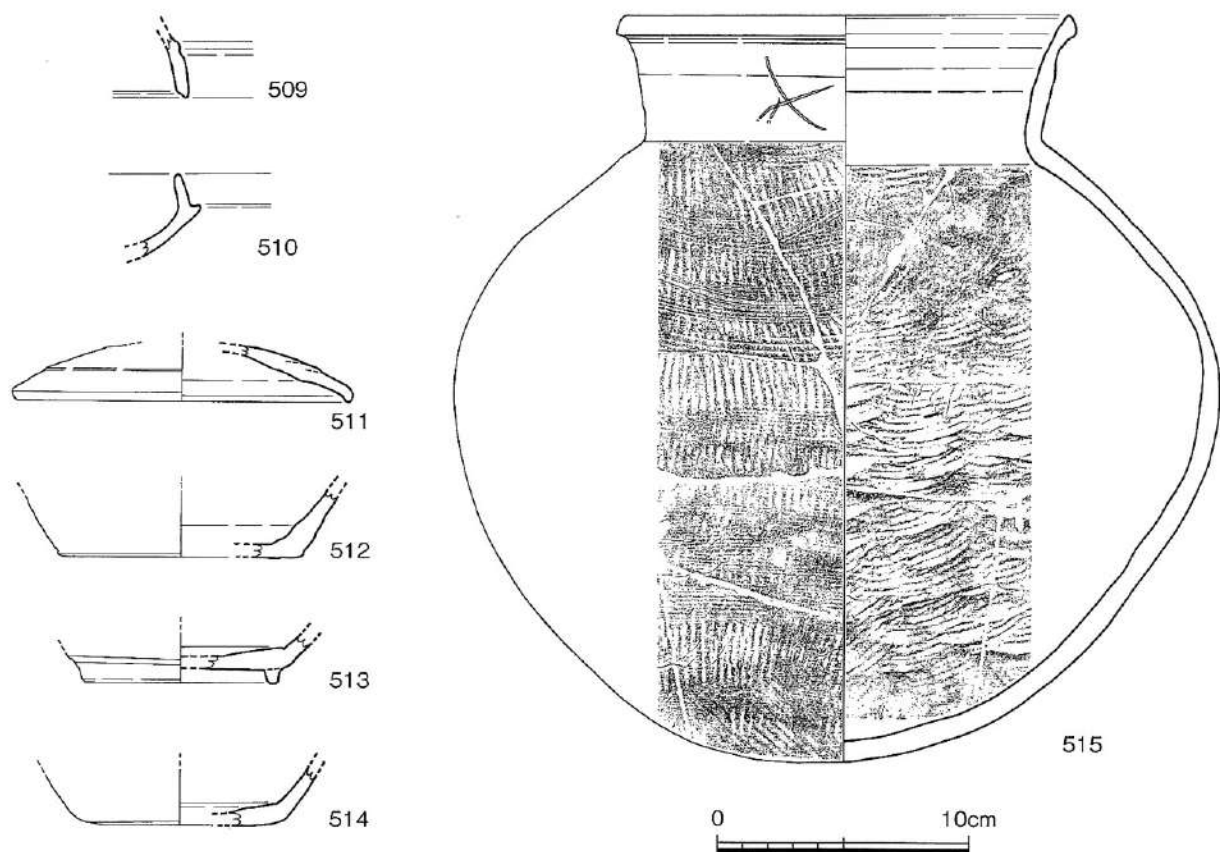
墓坑の上端の規模は、長さ3.6m、幅2.7mで、深さは1.26mである。

出土遺物 (第94・95図 図版47)

須恵器 509は坏蓋である。周溝から出土。口縁部と体部の境に段をつけ、口縁端部内面を凹ませる。510は坏身である。周溝から出土。509と510はいずれも焼成不良で色調も同様であり、セットになる可能性がある。511は坏蓋である。周溝から出土。口縁部の断面が三角形のもので、



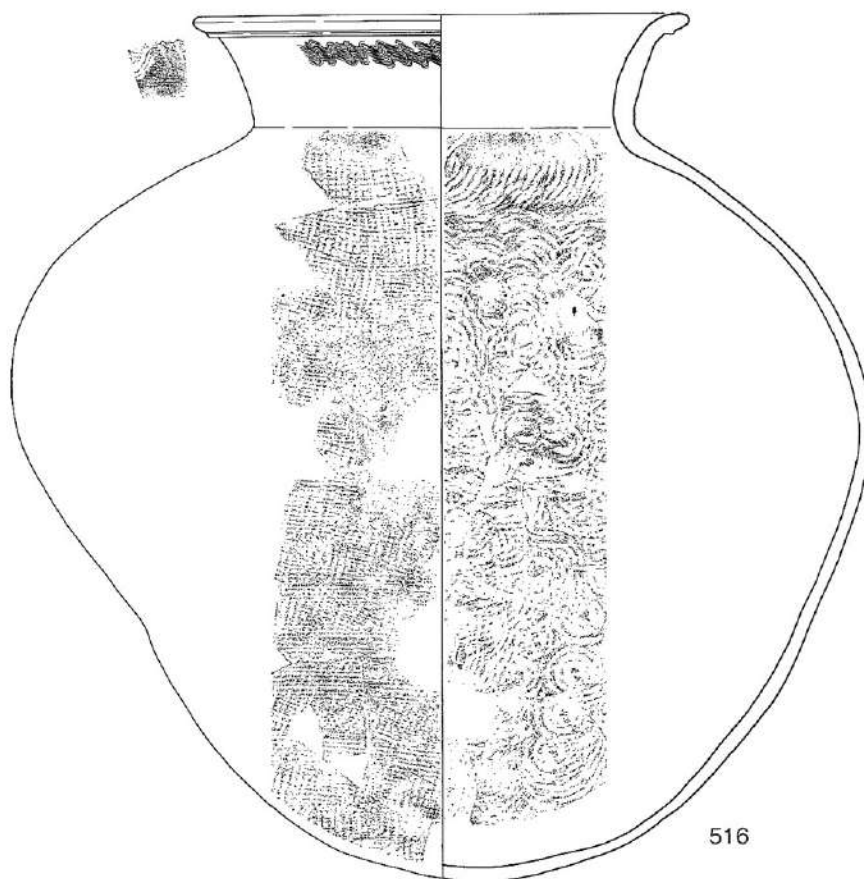
第93図 SO130主体部実測図 (1/40)



第94図 SO130出土遺物実測図① (1/3)

天井部は回転ヘラ切りで切り離し、ナデ調整される。512～514は坏である。周溝から出土。512は壺かもしれない。底部切り離しは回転ヘラ切りで、その後ナデ調整される。513は底部の外側に高台を貼り付ける。514の底部切り離しは回転ヘラ切りである。515～517は甕である。515は1区周溝から出土。口縁部外面にヘラ記号を施す。体部外面は平行タタキ後カキメ調整で、内面は同心円当て具痕が残存し、部分的にナデ調整される。516は周溝から出土。口縁部に波状文を施す。体部外面は平行タタキ後カキメ調整で、同心円当て具痕が残存し底部はナデ調整される。517も周溝から出土。肩が張らない形態である。胴部外面は平行タタキ後ナデ調整で、内面は同心円当て具痕が残存する。

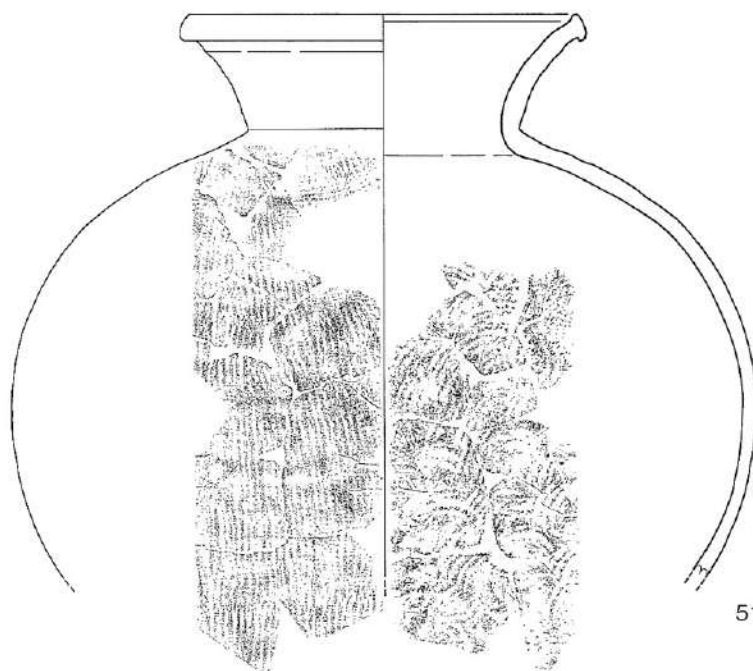
装身具類 518は青色のガラス玉である。表土から出土。径3.9mm、厚さ3.2mm、孔径1.2mm。



516



518



517



第95図 SO130出土遺物実測図② (1/1・1/4)

第3章 概 括

1) 墳墓群

調査区全体でみれば土坑（木棺）墓の主軸方向はまとまっていないが、これは遺跡の立地する丘陵の形に起因すると考えられる。つまり、一定の幅をもって長く続くような尾根ではないためにまとまりを欠いてみえるが、それぞれの土坑（木棺）墓の主軸方向は、古墳の地山整形やそれ以後の削平を考慮に入れても、概ね等高線に平行かまたは直交し、この点では、ある程度の企画性が感じられる。

しかし、調査区内の遺構密度の違いと遺構間の距離のばらつきのため、やはり雑然とした印象を受ける。遺構密度の違いについては、ある特定の集団ごとに、利用できる範囲を限っていたため（あるいは限られていたため）密集していると想定することはできるが、あまり時間を経ずに、以前作られた墓を部分的にせよ破壊して、新しく墓を作ることに抵抗はなかったのであろうか。小規模にせよ盛土があったとすれば尚更である。遺構配置図では複数個所に、土坑（木棺）墓が密集するところが見て取れるが、墓域を区画する溝（SD57を区画溝とはみなし難い）は検出できず、空白地域も明白に指摘できない。そのため、特定の集団を仮定してグループ分けを試みても大雑把なものになってしまうので、ここでは土坑（木棺）墓からの土器の出土傾向だけを簡単に述べる。

墓坑から供献土器が出土した土坑（木棺）墓は調査区西側のⅠ区とⅣ区に片寄り、そのなかではⅠ区の北東部に最も集中する（SK22・34・38・68・82）。ここでは埋土から小壺が出土した土坑（木棺）墓も集中する（SK28・65・67・69）。ただ、小壺に出土状態が明らかなものはほとんど無く、完形に復元できるものも無い。口縁～胴部を欠損し、少破片のものもある。そのなかで、SK28出土小壺（6）は、口縁部片（5）が同一個体ならば全形が窺える唯一のものになる。

墓坑の小口側に削り出しをもつ木棺墓は確実なもので11基（SK15・22・52・56・74・76・89・105・128・133・178）あり、半数を超える6基（SK22・52・56・89・133・178）で墓坑から供献土器が出土した。供献土器を伴う土坑（木棺）墓自体20基以下なので、割合としては突出して多く、そのうえ、削り出しをもつ木棺墓どうしが切り合うことは無い。これらのことは、削り出しをもつ木棺墓の被葬者が比較的に有力であったことを示すと思われる。

土坑（木棺）墓のなかで特徴的で珍しいものに、先述の墓坑小口側に削り出しをもつものや、2体（同時）埋葬のもの（慎重に言えば墓坑に2つの埋葬坑をもつもの）がある。削り出しをもつ木棺墓は、宗像市内では他に検出されず、市外周辺でも今までのところ福岡市カルメル修道院内遺跡遺跡第4次調査第22号土坑墓の1例を見出せたのみである^{（注1）}。1遺跡に11基も検出された朝町竹重遺跡は相当に特殊である。カルメル修道院内遺跡第4次調査では、墓坑内に2つの埋葬坑をもつ土坑墓（第25号土坑墓）も検出されている。他の遺跡での類例には嘉麻市（旧嘉穂郡嘉穂町）鎌田原遺跡8号木棺墓がある^{（注2）}。いずれも1基のみであり、朝町竹重遺跡のようにそれぞれ形態を異にするものが4基（SK53・78・90・173）検出された例は見出せない。また、2段掘り土坑墓の墓坑床面よりかなり上位の埋土中（SK141は墓坑外）に土器を

供献するのも、宗像地域に特有なあり方である。通例では墓坑内に土器を供献するのは弥生時代中期初頭までだが、市内遺跡では富士原梅木遺跡^(注3)や光岡草葉遺跡^(注4)などで中期後葉まで継続することが確認されている。

墓坑から出土した供献土器の時期は、弥生時代中期初頭から中頃のものである。本遺跡では中期後葉に降るものはない。墓坑埋土から出土した土器も、SK69の埋土から出土した小壺片は前期に遡るかもしれないが、他に時期を明らかにできないものを含むが、ほとんどが供献土器と同時期のものである。しかし、甕棺のST8に使用された土器は中期後葉のものと考えられるため、この時期の土坑墓や木棺墓もある程度存在しているだろう。

土器以外では少数の墓から大まかに時期をおさえられる副葬品が出土している。SK28の銅矛(41)・銅戈(42)は弥生時代中期前葉のものである。SK19の鉈(44)は刃部と身部ともに断面が三日月形であり、刃部に鑄を作らず反りをもたない。弥生時代中期以降のもので古墳時代にまで降ることはないと思う。SK185の仿製鏡は弥生時代後期中頃から古墳時代初頭のものと考えられ、SK103の鉄鏃(45・46)は古墳時代のものである。墓ではないかもしれないが、SK106でも古墳時代の耳環(47)が出土している。

遺物の出土が無い遺構に関しては、個別に時期を判断するのは困難であるが、墓坑から出土した供献土器などの遺物は、ほとんどが弥生時代中期前葉から中頃のものであり、この時期が墳墓群形成の中心となる時期と考えられる。市内の墳墓調査例では、前述のように中期後葉にも供献土器の出土がみられるが、本遺跡ではそれが無く、調査区内から出土したこの時期の土器も少ないため、中期後葉ではST8以外の墳墓は数少ないと考えられる。後期ではSK185が当てはまると考えられるが、明らかに後期の土器といえるものは無く、この時期の墳墓の数も少ないと考えられる。古墳時代では確実なものにSK103・131がある。また、古墳発掘時に墳丘などから、334・335などの前期の土師器が出土しており、これらが土坑墓などに関連するかもしれない。

朝町竹重遺跡の墳墓群の形成は、弥生時代前期に始まった可能性があるものの、中心時期は中期前葉から中頃までと考えられる。その後も数を減らしながらも墳墓は作られ続け、どの時期にどの程度の空白期間があったかわからず、また造墓集団に大幅な変化があったことも想定されるが、古墳群と平行する時期まで至ったと考える。

2) 古墳群

朝町竹重遺跡では丘陵の尾根や斜面で、8基の古墳を調査した。SO3では最大約1.2mの盛土が残存していたが、他の古墳では墳丘の残存状況は悪かった。SO9は竪穴系の小石室と考えられるが、それ以外7基の古墳の主体部は、宗像地域に普遍的な深い墓坑に、横穴式石室(竪穴系横口式石室を含む)を構築している。この7基の石室のうち腰石から上の構造が残存しているものはSO1・3・120・130である。SO118・119・125の石室は徹底的に石材を抜かれており形態は不明であるが、いずれも羨道はもたない。

最も残存状態の良い石室はSO120の竪穴系横口式石室である。玄門部の袖石上に掛け渡された石材は、天井石の一石かもしれないが、残存する側壁の高さからみて楣石とした方が良いよ

うに思え、楣石の上に天井石が重なるような形態が想定できる。

SO1の石室はSO120よりも残りが悪いが、これも竪穴系横口式石室だと考えられる。墓道は未発達で玄門部に向けて竪穴を掘り込んだような形態である。石室床面の平面形はわずかに胴張りの狭長な長方形で計測値はSO120と近似値を示し、ほとんど同じ大きさである。

SO3・130はSO1・120に比べ石室の平面規模が大きく、特に床面幅が広がっている。宗像市内の調査例では、竪穴系横口式石室の導入から天井の高い横穴式石室へ発展する過程で、床面積の増大とともに床面主軸長に対しての幅の比率が大きくなっていくことからSO1・120よりも時期は新しくなると考えられる。

袖石構造をもつものに限れば、市内の竪穴系横口式石室の床面主軸長に対しての床面最大幅の比率は、床面主軸長を1とすると0.55よりも小さく、そのほとんどが0.5よりも小さい。内傾する前壁構造をもつ石室は0.55よりも大きくなる。SO3・130の比率は0.55を超えており、床面の数値だけからすれば竪穴系横口式石室の範疇には入れ難い。

本古墳群で出土した須恵器では、小田富士雄編年のⅡ期と考えられるものが最も古く、SO3・118・120・125から出土している。SO119出土の坏蓋(410)もⅡ期のものであろうが、古墳内での出土位置が不明の小片で、これ以外に同時期の須恵器は出土しておらず、混入品の可能性がある。土師器ではSO1墳丘から出土した高坏(287)がⅠ期に平行すると考えられ、5世紀代のものである。竪穴系横口式石室を主体部にもつ古墳からはあまり土器は出土しないが、5世紀代の須恵器が出土することは多いため、287をSO1に伴うと判断しておくが、築造時期を示すとは言い切れない。SO1とSO120の石室は大きさや構造が似通っており、どちらが先行するかわからないが、調査区内では最初にこの2基が、5世紀代のほぼ同時期に造られたと考える。最後に造られたのはSO119とSO125のどちらかであろう。SO119では墓道横から蓋坏(399~408)が一括出土している。出土位置は墳丘の外側にあたるようであり、必ずしも墳丘築造時のものとは言い切れないが、時期はⅢB期のなかでも古相にあたると思われる。

石室内に持ち込まれた土器の出土が無いこともあり、追葬の継続期間を大まかに捉えることが難しい。古墳群の墳丘や周溝などからⅦ期以降の須恵器が出土しているが、Ⅴ期のものはほとんど無い。え、確実にⅥ期といえる須恵器は出土しておらず空白期間があり、追葬時に使用されたものとは考えがたい。古墳に葬られた人々の後裔が、何らかの祭祀行為を行った可能性は否定できないが、古墳とは関係ない別遺構の存在も考えられる。

注1 福岡市教育委員会1996「カルメル修道院内遺跡Ⅲ」福岡市埋蔵文化財調査報告書 第469集

注2 嘉穂町教育委員会1997「原田・鎌田原遺跡」嘉穂町文化財調査報告書 第18集

注3 宗像市教育委員会1991「名残Ⅳ」宗像市文化財報告書 第29集

注4 宗像市教育委員会1987「埋蔵文化財発掘調査報告書-1986年度-」宗像市文化財発掘調査報告書 第12集

第1表 土坑（木棺）墓・土坑計測表

棟図番号	遺構番号	主軸	墓坑		埋葬坑		深さ(cm)	木棺推定規模(cm)	備考
			上端長さ(cm)	上端幅(cm)	長さ(床面)(cm)	幅(cm)			
第5図	SK4	N-22° -E			87(80)	54(42)	21		
第5図	SK5	N-25° -E			50(32)	49(32)	28		
第5図	SK6	N-43° -E	161	116	98(83)	53(40)	86		
第5図	SK7	N-14° -E	70+ α	100+ α	152(144)	50(37)	66		
第5図	SK10	N-42° -W	194		158(142)	42(30)	64		
第5図	SK11	N-12° -E			136(126)	52(40)	39		
第6図	SK12	N-60° -W	136	81	119(102)	44(28)	38		
第6図	SK13	N-10° -E			174(158)	59(41)	22		
第6図	SK14	N-5° -W			149(142)	55+ α (48+ α)	17		
第6図	SK15	N-74° -E	286	171			57	両小口間172	
第6図	SK16	N-22° -E	216	148	170(162)	42(35)	49	両小口間162	
第7図	SK17	N-18° -E			198(175)	69(36)	34		
第7図	SK18	N-49° -W	172+ α	121	158(143)	42(37)	67		
第7図	SK19	N-17° -W	114+ α		107(94)	54(37)	63		足元掘り込み(深さ16cm)
第7図	SK20	N-33° -E	164+ α		165+ α (145+ α)	52(25)	28		
第7図	SK21	N-64° -E	192	110	162(158)	58(52)	62		ビット(深さ5cm)
第7図	SK22	N-75° -E	157+ α		175(172)	54(40)	68		
第8図	SK23	N-83° -E			140(127)	50(40)	48		
第8図	SK24	N-73° -W			165(153)	52(44)	35		
第8図	SK25	N-16° -E	160	105	128(114)	43(32)	44		
第8図	SK26	N-26° -E	214		166(158)	56(45)	40		
第8図	SK27	N-24° -E			219(197)	63(43)	40		
第9図	SK28	N-74° -W	253	183+ α	172(165)	46(42)	69		ビット(深さ14cm)
第9図	SK29	N-57° -E			142(130)	39(27)	30		
第9図	SK30	N-57° -W	215	102	175(152)	48(48)	40		
第9図	SK31	N-56° -W	236	151	181(169)	50(42)	80		
第10図	SK32	N-79° -E	195+ α	134+ α	192(174)	62(51)	81		ビット(深さ11cm)
第10図	SK33	N-52° -E			138(122)	45(38)	42		
第10図	SK34	N-80° -W	211	138	166(148)	63(51)	101		ビット(深さ10cm)
第10図	SK35	N-9° -E	153+ α	110	137(126)	56(42)	62		
第10図	SK36	N-8° -W			165(149)	50(36)	30		
第10図	SK37	N-20° -E	118+ α		134+ α (130+ α)	42+ α (36+ α)	50		
第11図	SK38	N-60° -E	250+ α	142	185(170)	62(43)	60		
第11図	SK39	N-1° -W			114(103)	47(38)	21		
第11図	SK40	N-35° -E			176(157)	58(53)	20		
第11図	SK41	N-55° -W	134+ α	77	105+ α (105+ α)	30(22)	41		
第11図	SK42	N-25° -E			63(55)	30(25)	22		
第11図	SK44	N-47° -E			142(132)	45(38)	25		
第11図	SK45	N-24° -E	227	141+ α	180(170)	65(44)	86		
第12図	SK46	N-15° -W			159(148)	58(40)	33		
第12図	SK47	N-39° -E			80+ α (68+ α)	45(32)	20		
第12図	SK48	N-56° -W			111(98)	52+ α (44+ α)	34		
第12図	SK49	N-16° -E	180+ α		57+ α (45+ α)		58		
第12図	SK50	N-10° -E	233+ α	90+ α	176(170)	49(37)	74		
第12図	SK51	N-37° -E	239	113+ α	185(155)	62(47)	64		
第13図	SK52	N-58° -W	252	157	195(187)	56(48)	98	両小口間187	ビット(深さ9cm)
第13図	SK53 a	N-29° -E	214	113+ α	184(188)	54(50)	72		ビット(深さ9cm)

墳図番号	遺構番号	主軸	墓坑		埋葬坑		深さ (cm)	木棺推定規模 (cm)	備考
			上端長さ (cm)	上端幅 (cm)	長さ (床面) (cm)	幅 (cm)			
第13図	SK53 b	N-29° -E	—	—	75 (65)	—			
第13図	SK54	N-69° -E	240+ α	140+ α	178 (172)	47 (42)	74		
第13図	SK55	N-61° -E	258	130+ α	205 (178)	57 (42)	80		
第14図	SK56	N-49° -E	244	175			106	両小口間161	
第14図	SK58	N-53° -E	56+ α	70	76 (70)	28 (24)	34		
第14図	SK59	N-47° -E	189+ α	157+ α	145+ α	53 (43)	74		
第14図	SK62	N-77° -E	214+ α	118+ α			70	内法146 ? ×50前後	
第15図	SK63	N-54° -E			102+ α (96+ α)	46 (40)	14		
第15図	SK64	N-17° -W	217+ α	137+ α	152 (134)	57 (40)	110		
第15図	SK65	N-7° -E			162 (141)	50 (36)	28		
第15図	SK66	N-38° -E	64+ α	55+ α	96+ α (89+ α)	36+ α (28+ α)	44		
第15図	SK67	N-14° -W			152 (137)		48		
第15図	SK68	N-20° -W	179	113	139 (137)	46 (31)	59		
第16図	SK69	N-14° -W			185 (160)	50+ α (45+ α)	45		足元掘り込み (深さ38cm)
第16図	SK70	N-80° -E			75+ α (54+ α)	60+ α (46+ α)	24		
第16図	SK71	N-20° -W			76 (49)	50 (37)	29		
第16図	SK72	N-25° -E	218	109	203 (189)	48 (41)	81		
第16図	SK73	N-47° -W			123 (116)	36 (33)	36		
第16図	SK74	N-35° -E	236	133	146 (140)	32 (27)	52	両小口間177	
第17図	SK75	N-52° -E			177 (158)	67 (57)	49		
第17図	SK76	N-32° -E	246	156			57	両小口間155	
第17図	SK78 a	N-34° -W	163	155	93 (85)	31 (20)	52		
第17図	SK78 b	N-34° -W			82 (72)	38 (25)	63		
第17図	SK79	N-25° -E	131+ α	103	147 (138)	55 (46)	61		
第17図	SK80	N-18° -E	35+ α	108+ α			22		
第18図	SK81	N-61° -E			156+ α (147)	45 (34)	23		
第18図	SK82	N-35° -W	170+ α			44 (34)	28		
第18図	SK83	N-26° -E	259+ α	110+ α	215 (198)	52 (38)	58		
第18図	SK85	NS			160+ α (139)	40+ α (92+ α)	46		
第18図	SK86	N-6° -W	124+ α		76+ α (70+ α)	47 (41)	63		
第18図	SK87	N-65° -E			130+ α (120+ α)	55 (46)	33		
第18図	SK88	N-11° -E	117	66	97 (79)	44 (37)	40		
第19図	SK89	N-40° -E	224	154			119	両小口間152	
第19図	SK90 a	N-73° -E	244+ α	232	199 (a184) (b191)	123 (a56) (b48)	82		
第19図	SK90 b	N-73° -E					83		
第20図	SK91	N-61° -E	221	160	194 (162)	50 (42)	58		
第20図	SK92	N-51° -E	185	93	156 (151)	58 (45)	69		ビット (深さ10cm)
第20図	SK93	N-4° -E			99 (90)	73 (61)	28		
第20図	SK94	N-28° -E			135 (137)	40 (34)	22		足元掘り込み (深さ23cm)
第20図	SK95	N-40° -E			132 (112)	58 (38)	27		
第20図	SK96	N-32° -E	235+ α	66+ α			39		
第21図	SK97	N-37° -E	224	97+ α	162 (178)	48 (40)	76		足元掘り込み (深さ23cm)
第21図	SK98	N-29° -E	74+ α	112+ α	170+ α (170+ α)	49 (42)	96		
第21図	SK99	N-49° -E			103 (90)	63 (54)	14		
第21図	SK100	N-82° -W	40+ α	85+ α	17+ α (14+ α)	45+ α (37+ α)	19		
第21図	SK101	N-40° -E			99 (84)	45 (36)	32		
第21図	SK102	N-60° -E			154 (167)	60 (51)	45		足元掘り込み (深さ17cm)

挿図番号	遺構番号	主軸	墓坑		埋葬坑		深さ (cm)	本棺推定規模 (cm)	備考
			上端長さ (cm)	上端幅 (cm)	長さ (床面) (cm)	幅 (cm)			
第21図	SK103	N-55° -W			233 (213)	140+ α (55)	69		
第22図	SK104	N-41° -E	170	92+ α	145 (133)	65+ α (60)	56		
第22図	SK105	N-45° -W	167+ α	147	133 (120)	57 (48)	31		
第22図	SK106	N-64° -E			89	52	39		
第22図	SK107	N-39° -W	166+ α				23		
第22図	SK108	N-81° -E			127+ α (115+ α)	85 (55)	20		
第22図	SK109	N-7° -E			205 (199)	62 (54)	32		
第22図	SK110	N-30° -E			163 (175)	35 (30)	36		足元掘り込み (深さ18cm)
第23図	SK111	N-55° -W	166+ α	132+ α	167 (163)	42 (37)	68		
第23図	SK112	N-55° -E			116 (100)	34 (24)	11		
第23図	SK113	N-58° -W	123+ α	112	141 (118)	48 (28)	46		足元掘り込み (深さ7cm)
第23図	SK114	N-32° -E			131 (123)	67 (62)	28		ビット (深さ18cm)
第23図	SK115	N-68° -E			82+ α (79+ α)	82+ α (75+ α)	16		
第23図	SK116	N-86° -W			183 (172)	54 (34)	52		
第23図	SK117	N-35° -E			90 (83)	72 (65)	74		
第24図	SK122	N-5° -E	267	164	191 (179)	51 (40)	58		
第24図	SK123	N-15° -E	223+ α	120+ α	204 (186)	47 (35)	74		
第24図	SK124	N-39° -E	267	110	155+ α (145+ α)	37 (28)	70		
第24図	SK126	N-9° -E	222+ α	127	216+ α (186)	62 (37)	77		
第25図	SK127	N-87° -W	243+ α	131	193 (179)	62 (50)	133		
第25図	SK128	N-6° -E	182	105+ α			96	西小口間131	
第25図	SK129	N-63° -W	214	133	184 (153)	56 (48)	77		
第25図	SK132	N-20° -W	69+ α	83+ α	167 (155)	56 (38)	60		
第26図	SK133	EW	313	198+ α			110	西小口間192	
第26図	SK134	N-27° -W			90 (73)	37 (31)	32		
第26図	SK135	N-68° -E	120	85	87 (65)	36 (21)	53		
第26図	SK136	N-68° -E			80 (68)	37 (20)	43		
第26図	SK137	N-62° -E			146 (136)	42 (36)	34		足元掘り込み (深さ10cm)
第26図	SK138	N-19° -E	100	80+ α	60 (50)	31 (22)	46		
第27図	SK139		50+ α		103 (95)	40 (18)	80		
第27図	SK140	N-81° -W	100+ α		194 (185)	59 (39)	40		
第27図	SK141	N-46° -E	166+ α		149+ α (150+ α)		39		
第27図	SK142	N-24° -E			180 (174)	46 (36)	38		
第27図	SK144	N-60° -E	115	75	89 (68)	43 (30)	82		
第27図	SK145	N-66° -E	104+ α		92 (88)	36 (31)	66		ビット (深さ8cm)
第28図	SK146	N-75° -E	260	102	175 (158)	34 (33)	116		
第28図	SK147	N-64° -W			114+ α (110+ α)	37 (27)	27		
第28図	SK148	N-77° -E			98 (92)	55 (40)	50		
第28図	SK149	N-40° -E			169+ α	53 (37)	59		
第28図	SK150	N-32° -E			167 (167)	35 (29)	19		
第28図	SK151	N-2° -W			143 (139)	45 (34)	33		
第28図	SK152	N-6° -E	143	80	68 (60)	32 (18)	67		
第29図	SK153	N-21° -E			158+ α (150+ α)	48 (30)	50		
第29図	SK154	N-20° -E			88 (75)	38 (24)	29		
第29図	SK155	N-23° -E			136+ α (153+ α)	42 (32)	36		
第29図	SK156	N-45° -E	100	58	76 (69)	31 (23)	44		
第29図	SK157	N-16° -E	166+ α		176 (171)	47 (35)	56		

棟図番号	遺構番号	主軸	墓坑		埋葬坑		深さ (cm)	木棺推定規模 (cm)	備考
			上端長さ (cm)	上端幅 (cm)	長さ (床面) (cm)	幅 (cm)			
第29図	SK158	N-75° -E	113	70	65 (56)	33 (30)	40		
第29図	SK161	N-7° -E			168 (74+ a)	72 (58)	26		
第30図	SK163	N-84° -E	82+ a		78 (65)	38 (28)	28		
第30図	SK164	N-72° -E	163+ a	122	133 (123)	58 (45)	52		
第30図	SK166	N-60° -E	180	148	130 (114)	53 (32)	97		
第30図	SK169	N-57° -W	152+ a		92 (78)	38 (29)	66		
第30図	SK170	N-78° -W			103+ a (94+ a)	56 (46)	23		
第30図	SK171	N-80° -E			98+ a (86+ a)	44 (25)	36		
第30図	SK172	N-63° -E			134 (130)	50 (42)	52		
第31図	SK173 a	N-75° -E	229	186+ a	129 (134)	50 (42)	103		足元掘り込み (深さ23cm)
第31図	SK173 b	N-75° -E			132 (126)	54 (48)	104		足元掘り込み (深さ24cm)
第32図	SK174	N-84° -E	130	71	92 (85)	36 (28)	54		
第31図	SK175	N-83° -E	180	183	135 (154)	71 (61)	96		足元掘り込み (深さ35cm)
第32図	SK176	N-53° -E			126 (96+ a)	38 (32)	15		
第32図	SK177	N-27° -E			85 (83)	24 (20)	19		足元掘り込み (深さ12cm)
第32図	SK178	N-51° -E	269+ a	182+ a			80	両小口間162	ビット (深さ8cm)
第32図	SK179	N-76° -E			150 (90)	90 (43)	110		
第32図	SK181	N-76° -E			99 (92)	28 (22)	18		
第31図	SK182	N-83° -E			277+ a (260+ a)	122+ a (95+ a)	44		
第32図	SK183	N-72° -W			82 (68)	41 (26)	23		
第33図	SK184	N-50° -W	164	91	120+ a (116)	32 (23)	44		
第33図	SK185	N-19° -E			126 (117)	49 (45)	21		足元掘り込み? (深さ6cm)
第34図	SK186	N-49° -E	238	172			51	両小口間195	
第34図	SK187	N-57° -E	219+ a	157	164 (139)	50 (27)	55		
第33図	SK188	N-78° -W			93 (85)	71 (65)	23		
第33図	SK189	N-6° -E	80+ a	69	74 (68)	36 (27)	23		
第33図	SK190	N-57° -W			105+ a (102+ a)	99 (91)	27		
第33図	SK191	N-37° -E			60+ a (46+ a)	50 (40)	10		
第33図	SK192	N-53° -W			75 (38)	50 (25)	53		

第2表 古墳主体部計測表

() は推定値

棟図番号	遺構番号	主軸	中軸長 (m)	左側壁側長 (m)	右側壁側長 (m)	最大幅 (m)	奥壁側幅 (m)	玄門側幅 (m)	玄門幅 (m)	墓坑長 (m)	墓坑幅 (m)	墓坑深さ (m)
第53図	SO1	N-81° -W	1.15	2.16	2.17	0.99	0.89	0.89	0.5	—	—	—
第59図	SO3	N-52° -E	2.45	2.48	2.44	(1.45)	1.36	1.13	0.52	—	—	—
第68図	SO9	N-57° -E	—	—	—	—	0.34	—	—	1.6	0.91	0.28
第71図	SO118	N-73° -E	—	—	—	—	—	—	—	3.81	2.38	1.31
第76図	SO119	N-56° -E	—	—	—	—	—	—	—	3.83	2.38	1.11
第80図	SO120	N-38° -E	2.16	2.1	2.08	1.02	0.83	0.85	0.44	3.1	1.88	1.02
第87図	SO125	N-34° -E	—	—	—	—	—	—	—	3.05	1.79	0.74
第93図	SO130	N-11° -E	2.6	(2.3)	(2.3)	1.57	1.47	—	—	3.6	2.7	1.26

第3表 土器計測表

図号 番号	遺物 番号	出土遺構	種類	器種	法量 (cm) (復元)				その他	焼成	色調	備考
					口径	胴部最大径	底径	器高				
第35図	1	SK6	弥生土器	壺	(13.0)	(25.6)		11.7+ α		良好	内外面ともに淡橙褐色	SK56礫石下(調査中混入?)
第35図	2	SK6	弥生土器	壺	(15.4)			5.3+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第35図	3	SK7	弥生土器	壺			6.3	17.0+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第35図	4	SK10	弥生土器	高坏				5.5+ α		やや不良	内外面ともに黄褐色	SK10・23上層 内外面ともに丹塗り
第35図	5	SK28	弥生土器	壺				2.5+ α		良好	内外面ともに淡橙褐色	5と6は同一個体?
第35図	6	SK28	弥生土器	壺		8.3	43	8.0+ α		良好	内外面ともに淡橙褐色・ 淡黄褐色	5と6は同一個体?
第35図	7	SK22	弥生土器	壺		(32.6)	6.2	25.2+ α		良好	内外面ともに赤褐色・暗 褐色・黒色	
第36図	8	SK30	弥生土器	甕	(27.4)	(26.4)		10.6+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第36図	9	SK30	弥生土器	壺		(10.0)	(4.8)	6.8+ α		やや不良	内)黄褐色・黒灰色 外)黄褐色	
第36図	10	SK31	弥生土器	壺	(24.4)	(24.6)	6.6	26.5前後		良好	内外面ともに橙褐色 外面底部付近黒色	
第36図	11	SK34	弥生土器	壺			8.0	4.0+ α		不良	内)灰褐色 外)橙褐色	
第36図	12	SK38	弥生土器	壺	(15.2)			4.9+ α		やや不良	内外面ともに黄褐色	
第36図	13	SK38	弥生土器	壺	(16.4)			2.3+ α		やや不良	内外面ともに黄褐色	
第36図	14	SK38	弥生土器	壺	21.8	24.8	6.1	26.9		良好	内外面ともに淡黄褐色	
第37図	15	SK52	弥生土器	壺	19.5	28.0		30.8		良好	内外面ともに淡黄褐色・淡 橙褐色	
第37図	16	SK56	弥生土器	壺	(11.2)	19.1	(6.0)	23.0前後		不良	内外面ともに灰褐色	全体的に歪み著しい
第37図	17	SK65	弥生土器	壺		(8.9)	(3.8)	5.1+ α		良好	内外面ともに淡灰褐色・灰 褐色	
第37図	18	SK65	弥生土器	壺				4.2+ α		やや不良	内外面ともに黄褐色	
第37図	19	SK67	弥生土器	壺		(8.0)		5.5+ α		良好	内)灰褐色 外)灰褐色	
第37図	20	SK67	弥生土器	壺				5.1+ α		良好	内)淡赤褐色 外)淡褐色	
第37図	21	SK68	弥生土器	壺	25.2	31.5	7.7	35.4		良好	内)淡灰褐色 外)淡灰褐色・黒色	
第38図	22	SK69	弥生土器	壺				3.1+ α		良好	内)黒褐色 外)橙褐色	
第38図	23	SK71	弥生土器	壺			4.3	4.3+ α		良好	内)灰褐色 外)淡黄褐色・淡灰褐色	
第38図	24	SK72	弥生土器	壺	17.1	32.6	6.9	34.9		良好	内)橙褐色 外)橙褐色・黒褐色	
第38図	25	SK76	弥生土器	壺			(7.4)	7.7+ α		良好	内外面ともに赤褐色	
第38図	26	SK79	弥生土器	壺	(9.2)	(19.4)	5.4			不良	内)橙褐色 外)橙褐色・暗褐色	
第38図	27	SK82	弥生土器	壺			7.1	9.5+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第38図	28	SK83	弥生土器	高坏	(14.8)			5.3+ α		やや不良	内)橙褐色 外)黄褐色	丹塗り
第38図	29	SK83	弥生土器	壺	(12.0)			4.7+ α		良好	内外面ともに橙褐色	胴部下に穿孔
第39図	30	SK89	弥生土器	壺	15.4	30.0	6.6	34.2		良好	内外面ともに黄褐色	
第39図	31	SK129	弥生土器	壺				4.8+ α		良好	内外面ともに黄褐色	
第39図	32	SK101	弥生土器	壺				5.3+ α		良好	内)灰褐色 外)橙褐色	
第39図	33	SK111	弥生土器	壺				4.7+ α		良好	内)淡黄褐色・黒色 外)淡黄褐色	
第39図	34	SK113	弥生土器	壺	(13.0)			4.3+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第39図	35	SK187	弥生土器	壺			(6.7)	4.8+ α		良好	内外面ともに黄褐色	
第39図	36	SK90	弥生土器	壺	(21.0)		8.0			やや不良	内外面ともに橙褐色	
第40図	37	SK133	弥生土器	壺	17.2	(31.6)	5.8			やや不良	内)黄褐色・黒灰色 外)黄褐色・黒色	
第40図	38	SK141	弥生土器	壺	(16.2)	(26.2)	6.2			やや不良	内外面ともに橙褐色	
第41図	39	SK178	弥生土器	壺	(17.0)	27.6	6.2	31.9		良好	内)橙褐色・暗橙褐色 外)橙褐色・黒色	
第41図	40	SK186	弥生土器	壺			6.8			良好	内)橙褐色 外)橙褐色・黒褐色	
第47図	275	ST8	弥生土器	甕	(24.4)		7.2	19.7		良好	内)黄褐色 外)黄褐色	上壺
第47図	276	ST8	弥生土器	甕	(31.4)	(29.7)	7.7	36.6		良好	内)淡黄褐色・淡橙褐色 外)淡黄褐色・淡橙褐色	下壺
第47図	277	ST131	弥生土器	甕	15.5	20.1	11.5	23.7		良好	内)橙褐色 外)橙褐色	上壺
第47図	278	ST131	弥生土器	甕	21.8	25.4	12.7	33.5		良好	内)橙褐色・黄褐色 外)橙褐色・灰褐色	下壺
第48図	279	SK-81~83 検出時	弥生土器	壺	(26.6)			8.4+ α		やや不良	内)黄灰色・黄褐色 外)黄褐色	丹塗り
第48図	280	SK-81~83 検出時	弥生土器	壺	(20.0)			5.6+ α		良好	内外面ともに橙褐色	

採掘 番号	遺物 番号	出土遺構	種類	器種	法量 (cm) (復元)				その他	焼成	色調	備考
					口径	胴部最大径	底径	器高				
第48図	281	SK-81~83 検出時	弥生土器	壺			4.5	7.0+ α		良好	内外面ともに淡褐色	丹塗り
第48図	282	SK-81~83 検出時	弥生土器	甕			6.2	3.2+ α		良好	内) 橙褐色 外) 橙褐色・黒褐色	
第48図	283	SK-81~83 検出時	弥生土器	高坏				5.3+ α		良好	内) 黄灰色 外) 橙褐色	
第48図	284	SK-81~83 検出時	弥生土器	高坏				3.6+ α		やや不良	内外面ともに黄褐色	丹塗り
第48図	285	SK-81~83 検出時	弥生土器	壺				5.1+ α		良好	内外面ともに淡褐色	丹塗り
第50図	286	SD57	弥生土器	壺		9.6	4.2	9.2+ α		良好	内外面ともに灰黄褐色	
第54図	287	SO-1 3区墳丘	土師器	高坏				11.5+ α	脚裾部径 (11.8)	やや不良	内外面ともに黄褐色	
第54図	288	SO1 墳丘外西側 表土	須恵器	平瓶or 長頸壺		(18.6)	(10.8)	8.9+ α		良好	内) 青灰色 外) 暗青灰色	SO1に伴うか不明
第60図	293	SO3 1区墳丘	須恵器	坏蓋	13.1			4.5		やや不良	内) 淡青灰色 外) 淡赤灰色・淡青灰色	
第60図	294	SO3 1区墳丘	須恵器	坏蓋	(13.3)			4.2		やや不良	内) 淡灰褐色・淡青灰色 外) 淡赤灰色・淡青灰色	
第60図	295	SO3 3区墳丘	須恵器	坏蓋	18.5			3.0+ α		良好	内外面ともに灰色	
第60図	296	SO3 4区墳丘	須恵器	坏身	12.3			5.0	受け部径 14.7	良好	内) 青灰色 外) 青灰色・黒灰色	
第60図	297	SO3 4区墳丘	須恵器	坏身	12.5			5.2	受け部径 15.0	良好	内) 青灰色 外) 青灰色・黒灰色	ろくろ時計回り
第60図	298	SO3 1区墳丘	須恵器	坏身	11.2			4.3	受け部径 13.6	良好	内) 淡青灰色 外) 淡青灰色・青灰色	ろくろ時計回り
第60図	299	SO3 1区墳丘	須恵器	坏身	10.4			4.6	受け部径 13.2	良好	内外面ともに淡灰褐色	ろくろ時計回り
第60図	300	SO3 1区墳丘・ 4区周溝	須恵器	坏身	10.6			5.0	受け部径 13.0	やや不良	内外面ともに淡灰褐色	ろくろ時計回り
第60図	301	SO3 4区墳丘	須恵器	坏身	(9.9)			3.3	受け部径 (11.6)	良好	内) 淡紫灰色 外) 淡紫灰色・青灰色	ろくろ時計回り
第60図	302	SO3 Bトレンチ	須恵器	坏	13.0		8.5	4.0		良好	内) 青灰色 外) 黒色・青灰色	
第60図	303	SO3 1区墳丘・ 周溝	須恵器	高坏	13.6			9.7	脚裾部径 8.9	良好	内) 青灰色・淡紫灰色 外) 青灰色・暗青灰色	透かし3方向
第60図	304	SO3 1区墳丘・ 周溝	須恵器	高坏	12.0			12.1	脚裾部径 9.8	良好	内外面ともに淡灰色	透かし4方向
第60図	305	SO3 4区墳丘	須恵器	高坏				12.3+ α	脚裾部径 8.4	良好	内外面ともに淡青灰色	透かし4方向
第60図	306	SO3 1区墳丘・ 周溝他	須恵器	高坏	8.0			7.8	脚裾部径 6.9	良好	内外面ともに淡灰色・黒 色	
第60図	307	SO3 墓道先端他	須恵器	高坏	(9.8)			8.2	脚裾部径 7.2	良好	内) 暗灰色 外) 暗灰色・紫灰色	
第60図	308	SO3 4区墳丘・ 周溝他	須恵器	甕	11.8	10.7		13.0		良好	内外面ともに青灰色・暗 青灰色	
第60図	309	SO3 1区墳丘	須恵器	甕	12.4	10.2		11.4		良好	内) 青灰色 外) 青灰色・淡青灰色	
第60図	310	SO3 1区墳丘	須恵器	提瓶				11.7+ α		良好	内外面ともに淡青灰色・ 暗灰色	
第61図	311	SO3 1区墳丘	須恵器	提瓶	(10.0)			23.7+ α		良好	内外面ともに青灰色・暗 青灰色	
第61図	312	SO3 1区墳丘・ 周溝	須恵器	提瓶	12.7			25.6		良好	内外面ともに黒灰色・淡 青灰色	
第61図	313	SO3 4区墳丘	須恵器	平瓶	(6.1)	13.5	9.1	11.9		良好	内) 青灰色 外) 暗青灰色	ヘラ記号あり
第61図	314	SO3 1区墳丘	須恵器	壺頸 口縁部	7.8			2.8+ α		不良	内) 淡緑灰色 外) 淡緑色・黒灰色	
第61図	315	SO3 4区墳丘	須恵器	長頸壺?	(10.6)			5.1+ α		良好	内外面ともに暗青灰色	
第62図	316	SO3 4区墳丘	須恵器	甕	(13.0)	(17.8)		15.3+ α		やや不良	内外面ともに青灰色	ヘラ記号あり
第62図	317	SO3 墓道先端他	須恵器	甕		(18.4)		17.3+ α		やや不良	内) 暗灰色 外) 暗灰色・赤灰色	
第62図	318	SO3 1区墳丘	須恵器	甕	(11.0)	15.8		14.3		良好	内) 青灰色・黒灰色 外) 暗青灰色・黒灰色	ヘラ記号あり
第62図	319	SO3 1区墳丘	須恵器	甕	(17.2)	(25.3)		26.1		良好	内外面ともに黒灰色・白 灰色	
第62図	320	SO3 墳丘	須恵器	壺			(8.4)	7.5+ α		良好	内) 暗青灰色 外) 暗灰色・明赤灰色	
第62図	321	SO3 墳丘	須恵器	壺				7.8+ α		良好	内外面ともに淡灰色	
第62図	322	SO3 3区墳丘	土師器	鉢or 短頸壺				7.8+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第62図	323	SO3 1区墳丘	土師器	鉢	(17.0)			5.5		やや不良	内外面ともに橙褐色・赤 褐色	
第62図	324	SO3 2区墳丘	土師器	高坏or鉢	(10.6)			3.5+ α		やや不良	内外面ともに橙褐色	
第62図	325	SO3 2区墳丘・ 周溝	土師器	高坏	(14.4)			11.3	脚裾部径 (10.4)	良好	内外面ともに橙褐色	

採図 番号	遺物 番号	出土遺構	種類	器種	法量 (cm) (復元)				その他	完成	色調	備考
					口径	胴部最大径	底径	器高				
第62図	326	SO3 墓道下層	土師器	高坏				6.8+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第62図	327	SO3 2区墳丘	土師器	高坏				7.0+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第62図	328	SO3 3区墳丘	土師器	高坏				5.3+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第63図	329	SO3 2区墳丘	土師器	高坏				6.2+ α		やや不良	内) 橙褐色 外) 黄褐色	
第63図	330	SO3 2区墳丘	土師器	高坏				5.6+ α		良好	内) 橙褐色・黄褐色 外) 橙褐色	
第63図	331	SO3 2区墳丘	土師器	高坏				5.3+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第63図	332	SO3 2区墳丘	土師器	高坏				3.6+ α		やや不良	内外面ともに橙褐色	
第63図	333	SO3 4区墳丘	土師器	甕	(19.2)			4.4+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第63図	334	SO3 4区墳丘	土師器	甕				3.0+ α		良好	内) 淡橙褐色 外) 淡灰色	
第63図	335	SO3 3~4区墳丘	土師器	甕				4.4+ α		良好	内外面ともに淡橙褐色	
第63図	336	SO3 2区墳丘	土師器	甕				8.6+ α		良好	内外面ともに黄褐色	
第63図	337	SO3 2区墳丘	土師器	甕				5.5+ α		やや不良	内外面ともに橙褐色	
第63図	338	SO3 3区墳丘	土師器	甕				4.3+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第64図	339	SO3 1区墳丘	須恵器	甕	(22.8)	(47.2)		21.8+ α		不良	内外面ともに青灰色・白 灰色	
第64図	340	SO3 1・4区墳丘他	須恵器	甕	(20.4)			9.2+ α		良好	内外面ともに淡青灰色・ 青灰色	340~342は同一個体
第64図	341	SO3 1・4区墳丘他	須恵器	甕		(34.4)		19.9+ α		良好	内外面ともに淡青灰色・ 青灰色	340~342は同一個体
第64図	342	SO3 1・4区墳丘他	須恵器	甕				23.7+ α		良好	内外面ともに淡青灰色・ 青灰色	340~342は同一個体
第65図	343	SO3 4区墳丘・ 周溝	須恵器	甕				33.2+ α		良好	内外面ともに黒灰色・暗 灰色	著しくゆがみ、破裂する へら記号あり
第65図	344	SO3 1・4区墳丘	須恵器	甕	25.2	43.7		44.6+ α		良好	内外面ともに黒褐色・淡 青灰色	
第66図	345	SO3 Aトレンチ	弥生土器	甕	(29.2)		8.0	36.3		良好	内) 橙褐色 外) 橙褐色・灰褐色	
第66図	346	SO3 2区墳丘	弥生土器	甕?			6.3	3.1+ α		良好	内) 淡橙褐色 外) 黄褐色・灰褐色	
第66図	347	SO3 3区旧表土	弥生土器	壺				4.8+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第66図	348	SO3 Aトレンチ	弥生土器	壺		10.6	4.4	11.0+ α		良好	内) 橙褐色 外) 淡黄褐色・橙褐色	
第66図	349	SO3 1区周溝	弥生土器	壺		(23.4)		11.4+ α		やや不良	内) 淡灰褐色・淡黄褐色 外) 淡灰褐色・黒灰色	
第72図	367	SO118 3区表土	須恵器	坏蓋	(13.2)			4.4		良好	内) 青灰色 外) 青灰色・暗青灰色	ろくろ反時計回り
第72図	368	SO118 3区表土	須恵器	坏蓋	13.3			3.9		良好	内) 青灰色 外) 暗青灰色	ろくろ反時計回り
第72図	369	SO118 2区周溝	須恵器	坏蓋	(13.4)			4.8+ α		良好	内) 青灰色 外) 青灰色・暗青灰色	ろくろ反時計回り
第72図	370	SO118 盗掘排土	須恵器	坏身	(10.2)			5.1	受け部径 (12.2)	良好	内外面ともに青灰色	
第72図	371	SO118 3区表土	須恵器	坏身	(11.5)			4.2	受け部径 13.4	良好	内) 青灰色 外) 青灰色・紫灰色	ろくろ反時計回り
第72図	372	SO118 盗掘排土	須恵器	坏身				3.6+ α	受け部径 (15.0)	やや不良	内外面ともに淡青灰色	ろくろ時計回り
第72図	373	SO118 3区表土	須恵器	坏身	(11.6)			4.5+ α	受け部径 13.7	良好	内) 暗青灰色 外) 青灰色	ろくろ反時計回り
第72図	374	SO118 墓道	須恵器	坏身	(12.4)			3.6	受け部径 (14.3)	良好	内外面ともに暗青灰色	ろくろ時計回り 内面へら記号あり
第72図	375	SO118 3区表土	須恵器	坏身	(12.1)			3.7+ α	受け部径 (14.2)	良好	内) 青灰色 外) 青灰色・暗青灰色	ろくろ反時計回り
第72図	376	SO118 1・4区	須恵器	坏身	(12.4)			3.2+ α	受け部径 (14.2)	良好	内) 青灰色 外) 青灰色・暗青灰色	
第72図	377	SO118 1区周溝	須恵器	坏身	12.3			3.6+ α	受け部径 14.1	良好	内) 青灰色 外) 青灰色・淡青灰色	
第72図	378	SO118 1区周溝	須恵器	坏	(18.4)			4.3+ α		良好	内) 青灰色 外) 青灰色・暗青灰色	379と同一個体
第72図	379	SO118 1区周溝	須恵器	坏				3.8+ α	高台径 (11.4)	良好	内) 青灰色 外) 青灰色・暗青灰色	378と同一個体
第72図	380	SO118 4区盗掘 排土	須恵器	高坏				2.3+ α		良好	内) 暗灰色・白灰色 外) 暗青灰色	
第72図	381	SO118 4区盗掘 排土	須恵器	高坏				8.6+ α		良好	内) 青灰色 外) 暗灰色	2段3方向透かし
第72図	382	SO118 2区周溝	須恵器	提瓶	8.8			16.9		良好	内) 青灰色・黒灰色 外) 黒灰色・淡青灰色	
第72図	383	SO118 1区周溝	須恵器	提瓶	9.2			18.5		良好	内) 青灰色 外) 黒灰色・淡青灰色	
第73図	384	SO118 2区周溝	須恵器	甕	14.6	10.3		19.2		良好	内外面ともに淡青灰色・ 黒灰色	
第73図	385	SO118 1区墳丘・ 周溝	須恵器	壺		21.1		18.6+ α		不良	内) 暗灰色 外) 暗灰色・灰色	
第73図	386	SO118 1・4区	須恵器	短頸壺		13.3		8.1+ α		良好	内) 赤灰色 外) 赤灰色・紫灰色	
第73図	387	SO118 4区表土・ 墳丘	須恵器	短頸壺		13.6		7.9+ α		良好	内) 青灰色 外) 暗青灰色・青灰色	

採図 番号	遺物 番号	出土遺構	種類	器種	法量 (cm) (復元)				その他	焼成	色調	備考
					口径	胴部最大径	底径	器高				
第73図	388	SO118 2区墳裾	須恵器	甕	(6.0)	8.6		8.2		良好	内外面ともに青灰色・白 灰色	
第73図	389	SO118 4区表土・ 墳丘	須恵器	甕	(24.0)			7.9+α		良好	内)黒灰色・青灰色 外)黒灰色	
第73図	390	SO118 2区旧表 土面上	土師器	壺	(7.9)			7.5+α		不良	内)橙褐色・黄灰色 外)橙褐色	
第73図	391	SO118 4区盗掘排土	土師器	高坏	(18.0)			13.9+α	脚部径 (16.6)	良好	内外面ともに橙褐色	
第73図	392	SO118 2区墳丘・ 周溝	土師器	高坏				8.9+α		良好	内外面ともに橙褐色	
第73図	393	SO118 3区盗掘排土	土師器	高坏				4.6+α	脚部径 (23.0)	良好	内外面ともに橙褐色	
第74図	394	SO118 西側墳丘他	須恵器	甕				44.5		良好	内)灰色・暗灰色 外)灰色・青灰色	
第74図	395	SO118 2区旧表 土面上	弥生土器	壺	(18.0)			5.2+α		良好	内外面ともに橙褐色	
第74図	396	SO118 3区表土	弥生土器	壺			6.4	5.6+α		良好	内外面ともに黄褐色	丹塗り
第77図	399	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏蓋	14.4			4.4		良好	内)淡青灰色 外)淡青灰色・青灰色	ろくろ反時計回り
第77図	400	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏身	12.2			5.0	受け部径 14.8	良好	内)淡青灰色 外)淡青灰色・暗灰色	ろくろ時計回り
第77図	401	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏蓋	14.5			4.2		良好	内)青灰色・暗青灰色 外)青灰色・淡青灰色	ろくろ時計回り
第77図	402	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏身	12.7			4.5	受け部径 14.9	良好	内外面ともに青灰色	ろくろ時計回り
第77図	403	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏蓋	14.5			4.5		良好	内)淡青灰色・青灰色 外)淡青灰色・青灰色	ろくろ時計回り
第77図	404	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏身	12.6			4.8	受け部径 14.7	良好	内)淡青灰色 外)淡青灰色・青灰色	ろくろ反時計回り
第77図	405	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏蓋	15.2			4.3		良好	内外面ともに青灰色	
第77図	406	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏身	12.4			5.3	受け部径 14.6	良好	内)淡灰色 外)青灰色・淡灰色	ろくろ反時計回り
第77図	407	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏身	13.3			4.3	受け部径 15.7	良好	内)淡青灰色 外)淡青灰色・青灰色	ろくろ時計回り
第77図	408	SO119 墓道左壁 上端北側	須恵器	坏蓋	15.1			4.1		良好	内)暗青灰色 外)暗青灰色・灰色	ろくろ反時計回り
第77図	409	SO119 1区周溝	須恵器	坏蓋	15.1			3.8		良好	内)青灰色 外)青灰色・暗青灰色	ろくろ反時計回り
第77図	410	SO119 4区墓道側	須恵器	坏蓋	(12.2)			3.4+α		良好	内)青灰色 外)淡青灰色・暗青灰色	
第77図	411	SO119 1区周溝	須恵器	坏身	(13.2)			3.7	受け部径 (15.4)	良好	内)青灰色 外)黒灰色・青灰色	ろくろ反時計回り
第77図	413	SO119 4区C ヘルト側	須恵器	坏	(15.0)		(9.8)	3.8		良好	内)紫灰色・暗紫灰色 外)赤灰色・黒灰色	
第77図	414	SO119 1区周溝	須恵器	短頸壺	(7.1)	12.3		7.0		良好	内外面ともに青灰色	
第77図	415	SO119 1区墳裾	須恵器	長頸壺		(19.2)		17.2+α		良好	内外面ともに淡青灰色	
第77図	416	SO119 3区	須恵器	蓋	(11.2)			3.3+α		良好	内)青灰色 外)黒灰色・青灰色	417・418の蓋?
第77図	417	SO119 3区	須恵器	有蓋脚付 短頸壺		(19.8)		13.8+α		良好	内)青灰色・暗青灰色 外)黒灰色	418と同一個体
第77図	418	SO119 3区	須恵器	有蓋脚付 短頸壺				8.2+α	裾部径 (16.2)	良好	内)淡青灰色・青灰色 外)黒灰色・淡青灰色	417と同一個体
第78図	419	SO119 3区周溝	須恵器	甕	(21.0)			15.0+α		良好	内)淡青灰色・青灰色 外)淡青灰色・暗青灰色	
第78図	420	SO119 3区周溝	須恵器	甕	(14.4)			4.3+α		良好	内外面ともに淡青灰色・ 暗青灰色	
第78図	421	SO119 3区周溝	須恵器	甕				5.5+α		良好	内)淡青灰色 外)淡青灰色・暗青灰色	
第78図	422	SO119 1区墳裾	土師器	甕				13.2+α		良好	内)橙褐色 外)黄褐色・黒灰色	
第78図	423	SO119 3区周溝	土師器	高坏				7.5+α		良好	内外面ともに橙褐色	
第78図	424	SO119 3区周溝	土師器	高坏				7.4+α		良好	内外面ともに橙褐色	
第78図	425	SO119 1区墓道横	土師器	ミニチュア 高坏				3.9+α		やや不良	内)橙褐色 外)黄褐色・橙褐色	
第78図	426	SO119 4区表土	土師器	高坏				3.8+α		不良	内)灰褐色 外)橙褐色	
第82図	427	SO120 トレンチ	須恵器	坏身	(12.4)			3.3+α	受け部径 (14.8)	良好	内外面ともに青灰色	
第82図	428	SO120 トレンチ	須恵器	甕				3.6+α		良好	内)淡青灰色・暗灰色 外)暗青灰色	

採掘 番号	遺物 番号	出土遺構	種類	器種	法量(cm) (復元)				その他	焼成	色調	備考
					口径	胴部最大径	底径	器高				
第82図	429	SO120 トレンチ	須恵器	平瓶等 口縁部	(5.4)			3.1+ α		良好	内外面ともに黒灰色	
第82図	430	SO120 周溝	須恵器	高坏	(13.8)			4.3+ α		良好	内外面ともに青灰色	431と同一個体
第82図	431	SO120 周溝	須恵器	高坏				6.3+ α	裾部径 (10.0)	良好	内外面ともに青灰色	4方向透かし 430と同一個体
第82図	432	SO120 周溝	土師器	高坏				2.7+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第82図	433	SO120 周溝	土師器	高坏				4.5+ α		良好	内外面ともに赤褐色	
第82図	434	SO120 周溝	土師器	高坏				5.1+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第82図	435	SO120 周溝	土師器	高坏				6.8+ α		良好	内) 淡橙褐色 外) 橙褐色	
第82図	436	SO120 西側表土他	須恵器	壺	(17.2)			16.8+ α		やや不良	内) 淡青灰色・暗青灰色 外) 青灰色・暗青灰色	把手3箇所 ヘラ記号あり
第83図	437	SO120 西側表土他	須恵器	壺	56.4	99.0		104.0		良好	内外面とも紫灰色	壺み・破裂あり 別個体(置き台?)付着
第88図	468	SO125 1区周溝	須恵器	坏蓋	13.7			3.5		良好	内) 紫灰色 外) 暗灰色・淡青灰色	
第88図	469	SO125 1区周溝	須恵器	坏身	12.5			3.9	受け部径 14.6	良好	内) 紫灰色 外) 暗青灰色・赤灰色	
第88図	470	SO125 1区周溝	須恵器	坏蓋	(14.6)			3.2		良好	内) 紫灰色 外) 暗灰色・赤灰色	
第88図	471	SO125 1区周溝	須恵器	坏身	12.3			3.7	受け部径 14.2	良好	内) 紫灰色 外) 暗青灰色・紫灰色	
第88図	472	SO125 1区周溝	須恵器	坏蓋	(14.0)			3.8+ α		良好	内) 青灰色 外) 白灰色・青灰色	ろくろ時計回り
第88図	473	SO125 1区周溝	須恵器	坏蓋	(14.6)			3.2+ α		良好	内) 白灰色 外) 暗灰色	
第88図	474	SO125 1区周溝	須恵器	坏蓋	14.6			4.4+ α		良好	内) 淡青灰色 外) 淡青灰色・暗青灰色	ろくろ時計回り
第88図	475	SO125 1区周溝	須恵器	坏蓋	13.6			4.4		やや不良	内外面ともに青灰色	ろくろ時計回り
第88図	476	SO125 1区周溝	須恵器	坏蓋	(14.0)			4.6		良好	内外面ともに青灰色	ろくろ時計回り
第88図	477	SO125 周溝北側 表土	須恵器	坏蓋	(14.6)			3.2+ α		良好	内) 淡青灰色・青灰色 外) 淡青灰色・青灰色	
第88図	478	SO125 1区周溝	須恵器	壺蓋	(10.8)			3.2		良好	内) 紫灰色 外) 紫灰色・淡青色	ヘラ記号あり
第88図	479	SO125 2区周溝	須恵器	坏身	(10.8)			5.1+ α	受け部径 13.4	良好	内外面ともに青灰色	ろくろ時計回り
第88図	480	SO125 1区周溝	須恵器	坏身	(12.7)			4.8	受け部径 15.1	良好	内) 淡青灰色 外) 淡青灰色・青灰色	ろくろ時計回り
第88図	481	SO125 1区周溝	須恵器	坏身	(11.8)			4.0	受け部径 (13.6)	やや不良	内) 淡灰褐色 外) 青灰色・赤灰色	ろくろ反時計回り
第88図	482	SO125 2区周溝表土	須恵器	坏身	(12.8)			4.2+ α	受け部径 (15.0)	やや不良	内) 赤灰色 外) 暗灰色・赤灰色	ろくろ時計回り
第88図	483	SO125 周溝表土	須恵器	坏身	(12.2)			3.4	受け部径 (14.0)	良好	内) 淡青灰色 外) 青灰色・淡青灰色	
第88図	484	SO125 1区周溝	須恵器	坏身	(12.1)			3.6	受け部径 (14.4)	良好	内外面ともに暗青灰色	
第88図	485	SO125 1区周溝	須恵器	坏身	(12.2)			2.6+ α	受け部径 (14.0)	やや不良	内外面ともに淡青灰色	
第89図	486	SO125 2区周溝表土	須恵器	高坏				8.8+ α	脚部径 9.4	良好	内外面ともに青灰色	透かし4方向
第89図	487	SO125 2区周溝	須恵器	高坏	(12.8)			3.2+ α		良好	内外面ともに青灰色	
第89図	488	SO125 1区周溝	須恵器	高坏	11.4			11.5	脚部径 8.3	良好	内外面ともに黒灰色・淡 青灰色	
第89図	489	SO125 1区周溝	須恵器	高坏	11.7			14.0	脚部径 11.3	良好	内外面ともに黒灰色・淡 青灰色	
第89図	490	SO125 1区周溝	須恵器	罍		8.5		14.5+ α		良好	内外面ともに淡青灰色・ 青灰色	
第89図	491	SO125 2区周溝	須恵器	罍	(11.2)	10.4		11.5+ α		良好	内) 青灰色・暗灰色 外) 暗灰色・淡青灰色	
第89図	492	SO125 周溝	須恵器	脚付壺	(7.2)			5.1+ α		良好	内外面ともに淡青灰色・ 暗灰色	492～495は同一個体
第89図	493	SO125 周溝	須恵器	脚付壺				5.0+ α		良好	内) 淡紫灰色 外) 黒灰色・淡青灰色	492～495は同一個体
第89図	494	SO125 周溝	須恵器	脚付壺				3.7+ α		良好	内) 淡青灰色・黒灰色 外) 黒灰色	492～495は同一個体
第89図	495	SO125 周溝	須恵器	脚付壺				1.9+ α	裾部径 (18.2)	良好	内外面ともに黒灰色	492～495は同一個体
第89図	496	SO125 1区周溝	須恵器	壺	(11.1)	16.6		16.4		良好	内) 青灰色 外) 青灰色・暗青灰色	
第89図	497	SO125 2区周溝	土師器	壺	(7.6)	10.1		8.4		良好	内外面ともに橙褐色	
第89図	498	SO125 1区周溝	土師器	鉢	15.4			5.7		不良	内外面ともに赤褐色	
第89図	499	SO125 1区周溝	土師器	高坏				3.9+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第89図	500	SO125 1区周溝	土師器	高坏				3.4+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第89図	501	SO125 周溝	土師器	高坏				3.4+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第89図	502	SO125 1区周溝表土	土師器	高坏				5.3+ α		良好	内外面ともに橙褐色	
第89図	503	SO125 1区周溝	土師器	不明 脚部				4.7+ α	裾部径 6.5	良好	内外面ともに橙褐色	
第90図	504	SO125 周溝北	須恵器	横瓶	13.3	29.3		26.8		良好	内外面ともに暗青灰色	ヘラ記号2箇所にあり
第90図	505	SO125 1区周溝	須恵器	壺	25.5	43.5		43.0		良好	内外面ともに青灰色・黒 灰色	ヘラ記号あり

押図 番号	遺物 番号	出土遺構	種類	器種	法量 (cm) (復元)				その他	焼成	色調	備考
					口径	胴部最大径	底径	器高				
第91図	506	SO125 1区周溝	須恵器	甕	25.6	(44.2)		45.9		良好	内)青灰色 外)青灰色・暗青灰色	ヘラ記号あり
第91図	507	SO125 周溝	須恵器	甕	(20.2)	47.8		35.8+ α		良好	内外面ともに淡青灰色	
第94図	509	SO130 周溝	須恵器	坏蓋				2.6+ α		不良	内外面ともに白灰色	
第94図	510	SO130 周溝	須恵器	坏身				3.3+ α		不良	内外面ともに白灰色	
第94図	511	SO130 周溝	須恵器	坏蓋	(13.4)			2.2+ α		良好	内外面ともに青灰色	
第94図	512	SO130 周溝	須恵器	坏			(9.6)	2.7+ α		良好	内)青灰色 外)青灰色・暗青灰色	
第94図	513	SO130 周溝	須恵器	坏				2.0+ α	高台径 7.7	良好	内外面ともに淡青灰色	
第94図	514	SO130 周溝	須恵器	坏			(7.6)	2.4+ α		やや不良	内外面ともに淡青灰色	
第94図	515	SO130 1区周溝	須恵器	甕	18.0	30.0		29.7		やや不良	内)淡青灰色 外)青灰色・淡青灰色	ヘラ記号あり
第95図	516	SO130 周溝	須恵器	甕	26.2	45.2		45.9		良好	内)淡青灰色・黒灰色 外)淡青灰色・青灰色	
第95図	517	SO130 周溝	須恵器	甕	(21.4)	(39.0)		30.0+ α		やや不良	内)淡青灰色 外)青灰色	

第4表 SO120出土装身具計測表

押図番号	遺物番号	出土遺構	種類	径(mm)	長さ(mm)	孔径(mm)	色調	備考
第85図	456	SO120	碧玉製管玉	6.4	19.4	1.3~2.4	濃緑色	片側穿孔
第85図	457	SO120	碧玉製管玉	6.0	15.5	1.7~2.5	濃緑色	片側穿孔
第85図	458	SO120	碧玉製管玉	4.2	14.2	2.2	灰緑色	両側穿孔
第85図	459	SO120	水晶製ソロバン玉	8.6	7.0	1.3~2.8	透明	片側穿孔
第85図	460	SO120	水晶製ソロバン玉	8.8	6.3	1.0~3.1	透明	片側穿孔
第85図	461	SO120	土玉	9.7	8.0	1.7~2.8	黒灰色	
第85図	462	SO120	ガラス小玉	5.1	4.0	1.8	紺色	
第85図	463	SO120	ガラス小玉	4.7	3.3	1.8	淡青色	
第85図	464	SO120	ガラス小玉	3.7	3.5	1.1	淡青色	
第85図	465	SO120	ガラス小玉	4.7	3.8	1.5	紺色	
第85図	466	SO120	ガラス小玉	3.8	2.9	0.9	淡青色	
第85図	467	SO120	ガラス小玉	3.0	2.2	0.9	淡青色	

第5表 石製品計測表

押図番号	遺物番号	出土遺構	種類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
第43図	48	SK178	石鏃	安山岩	1.3+ α	0.95	0.26	
第43図	49	SK140	石戈(刺)	流紋岩?	10.0+ α	4.4	0.65	
第43図	50	SK133	砥石	泥岩	29.55	6.75	3.5	青灰色 ほぼ全面使用
第66図	350	SO3	砥石	泥岩	25.3+ α	4.6	3.5	青灰色 主な使用面2面
第66図	351	SO3	磨製石鏃	泥岩	2.6	1.7	0.2	淡青灰色

第6表 鉄製品計測表

挿図番号	遺物番号	出土遺構	種類	全長(cm)	刃部長(cm)	鉄身部長(cm)	鉄身部幅(cm)	頸部長(cm)	茎長(cm)	備考
第43図	44	SK19	鉤	11.2	2.6				柄8.6	
第43図	45	SK109	鉄鏃	6.4+ α		4.8+ α	3.3+ α	2.6+ α		
第43図	46	SK103	鉄鏃	5.0+ α		5.0+ α	3.2+ α			
第54図	289	SO1 玄室床面	鉄鏃	12.7		3.6	1.5+ α	3.7	5.3	
第54図	290	SO1 玄室床面	鉄鏃	4.7+ α				4.0+ α	0.7+ α	
第54図	291	SO1 玄室床面	刀子	16.8+ α	11.4+ α				5.4	
第54図	292	SO-1 玄室床面	柄元金具	径2.7×2.2						291の金具
第67図	352	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	14.4		8.0	2.8		6.4	
第67図	353	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	12.8		8.0	3.0		4.8	
第67図	354	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	6.9+ α		6.9+ α	2.8			
第67図	355	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	4.1+ α		2.2	1.2			
第67図	356	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	7.6+ α		1.4	1.2			
第67図	357	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	7.2+ α		2.7	1.1			
第67図	358	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	9.2+ α		1.9	1.3			
第67図	359	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	7.8+ α						
第67図	360	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	5.1+ α				3.9	1.2	
第67図	361	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	3.3+ α						
第67図	362	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	4.7+ α						
第67図	363	SO3 右側壁側床面	鉄鏃	3.9+ α						
第67図	364	SO-3 右側壁側床面	鉄鏃	2.6+ α						
第67図	365	SO-3 右側壁側床面	不明鉄製品	8.6						
第67図	366	SO-3 右袖付近床面	不明鉄製品	18.4						
第74図	397	SO-118 2区周溝	鉄鏃	10.7+ α		2.1+ α	1.2	4.1	4.4+ α	
第74図	398	SO-118 3区周溝	鉄鏃	3.3+ α				1.9	1.4	
第84図	438	SO-120 玄室	鉄鏃	10.8+ α		3.0	1.1	3.8	4.0+ α	
第84図	439	SO-120 玄室	鉄鏃	10.2+ α		2.5	1.2	4.4	3.3+ α	
第84図	440	SO-120 玄室	鉄鏃	8.8+ α		3.1+ α	1.2	4.2	1.5+ α	
第84図	441	SO-120 玄室	鉄鏃	10.6+ α		3.4	1.2			
第84図	442	SO-120 玄室	鉄鏃	5.3+ α		3.7	1.1			
第84図	443	SO-120 玄室	鉄鏃	2.9+ α		2.2+ α	1.2			
第84図	444	SO-120 玄室	鉄鏃	9.0+ α		3.5+ α	1.2			
第84図	445	SO-120 玄室	鉄鏃	5.7+ α						
第84図	446	SO-120 玄室	鉄鏃	13.1+ α		3.0	1.6	4.4	5.7	
第84図	447	SO-120 玄室	鉄鏃	4.2+ α						
第84図	448	SO-120 玄室	鉄鏃	3.8+ α						
第84図	449	SO-120 玄室	鉄鏃	3.8+ α						
第84図	450	SO1-20 玄室	鉄鏃	2.1+ α						
第84図	451	SO-120 玄室	刀子	13.7	9.3				4.4	
第84図	452	SO-120 玄室	柄元金具	径1.8×1.6						451の金具
第84図	453	SO-120 玄室	刀子	9.8	5.1				4.7	
第84図	454	SO-120 玄室	鉄刀	94.7	78.4				16.3	

第7表 SK185出土ガラス玉計測表

押印 番号	遺物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
第44図	51	4.1	3.2	2.5	緑	1
第44図	52	4.2	3.5	2.4	緑	2
第44図	53	4.4	3.4	1.9	青	3
第44図	54	5.2	4.1	2.0	青	4
第44図	55	4.9	3.5	2.2	濃紺	5
第44図	56	4.6	3.3	2.2	濃紺	6
第44図	57	5.1	3.0	2.7	濃紺	7
第44図	58	4.7	4.1	2.1	濃紺	8
第44図	59	4.9	3.1	2.3	濃紺	9
第44図	60	4.9	4.0	2.7	濃紺	10
第44図	61	4.4	3.2	1.9	濃紺	11
第44図	62	4.4	4.2	2.0	濃紺	12
第44図	63	4.9	3.3	2.4	濃紺	13
第44図	64	4.6	2.9	1.8	濃紺	14
第44図	65	4.7	4.0	2.3	濃紺	15
第44図	66	4.7	4.0	1.8	濃紺	16
第44図	67	4.0	3.9	2.4	濃紺	17
第44図	68	4.7	3.4	1.8	濃紺	18
第44図	69	4.7	3.3	2.2	濃紺	19
第44図	70	4.1	3.5	2.3	濃紺	20
第44図	71	4.4	2.8	2.1	濃紺	21
第44図	72	4.1	3.8	1.3	濃紺	22
第44図	73	4.2	4.0	1.8	濃紺	23
第44図	74	4.2	3.1	2.2	濃紺	24
第44図	75	4.1	3.6	1.8	濃紺	25
第44図	76	4.5	3.0	2.0	濃紺	26
第44図	77	4.1	3.2	1.5	濃紺	27
第44図	78	4.4	3.3	1.9	濃紺	28
第44図	79	4.0	3.4	2.0	濃紺	29
第44図	80	4.2	3.1	1.8	濃紺	30
第44図	81	4.0	3.0	1.5	濃紺	31
第44図	82	4.0	2.8	1.9	濃紺	32
第44図	83	4.0	3.2	2.0	濃紺	33
第44図	84	4.4	2.5	1.8	濃紺	34
第44図	85	4.1	3.0	1.2	濃紺	35
第44図	86	4.5	3.4	1.5	濃紺	36
第44図	87	4.0	2.6	1.4	濃紺	37
第44図	88	4.3	3.2	1.9	濃紺	38
第44図	89	4.0	3.4	2.3	濃紺	39
第44図	90	4.0	2.2	1.9	濃紺	40
第44図	91	4.0	2.5	1.7	濃紺	41
第44図	92	4.2	2.3	2.0	濃紺	42
第44図	93	4.1	3.1	1.3	濃紺	43
第44図	94	4.1	2.4	1.9	濃紺	44
第44図	95	4.1	2.6	1.8	濃紺	45
第44図	96	4.0	2.7	1.9	濃紺	46
第44図	97	4.0	3.0	1.6	濃紺	47
第44図	98	4.0	3.0	1.7	濃紺	48
第44図	99	4.0	2.4	1.5	濃紺	49
第44図	100	4.0	2.7	1.9	濃紺	50
第44図	101	4.0	3.3	1.7	濃紺	51
第44図	102	4.0	2.6	2.0	濃紺	52
第44図	103	4.0	4.5	1.7	濃紺	53
第44図	104	4.0	2.8	1.8	濃紺	54
第44図	105	3.0	2.9	1.0	濃紺	55
第44図	106	2.8	2.9	1.5	濃紺	56
第44図	107	3.0	3.2	1.0	濃紺	57
第44図	108	2.7	2.7	1.0	濃紺	58
第44図	109	3.0	3.0	1.0	濃紺	59
第44図	110	3.4	3.6	1.3	濃紺	60
第44図	111	3.3	2.4	1.4	濃紺	61
第44図	112	3.2	3.0	1.6	濃紺	62
第44図	113	3.1	2.8	1.6	濃紺	63
第44図	114	3.1	2.4	1.2	濃紺	64
第44図	115	3.0	2.8	1.1	濃紺	65
第44図	116	3.5	3.0	1.3	濃紺	66
第44図	117	3.3	2.9	1.1	濃紺	67
第44図	118	3.2	3.0	1.4	濃紺	68
第44図	119	3.1	2.6	1.6	濃紺	69
第44図	120	3.1	3.0	1.3	濃紺	70
第44図	121	3.3	3.0	1.1	濃紺	71
第44図	122	3.4	3.3	1.2	濃紺	72
第44図	123	3.7	3.0	1.5	濃紺	73
第44図	124	3.1	3.0	1.4	濃紺	74
第44図	125	2.8	2.5	1.6	濃紺	75
第44図	126	2.9	2.8	1.4	濃紺	76
第44図	127	3.4	3.3	2.2	濃紺	77
第44図	128	3.0	3.1	1.3	濃紺	78
第44図	129	3.6	3.4	1.7	濃紺	79
第44図	130	3.7	3.4	1.7	濃紺	80
第44図	131	3.5	3.9	1.5	濃紺	81
第44図	132	3.5	3.9	1.4	濃紺	82
第44図	133	3.5	3.8	1.7	濃紺	83

押印 番号	遺物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
第44図	134	3.6	3.5	1.2	濃紺	84
第44図	135	3.0	3.5	1.1	濃紺	85
第44図	136	3.5	3.5	1.9	濃紺	86
第44図	137	3.5	2.9	1.6	濃紺	87
第44図	138	3.5	3.4	1.3	濃紺	88
第44図	139	3.5	3.1	1.5	濃紺	89
第44図	140	3.5	3.9	1.4	濃紺	90
第44図	141	3.9	3.4	1.1	濃紺	91
第44図	142	3.8	3.2	1.8	濃紺	92
第44図	143	3.0	3.4	1.3	濃紺	93
第44図	144	3.2	2.5	1.5	濃紺	94
第44図	145	3.1	3.0	1.4	濃紺	95
第44図	146	3.6	3.3	1.5	濃紺	96
第44図	147	3.2	2.5	1.7	濃紺	97
第44図	148	3.6	2.9	1.6	濃紺	98
第44図	149	3.8	2.9	1.2	濃紺	99
第44図	150	3.7	3.7	1.3	濃紺	100
第44図	151	3.8	3.6	1.6	濃紺	101
第44図	152	3.0	2.6	1.0	濃紺	102
第44図	153	2.9	2.5	1.2	濃紺	103
第44図	154	2.9	2.3	1.5	濃紺	104
第44図	155	3.1	2.2	1.8	濃紺	105
第44図	156	2.9	2.4	1.8	濃紺	106
第44図	157	2.7	2.6	1.3	濃紺	107
第44図	158	2.8	2.5	1.3	濃紺	108
第44図	159	2.8	2.4	1.1	濃紺	109
第44図	160	3.2	2.2	1.6	濃紺	110
第44図	161	2.7	2.9	1.2	濃紺	111
第44図	162	2.9	2.3	1.1	濃紺	112
第44図	163	2.8	2.7	1.2	濃紺	113
第44図	164	2.7	2.0	1.1	濃紺	114
第44図	165	2.9	2.3	1.1	濃紺	115
第44図	166	2.8	2.7	1.1	濃紺	116
第44図	167	2.8	2.6	1.4	濃紺	117
第44図	168	2.9	2.1	1.4	濃紺	118
第44図	169	2.9	2.7	0.9	濃紺	119
第45図	170	2.8	2.4	1.3	濃紺	120
第45図	171	2.8	3.1	0.9	濃紺	121
第45図	172	2.9	2.5	1.4	濃紺	122
第45図	173	2.9	2.0	1.3	濃紺	123
第45図	174	3.1	2.9	1.2	濃紺	124
第45図	175	2.6	3.4	1.2	濃紺	125
第45図	176	3.8	3.0	1.5	紺	126
第45図	177	4.0	3.6	1.6	紺	127
第45図	178	3.7	2.9	1.0	紺	128
第45図	179	3.8	2.8	2.1	紺	129
第45図	180	3.6	3.0	1.3	紺	130
第45図	181	3.0	3.1	1.3	紺	131
第45図	182	3.3	3.0	1.3	紺	132
第45図	183	3.4	3.2	1.0	紺	133
第45図	184	3.0	2.5	1.3	紺	134
第45図	185	2.8	3.3	1.0	紺	135
第45図	186	3.4	3.8	1.0	紺	136
第45図	187	3.2	2.8	1.0	紺	137
第45図	188	4.0	2.9	1.5	紺	138
第45図	189	3.3	3.3	1.4	紺	139
第45図	190	2.7	2.6	1.3	紺	140
第45図	191	2.9	3.0	1.4	紺	141
第45図	192	3.3	2.9	1.6	紺	142
第45図	193	3.0	2.9	1.6	紺	143
第45図	194	3.0	3.0	1.2	紺	144
第45図	195	3.5	3.0	1.5	紺	145
第45図	196	3.5	2.9	1.4	紺	146
第45図	197	3.3	3.0	1.3	紺	147
第45図	198	3.3	3.0	1.4	紺	148
第45図	199	3.4	2.8	1.4	紺	149
第45図	200	3.2	2.7	1.2	紺	150
第45図	201	2.8	3.2	1.5	紺	151
第45図	202	3.3	2.5	1.5	紺	152
第45図	203	3.3	2.5	1.2	紺	153
第45図	204	3.2	2.5	1.5	紺	154
第45図	205	3.3	2.5	1.5	紺	155
第45図	206	3.4	2.4	1.0	紺	156
第45図	207	2.8	2.6	1.3	紺	157
第45図	208	3.3	2.7	1.2	紺	158
第45図	209	3.0	2.7	1.3	紺	159
第45図	210	3.4	2.7	1.0	紺	160
第45図	211	3.0	2.7	1.4	紺	161
第45図	212	3.2	2.4	1.0	紺	162
第45図	213	2.8	2.8	1.0	紺	163
第45図	214	2.9	2.9	1.0	紺	164
第45図	215	3.2	3.2	1.4	紺	165
第45図	216	3.5	3.5	1.3	紺	166

押印 番号	遺物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
第45図	217	3.2	3.2	1.2	紺	167
第45図	218	3.4	3.4	1.5	紺	168
第45図	219	3.4	3.4	1.5	紺	169
第45図	220	3.5	3.5	1.7	紺	170
第45図	221	3.3	3.3	2.0	紺	171
第45図	222	3.4	3.4	1.7	紺	172
第45図	223	3.7	3.7	1.8	紺	173
第45図	224	3.0	3.0	1.1	紺	174
第45図	225	3.6	1.5	1.9	紺	175
第45図	226	3.4	2.0	1.3	紺	176
第45図	227	3.9	1.4	2.3	紺	177
第45図	228	3.8	1.6	1.6	紺	178
第45図	229	3.3	2.0	1.8	紺	179
第45図	230	3.0	1.9	1.7	紺	180
第45図	231	3.5	1.8	1.7	紺	181
第45図	232	3.3	1.7	1.8	紺	182
第45図	233	3.2	2.0	1.2	紺	183
第45図	234	3.4	1.8	1.2	紺	184
第45図	235	4.0	1.5	2.3	紺	185
第45図	236	3.7	1.6	1.6	紺	186
第45図	237	3.7	1.6	1.6	紺	187
第45図	238	3.4	1.6	1.6	紺	188
第45図	239	3.8	1.4	2.2	紺	189
第45図	240	3.6	1.8	1.4	紺	190
第45図	241	3.5	1.4	1.8	紺	191
第45図	242	3.5	2.0	1.4	紺	192
第45図	243	3.5	1.6	2.0	紺	193
第45図	244	3.6	1.9	1.6	紺	194
第45図	245	3.7	1.8	1.6	紺	195
第45図	246	3.7	1.8	1.8	紺	196
第45図	247	3.4	2.0	1.5	紺	197
第45図	248	3.7	1.9	1.4	紺	198
第45図	249	3.8	2.1	1.4	紺	199
第45図	250	3.6	1.7	1.8	紺	200
第45図	251	3.9	1.9	1.6	紺	201
第45図	252	3.6	2.0	1.2	紺	202
第45図	253	3.6	1.9	1.4	紺	203
第45図	254	3.8	1.8	1.8	紺	204
第45図	255	3.9	2.1	1.4	紺	205
第45図	256	3.6	1.9	1.6	紺	206
第45図	257	3.7	2.1	1.7	紺	207
第45図	258	3.6	1.9	1.2	紺	208
第45図	259	3.7	2.2	1.1	紺	209
第45図	260	3.6	2.0	1.9	紺	210
第45図	261	3.7	1.8	1.9	紺	211
第45図	262	3.9	1.8	1.5	紺	212
第45図	263	3.8	1.7	1.4	紺	213
第45図	264	4.0	2.0	1.6	紺	214
第45図	265	4.0	1.8	1.8	紺	215
第45図	266	4.0	1.8	1.8	紺	216
第45図	267	3.4	1.9	1.4	紺	217
第45図	268	3.3	1.9	1.4	紺	218
第45図	269	3.9	1.8	1.8	紺	219
第45図	270	3.9	2.0	1.6	紺	220
第45図	271	4.0	1.9	1.4	紺	221
第45図	272	3.8	1.9	1.6	紺	222
第45図	273	3.7	2.0	1.2	紺	223
第45図	274	3.3	1.5	1.6	紺	224
以下未掲載						
		3.8	2.8	1.6	濃紺	225
		3.9	3.0	1.6	濃紺	226
		3.5	3.1	2.0	濃紺	227
		3.8	3.9	1.6	濃紺	228
		3.8	3.7	1.7	濃紺	229
		3.8	3.0	1.6	濃紺	230
		3.7	1.8	1.6	濃紺	231
		3.7	2.7	1.7	濃紺	232
		3.8	3.6	1.7	濃紺	233
		3.8	3.9	1.8	濃紺	234
		3.7	4.2	1.5	濃紺	235
		3.8	4.1	1.7	濃紺	236
		3.6	3.4	1.9	濃紺	237
		3.9	2.9	1.8	濃紺	238
		3.9	3.0	2.1	濃紺	239
		3.7	3.5	1.8	濃紺	240
		3.9	3.3	1.8	濃紺	241
		3.6	3.1	1.8	濃紺	242
		3.7	3.0	1.6	濃紺	243
		3.5	3.6	1.5	濃紺	244
		3.7	2.9	1.5	濃紺	245
		3.5	3.4	1.4	濃紺	246
		3.8	3.0	2.0	濃紺	247
		3.6	3.6	1.7	濃紺	248

押込番号	遺物番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し番号
		3.9	3.3	1.6	濃紺	249
		3.6	3.6	1.3	濃紺	250
		3.6	3.2	1.4	濃紺	251
		3.4	3.1	1.3	濃紺	252
		3.6	3.2	1.3	濃紺	253
		3.8	3.3	1.7	濃紺	254
		3.8	3.2	1.6	濃紺	255
		3.8	3.7	1.2	濃紺	256
		3.3	3.6	1.4	濃紺	257
		3.3	3.6	1.3	濃紺	258
		3.3	3.7	1.3	濃紺	259
		3.6	3.7	1.7	濃紺	260
		3.3	3.4	1.4	濃紺	261
		3.0	3.4	1.6	濃紺	262
		3.3	4.8	1.6	濃紺	263
		3.6	3.6	1.6	濃紺	264
		3.7	2.5	1.6	濃紺	265
		3.3	3.5	1.6	濃紺	266
		3.7	3.4	1.6	濃紺	267
		3.5	3.1	1.5	濃紺	268
		3.5	2.6	1.8	濃紺	269
		3.1	3.9	1.3	濃紺	270
		3.5	2.6	1.6	濃紺	271
		3.7	3.0	1.7	濃紺	272
		3.7	2.4	1.6	濃紺	273
		3.9	2.7	1.5	濃紺	274
		3.3	3.1	1.6	濃紺	275
		3.7	2.8	1.7	濃紺	276
		3.5	3.1	1.6	濃紺	277
		3.1	3.3	1.5	濃紺	278
		3.2	3.0	1.3	濃紺	279
		3.1	3.0	1.3	濃紺	280
		3.5	3.2	1.5	濃紺	281
		3.3	3.4	1.4	濃紺	282
		3.3	3.3	1.4	濃紺	283
		3.4	2.9	1.5	濃紺	284
		3.6	2.5	1.7	濃紺	285
		3.0	2.9	1.4	濃紺	286
		3.3	3.3	1.4	濃紺	287
		3.5	3.3	1.5	濃紺	288
		3.7	2.9	1.8	濃紺	289
		3.4	2.8	1.4	濃紺	290
		3.6	3.3	1.3	濃紺	291
		3.7	2.9	1.5	濃紺	292
		3.7	2.4	1.3	濃紺	293
		3.8	2.6	1.8	濃紺	294
		4.0	3.6	1.6	濃紺	295
		3.5	2.9	1.5	濃紺	296
		3.7	2.9	1.9	濃紺	297
		3.4	3.1	1.5	濃紺	298
		3.1	3.1	1.4	濃紺	299
		3.3	3.2	1.3	濃紺	300
		5.0	2.9	1.9	濃紺	301
		3.3	3.5	1.8	濃紺	302
		3.2	2.9	1.5	濃紺	303
		4.0	3.4	1.7	濃紺	304
		4.1	2.4	1.9	濃紺	305
		3.5	3.2	1.2	濃紺	306
		3.8	3.4	1.9	濃紺	307
		3.4	1.9	1.7	濃紺	308
		3.4	3.4	1.5	濃紺	309
		3.1	2.9	1.4	濃紺	310
		3.6	2.6	1.6	濃紺	311
		2.8	3.1	1.0	濃紺	312
		3.4	2.5	1.4	濃紺	313
		3.2	2.9	1.4	濃紺	314
		3.6	3.0	1.6	濃紺	315
		3.9	3.4	1.3	濃紺	316
		4.4	2.8	2.1	濃紺	317
		3.6	2.7	1.7	濃紺	318
		3.4	2.9	1.6	濃紺	319
		3.0	3.4	1.5	濃紺	320
		3.2	3.7	1.5	濃紺	321
		3.5	3.2	1.3	濃紺	322
		3.2	3.1	1.4	濃紺	323
		3.9	3.3	1.6	濃紺	324
		3.1	3.6	1.3	濃紺	325
		3.6	2.9	1.6	濃紺	326
		3.9	3.4	1.5	濃紺	327
		4.2	3.9	1.7	濃紺	328
		4.0	3.5	1.9	濃紺	329
		3.4	2.2	1.6	濃紺	330
		2.9	2.2	1.3	濃紺	331
		2.6	3.3	1.4	濃紺	332
		2.8	2.1	1.0	濃紺	333
		2.4	2.4	1.0	濃紺	334

押込番号	遺物番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し番号
		3.0	2.7	1.4	濃紺	335
		2.7	1.7	2.2	濃紺	336
		3.8	3.0	1.8	濃紺	337
		3.2	3.2	1.6	濃紺	338
		2.6	2.7	1.1	濃紺	339
		3.0	2.4	1.1	濃紺	340
		3.4	2.9	1.2	濃紺	341
		3.0	2.7	1.3	濃紺	342
		2.5	2.1	1.0	濃紺	343
		3.3	3.0	1.4	濃紺	344
		2.8	3.1	1.2	濃紺	345
		2.9	2.2	1.2	濃紺	346
		3.1	2.4	1.3	濃紺	347
		3.8	3.3	1.7	濃紺	348
		3.1	2.3	1.6	濃紺	349
		3.1	2.1	1.5	濃紺	350
		2.9	2.3	1.0	濃紺	351
		3.2	3.0	1.1	濃紺	352
		2.8	2.8	1.3	濃紺	353
		2.8	2.3	1.0	濃紺	354
		3.8	3.2	1.4	濃紺	355
		3.9	2.9	2.0	濃紺	356
		3.7	2.6	2.0	濃紺	357
		4.7	3.3	1.9	濃紺	358
		3.7	2.9	1.6	濃紺	359
		4.2	2.6	1.9	濃紺	360
		4.4	3.1	2.0	濃紺	361
		3.8	3.1	1.6	濃紺	362
		3.6	2.4	1.8	濃紺	363
		4.0	2.1	1.8	濃紺	364
		3.7	2.8	2.8	濃紺	365
		2.7	2.8	2.8	濃紺	366
		3.0	2.0	2.0	濃紺	367
		4.1	3.1	3.1	濃紺	368
		3.9	3.2	3.2	濃紺	369
		3.9	3.1	3.1	濃紺	370
		3.4	3.0	3.0	濃紺	371
		3.6	2.3	2.3	濃紺	372
		3.7	3.3	1.5	濃紺	373
		3.2	3.8	1.1	濃紺	374
		3.3	2.9	1.4	濃紺	375
		3.1	2.5	1.5	濃紺	376
		2.7	2.6	1.5	濃紺	377
		3.2	3.4	1.1	濃紺	378
		3.0	2.3	1.6	濃紺	379
		2.8	2.7	1.5	濃紺	380
		3.8	3.6	1.4	濃紺	381
		4.0	3.5	1.7	濃紺	382
		4.1	3.1	1.6	濃紺	383
		4.0	3.4	1.7	濃紺	384
		3.6	1.6	1.8	濃紺	385
		3.5	2.7	2.0	濃紺	386
		3.1	2.8	1.2	濃紺	387
		4.4	3.8	1.5	濃紺	388
		4.4	3.2	1.2	濃紺	389
		3.6	3.4	1.4	濃紺	390
		3.5	3.4	1.1	濃紺	391
		3.5	2.0	1.8	濃紺	392
		3.3	3.4	1.2	濃紺	393
		3.2	2.9	1.4	濃紺	394
		3.7	2.5	1.4	濃紺	395
		2.9	2.2	0.9	濃紺	396
		4.6	3.3	2.0	濃紺	397
		3.8	3.3	1.5	濃紺	398
		3.1	2.2	1.2	濃紺	399
		3.5	2.7	1.1	濃紺	400
		3.6	2.5	1.5	濃紺	401
		3.6	2.4	1.1	濃紺	402
		3.3	2.5	1.6	濃紺	403
		3.7	2.7	2.1	濃紺	404
		3.7	2.4	1.5	濃紺	405
		3.3	2.9	1.4	濃紺	406
		3.7	3.8	1.3	濃紺	407
		2.8	2.3	1.4	濃紺	408
		2.9	2.3	1.1	濃紺	409
		5.0	3.8	2.3	濃紺	410
		5.4	3.1	2.6	濃紺	411
		3.8	3.8	1.9	濃紺	412
		3.8	3.9	1.4	濃紺	413
		4.4	3.1	1.3	濃紺	414
		3.5	3.2	1.5	濃紺	415
		3.7	3.5	1.8	濃紺	416
		3.6	3.3	1.3	濃紺	417
		3.8	2.6	1.6	濃紺	418
		3.2	2.7	1.6	濃紺	419
		3.0	2.7	1.3	濃紺	420

押込番号	遺物番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し番号
		3.6	3.3	1.8	濃紺	421
		3.3	2.7	1.3	濃紺	422
		3.5	1.7	1.9	濃紺	423
		3.5	3.2	0.9	濃紺	424
		3.5	2.9	1.4	濃紺	425
		3.1	3.1	1.2	濃紺	426
		3.2	3.0	1.3	濃紺	427
		3.1	2.3	1.1	濃紺	428
		2.9	2.6	1.1	濃紺	429
		3.1	2.6	1.6	濃紺	430
		3.3	4.0	1.5	濃紺	431
		3.8	2.8	2.1	濃紺	432
		4.0	3.5	1.2	濃紺	433
		3.7	2.9	1.5	濃紺	434
		3.6	2.8	1.4	濃紺	435
		3.3	2.4	1.3	濃紺	436
		3.7	3.1	1.4	濃紺	437
		2.9	3.1	1.2	濃紺	438
		3.0	2.8	1.4	濃紺	439
		3.4	1.8	1.9	濃紺	440
		3.2	2.7	1.3	濃紺	441
		2.8	2.4	1.3	濃紺	442
		3.1	3.0	1.3	濃紺	443
		3.3	3.3	1.6	濃紺	444
		3.6	2.8	1.6	濃紺	445
		3.1	2.4	1.6	濃紺	446
		3.6	3.1	1.6	濃紺	447
		3.5	3.1	1.7	濃紺	448
		3.8	2.8	1.6	濃紺	449
		2.6	1.8	1.2	濃紺	450
		3.1	2.7	1.4	濃紺	451
		2.9	2.4	1.0	濃紺	452
		3.3	3.0	1.5	濃紺	453
		3.1	3.3	1.1	濃紺	454
		2.9	2.4	1.2	濃紺	455
		2.7	2.5	1.3	濃紺	456
		2.8	2.9	1.2	濃紺	457
		3.6	2.9	1.7	濃紺	458
		3.9	2.4	1.7	濃紺	459
		3.3	2.4	1.4	濃紺	460
		4.5	2.4	2.2	濃紺	461
		3.8	3.3	1.5	濃紺	462
		3.8	1.4	2.1	紺	463
		3.6	1.7	1.6	紺	464
		3.6	1.7	1.7	紺	465
		3.7	1.6	1.9	紺	466
		3.7	1.6	1.6	紺	467
		3.7	1.8	1.9	紺	468
		3.8	1.9	1.6	紺	469
		4.0	1.7	1.8	紺	470
		3.8	1.7	1.7	紺	471
		3.7	1.7	1.6	紺	472
		3.7	1.2	1.9	紺	473
		3.7	1.5	1.8	紺	474
		3.3	1.8	1.8	紺	475
		3.5	1.9	1.6	紺	476
		3.6	1.6	1.8	紺	477
		3.4	1.8	1.5	紺	478
		3.6	1.7	1.4	紺	479
		3.4	1.7	1.4	紺	480
		3.5	1.8	1.2	紺	481

押固 番号	造物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
		3.9	1.6	1.4	紺	507
		3.3	1.7	1.3	紺	508
		3.1	1.9	1.4	紺	509
		3.1	2.1	1.6	紺	510
		3.2	1.6	1.5	紺	511
		4.0	3.0	1.7	濃紺	512
		3.1	2.9	1.2	濃紺	513
		3.2	2.7	1.7	濃紺	514
		3.0	3.3	1.3	濃紺	515
		3.0	2.4	1.2	濃紺	516
		2.8	2.6	1.3	濃紺	517
		3.3	2.5	1.2	濃紺	518
		3.1	2.6	1.4	濃紺	519
		3.2	2.9	1.5	濃紺	520
		2.9	2.4	1.4	濃紺	521
		3.7	3.2	1.4	濃紺	522
		3.3	3.3	1.9	濃紺	523
		3.6	2.3	1.7	濃紺	524
		3.5	2.3	1.6	濃紺	525
		2.9	3.0	1.5	濃紺	526
		2.8	3.1	1.4	濃紺	527
		2.7	2.7	1.4	濃紺	528
		3.4	2.9	1.5	濃紺	529
		2.8	3.2	0.9	濃紺	530
		2.9	2.5	1.3	濃紺	531
		2.7	1.7	1.3	濃紺	532
		2.3	2.0	0.9	濃紺	533
		2.9	2.7	1.4	濃紺	534
		3.4	2.5	1.3	濃紺	535
		3.6	2.9	1.5	濃紺	536
		3.1	2.2	1.2	濃紺	537
		3.0	2.1	1.6	濃紺	538
		3.3	2.7	1.3	濃紺	539
		3.1	3.1	1.3	濃紺	540
		3.5	3.0	1.4	濃紺	541
		3.4	3.2	1.3	濃紺	542
		3.2	2.4	1.5	濃紺	543
		2.4	2.9	1.4	濃紺	544
		3.5	2.6	1.4	濃紺	545
		3.2	2.7	1.4	濃紺	546
		3.7	3.1	1.8	濃紺	547
		3.5	2.8	1.5	濃紺	548
		3.3	3.3	1.4	濃紺	549
		3.7	2.7	1.6	濃紺	550
		4.0	3.3	1.5	濃紺	551
		3.7	3.4	1.4	濃紺	552
		3.7	3.1	1.4	濃紺	553
		3.7	3.9	1.1	濃紺	554
		4.4	2.9	2.2	濃紺	555
		5.1	2.5	2.5	濃紺	556
		4.8	3.5	2.1	濃紺	557
		4.9	3.3	2.0	濃紺	558
		5.1	4.3	1.9	濃紺	559
		4.2	3.9	1.8	濃紺	560
		4.2	4.2	1.7	濃紺	561
		4.6	4.0	2.1	濃紺	562
		5.1	3.7	1.9	濃紺	563
		4.4	4.7	1.8	濃紺	564
		4.4	4.3	1.3	濃紺	565
		4.3	4.2	1.5	濃紺	566
		4.6	3.8	2.1	濃紺	567
		4.0	3.7	1.3	濃紺	568
		3.7	3.9	1.1	濃紺	569
		4.2	3.7	1.6	濃紺	570
		4.0	3.7	1.7	濃紺	571
		3.7	3.5	1.6	濃紺	572
		4.7	3.2	1.9	濃紺	573
		4.1	3.6	1.5	濃紺	574
		4.3	3.4	1.9	濃紺	575
		4.9	2.9	2.0	濃紺	576
		4.9	3.2	2.3	濃紺	577
		4.2	2.9	2.0	濃紺	578
		4.6	3.4	1.8	濃紺	579
		4.4	3.9	1.6	濃紺	580
		4.0	3.9	1.9	濃紺	581
		4.2	2.9	1.9	濃紺	582
		3.5	3.0	1.6	濃紺	583
		3.9	3.0	1.5	濃紺	584
		4.0	3.7	1.6	濃紺	585
		4.2	3.5	1.8	濃紺	586
		4.4	3.1	1.3	濃紺	587
		4.6	3.2	2.4	濃紺	588
		4.4	3.1	1.9	濃紺	589
		4.4	3.4	1.8	濃紺	590
		4.5	3.0	1.8	濃紺	591
		3.7	3.9	1.5	濃紺	592

押固 番号	造物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
		3.6	3.0	1.8	濃紺	593
		3.4	3.5	1.7	濃紺	594
		4.1	3.2	1.5	濃紺	595
		3.5	3.3	1.4	濃紺	596
		4.0	4.0	1.9	濃紺	597
		4.4	3.6	1.4	濃紺	598
		4.0	3.4	1.4	濃紺	599
		4.1	2.7	1.6	濃紺	600
		4.2	3.6	1.9	濃紺	601
		3.1	2.9	1.1	濃紺	602
		3.1	3.1	1.6	濃紺	603
		3.8	3.5	1.6	濃紺	604
		3.6	3.2	1.6	濃紺	605
		3.7	3.3	1.5	濃紺	606
		4.1	3.6	1.9	濃紺	607
		3.7	2.8	1.8	濃紺	608
		4.1	2.8	1.7	濃紺	609
		4.0	2.9	1.8	濃紺	610
		3.2	2.8	1.4	濃紺	611
		3.4	3.8	1.3	濃紺	612
		4.4	3.0	1.3	濃紺	613
		3.6	3.4	1.4	濃紺	614
		3.5	2.4	1.4	濃紺	615
		3.5	3.5	1.9	濃紺	616
		4.4	3.0	1.4	濃紺	617
		3.2	3.0	1.2	濃紺	618
		4.0	3.5	1.8	濃紺	619
		3.5	2.9	1.1	濃紺	620
		3.8	3.6	1.5	濃紺	621
		3.4	3.4	1.1	濃紺	622
		3.5	3.3	1.7	濃紺	623
		4.0	3.0	1.8	濃紺	624
		3.9	3.2	1.8	濃紺	625
		4.1	3.3	2.1	濃紺	626
		4.7	2.8	2.1	濃紺	627
		4.8	3.1	1.8	濃紺	628
		4.2	3.3	1.5	濃紺	629
		3.6	3.9	1.5	濃紺	630
		4.4	2.7	1.5	濃紺	631
		4.2	3.0	1.8	濃紺	632
		3.8	3.0	1.8	濃紺	633
		3.3	3.9	1.3	濃紺	634
		4.2	3.7	1.9	濃紺	635
		3.8	3.5	1.8	濃紺	636
		3.8	3.7	1.8	濃紺	637
		3.8	3.9	1.5	濃紺	638
		4.0	3.8	1.1	濃紺	639
		3.7	3.2	1.6	濃紺	640
		4.2	3.0	2.0	濃紺	641
		4.1	3.0	1.8	濃紺	642
		3.5	3.0	1.5	濃紺	643
		3.8	3.6	1.4	濃紺	644
		3.0	3.8	1.1	濃紺	645
		3.7	3.4	1.4	濃紺	646
		4.0	3.3	2.1	濃紺	647
		4.4	3.4	1.4	濃紺	648
		3.5	3.8	1.5	濃紺	649
		3.3	2.3	1.3	濃紺	650
		3.3	1.8	1.2	濃紺	651
		3.6	3.2	1.4	濃紺	652
		3.4	2.5	1.4	濃紺	653
		4.0	2.8	2.1	濃紺	654
		3.0	2.1	1.3	濃紺	655
		4.1	3.1	1.9	濃紺	656
		3.3	3.4	1.0	濃紺	657
		3.5	3.3	1.1	濃紺	658
		3.5	2.6	1.7	濃紺	659
		3.4	3.0	1.6	濃紺	660
		3.0	2.7	1.4	濃紺	661
		3.5	3.5	1.0	濃紺	662
		4.1	2.5	1.6	濃紺	663
		3.7	3.8	1.3	濃紺	664
		3.8	4.0	1.7	濃紺	665
		3.6	2.9	1.6	濃紺	666
		3.0	3.3	1.0	濃紺	667
		4.2	3.0	1.7	濃紺	668
		3.9	3.6	1.6	濃紺	669
		3.8	2.8	1.9	濃紺	670
		3.8	2.9	1.4	濃紺	671
		3.8	2.8	1.3	濃紺	672
		3.2	3.4	1.4	濃紺	673
		3.7	2.9	1.8	濃紺	674
		3.2	2.8	0.9	濃紺	675
		3.5	3.0	1.3	濃紺	676
		3.8	3.2	1.4	濃紺	677
		3.1	2.8	1.3	濃紺	678

押固 番号	造物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
		3.4	3.3	1.2	濃紺	679
		4.1	3.2	1.8	濃紺	680
		3.2	3.0	1.4	濃紺	681
		3.3	3.6	1.2	濃紺	682
		3.6	2.4	1.4	濃紺	683
		3.3	2.7	1.6	濃紺	684
		3.6	3.5	1.5	濃紺	685
		3.6	3.0	1.5	濃紺	686
		3.7	2.8	1.5	濃紺	687
		3.4	3.3	1.2	濃紺	688
		4.3	3.1	2.1	濃紺	689
		4.1	2.9	1.4	濃紺	690
		4.0	3.0	1.8	濃紺	691
		3.8	3.2	1.2	濃紺	692
		4.0	2.2	2.2	濃紺	693
		3.4	3.0	1.6	濃紺	694
		3.3	2.3	1.2	濃紺	695
		3.5	3.6	1.5	濃紺	696
		2.8	2.8	0.8	濃紺	697
		2.9	3.9	0.9	濃紺	698
		3.2	2.8	1.8	濃紺	699
		3.6	2.8	1.6	濃紺	700
		3.5	2.8	1.3	濃紺	701
		3.7	2.6	1.3	濃紺	702
		3.5	2.5	1.6	濃紺	703
		4.0	3.2	1.8	濃紺	704
		3.9	3.4	1.8	濃紺	705
		3.4	2.6	1.1	濃紺	706
		3.8	2.4	1.6	濃紺	707
		3.0	2.9	1.2	濃紺	708
		2.8	3.1	1.3	濃紺	709
		4.5	2.8	2.2	濃紺	710
		4.2	3.2	1.8	濃紺	711
		3.7	2.9	1.4	濃紺	712
		3.5	3.5	1.0	濃紺	713
		2.7	2.5	1.5	濃紺	714
		3.8	3.7	1.5	濃紺	715
		3.8	2.8	1.4	濃紺	716
		3.6	2.4	1.4	濃紺	717
		3.0	3.3	0.9	濃紺	718
		3.3	2.8	1.4	濃紺	719
		3.2	2.7	1.4	濃紺	720
		3.2	1.8	0.9	濃紺	721
		3.3	2.6	1.6	濃紺	722
		3.3	3.4	1.1	濃紺	723
		4.0	2.9	1.4	濃紺	724
		3.8	3.0	1.4	濃紺	725
		3.8	2.5	2.0	濃紺	726
		4.2	3.3	2.2	濃紺	727
		3.8	2.4	1.4	濃紺	728
		3.8	2.5	1.7	濃紺	729
		3.2	2.8	1.5	濃紺	730
		2.7	3.1	1.1	濃紺	731
		4.2	3.7	1.6	濃紺	732
		4.1	2.4	1.5	濃紺	733
		3.8	2.7	1.5	濃紺	734
		3.4	2.5	1.1	濃紺	735
		3.3	2.0	1.4	濃紺	736
		4.2	3.0	2.0	濃紺	737
		3.5	3.2	1.5	濃紺	738

挿入 番号	道物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
		3.3	2.7	1.4	濃紺	765
		3.0	2.6	1.3	濃紺	766
		3.9	2.9	1.4	濃紺	767
		3.2	3.1	0.9	濃紺	768
		3.4	3.3	1.6	濃紺	769
		3.3	2.8	1.0	濃紺	770
		3.5	3.3	1.0	濃紺	771
		3.3	2.8	1.1	濃紺	772
		3.2	2.4	1.0	濃紺	773
		3.3	3.0	1.1	濃紺	774
		3.9	3.0	1.0	濃紺	775
		3.3	2.4	1.2	濃紺	776
		3.1	3.3	1.3	濃紺	777
		4.2	3.1	1.5	濃紺	778
		3.4	3.8	1.4	濃紺	779
		3.7	2.9	2.0	濃紺	780
		3.6	3.3	1.7	濃紺	781
		4.1	3.3	1.6	濃紺	782
		3.1	3.7	1.3	濃紺	783
		3.8	3.2	1.6	濃紺	784
		3.3	3.1	1.1	濃紺	785
		3.5	2.4	1.4	濃紺	786
		4.2	3.0	1.6	濃紺	787
		3.9	3.2	1.9	濃紺	788
		3.7	3.5	1.3	濃紺	789
		3.7	2.7	1.6	濃紺	790
		3.1	3.1	1.2	濃紺	791
		4.0	3.2	1.2	濃紺	792
		3.6	2.7	1.6	濃紺	793
		3.3	3.3	1.4	濃紺	794
		3.9	2.7	1.4	濃紺	795
		3.1	2.6	1.2	濃紺	796
		3.6	2.9	1.6	濃紺	797
		3.8	3.5	1.1	濃紺	798
		3.2	3.1	1.4	濃紺	799
		3.2	3.1	1.4	濃紺	800
		2.7	2.2	1.1	濃紺	801
		3.9	2.1	2.0	濃紺	802
		3.4	2.4	1.3	濃紺	803
		3.0	3.0	1.5	濃紺	804
		3.0	3.2	1.4	濃紺	805
		3.0	2.7	1.5	濃紺	806
		2.8	2.0	0.9	濃紺	807
		3.4	3.3	1.3	濃紺	808
		2.9	3.4	0.9	濃紺	809
		3.4	3.1	1.4	濃紺	810
		3.3	3.0	1.4	濃紺	811
		4.2	2.6	1.4	濃紺	812
		3.2	3.5	1.2	濃紺	813
		3.7	2.4	1.4	濃紺	814
		3.6	3.1	1.5	濃紺	815
		3.1	2.9	1.2	濃紺	816
		3.8	2.7	2.1	濃紺	817
		3.8	3.0	1.6	濃紺	818
		3.4	2.8	1.3	濃紺	819
		3.0	2.3	1.1	濃紺	820
		3.2	3.0	1.0	濃紺	821
		3.2	3.6	1.5	濃紺	822
		3.7	2.6	1.6	濃紺	823
		3.5	3.2	1.4	濃紺	824
		3.3	2.9	1.1	濃紺	825
		2.9	4.0	1.5	濃紺	826
		3.7	3.5	1.4	濃紺	827
		3.4	2.9	1.4	濃紺	828
		3.3	3.6	1.0	濃紺	829
		3.2	2.2	1.8	濃紺	830
		3.0	2.8	1.3	濃紺	831
		3.3	2.4	1.5	濃紺	832
		3.4	3.6	1.3	濃紺	833
		3.6	3.0	1.4	濃紺	834
		3.9	2.1	1.4	濃紺	835
		2.7	3.5	0.9	濃紺	836
		4.1	3.3	1.9	濃紺	837
		3.5	3.4	1.5	濃紺	838
		3.8	3.4	2.3	濃紺	839
		3.2	3.1	1.3	濃紺	840
		3.4	2.5	1.1	濃紺	841
		3.6	2.9	1.4	濃紺	842
		4.0	2.5	1.5	濃紺	843
		3.9	2.8	1.3	濃紺	844
		3.8	2.7	1.4	濃紺	845
		3.4	2.9	1.3	濃紺	846
		4.2	3.1	1.9	濃紺	847
		3.8	3.6	1.4	濃紺	848
		4.1	3.0	1.4	濃紺	849
		3.9	2.7	1.6	濃紺	850

挿入 番号	道物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
		2.7	3.2	1.2	濃紺	851
		3.6	3.3	0.9	濃紺	852
		3.6	2.8	1.0	濃紺	853
		3.5	3.0	1.5	濃紺	854
		3.2	2.8	1.4	濃紺	855
		3.3	2.2	1.1	濃紺	856
		4.4	2.4	2.3	濃紺	857
		3.8	3.8	1.0	濃紺	858
		3.6	3.3	1.2	濃紺	859
		3.4	2.9	1.1	濃紺	860
		3.1	2.5	1.3	濃紺	861
		4.4	1.9	1.9	濃紺	862
		3.9	1.8	1.7	濃紺	863
		3.8	3.0	1.4	濃紺	864
		3.5	2.5	1.6	濃紺	865
		3.1	2.7	1.2	濃紺	866
		3.8	2.6	1.9	濃紺	867
		3.0	3.0	0.9	濃紺	868
		3.2	3.3	1.2	濃紺	869
		3.4	2.6	1.4	濃紺	870
		3.4	2.1	1.2	濃紺	871
		2.7	2.4	1.4	濃紺	872
		3.3	2.5	1.5	濃紺	873
		2.8	2.9	1.1	濃紺	874
		3.0	2.7	0.9	濃紺	875
		2.6	1.9	1.4	濃紺	876
		3.4	3.4	1.5	濃紺	877
		3.0	2.5	1.0	濃紺	878
		3.1	3.0	1.0	濃紺	879
		3.2	2.7	1.5	濃紺	880
		3.2	2.1	1.4	濃紺	881
		3.6	3.0	1.3	濃紺	882
		3.4	2.5	1.3	濃紺	883
		3.1	2.9	1.1	濃紺	884
		3.2	2.2	1.2	濃紺	885
		3.2	2.5	1.5	濃紺	886
		3.4	2.5	1.1	濃紺	887
		3.3	2.7	1.3	濃紺	888
		3.3	3.0	1.7	濃紺	889
		3.0	2.4	1.4	濃紺	890
		2.9	2.9	1.2	濃紺	891
		3.7	2.9	1.7	濃紺	892
		3.4	3.2	1.2	濃紺	893
		3.1	2.6	1.0	濃紺	894
		3.3	2.5	1.1	濃紺	895
		3.0	2.5	0.9	濃紺	896
		3.9	2.4	1.5	濃紺	897
		2.8	2.9	0.8	濃紺	898
		3.3	1.7	1.6	濃紺	899
		3.1	3.1	1.0	濃紺	900
		2.9	2.4	0.9	濃紺	901
		3.2	2.5	1.7	濃紺	902
		3.4	2.5	1.4	濃紺	903
		2.9	2.0	1.3	濃紺	904
		2.9	2.1	1.2	濃紺	905
		2.8	2.1	1.3	濃紺	906
		3.4	3.0	1.4	濃紺	907
		3.3	3.0	1.3	濃紺	908
		3.3	3.1	1.3	濃紺	909
		3.1	2.0	1.3	濃紺	910
		3.0	1.8	1.1	濃紺	911
		3.6	2.8	1.4	濃紺	912
		4.1	2.4	1.7	濃紺	913
		3.7	3.7	1.0	濃紺	914
		3.4	3.2	1.4	濃紺	915
		3.4	2.8	1.4	濃紺	916
		4.1	3.2	1.5	濃紺	917
		3.2	2.9	1.4	濃紺	918
		3.8	2.6	1.6	濃紺	919
		4.3	3.2	1.6	濃紺	920
		3.4	3.0	1.5	濃紺	921
		3.6	3.3	1.8	濃紺	922
		3.8	2.7	1.2	濃紺	923
		3.6	3.3	1.3	濃紺	924
		3.2	2.9	1.3	濃紺	925
		3.0	2.5	1.0	濃紺	926
		3.3	3.4	1.0	濃紺	927
		3.4	2.7	1.3	濃紺	928
		3.6	2.8	1.2	濃紺	929
		3.4	2.7	1.4	濃紺	930
		2.6	2.8	1.4	濃紺	931
		3.7	3.3	1.1	濃紺	932
		3.6	3.0	1.4	濃紺	933
		3.6	2.8	1.4	濃紺	934
		3.4	2.8	1.5	濃紺	935
		3.1	3.1	1.1	濃紺	936

挿入 番号	道物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
		3.6	3.3	1.7	濃紺	937
		3.3	2.8	1.5	濃紺	938
		2.8	2.1	1.2	濃紺	939
		2.8	2.6	1.3	濃紺	940
		2.7	3.3	1.3	濃紺	941
		4.0	2.8	1.8	濃紺	942
		3.4	2.8	1.7	濃紺	943
		3.2	3.3	1.5	濃紺	944
		3.2	2.6	1.5	濃紺	945
		2.9	2.5	1.4	濃紺	946
		3.9	2.2	1.5	濃紺	947
		3.3	3.4	1.3	濃紺	948
		3.3	2.7	1.5	濃紺	949
		3.0	2.1	1.8	濃紺	950
		3.0	2.8	0.9	濃紺	951
		4.0	2.5	1.8	濃紺	952
		3.8	2.2	1.5	濃紺	953
		3.6	2.0	2.0	濃紺	954
		3.6	2.0	1.4	濃紺	955
		3.5	2.5	1.3	濃紺	956
		3.4	3.4	1.7	濃紺	957
		2.6	2.8	1.1	濃紺	958
		2.5	2.4	1.1	濃紺	959
		3.0	2.6	1.4	濃紺	960
		2.8	2.3	1.3	濃紺	961
		3.7	2.7	1.9	濃紺	962
		3.1	2.3	1.2	濃紺	963
		3.0	2.5	1.3	濃紺	964
		2.8	2.9	1.0	濃紺	965
		2.7	2.2	0.9	濃紺	966
		3.7	3.0	1.4	濃紺	967
		3.5	1.9	1.6	濃紺	968
		3.0	3.1	1.2	濃紺	969
		2.9	3.0	1.4	濃紺	970
		2.8	2.5	1.1	濃紺	971
		3.3	2.8	1.0	濃紺	972
		3.4	2.9	1.6	濃紺	973
		3.5	2.5	0.9	濃紺	974
		3.2	2.3	1.4	濃紺	975
		3.5	2.9	1.2	濃紺	976
		3.6	2.3	1.7	濃紺	977
		3.2	2.8	1.3	濃紺	978
		2.8	2.7	1.6	濃紺	979
		2.9	2.4	1.0	濃紺	980
		3.2	3.5	1.2	濃紺	981
		3.2	2.8	1.4	濃紺	982
		3.4	2.8	1.4	濃紺	983
		3.3	2.3	1.2	濃紺	984
		3.0	2.5	1.2	濃紺	985
		3.1	2.5	1.2	濃紺	986
		2.8	3.5	1.4	濃紺	987
		3.2	2.4	1.3	濃紺	988
		3.2	2.4	1.3	濃紺	989
		3.4	2.9	1.5	濃紺	990
		3.2	2.7	1.3	濃紺	991
		3.6	2.8	1.3	濃紺	992
		3.2	2.7	1.8	濃紺	993
		3.2	2.4	1.5	濃紺	994
		3.3	2.1	1.4	濃紺	995
		2.7	2.4	1.3	濃紺	996</

押込 番号	遺物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
		3.5	1.6	1.5	紺	1023
		3.1	2.1	1.4	紺	1024
		3.9	2.0	1.6	紺	1025
		3.8	1.5	2.2	紺	1026
		3.8	1.4	1.3	紺	1027
		3.2	2.0	1.1	紺	1028
		3.5	1.8	1.3	紺	1029
		3.3	1.7	1.7	紺	1030
		3.4	1.9	1.6	紺	1031
		3.7	1.7	1.1	紺	1032
		3.4	2.0	1.4	紺	1033
		3.8	1.7	1.7	紺	1034
		3.6	1.6	1.3	紺	1035
		3.2	1.4	1.7	紺	1036
		3.6	1.5	2.0	紺	1037
		3.2	1.9	1.8	紺	1038
		3.7	1.6	1.8	紺	1039
		3.6	2.0	1.9	紺	1040
		2.9	1.7	1.7	紺	1041
		3.6	2.0	1.6	紺	1042
		3.3	1.4	1.4	紺	1043
		3.3	1.9	1.4	紺	1044
		3.4	1.3	1.5	紺	1045
		3.4	1.7	1.2	紺	1046
		3.6	1.4	2.3	紺	1047
		3.5	1.3	1.7	紺	1048
		3.3	1.7	1.1	紺	1049
		3.5	1.2	2.1	紺	1050
		3.5	1.8	1.8	紺	1051
		3.6	1.4	1.8	紺	1052
		3.7	1.6	1.7	紺	1053
		3.4	1.8	1.3	紺	1054
		3.7	2.0	1.4	紺	1055
		3.4	1.5	1.7	紺	1056
		3.9	1.7	2.0	紺	1057
		3.5	1.6	1.5	紺	1058
		3.7	1.6	1.9	紺	1059
		3.5	1.4	1.8	紺	1060
		3.8	1.8	1.6	紺	1061
		3.4	1.9	1.3	紺	1062
		3.9	1.5	1.8	紺	1063
		3.2	1.6	2.0	紺	1064
		3.5	1.5	1.9	紺	1065
		3.5	1.6	2.1	紺	1066
		3.9	1.7	1.9	紺	1067
		3.9	1.4	2.3	紺	1068
		3.9	1.7	1.8	紺	1069
		3.5	1.4	1.6	紺	1070
		3.6	1.8	1.5	紺	1071
		3.8	2.1	1.5	紺	1072
		3.9	1.7	1.8	紺	1073
		3.6	1.7	1.8	紺	1074
		3.8	1.8	1.8	紺	1075
		3.8	1.7	1.8	紺	1076
		3.5	1.5	1.7	紺	1077
		3.8	1.8	1.8	紺	1078
		3.1	1.4	1.7	紺	1079
		4.1	1.7	1.8	紺	1080
		3.9	1.6	1.8	紺	1081
		3.7	2.1	1.4	紺	1082
		3.3	1.9	1.5	紺	1083
		3.5	1.9	1.9	紺	1084
		3.8	1.7	1.5	紺	1085
		3.5	1.8	2.0	紺	1086
		4.0	1.5	1.8	紺	1087
		4.0	1.8	1.9	紺	1088
		4.0	1.9	1.7	紺	1089
		3.9	1.7	2.1	紺	1090
		3.7	1.6	1.6	紺	1091
		3.6	1.4	2.1	紺	1092
		3.9	1.5	1.9	紺	1093
		4.0	1.6	2.4	紺	1094
		3.6	1.8	1.3	紺	1095
		3.9	2.0	2.1	紺	1096
		3.8	1.6	2.2	紺	1097
		3.6	1.6	1.5	紺	1098
		3.8	1.9	1.5	紺	1099
		3.4	1.6	1.7	紺	1100
		3.5	1.6	1.6	紺	1101
		3.5	1.8	1.6	紺	1102
		3.4	1.7	1.6	紺	1103
		3.0	1.3	1.7	紺	1104
		2.7	1.0	1.2	紺	1105
		3.7	1.7	1.8	紺	1106
		3.6	1.7	1.8	紺	1107
		3.7	1.6	1.9	紺	1108

押込 番号	遺物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
		3.7	1.9	1.6	紺	1109
		3.7	1.8	1.6	紺	1110
		3.7	1.9	1.6	紺	1111
		3.9	1.7	2.0	紺	1112
		3.8	1.5	2.2	紺	1113
		3.5	1.5	1.9	紺	1114
		3.5	1.6	1.8	紺	1115
		3.6	1.8	2.0	紺	1116
		3.7	1.8	1.6	紺	1117
		3.9	1.6	1.6	紺	1118
		3.6	1.9	1.9	紺	1119
		3.8	1.8	1.5	紺	1120
		3.6	1.8	1.7	紺	1121
		3.3	1.5	1.5	紺	1122
		3.7	1.4	2.1	紺	1123
		3.6	1.7	1.7	紺	1124
		4.0	1.5	1.6	紺	1125
		3.6	1.4	1.6	紺	1126
		3.4	1.6	1.3	紺	1127
		3.3	1.6	1.3	紺	1128
		3.1	1.6	1.8	紺	1129
		3.8	1.7	1.5	紺	1130
		3.7	1.7	1.8	紺	1131
		3.8	1.7	1.5	紺	1132
		3.8	1.7	1.8	紺	1133
		4.0	1.8	2.1	紺	1134
		3.8	1.7	2.1	紺	1135
		3.8	2.0	1.2	紺	1136
		3.7	1.7	1.7	紺	1137
		3.8	1.9	1.9	紺	1138
		3.5	1.9	1.7	紺	1139
		3.7	2.0	1.4	紺	1140
		3.5	1.6	1.3	紺	1141
		3.5	1.8	1.7	紺	1142
		3.7	1.7	1.7	紺	1143
		3.5	2.0	2.1	紺	1144
		3.6	2.1	1.4	紺	1145
		3.4	1.8	1.4	紺	1146
		3.6	1.6	1.5	紺	1147
		3.4	1.7	1.1	紺	1148
		3.1	1.9	1.5	紺	1149
		3.5	1.7	1.2	紺	1150
		3.1	1.8	1.4	紺	1151
		3.2	1.7	1.1	紺	1152
		3.3	1.7	1.7	紺	1153
		3.8	1.4	2.0	紺	1154
		3.6	1.8	2.0	紺	1155
		3.9	1.5	1.9	紺	1156
		3.9	1.8	1.6	紺	1157
		3.9	1.9	1.4	紺	1158
		3.2	1.4	1.3	紺	1159
		3.5	1.7	1.6	紺	1160
		3.5	2.1	1.7	紺	1161
		3.4	1.5	1.8	紺	1162
		3.8	1.6	1.8	紺	1163
		3.6	1.9	1.5	紺	1164
		3.7	1.6	1.7	紺	1165
		3.2	1.8	1.5	紺	1166
		3.2	2.1	1.3	紺	1167
		3.4	1.8	1.6	紺	1168
		3.3	1.8	1.5	紺	1169
		3.4	1.9	1.5	紺	1170
		3.6	1.8	1.6	紺	1171
		3.3	1.6	1.5	紺	1172
		3.3	1.6	1.2	紺	1173
		3.4	1.7	1.2	紺	1174
		3.1	1.7	1.3	紺	1175
		3.8	1.5	1.4	紺	1176
		3.7	1.9	1.7	紺	1177
		3.8	1.9	1.9	紺	1178
		3.4	1.5	1.5	紺	1179
		3.5	2.0	1.8	紺	1180
		3.5	1.5	1.4	紺	1181
		3.2	1.7	1.5	紺	1182
		3.4	1.8	1.5	紺	1183
		3.5	1.8	1.2	紺	1184
		3.7	2.0	1.8	紺	1185
		3.8	1.4	2.1	紺	1186
		3.8	1.8	1.9	紺	1187
		3.9	1.6	1.8	紺	1188
		4.1	1.5	2.0	紺	1189
		4.0	1.7	1.7	紺	1190
		3.9	1.5	2.0	紺	1191
		3.9	1.6	1.9	紺	1192
		3.7	2.0	1.8	紺	1193
		3.6	1.7	1.5	紺	1194

押込 番号	遺物 番号	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	色調	通し 番号
		3.9	1.6	1.4	紺	1195
		3.6	1.8	1.5	紺	1196
		3.2	1.5	1.3	紺	1197
		3.4	1.6	1.5	紺	1198
		3.5	1.8	1.2	紺	1199
		3.6	1.6	1.6	紺	1200
		3.4	1.8	1.8	紺	1201
		3.1	1.6	1.4	紺	1202
		3.4	1.6	1.6	紺	1203
		3.1	1.6	1.4	紺	1204
		3.4	1.6	1.6	紺	1205
		3.8	1.6	2.0	紺	1206
		3.2	1.7	1.6	紺	1207
		4.1	1.8	1.3	紺	1208
		4.0	1.9	1.2	紺	1209
		3.6	1.7	1.6	紺	1210
		3.9	2.1	1.6	紺	1211
		3.6	2.0	1.5	紺	1212
		3.5	2.3	1.0	紺	1213
		3.1	1.9	1.2	紺	1214
		3.7	1.7	1.6	紺	1215
		3.8	1.7	1.6	紺	1216
		3.6	1.5	1.6	紺	1217
		3.8	1.6	1.5	紺	1218
		3.7	1.6	1.7	紺	1219
		3.9	1.7	1.5	紺	1220
		3.8	1.8	1.8	紺	1221
		3.5	1.8	1.1	紺	1222
		3.8	1.9	1.6	紺	1223
		3.5	2.1	1.4	紺	1224
		3.7	1.8	1.3	紺	1225
		3.3	1.4	1.5	紺	1226
		3.6	1.8	1.6	紺	1227
		3.3	2.7	1.6	紺	1228
		3.3	1.6	1.3	紺	1229
		3.7	1.7	1.8	紺	1230
		3.5	1.8	1.6	紺	1231
		3.8	1.9	1.6	紺	1232
		3.2	2.1	1.5	紺	1233
		3.4	2.0	1.5	紺	1234
		3.5	2.2	1.1	紺	1235
		3.4	2.0	1.6	紺	1236
		3.2	2.1	1.1	紺	1237
		3.2	2.1	1.6	紺	1238
		3.6	1.7	1.7	紺	1239
		3.7	1.6	1.5	紺	1240
		3.3	2.0	1.8	紺	1241
		3.3	1.9	1.3	紺	1242
		3.6	2.0	1.7	紺	1243
		4.0	2.2	1.5	紺	1244
		3.7	2.0	1.5	紺	1245
		3.7	1.8	2.1	紺	1246
		3.3	2.2	1.8	紺	1247
		3.6	2.2	1.1	紺	1248
		2.9	2.6	1.7	紺	1249
		3.7	2.2	1.6	紺	1250
		3.1	2.0	1.6	紺	1251
		3.0	1.9	1.4	紺	1252
		3.0	1.8	1.3	紺	1253
		2.8	1.7	1.4	紺	1254</

図 版



I 区全景



II・III区南東側全景（北東から）



Ⅱ・Ⅲ区南東側全景（西から）



Ⅲ区北西側全景



Ⅳ区全景



SK 4 (西から)



SK 5 (南から)



SK 6 (南西から)



SK 7 (北から)



SK 10 (南東から)



SK 11 (北から)



SK 12 (北西から)



SK 13 (北から)



SK 14 (北から)



SK 15 (西から)



SK16 (南から)



SK17 (北から)



SK18 (南東から)



SK19 (北から)



SK19 鉋出土状況 (西から)



SK20 (北東から)



SK21 (西から)



SK22 (西から)



SK23 (西から)



SK25・37 (南から)



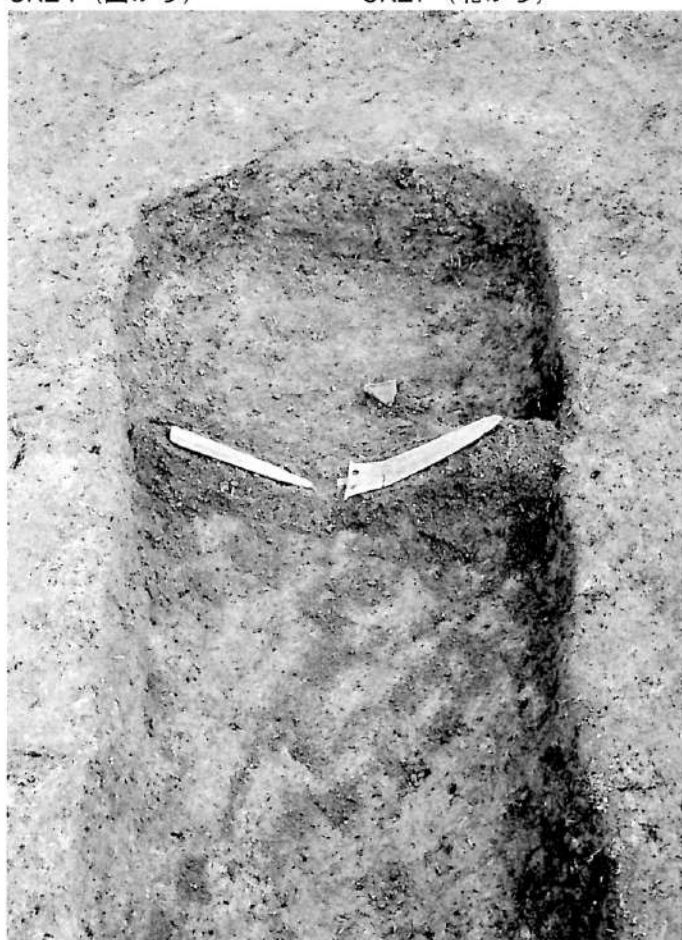
SK24 (西から)



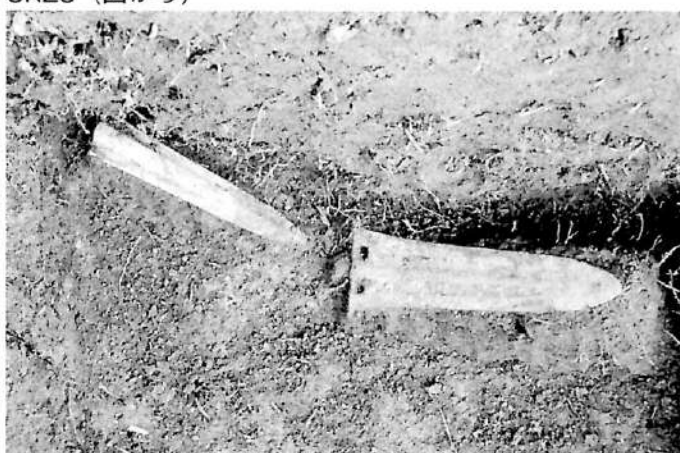
SK27 (北から)



SK28 (西から)



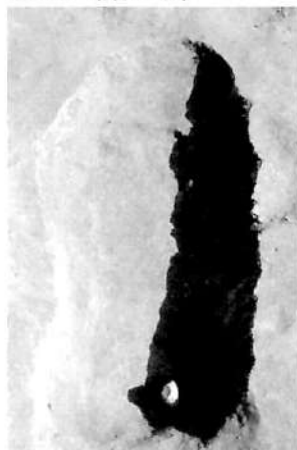
SK28 銅矛・銅戈出土状況①



SK28 銅矛・銅戈出土状況②



SK29 (東から)



SK30 (北西から)



SK31 (北西から)



SK31 供献土器出土状況



SK32 (西から)



SK33 (北東から)



SK34 (西から)



SK35 (北から)



SK38 (北西から)



SK38 供献土器出土状況



SK36 (南から)



SK39 (南から)



SK40 (南西から)



SK41 (西から)



SK42 (南西から)



SK44 (北東から)



SK45 (北から)



SK45 南側粘土



SK45 東側粘土



SK46 (北から)



SK47 (南西から)



SK49 (南から)



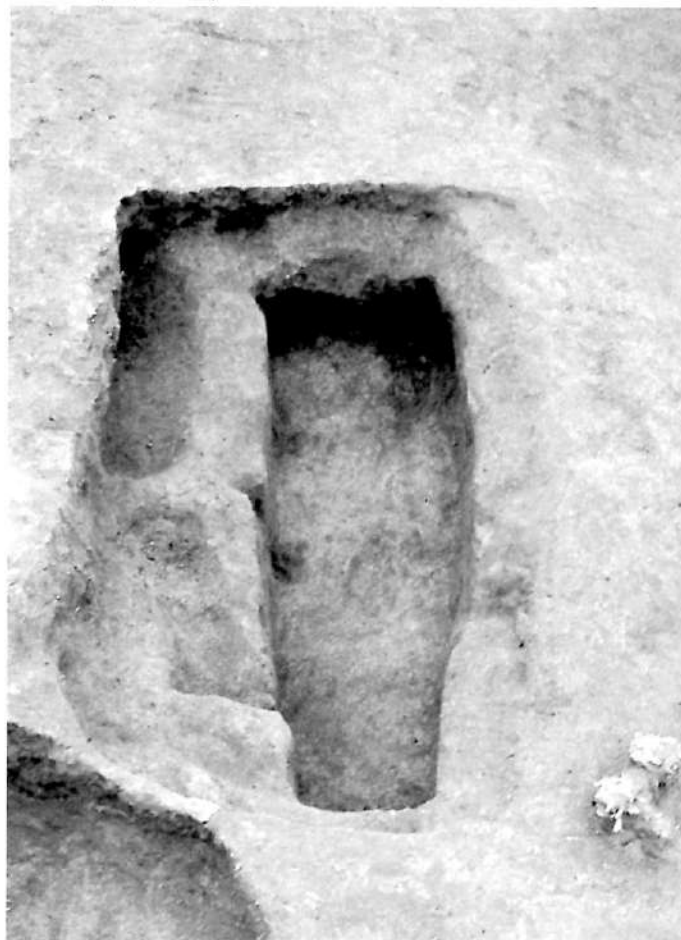
SK50 (北から)



SK51 (北東から)



SK52 (北西から)



SK53a (北東から)



SK53b (北西から)



SK54 (西から)



SK55 (北東から)



SK56 埋土除去中



SK56 北東側小口部



SK56 (南西から)



SK56 南西側小口部



SK56 供献土器出土状況



SK58 (北東から)



SK59 (北東から)



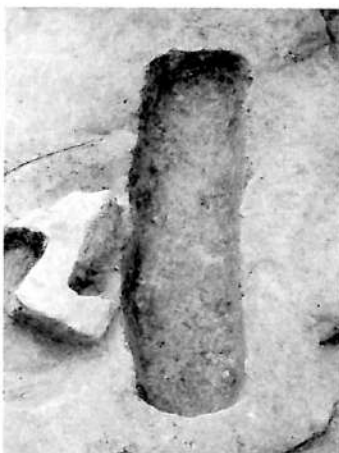
SK63 (北東から)



SK62 (西から)



SK64 (南から)



SK65 (北から)



SK66 (南西から)



SK68 (北から)



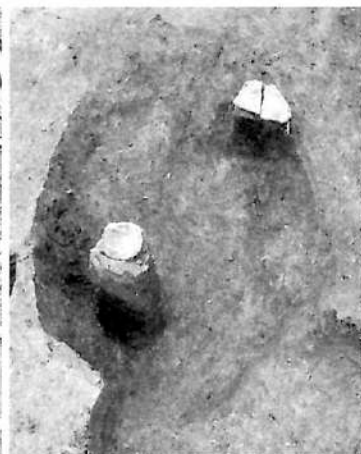
SK68 供献土器出土状況



SK69 (西から)



SK67 (北から)



SK71 (北から)



SK72 供献土器出土状況



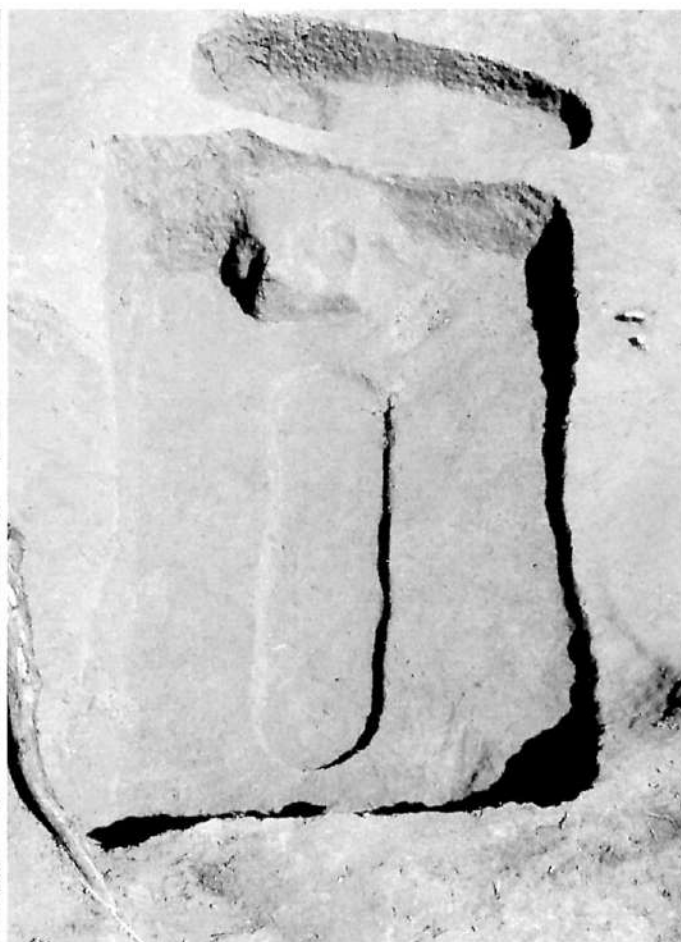
SK72 (南から)



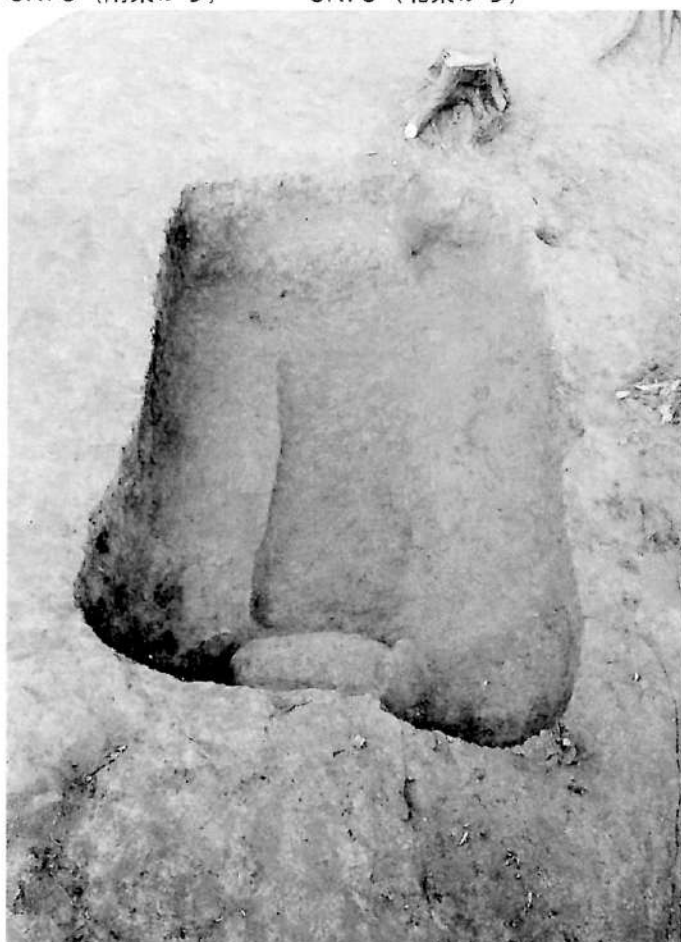
SK73 (南東から)



SK75 (北東から)



SK74 (南西から)



SK76 (南西から)



SK79 供献土器出土状況



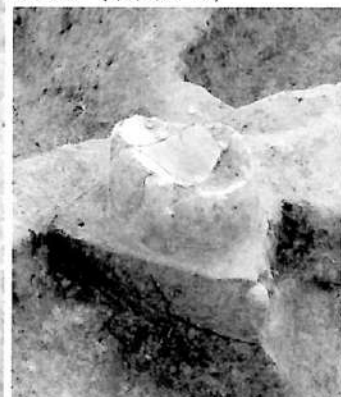
SK79 (南西から)



SK78 (南東から)



SK82 (北西から)



SK82 供献土器出土状況



SK85 (東から)



SK86 (南から)



SK83 (南西から)



SK89



SK89 埋土除去中（北東から）



SK89 南西側小口部



SK89 供献土器出土状況



SK89 北東側小口部



SK90 (西から)



SK90 供献土器出土状況



SK91 (北東から)



SK92 (南西から)



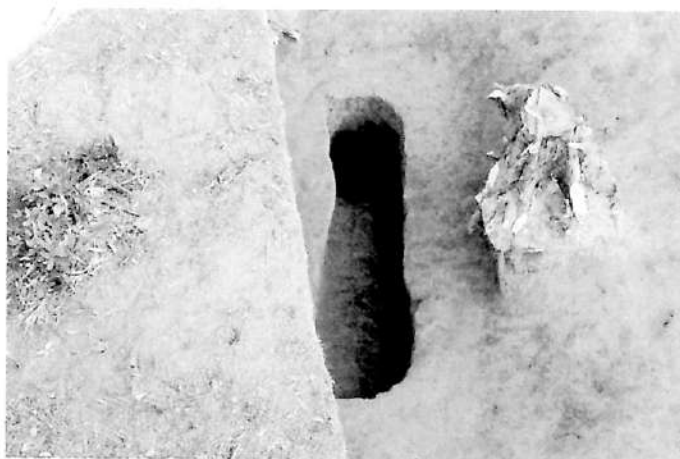
SK93 (東から)



SK94 (北東から)



SK95 (南西から)



SK97 (南西から)



SK98 (南西から)



SK99 (北東から)



SK100 (南から)



SK101 (北東から)



SK105 (北西から)



SK102 (北西から)



SK103 (南東から)



SK104 (北東から)



SK106 (南西から)



SK109 (北から)



SK110 (北から)



SK111 (北西から)



SK112 (南西から)



SK113 (北西から)



SK114・115 (南西から)



SK116 (西から)



SK122 (北から)



SK123 (北から)



SK124 (南西から)



SK126 (北から)



SK127 (東から)



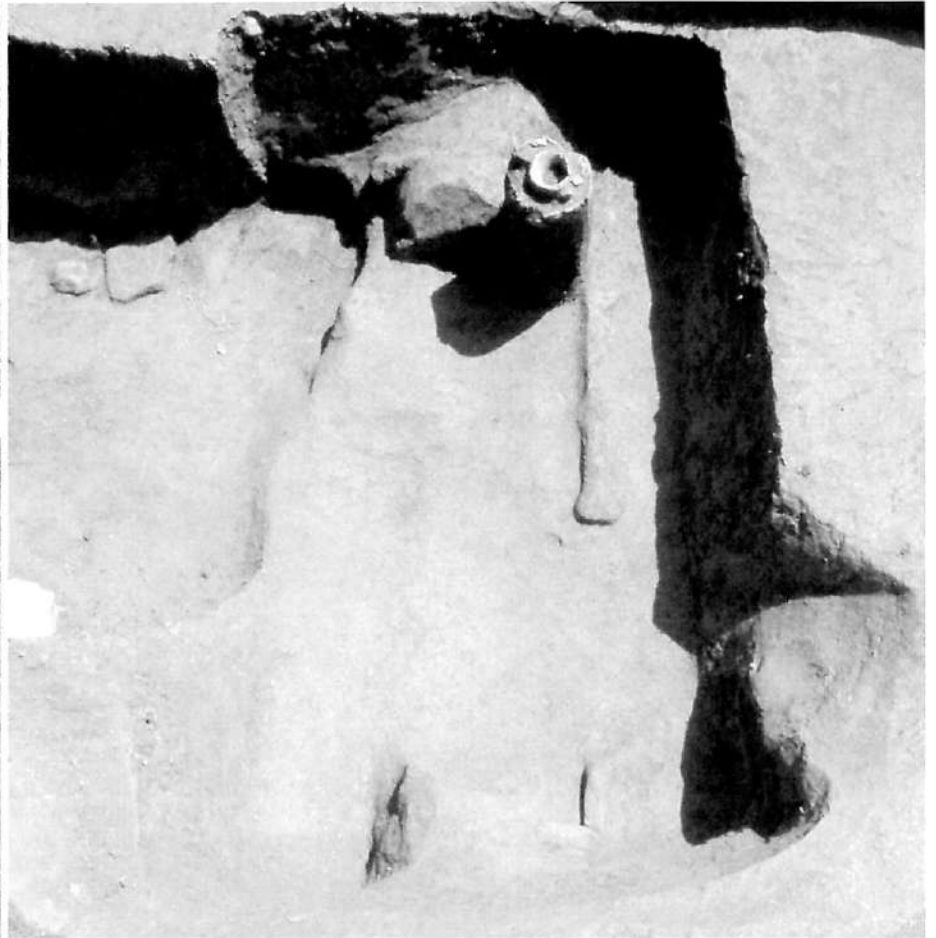
SK128 (南から)



SK129 (北から)



SK132 (北から)



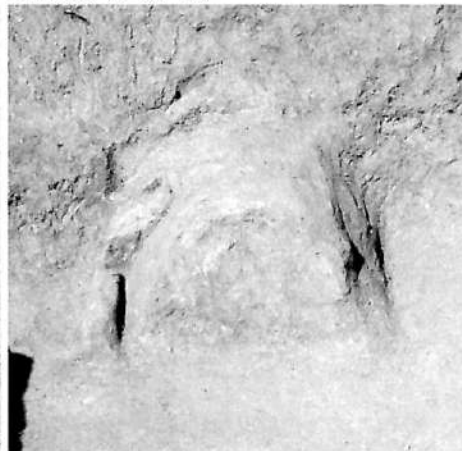
SK133 (西から)



SK134 (北西から)



SK135 (西から)



SK133 西側小口部



SK133 東側小口部と供献土器



SK136 (東から)



SK137・138 (北から)



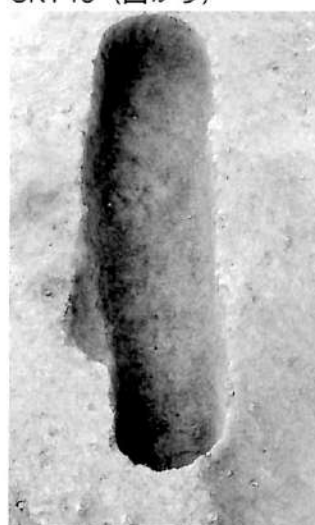
SK139 (北から)



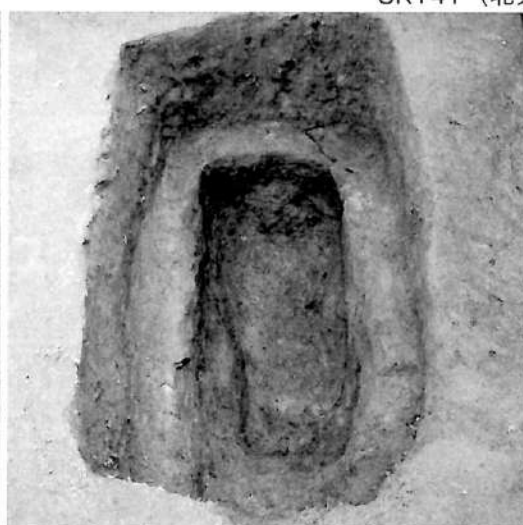
SK140 (西から)



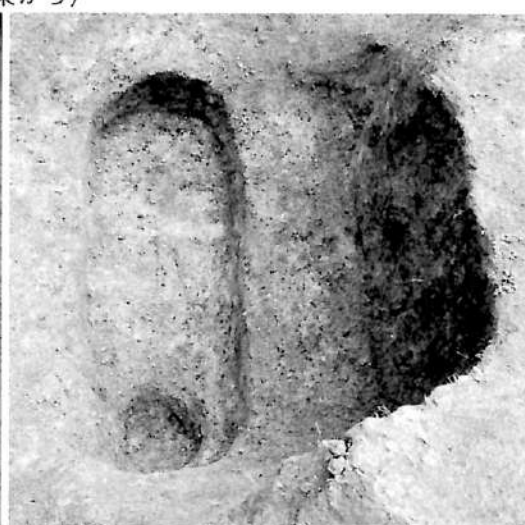
SK141 (北東から)



SK142 (北から)



SK144 (南西から)



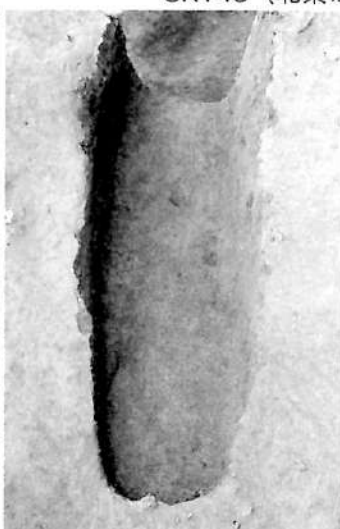
SK145 (北東から)



SK146 (西から)



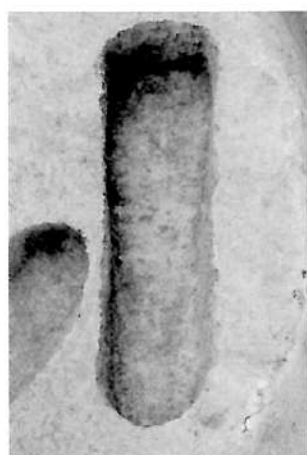
SK147 (北西から)



SK149 (北東から)



SK150 (北東から)



SK151 (北から)



SK152 (北から)



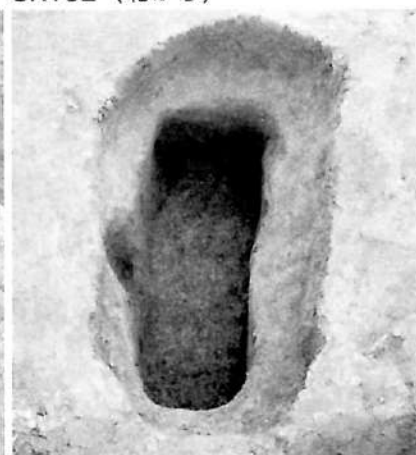
SK153 (南から)



SK154 (南から)



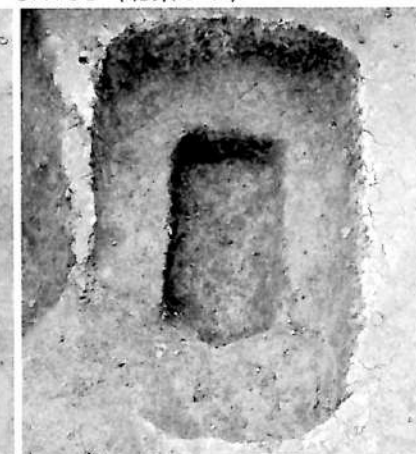
SK155 (南から)



SK156 (北東から)



SK157 (北から)



SK158 (東から)



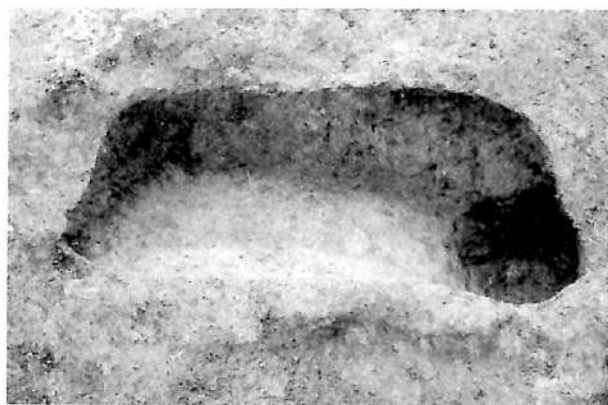
SK164 (西から)



SK166 (北東から)



SK169 (西から)



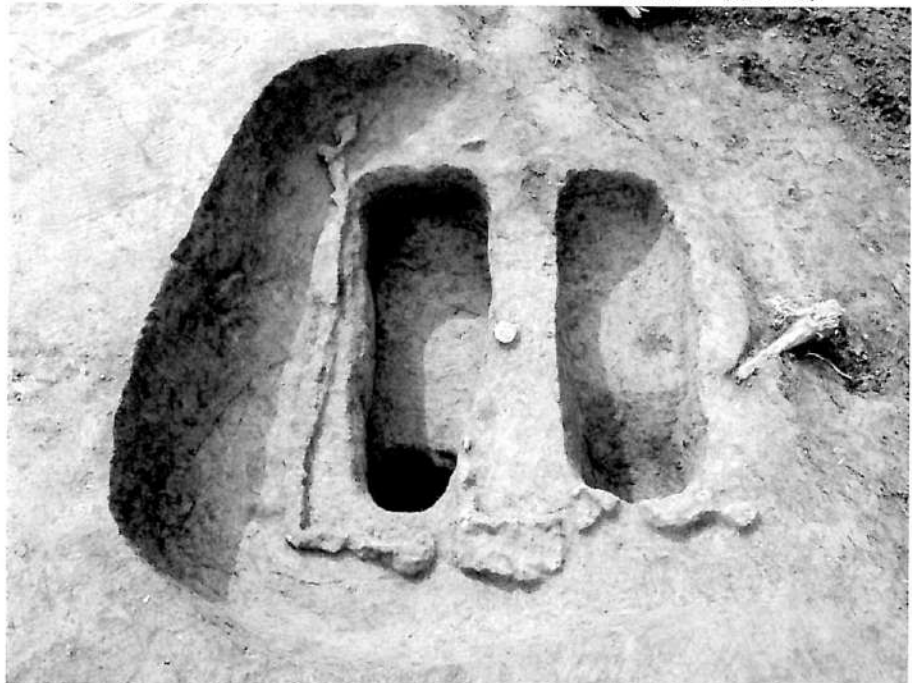
SK172 (北から)



SK174 (東から)



SK178 (南西から)



SK173 (東から)



SK178 供献土器出土状況



SK177 (北東から)



SK179 (東から)

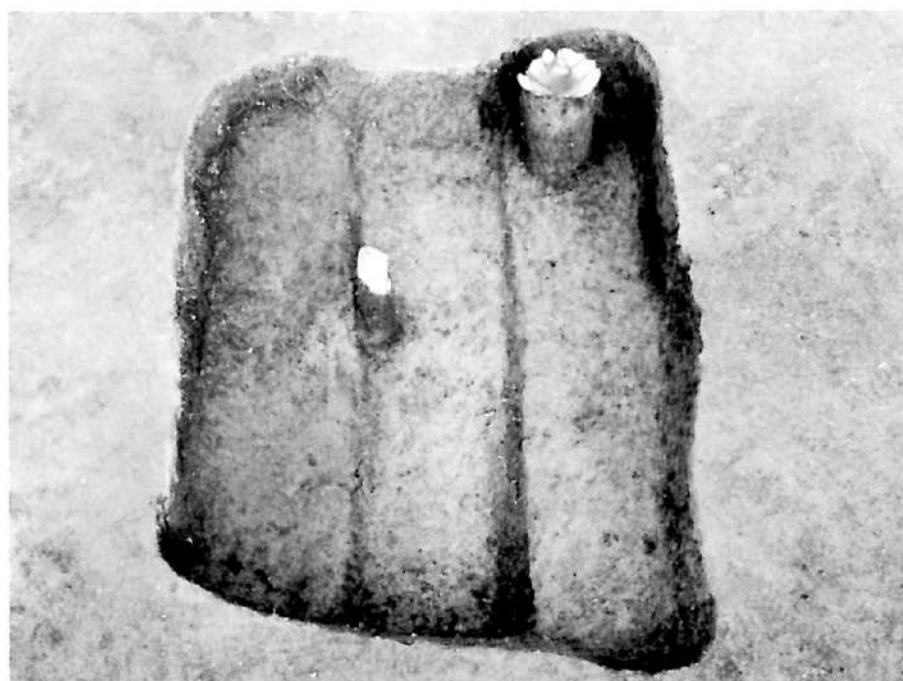


SK181 (西から)



SK183 (東から)

SK172~174・177~179・181・183



SK186 (南西から)



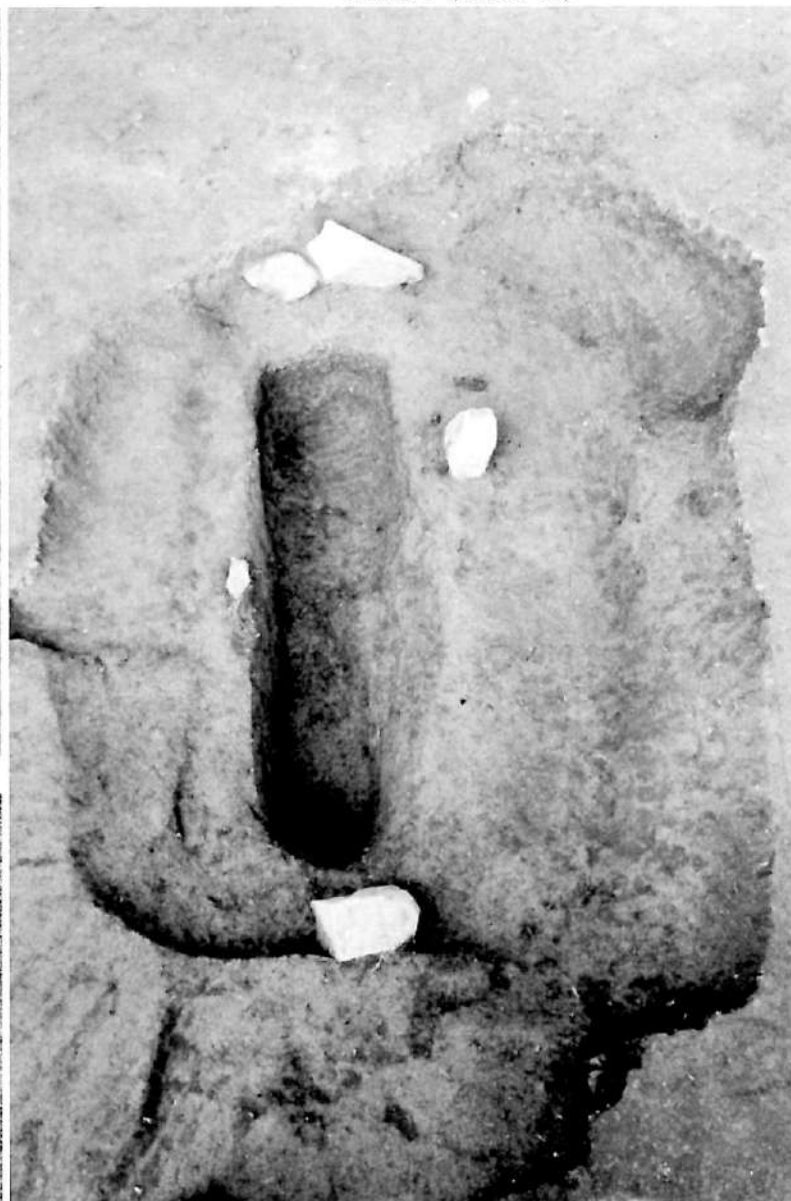
SK184 (北西から)



SK185 (北から)

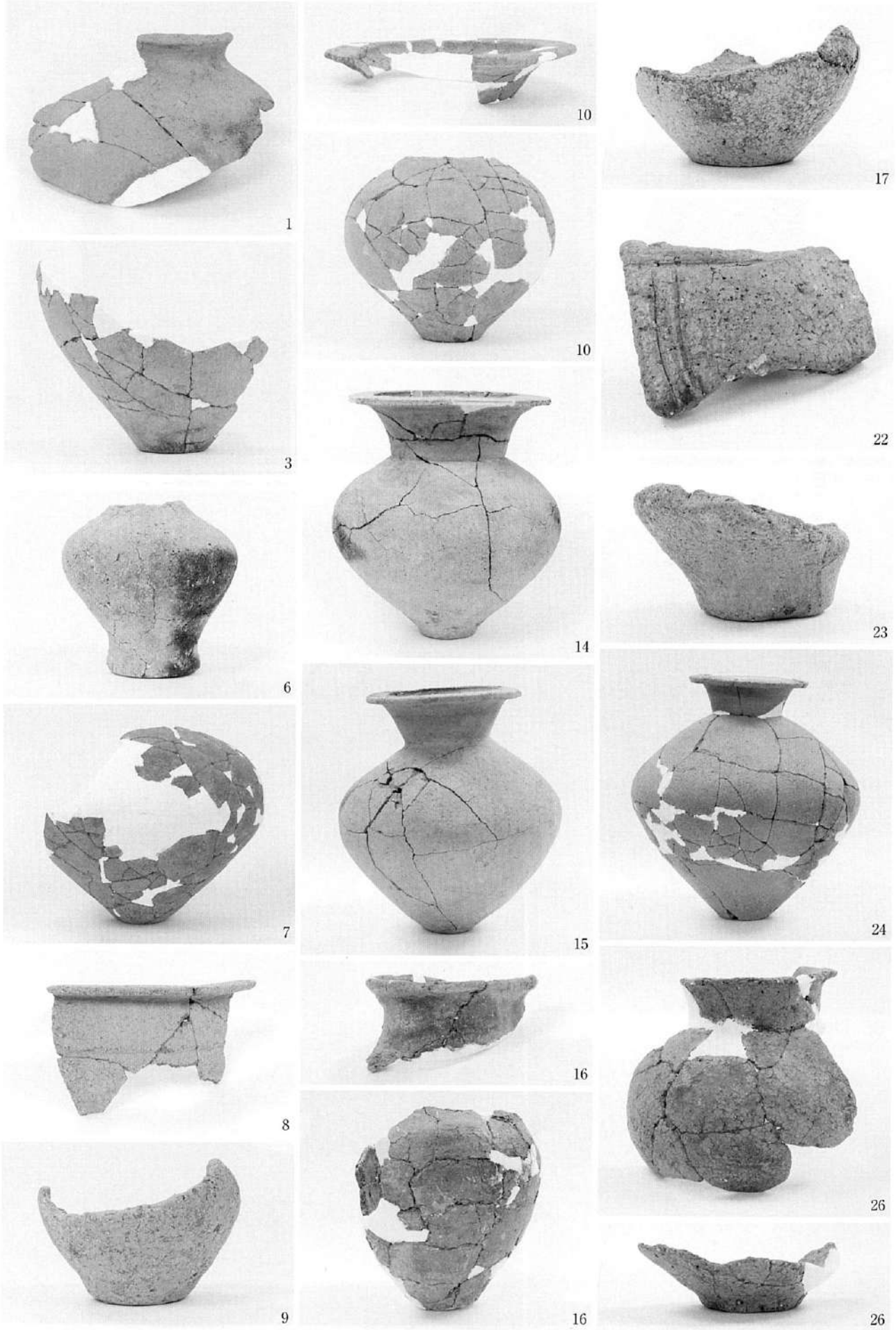


SK185 銅鏡出土状況

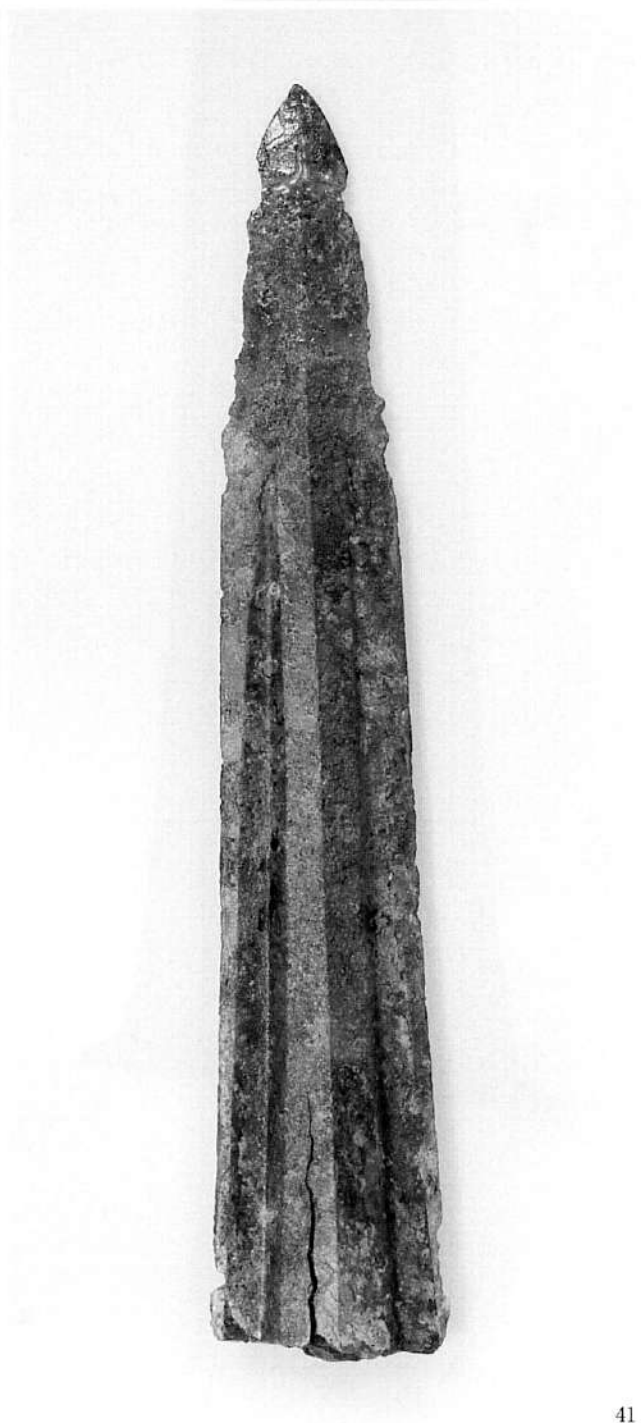
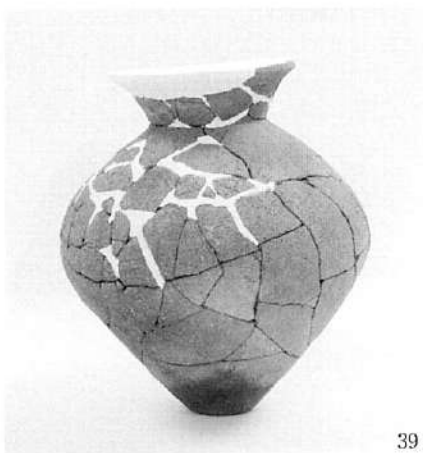
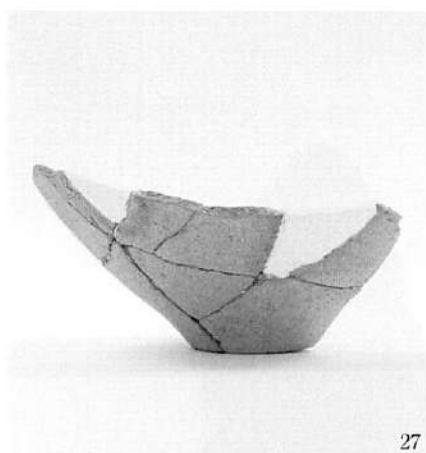


SK187 (南西から)

SK184~187



SK 出土遺物 (土器)



SK 出土遺物 (土器・銅矛)



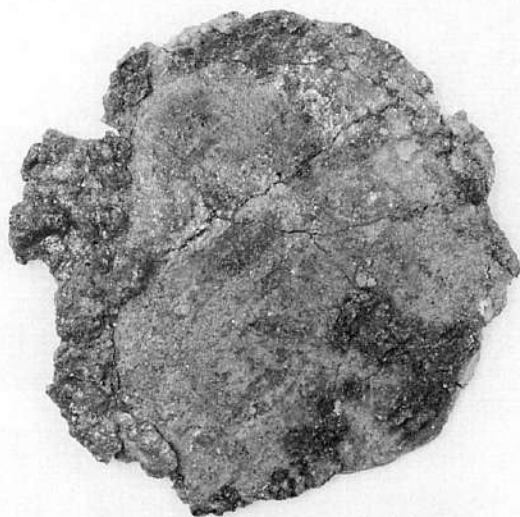
42



42



43



43



44



45



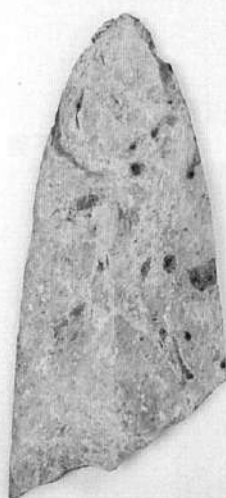
46



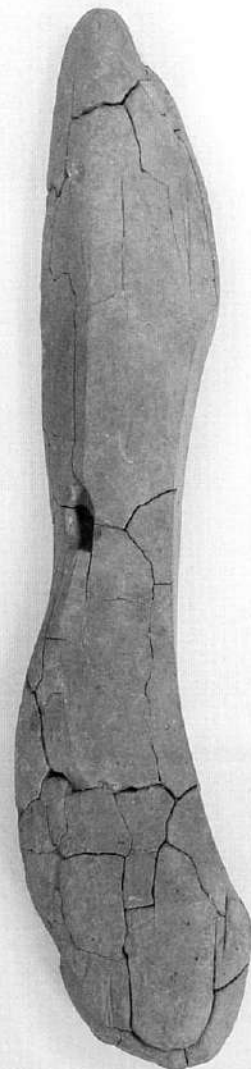
47



48



49

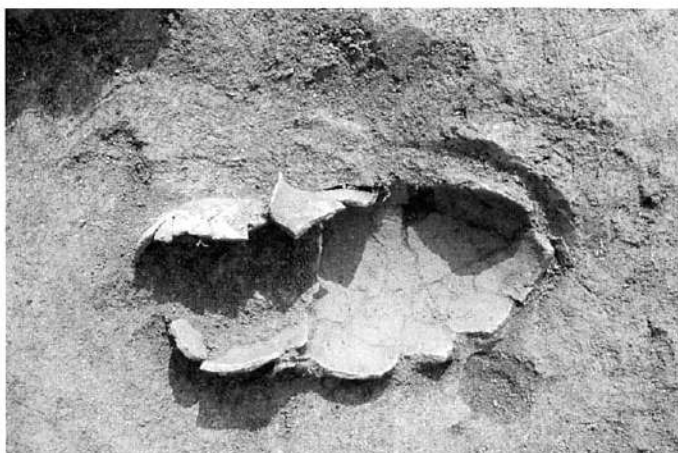


50

SK 出土遺物（銅鏡・鉄製品・耳環・石製品）



ST8 (南西から)



ST131 (北東から)



275

ST8 上甕



277

ST131 上甕



276

ST8 下甕



278

ST131 下甕



SD57 (南西から)



286

SD57 出土土器



S01 全景（西から）



S01 玄室閉塞状況（玄室内から）



S01 玄室玄門部



S01 玄室玄門部（前庭部側）



S01 玄室閉塞状況（上から）



S01 玄室左側壁（玄門部側）



S01 玄室左側壁（奥壁側）



S01 玄室右側壁（玄門部側）



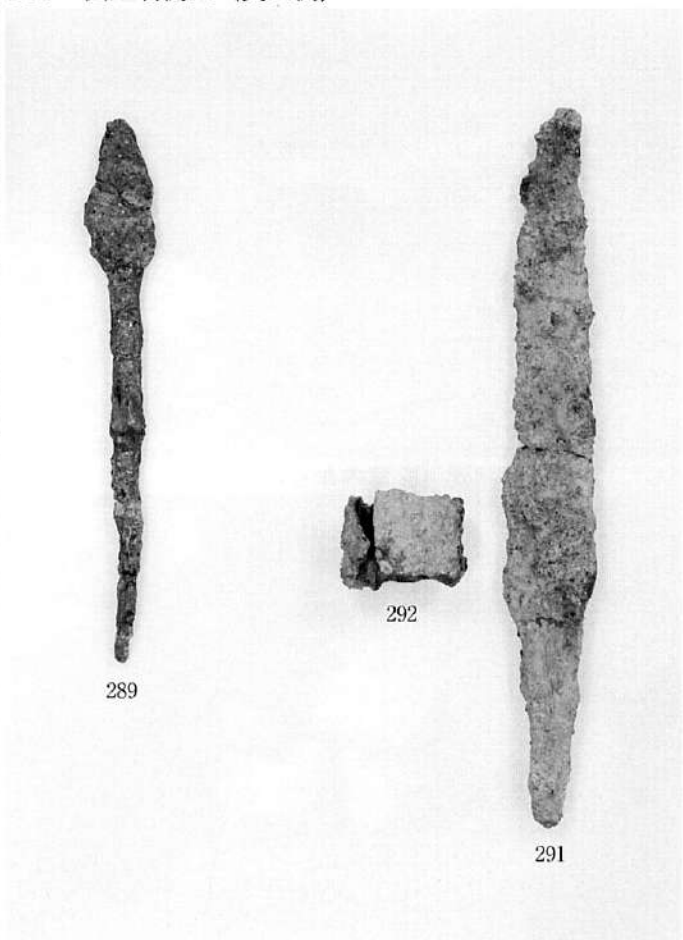
S01 玄室右側壁（奥壁側）



S01 玄室奥壁



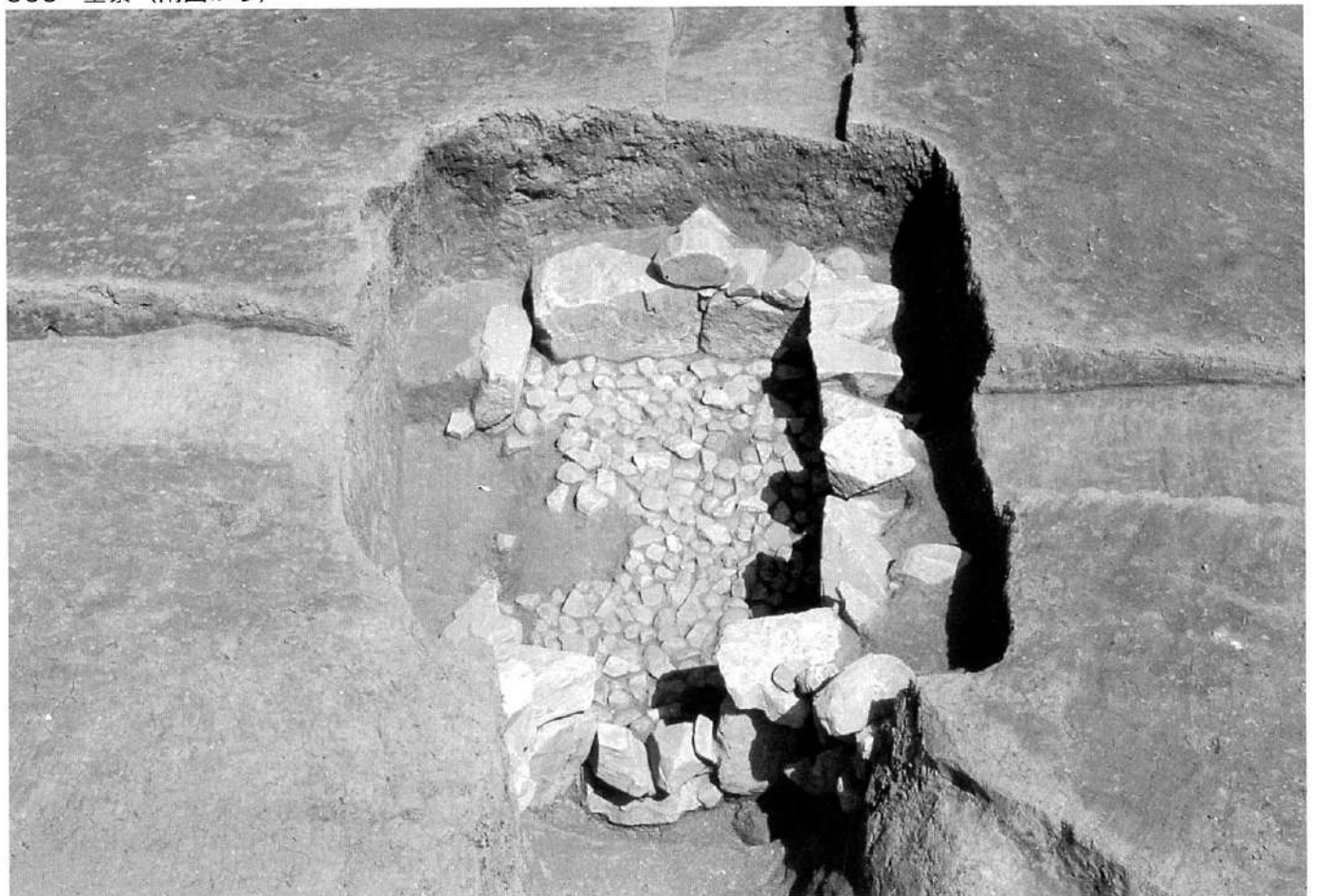
287



S01②



S03 全景（南西から）



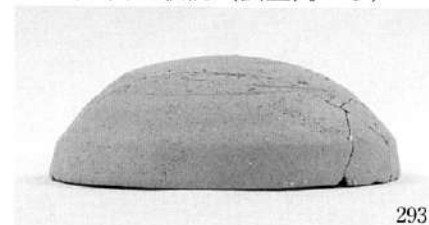
S03 石室全景（南西から）



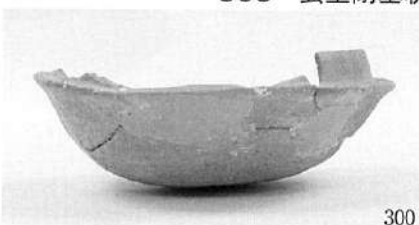
S03 玄室閉塞状況（玄室内から）



S03 玄室閉塞状況（墓道から）



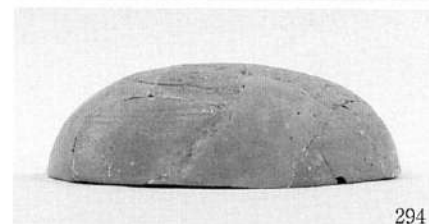
293



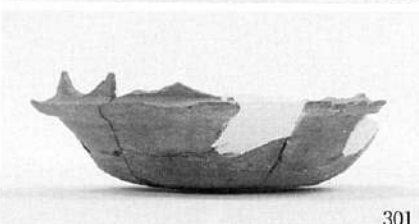
300



305



294



301



306



296



302



297



303



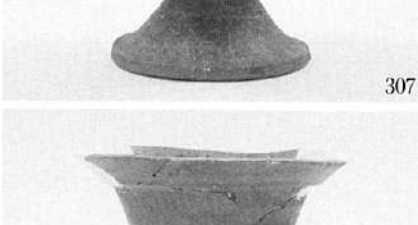
307



298



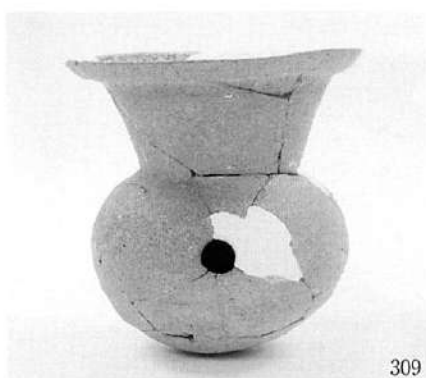
304



308



299



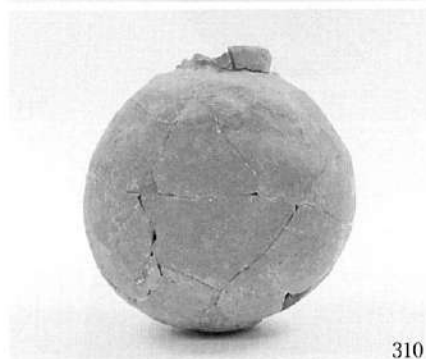
309



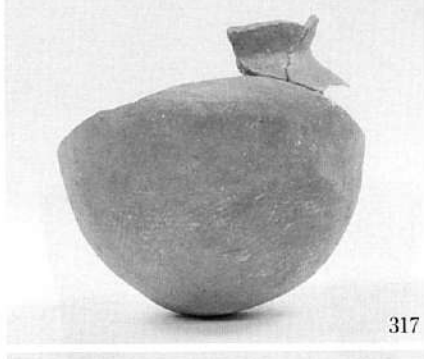
316



323



310



317



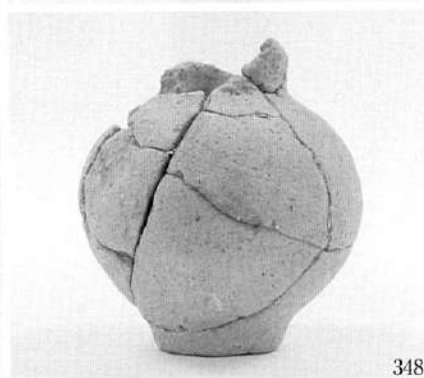
325



311



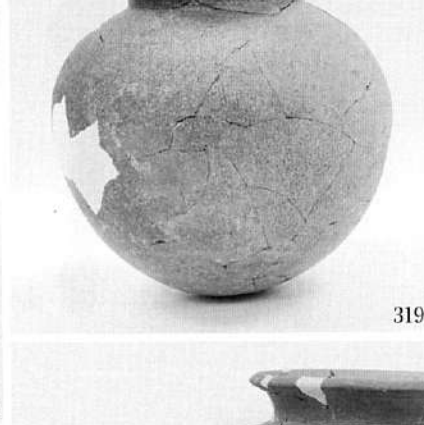
318



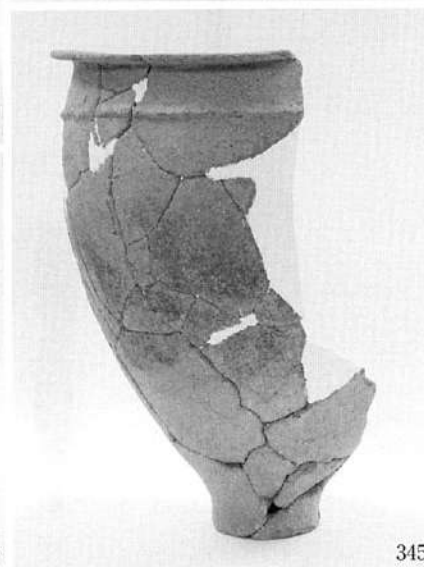
348



312



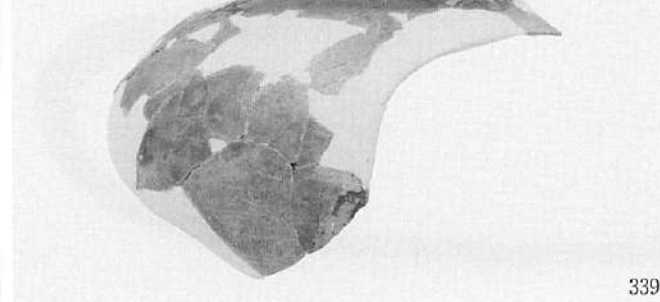
319



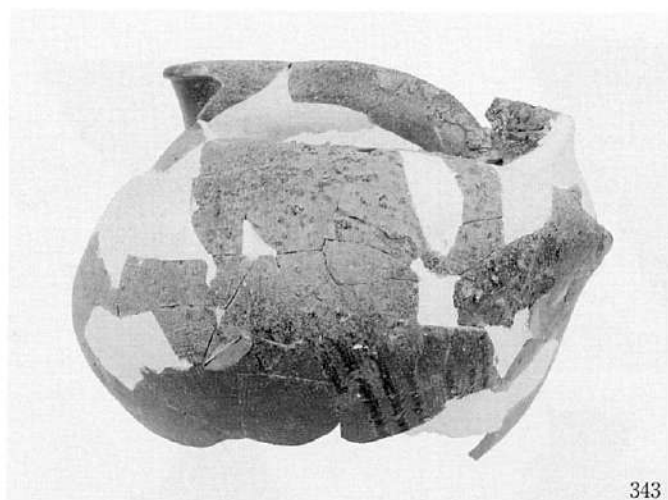
345



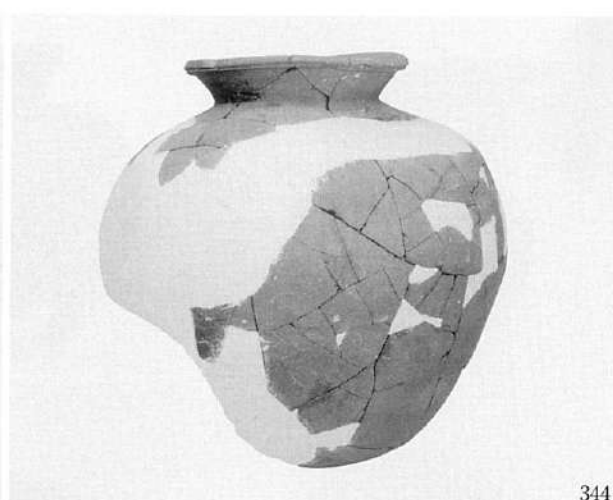
313



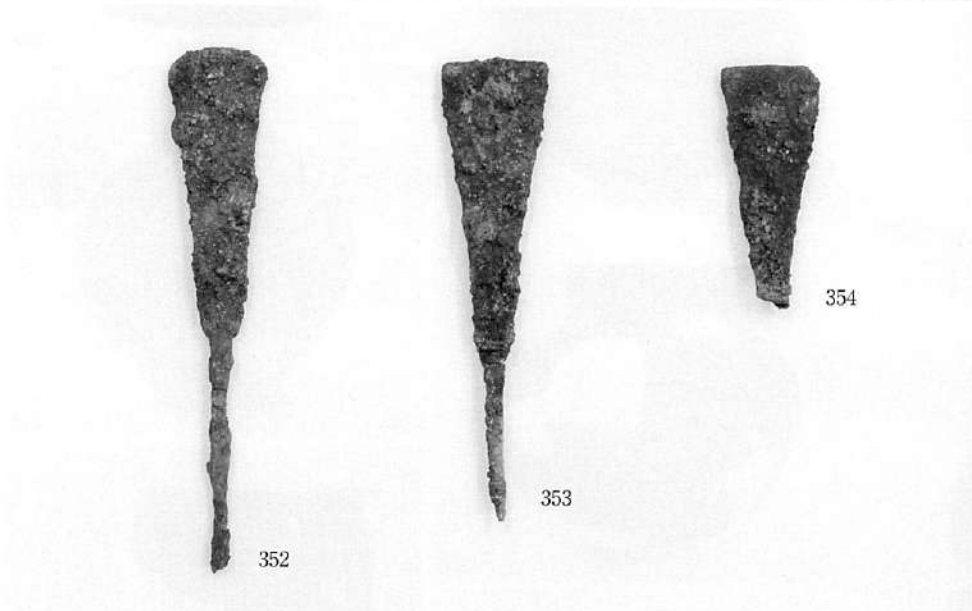
339



343



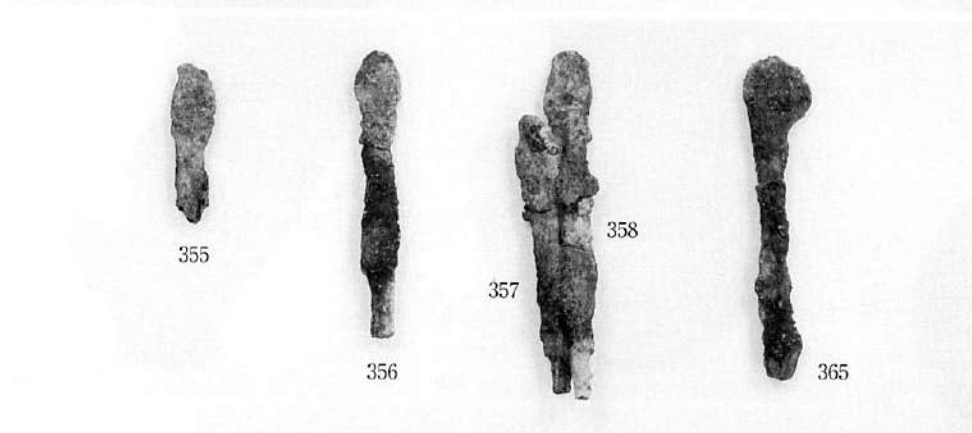
344



352

353

354



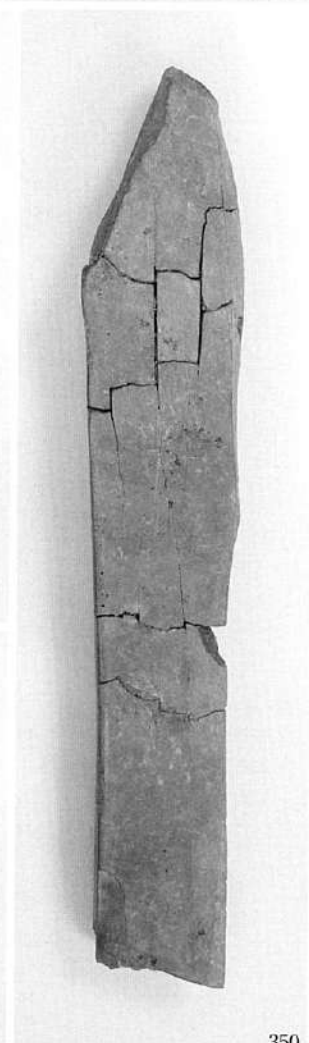
355

356

357

358

365



350



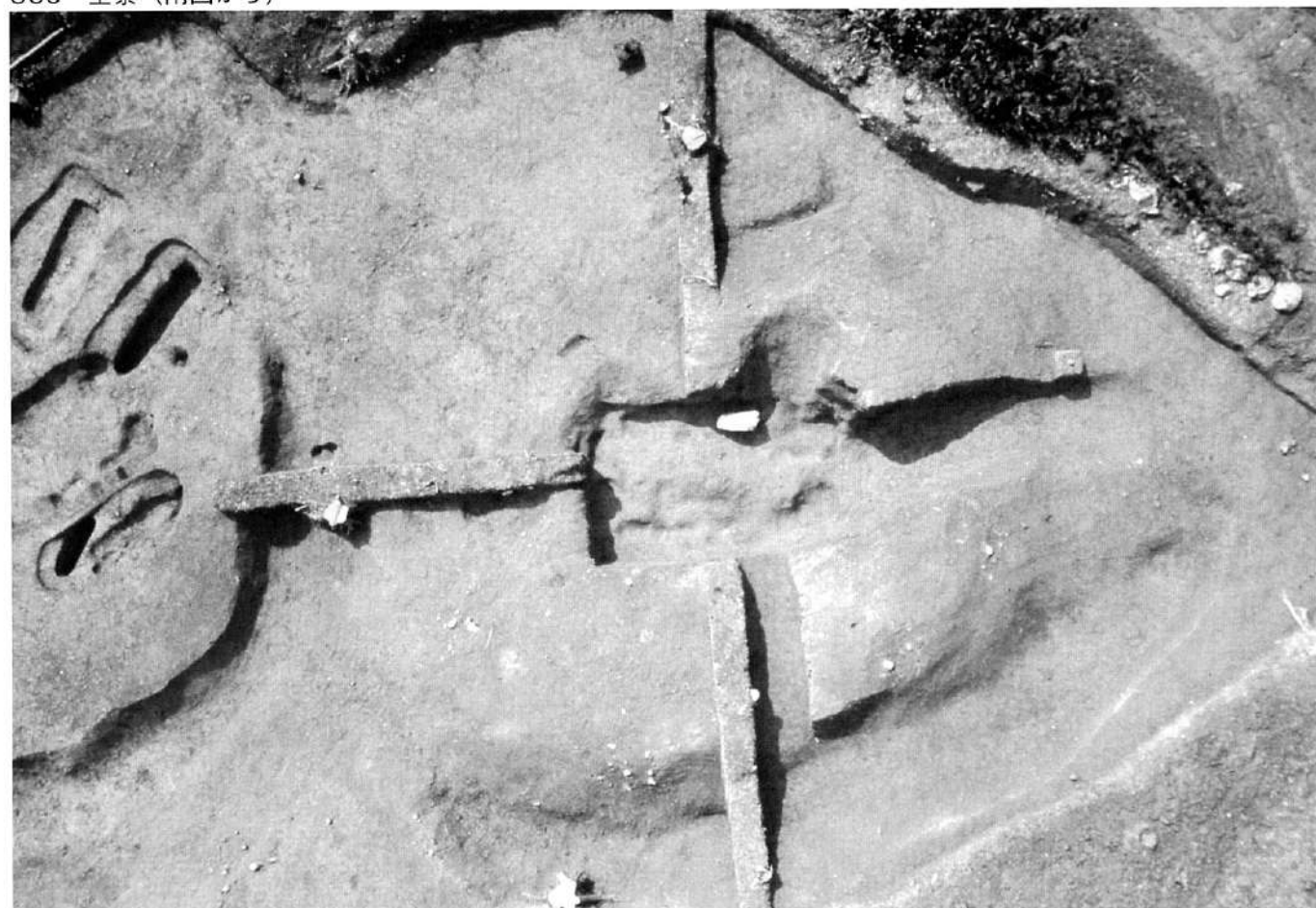
366



351



SO9 全景（南西から）



SO118 全景



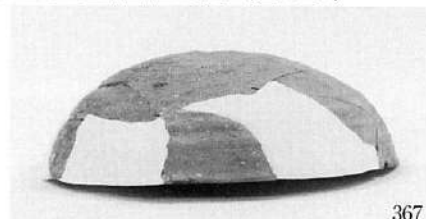
SO118 主体部・墓道（西から）



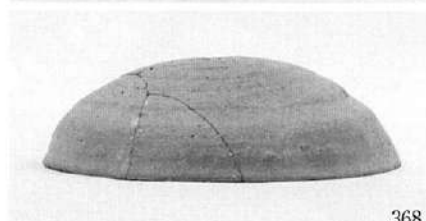
SO118 1区周溝と遺物出土状況（西から）



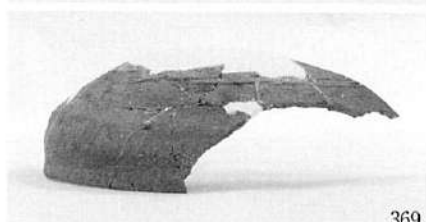
SO118 2区周溝と遺物出土状況（西から）



367



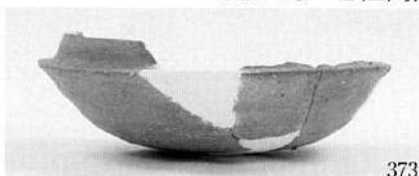
368



369



371



373



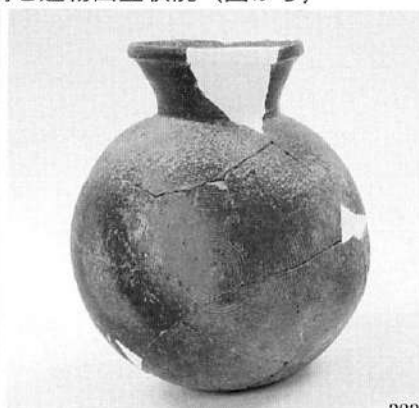
374



377



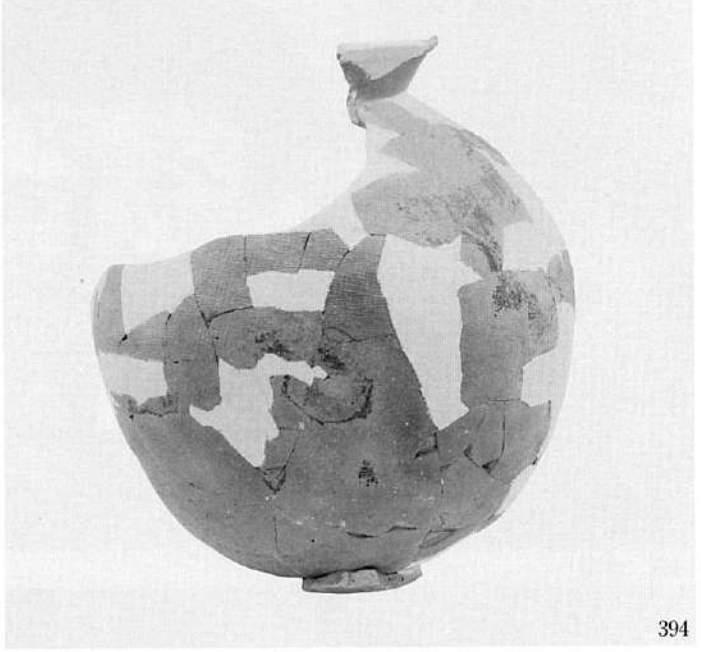
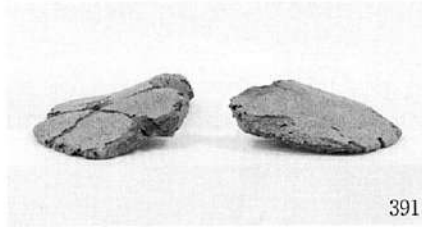
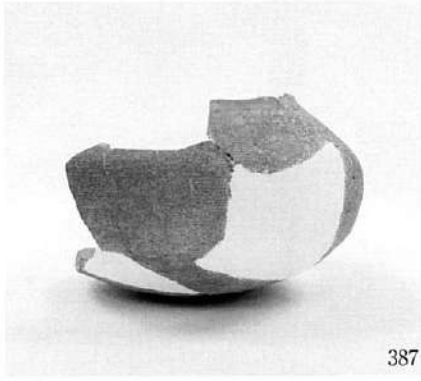
382



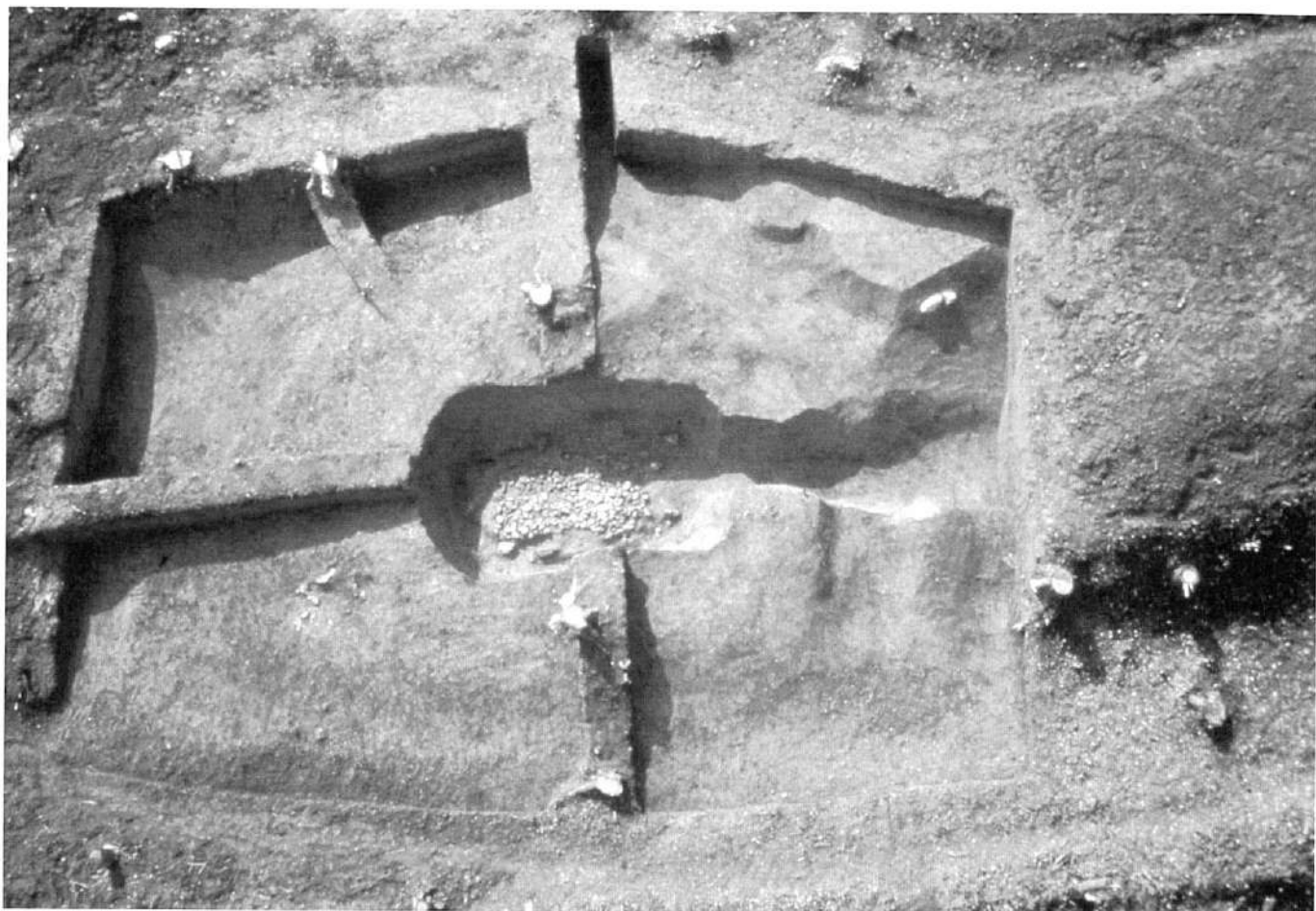
383



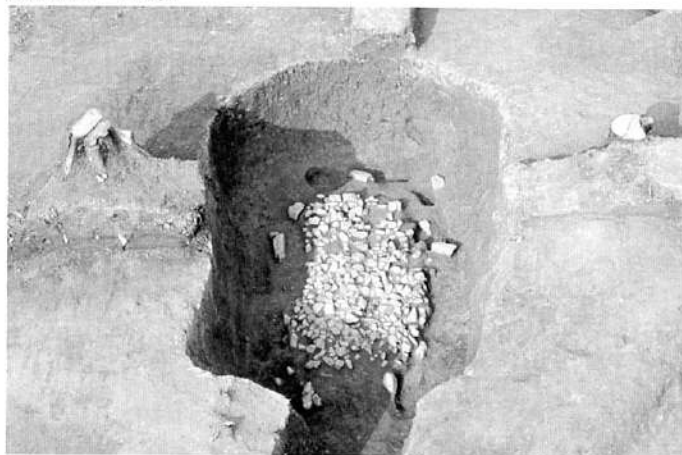
384



SO118③



SO119 全景



SO119 主体部（南西から）



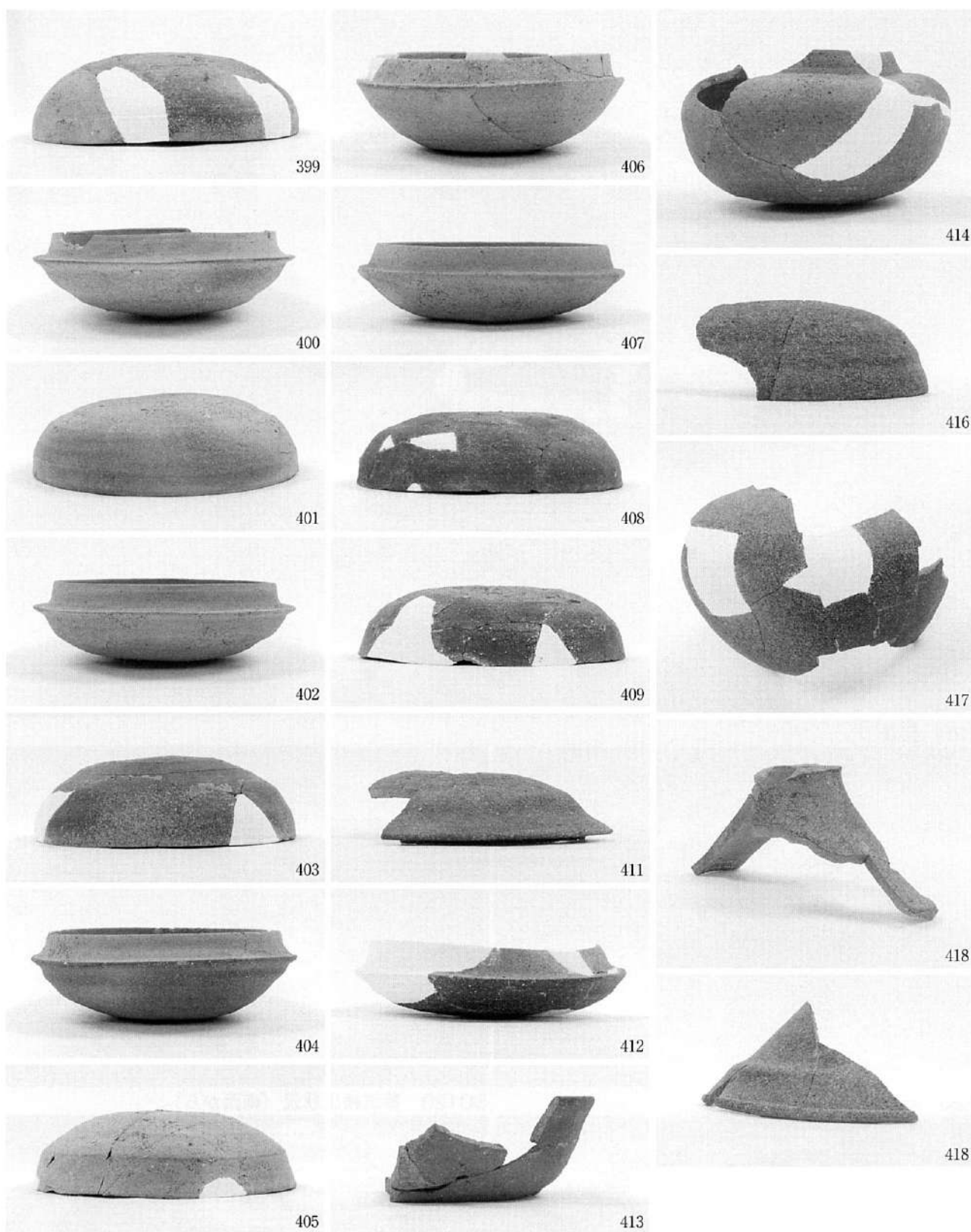
SO119 墓道と墓道北側出土土器（南西から）



SO119 墓道北側土器出土状況（南西から）



SO119 墓道北側土器出土状況（北から）



SO119②



S0120 全景



S0120 石室・墓道（南西から）



S0120 墓坑検出状況（南西から）



S0120 玄室閉塞状況（南西から）



S0120 玄門部



SO120 玄室閉塞状況（玄室内から）



SO120 玄室奥壁



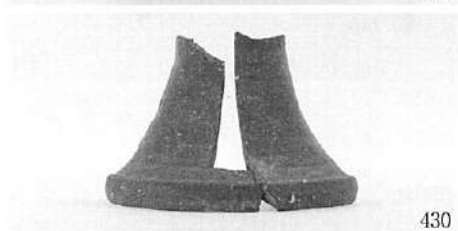
SO120 玄室右側壁側鉄器出土状況



SO120 玄室装身具出土状況



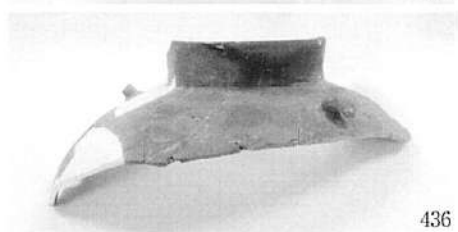
427



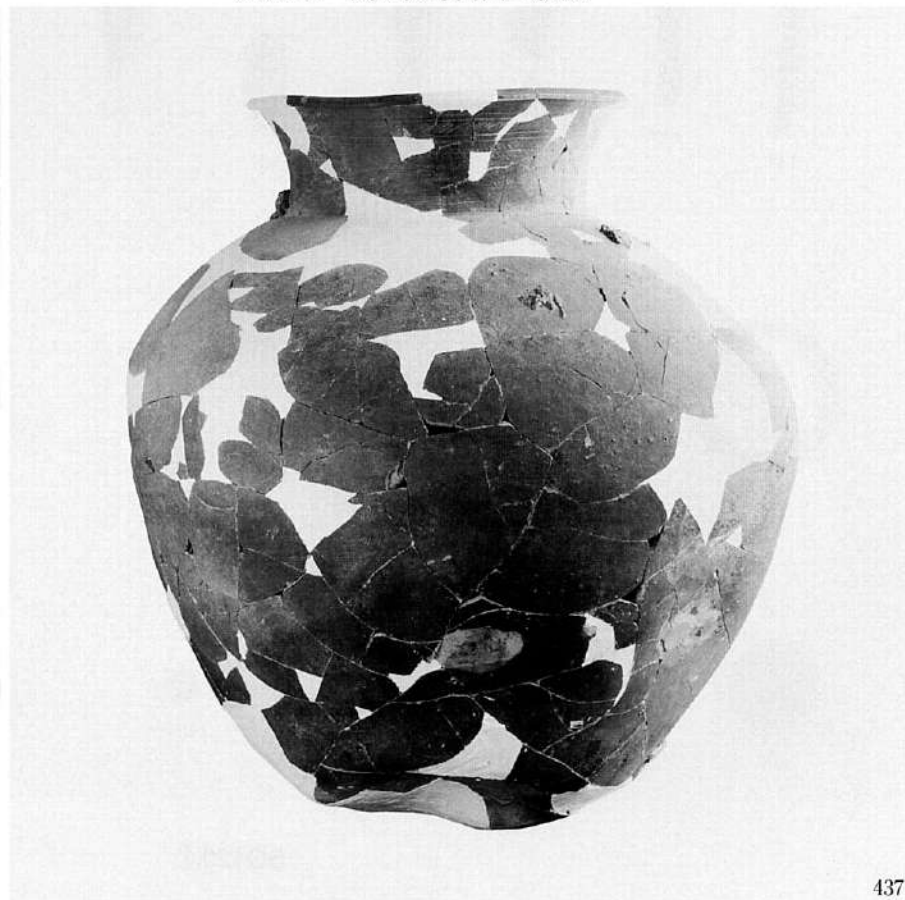
430



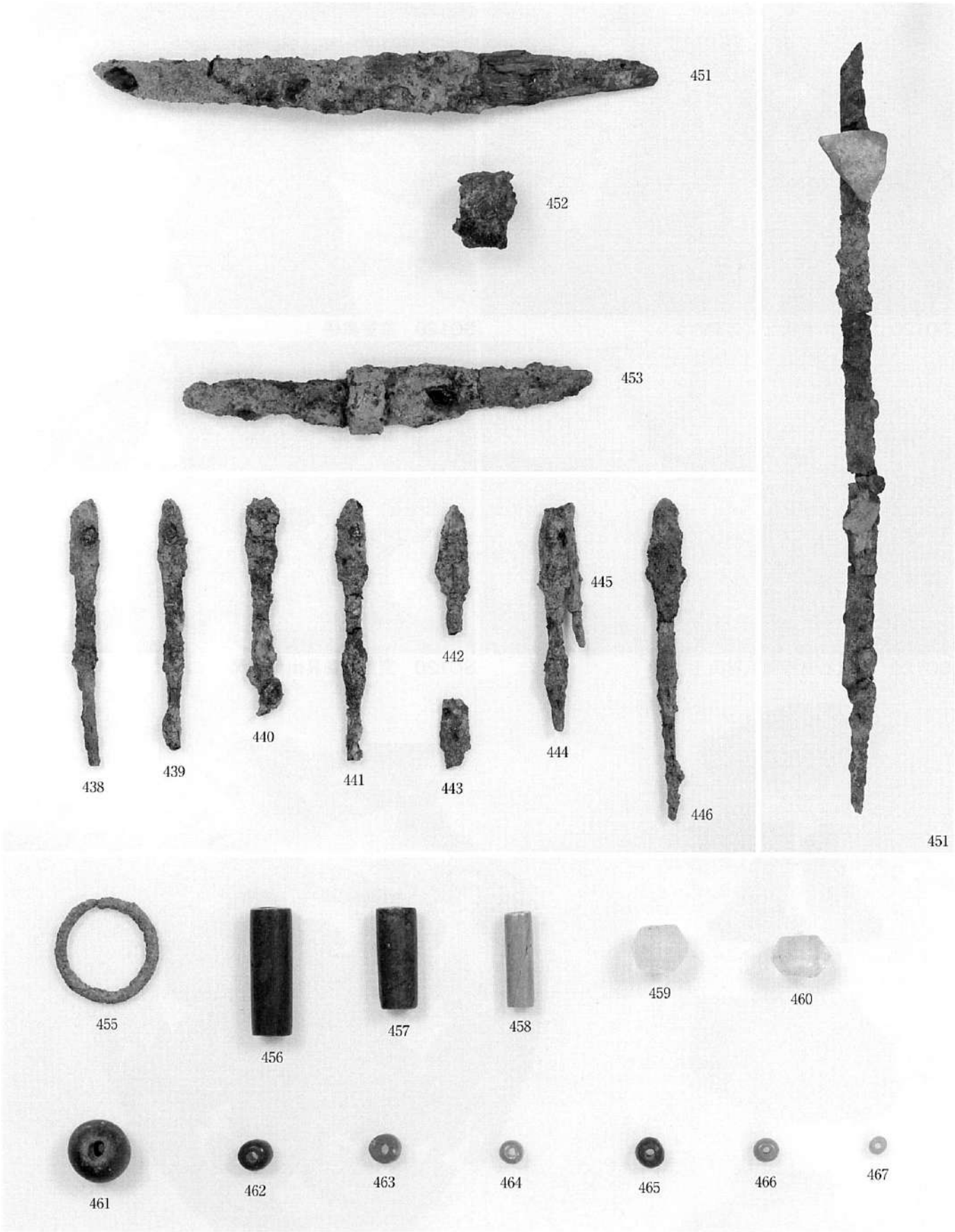
431



436



437





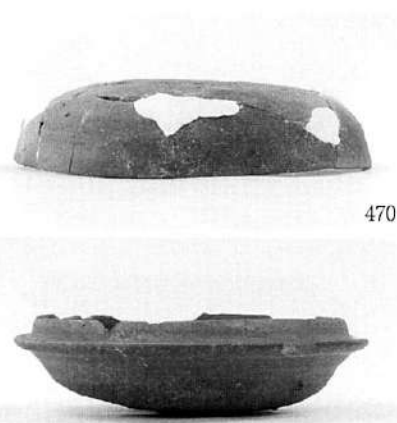
SO125 全景



468



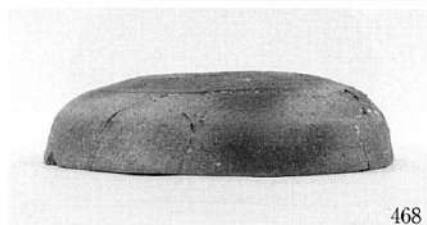
469



470



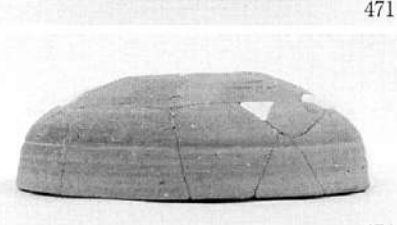
471



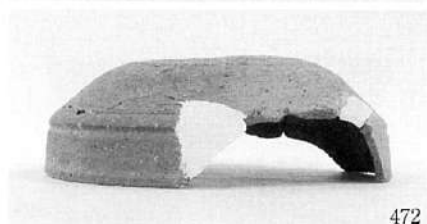
468



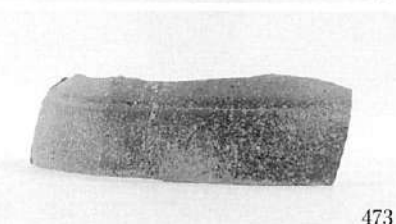
469



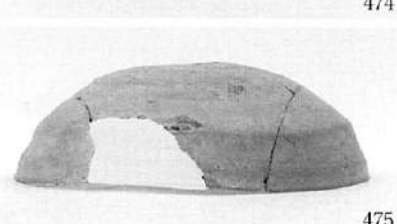
474



472

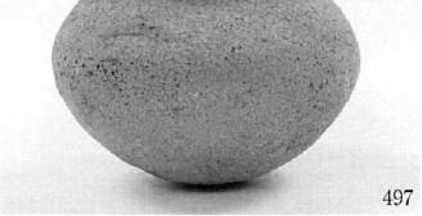
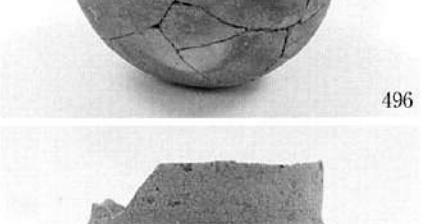
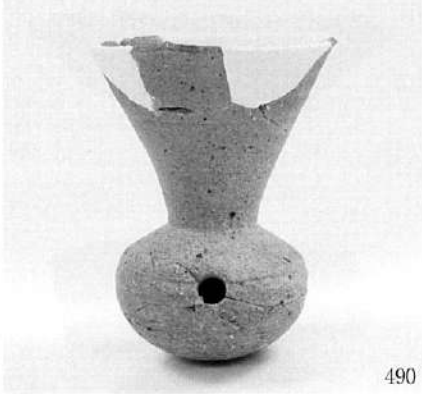
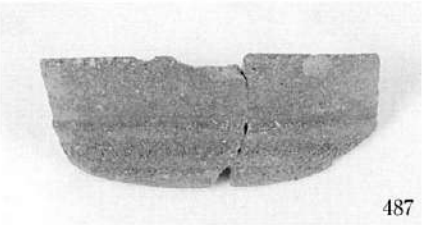
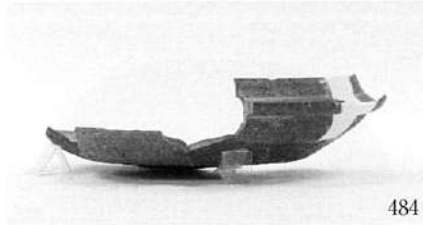
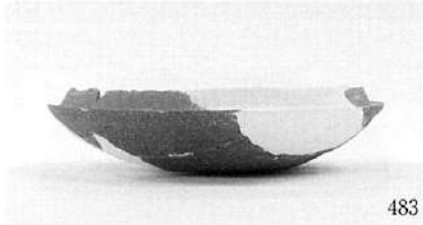
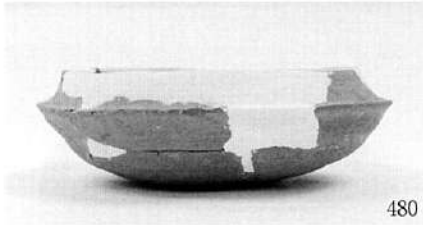
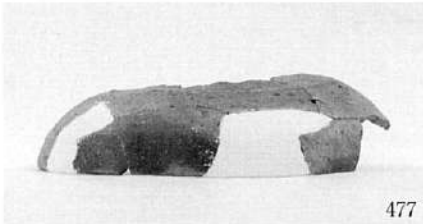
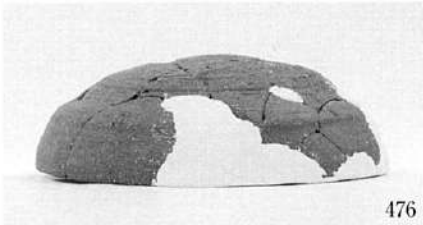


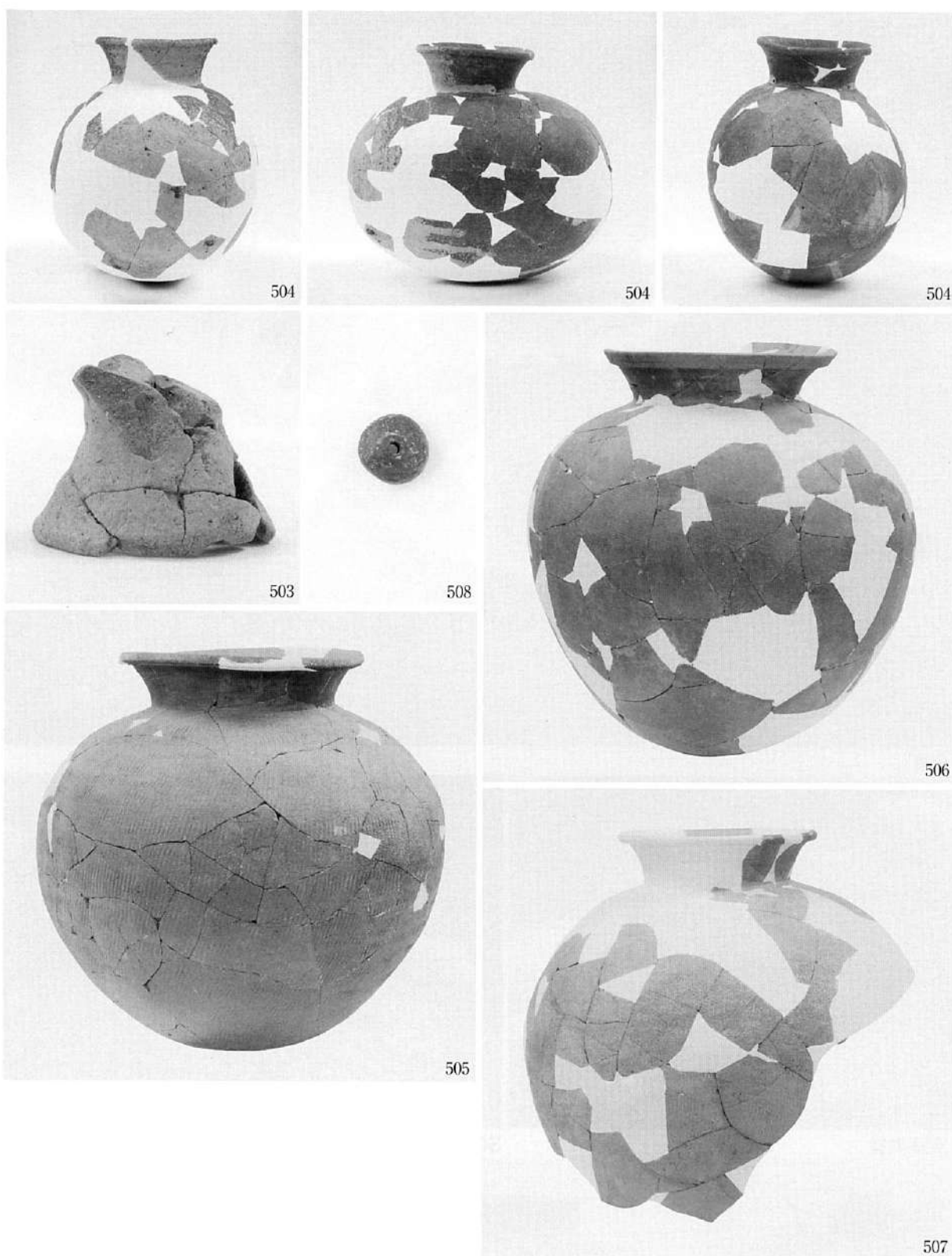
473



475

SO125①





SO125③



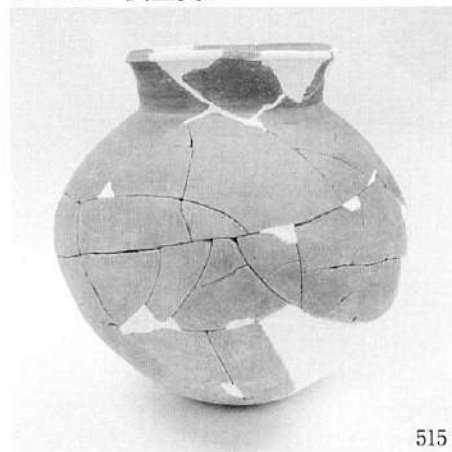
S0130 全景



S0130 玄室奥壁



S0130 左側壁



515



516



517

S0130

報 告 書 抄 録

ふ り が な	あさまちたけしげ							
書 名	朝町竹重							
副 書 名	－宗像市朝町所在遺跡の発掘調査報告－							
シ リ ー ズ 名	宗像市文化財調査報告書							
シ リ ー ズ 番 号	第70集							
編 著 者 名	岡本 格							
編 集 機 関	宗像市教育委員会							
所 在 地	〒811－3492 福岡県宗像市東郷一丁目1番1号 TEL (0940) 36－1540							
発 行 年 月 日	西暦2013年3月31日							
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふ り が な 所 在 地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調 査 期 間	調 査 面 積 ㎡	調 査 原 因
あさまちたけしげいせき 朝町竹重遺跡	むなかたしおおあざ 宗像市大字 あさまちあざたけしげ 朝町字竹重 ばんちほか 2464番地2他	40220	00563	33° 46' 54"	130° 34' 8"	1991.07.23 ～ 1992.03.31 1993.04.01 ～ 1994.03.31	約560 (1次) 約500 (2次)	畑地造成 (1次) 確認調査 (2次)
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
朝町竹重遺跡	墓地	弥生時代 古墳時代	土坑(木棺) 墓・古墳	弥生土器・土師器 ・須恵器・鉄製品・ 青銅製品(戈・矛・ 鏡)・装身具		弥生時代中期を中心とする大規模墳墓群		
要 約	弥生～古墳時代にかけての墓地遺跡である。弥生時代では中期を中心とした大規模墳墓群を検出した。SK28では銅戈・胴矛、SK185では銅鏡・ガラス玉が出土し、墓坑に土器(壺)を供献する墳墓を複数検出した。古墳時代では5・6世紀の古墳を調査し、墳丘や周溝などから土器が、石室内からは鉄製品や装身具が出土した。							

朝 町 竹 重

—宗像市朝町所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書

第70集

平成25年 3 月31日

発 行 宗 像 市 教 育 委 員 会

宗像市東郷1丁目1番1号

印 刷 瞬報社写真印刷株式会社